

国道 438 号道路改築事業（飯山工区）に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告

第 7 冊

名 遺 跡

2021.3

香 川 県 教 育 委 員 会

序 文

本報告書には、国道438号道路改築事業（飯山工区）に伴い発掘調査を行った香川県丸亀市飯山町下法軍寺に所在する名遺跡（みょういせき）の報告を収録しています。

当遺跡は丸亀平野の東部に位置し、周辺には条里地割が広がっています。発掘調査により、弥生時代前期の土器、古墳時代後期の堅穴建物跡や掘立柱建物跡、古墳時代後期の水田跡、平安時代から鎌倉時代の溝状造構が検出され、この付近の土地利用と開発を考える上で貴重な資料を得ることができました。

本書が、本県の歴史研究の資料として広く活用されますとともに、埋蔵文化財に対する理解と关心が一層深められる一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から出土品の整理・報告に至るまでの間、関係機関並びに地元関係者各位には多大なご援助とご協力をいただきました。ここに深く感謝申し上げますとともに、今後もご支援賜りますようお願い申し上げます。

令和3年3月
香川県埋蔵文化財センター
所長 西岡達哉

例　　言

1 本書は、香川県丸亀市飯山町下法軍寺に所在する名遺跡（みょういせき）の発掘調査報告書である。

2 本書に収録した調査は、香川県土木部道路課から香川県教育委員会に依頼され、香川県教育委員会を調査主体とし、埋蔵文化財センターを調査担当として実施した。

3 現地での発掘調査期間及び担当者は次のとおりである。

平成 29 年度　期間　平成 29 年 11 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日

　　担当 文化財専門員 山元素子・宮崎哲治　技師 大山裕矢

　　嘱託 井上加奈子・徳永貴美・名倉美保・角野 黙

平成 30 年度　期間　平成 30 年 4 月 1 日～6 月 30 日

　　担当 文化財専門員 森下友子　技師 竹内裕貴・益崎卓己

　　嘱託 徳永貴美・角野 黙

4 現地調査及び報告書作成に当たって、次の関係機関の協力や教示を賜った。記して謝意を表したい。

丸亀市教育部総務課文化財保護室、丸亀市飯山南コミュニティセンター、地元自治会、地元水利組合
(順不同、敬称略)

5 報告書の作成は、香川県埋蔵文化財センターが実施した。執筆は、第 1 章～第 4 章・第 5 章（一部）を森下、第 5 章（一部）を山元が行い、編集は森下、山元が行った。

6 報告書で用いる座標系は、国土座標 IV 系（世界測地系）を使用した。また、標高は東京湾平均海面を基準とした。

7 遺構は次の略号により表示した。

SH 堅穴建物跡 SB 挖立柱建物跡 SP 柱穴跡・小穴跡 SK 土坑 SD 溝状造構

SX その他の遺構

8 土層・土器の色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』を使用した。

9 遺物の時期は、次の文献を参照した。

田辺昭三 1981『須恵器大成』角川書店

佐藤竜馬 2000「高松平野と周辺地域における中世土器編年」『空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第 4 冊 空港跡地遺跡 IV』香川県教育委員会ほか

本文目次

第1章 調査に至る経緯と経過

第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	3

第2章 立地と環境

第1節 地理的環境	7
第2節 歴史的環境	7

第3章 調査の成果

第1節 層序	11
第2節 遺構・遺物	22

第4章 自然科学的分析の成果

第1節 はじめに	104
第2節 プラントオバール分析	104
第3節 銅椀の材質分析	112

第5章 まとめ

挿図目次

第 1 図	調査位置図	1	第 58 図	地形と水田跡	61
第 2 図	試掘トレンチ配置図	2	第 59 図	SB1001 出土遺物	62
第 3 図	調査区削図	5	第 60 図	SB1001	63
第 4 図	周辺遺跡分布図	8	第 61 図	SB2001	64
第 5 図	周辺の地形	9	第 62 図	SB3001	65
第 6 図	周辺の古地名	10	第 63 図	SP2006 ~ 2008 · 2010 · 2011	66
第 7 図	1 ~ 13 区西壁断面図	13 ~ 14	第 64 図	SP2017 · 2021 · 2022	67
第 8 図	1 区 · 2 区西壁断面図	15	第 65 図	SP2019	68
第 9 図	3-1 · 3-2 区西壁断面図	16	第 66 図	SP2024 · 2026 · 2027 · 2029 · 2052	69
第 10 図	4 区 · 7-1 · 2 区 · 10-3 区西壁断面図	17	第 67 図	SP2057 · 2085	70
第 11 図	10-2 区 · 13 区西壁断面図	18	第 68 図	SP2094 · 2096	71
第 12 図	5 区 · 6 区 · 8 区東壁断面図	19	第 69 図	SP2098 · 2101 · 2102 · 2106 · 2108 · 2111 · 2125	73
第 13 図	9 区 · 11-2 区 · 11-1 区東壁断面図	20	第 70 図	SP2110 · 2117 · 2120 · 2144	75
第 14 図	12 区東壁断面図	21	第 71 図	SP2121 · 2122 · SK2055 · SP3015	76
第 15 図	1 区トレンチ 5 断面図	22	第 72 図	SP10011 · 10012 · 10016 ~ 10018 · 10021 · 10022	77
第 16 図	SP4003 · 4012 · 4013 · 4015	22	第 73 図	SX2009 · 2012	79
第 17 図	SX2109	23	第 74 図	SX2012 出土遺物	80
第 18 図	SX2126	23	第 75 図	SK2014 · 2092	80
第 19 図	SX3019	23	第 76 図	SK2095 · 2118	81
第 20 図	SX3021 · 3022 · 4006 · 4008	24	第 77 図	SK8006	82
第 21 図	SD3010 · 3016 1	26	第 78 図	SX1001	82
第 22 図	SD3010 · 3016 2	27	第 79 図	SD1008	82
第 23 図	SD3010 · 3016 出土遺物	28	第 80 図	SD2013	83
第 24 図	SD3011 · 3012	28	第 81 図	SD2061 · 2062	84
第 25 図	SX3020	29	第 82 図	SD3009	85
第 26 図	SD4016 · SR4014	30	第 83 図	SD5001	85
第 27 図	SR10024	31	第 84 図	SD8004	86
第 28 図	SD11003 ~ 11005	32	第 85 図	SD9001	86
第 29 図	SD12005 ~ 12007	33	第 86 図	SX6001 · SD8005 · 9002 · 9003 · 11001	87
第 30 図	SH2047	35	第 87 図	SX6001 · SD8005	88
第 31 図	SH2048	36	第 88 図	SD9002	89
第 32 図	SB2002	37	第 89 図	SD11001	91
第 33 図	SB2002 出土遺物	38	第 90 図	SD11006 · 11007	92
第 34 図	SX2051	38	第 91 図	SD11006 出土遺物	93
第 35 図	SX2119	39	第 92 図	SD10001	94
第 36 図	SX2119 出土遺物	40	第 93 図	SR12001	95
第 37 図	SK3008	41	第 94 図	SRI2001 出土遺物	96
第 38 図	SX3013	42	第 95 図	遺構に伴わない遺物 1	99
第 39 図	SX3014	42	第 96 国	遺構に伴わない遺物 2	100
第 40 国	SD2036 · 2082 · 2083	43	第 97 国	遺構に伴わない遺物 3	101
第 41 国	SD2076	43	第 98 国	遺構に伴わない遺物 4	102
第 42 国	SD3001 · 6003	45	第 99 国	遺構に伴わない遺物 5	103
第 43 国	SD3002 · 3017	46	第 100 国	試料 No. 1 ~ 8 12 区東壁 3-1 区南壁	107
第 44 国	SD5002	46	第 101 国	試料 No. 9 ~ 11 7-2 区東壁	108
第 45 国	SX5004	46	第 102 国	試料 No. 24 ~ 31 10-3 区東壁	108
第 46 国	SD10010	47	第 103 国	試料 No. 12 ~ 23 10-2 区西壁	109
第 47 国	7 区水田跡	48	第 104 国	No.23 から算出した植物珪酸体	110
第 48 国	10-3 区水田跡	49	第 105 国	試料の分析位置	112
第 49 国	10-2 区水田跡	50	第 106 国	蛍光 X 線分析結果 銅鉈 (107) P1	113
第 50 国	10-2 区水田跡断面	51	第 107 国	蛍光 X 線分析結果 銅鉈 (107) P2	113
第 51 国	13 区水田跡	52	第 108 国	蛍光 X 線分析結果 銅鉈 (107) P3	114
第 52 国	11-2 区水田跡	53 ~ 54	第 109 国	蛍光 X 線分析結果 銅鉈 (107) P4	114
第 53 国	11-1 区水田跡	55 ~ 56	第 110 国	遺構変遷図 1	116
第 54 国	9 区水田跡	57	第 111 国	遺構変遷図 2	117
第 55 国	12 区水田跡	58	第 112 国	名遺跡周辺の地割と検出した溝群	119
第 56 国	12 区水田跡断面図 · 出土遺物	59			
第 57 国	水田跡	60			

表 目 次

表1 分析試料一覧	104
表2 試料1g当たりのプラント・オパール個数および植物体 生産量	105
表3 名遺跡における植物珪酸体分布図	111
表4 銅製品の半定量分析結果 (mass%)	112
表5 ハンドヘルド蛍光X線分析装置仕様	112
第6表 名遺跡出土土器観察表	121～134
第7表 名遺跡出土瓦観察表	134～135
第8表 名遺跡出土石器観察表	135
第9表 名遺跡出土金属器観察表	135
第10表 名遺跡出土木器観察表	135

写 真 図 版 目 次

図版1	137
飯野山から見た遺跡周辺	
図版2	138
1区1面全景 北より	
SB1001 南より	
1区南部 西壁	
2区1面全景 北より	
図版3	139
2区2面全景 北より	
SB2002 南東より	
SH2047 南より	
SH2048 東より	
2区南部 西壁	
図版4	140
3区1面全景 北より	
SB3001 北より	
SD3016・SD3010 西より	
4区1面全景 南より	
3区2面全景 南西より	
図版5	141
4区2面全景 北より	
6区北1面全景 南より	
6区南1面全景 北より	
5区1面全景 北より	
図版6	142
7～1区1面全景 東より	
7～2区1面全景 東より	
8区1面全景 南より	
7～2区東壁(畦畔跡)	
9区1面全景 南より	
10～2区1面全景 北より	
図版7	143
10～2区水田跡 北より	
10～2区水田畦跡断面	
10～2区水田跡 北より	
図版8	144
10～2区水田面	
10～2区水田面 足跡か	
10～3区1面全景 北西より	
10～3区水田跡 南より	
図版9	145
10～3区水田跡 南東より	
SR10024 北東より	
10～2区水田跡 南東より	
11～2区水田跡 西より	
11～1区水田跡 北より	
SD11005・SD11004 北より	
11～2区SD11001 南より	
11～2区水田跡 南より	
図版11	147
11～2区水田跡 北西より	
12区東壁南部(水田畦畔部分)	
12区1面全景 南より	
12区南部水田跡 西より	
13区水田跡 南より	
13区西壁水田畦畔部分	
図版12	148
1～3・5・6・9・11～13	
14・16・19～22・24	
図版13	149
27～30・35・37	
36・38・41・45～48	
図版14	150
56・57・59・60・64・65	
図版15	151
54・55・58・61～63・66・68・71～76・78	
77・79・83・84・86～90	
図版16	152
91・93～103	
104・106	
図版17	153
108・110～113・115～127・129・132	
133～135・137～147	
図版18	154
105・130・131	
150～159・165・166・171～174	
図版19	155
160～164・185・269・275	
図版20	156
167～170・175・177	
176・178～184・186・188～197・199・200	
図版21	157
209～211	
212・213・226・227	
図版22	158
201～207・214～223	
224・225・228・231～240	
図版23	159
241～244・255～258	

245 ~ 247 · 285 · 319	163
図版 24	160
264 ~ 268 · 270 ~ 274	
248 ~ 254	
図版 25	161
276 ~ 278 · 296 ~ 298 · 301 · 302 · 305	
306 · 309 · 310 · 312 ~ 315	
図版 26	162
320 · 321	
322 ~ 325 · 328 · 330 · 332 · 333	
図版 27	163
340 · 341 · 349 · 351 ~ 355 · 358 · 360 · 361	
149 · 198 · 356 · 357 · 359 · 362 ·	
3 ~ 1 区 遺構に伴わない遺物	
図版 28	164
32 · 43 · 92 · 107 · 286	
図版 29	165
15 · 53 · 128 · 187 · 287 ~ 293 · 316	
294 · 295 · 317 · 318 · 326 · 327 · 329 · 346	

付図目次

付図1 名遺跡全体図 黒色粘土層より下面で検出した遺構
付図2 名遺跡全体図 黒色粘土層より上位面で検出した遺構
(黒色粘土層が堆積しない調査区を含む)
付図3 名遺跡水田跡全体図

第1章 調査に至る経緯と経過

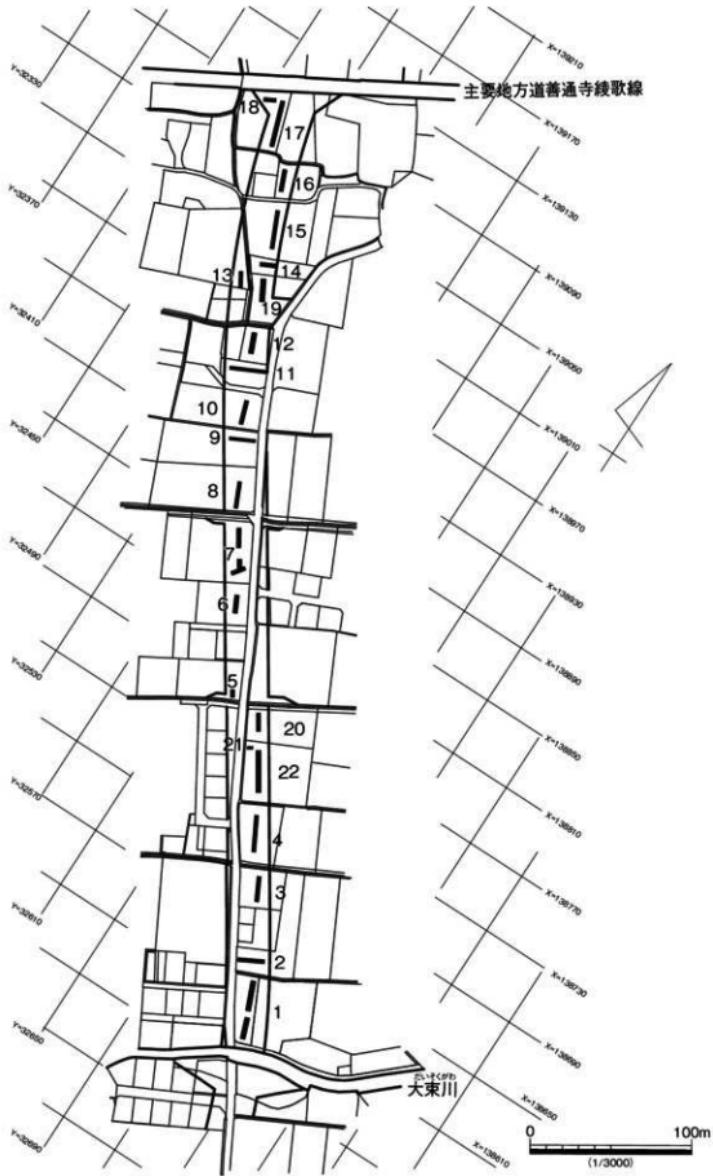
第1節 調査に至る経緯

国道438号は香川県坂出市から徳島県徳島市に至る一般国道である。国道438号（飯山工区）道路整備工事に先立って、平成28年7月25日～8月1日、丸亀市飯山町下法軍寺において、埋蔵文化財の確認調査を行った。調査対象地は主要地方道普通寺綾歌線から丸亀市飯山町下法軍寺と上法軍寺の境界を流れる大東川までの600mの区間で、地目は一部が宅地で、そのほかは田である。この区間に18箇所のトレーニング（1～18トレーニング）を設定して調査を行った。さらに、翌平成29年7月20・21日に12トレーニングと13・14トレーニングの間に1箇所（19トレーニング）、4トレーニングと5トレーニングの間に3箇所のトレーニング（20～22トレーニング）を設定して調査を行った。

北部の10～18トレーニングは現地表下0.6～20mまで掘削し、耕作土下には深さ1.5m以上砂礫層が堆積していることを確認した。遺構・遺物はほとんど認められなかった。最も南に位置し、大東川に北接する水田に設定された1トレーニングでは深さ1.3mまで掘削し、調査した。耕作土の下に造成土があり、その下の現地表下0.5～0.6m以下には灰色粗砂・灰色シルトが堆積していた。遺構・遺物は認められなかった。1トレーニングの北の2～4トレーニングでは深さ0.8～1.2mまで掘削した。耕作土の下に黒灰色粘質シルト・灰色粗砂が見られ、その下には黄褐色粗砂・淡黄褐色粘土・暗灰色粘質シルト、さらにその下には黄緑灰色粘土が堆積しており、遺構・遺物はほとんど見られなかった。さらに、大東川から100mほど北の水田に5トレーニング、その北には6～9トレーニングを設定した。これらのトレーニングでは深さ0.6～1.5mまで掘削し、耕作土下で遺構・遺物を確認した。



第1図 調査地位置図



翌年の平成29年度には前年に調査ができなかった用地の確認調査を行った。12トレンチと14トレンチの間に位置する19トレンチでも周辺の10~18トレンチと同様耕作土下に砂礫層が堆積し、遺構・遺物は見られなかった。5トレンチの南東の21・22トレンチでは現地表下0.8mで黒色粘質土を主体とする湿地性堆積物を確認したが、遺構・遺物は見られなかった。以上の調査結果から、9トレンチから20トレンチの間で、事業実施に先立って埋蔵文化財の保護措置が必要と判断し、「名遺跡」と命名して、調査を行った。

第2節 調査の経過

名遺跡の発掘調査は平成29・30年度に実施した。調査対象地は南北方向の市道を挟んでおり、市道の西側の調査区は北から1~4区・7区・10区・13区、市道の東側の調査区は北から5区・6区・8区・11区・12区と呼称した。

平成29年度は平成29年11月1日から平成30年3月31日まで、1区から7区を調査した。11月から1月まで1班体制、2・3月は2班体制で調査を行った。

調査は1区から開始した。1区では1面の遺構面を調査した。11月28日に全景写真撮影を行い、平面測量し、調査区壁の土層断面図を作成した後、耕作土の下に部分的に見られた疊群の堆積状況を確認するため、調査区内に4本のトレンチを設定し、堆積状況を確認した。

1区を埋め戻した後、11月30日からは1区の南に隣接する2区の調査を行った。2区では2面の遺構面を調査した。12月22日に第1遺構面の全景写真を撮影し、測量を行った後、第2遺構面の調査を行った。2月2日に全景写真を撮影した。

3区は東西方向の市道を挟んで2区の南に位置する。3区は2つの小調査区に分け、北を3-1区、南を3-2区とし、2班で調査を行った。3-1区・3-2区も2面の遺構面を調査した。3-1区は1月9日に機械掘削を開始し、2月16日に第1遺構面の全景写真を撮影し、第2遺構面の調査を行った。3-2区は2月8日に機械掘削をし、2月19日に第1遺構面の全景写真を撮影した。第2遺構面の調査を行った後、2月23日に3-1区・3-2区の第2遺構面の全景写真を撮影した。

3-1区・3-2区を埋め戻した後、2月26日から3区の南に隣接する4区の調査を行った。2面の遺構面を調査した。3月1日に第1遺構面の全景写真を撮影し、3月7日に第2遺構面の全景写真を撮影した。また、3-1区・3-2区では遺跡の自然環境を調査することを目的とした土壌分析を実施するための分析試料を採取した。3月5日に3-1区南壁黒色粘土層及びその上層から7点、西壁黒色粘土層及びその上層から13点、3月19日には3-2区SK3008の土層断面観察用に残した畦から4点の試料を採取した。

5区は南北の市道を挟んで2区の東側に位置する幅1~2.3mの調査区である。2面の遺構面を調査した。3月12日に機械掘削を行い、同日第1遺構面の全景写真を撮影し、翌3月13日に第2遺構面の全景写真を撮影した。

6区も南北の市道の東側で、東西の市道を挟んで5区の南側に位置する調査区である。2面の遺構面を調査した。排土置き場の都合で、南北に分けて調査を行った。2月5日に北部の機械掘削を行い、2月7日に第1遺構面の全景写真を撮影した後、第2遺構面の調査を行い、同日全景写真を撮影した。翌2月8日に北部を埋めながら南部を機械掘削し、同日第1遺構面の全景写真を撮影した。2月9日に第2遺構面の全景写真を撮影した。

7区は4区の南に隣接する調査区である。北から7-1区・7-2区という2つの小調査区に分けて調査を

行った。いずれも 2 面の遺構面を調査した。北側の 7-1 区は 3 月 12 日に機械掘削を行い、同日第 1 遺構面の全景写真を撮影した。翌 3 月 13 日に第 2 遺構面の全景写真を撮影した。南側の 7-2 区も 3 月 12 日に機械掘削を行い、翌 3 月 13 日に第 1 遺構面の全景写真を撮影し、翌 14 日第 2 遺構面の全景写真を撮影した。7-2 区では 3 月 14 日に東壁の黒色粘土層・及びその上層から 3 点、南壁黒色粘土層及びその上層から 3 点の土壌サンプルを採取した。

平成 30 年度は 4 月 1 日から 6 月 30 日まで、8 区～13 区の調査を行った。4・5 月は 2 班体制、6 月は 1 班体制で行った。4 月 1 日から 12 区と 10 区の調査に着手した。

12 区は 4 月 12 日第 1 遺構面の全景写真を撮影し、4 月 18 日に第 2 遺構面の全景写真撮影を行った。東壁の黒色粘土層及びその上層から 2 点、南壁黒色粘土層及びその上層から 2 点の土壌分析試料を 4 月 19 日に採取した。

南北の市道の西側で、7 区の南に隣接する 10 区は南から 10-1 区、10-2 区、10-3 区という 3 つの小調査区に分けて調査を行った。10-1 区は県道が市道へ取り付く部分で東西に細長く、幅の狭い調査区である。小調査区のため、掘削機械の進入がままならず、4 月 4 日から人力で表土掘削を行い、1 面の遺構面を調査した。

10-1 区調査終了後、4 月 9 日から 10-2 区の機械掘削を行った。4 月 13 日に第 1 遺構面の全景写真を撮影した後、第 2 遺構面の調査を行い、4 月 20 日に第 2 遺構面の全景写真を撮影した。4 月 25 日、調査区西壁と北壁の黒色粘土層及びその上層から土壌分析試料を採取した。

10-2 区を埋め戻した後、5 月 9 日から 10-3 区の機械掘削を行った。5 月 14 日に第 1 遺構面の全景写真を撮影し、5 月 22 日に第 2 遺構面の全景写真を撮影した後、中央部にトレンチを設定し、下層の堆積状況を確認した。また、水田跡が検出された 10-2 区では 4 月 25 日西壁の黒色粘土層の上層から 8 点、5 月 24 日に 10-3 区では東壁の黒色粘土層の上層から 2 点のサンプルを採取した。

11 区は南北の市道の東側で、公衆用道路を挟んだ 12 区の北の調査区である。南北の 2 つの小調査区に分けて調査を行った。11-1 区は 3 面の遺構面を調査した。4 月 20 日に機械掘削を行い、4 月 23 日に第 1 遺構面の全景写真を撮影し、5 月 10 日に第 2 遺構面の全景写真を撮影した。東半分で第 3 遺構面の調査を実施し、5 月 21 日に全景写真を撮影した。11-2 区も 3 面の調査を行った。5 月 21 日に機械掘削を行い、5 月 25 日に第 1 遺構面の全景写真を撮影し、6 月 5 日に第 2 遺構面の全景写真を撮影し、6 月 13 日に第 3 遺構面の全景写真を撮影した。

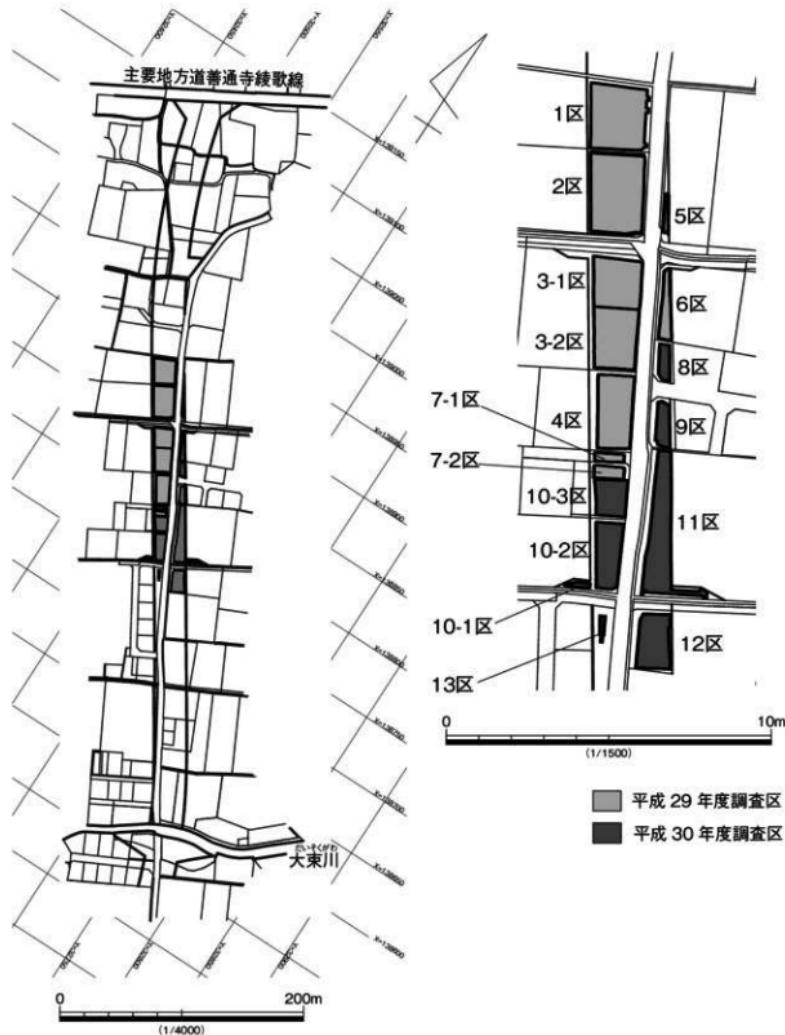
8 区は南北に走る市道の東側の狭い調査区で、平成 29 年度に調査を実施した 6 区の南に位置する。2 面の遺構面を調査した。5 月 10 日に機械掘削を行い、5 月 14 日に第 1 遺構面の全景写真撮影、5 月 16 日に第 2 遺構面の全景写真を撮影した。

9 区は公衆用道路を挟んで 8 区の南に位置する調査区である。5 月 21 日に機械掘削を実施した。5 月 22 日に第 1 遺構面の全景写真を撮影し、5 月 29 日に第 2 遺構面の全景写真を撮影した。6 月 14 日に第 3 遺構面の全景写真撮影を行った。

13 区は南北の市道の西側で、市道を挟んで 10 区の南に位置する調査区である。1 面の遺構面を調査した。6 月 12 日に機械掘削を行い、6 月 15 日に全景写真撮影を行った。

調査に当たっては世界測地系を使用し、基準杭を打設して測量を行った。現地での平面測量は基準杭をもとにトータルステーションを使用し、「遺構くん 2019」（株式会社 CUBIC）による図化を行った。

また、平成 29 年度の調査に KNY、平成 30 年度の調査に KNY2 の略号を使用した。出土遺物は遺構・



第3図 調査区割図

層位・出土年月日ごとに袋または整理用コンテナに収納し、登録番号を付け、台帳を作成した。遺物量は28リットル入り整理箱52箱である。

調査終了後、名遺跡の古環境に関する手がかりを得るために、プラント・オパール分析株式会社イビ

ソクに委託して行った。成果は第4章第2節のとおりである。

整理作業は令和元年11月～令和2年3月、令和2年9月・10月に実施した。また、出土した銅鏡の保存処理と成分分析を株式会社イビソクに委託して行った。成果は第4章第3節のとおりである。

発掘調査及び整理作業の体制は以下のとおりである。

平成29年度発掘調査体制

香川県教育委員会事務局 生涯学習・文化財課		香川県埋蔵文化財センター	
秘括	課長 小柳 和代	秘括	所長 増田 宏
副課長	片桐 孝浩		次長 森 格也
秘務・生涯学習推進グループ		秘務課	課長（兼務） 森 格也
課長補佐	中川 駿朗		副幹事長 斎藤 政好
副主幹	松下由美子		主任 高橋 篤行
主事	和木 麻佳		主任 丸尾麻知子
文化財グループ	課長補佐（兼務） 片桐 孝浩	調査課	主任 岩崎 昌平
	主任文化財専門員 俗里 労紀		主任 横井 隆史
	主任文化財専門員 乗松 真也		課長（兼務） 森 格也
			文化財専門員 山元 素子
			文化財専門員 宮崎 智治
			技師 大山 祐矢

平成30年度発掘調査体制

香川県教育委員会事務局 生涯学習・文化財課		香川県埋蔵文化財センター	
秘書	課長 副課長	白井 道代 片桐 孝浩	秘書 所長 次長
秘書・生涯学習推進グループ	課長補佐 主事	中川 啓朗 山下 詩織	秘書課 課長(兼務) 副主幹 主任
文化財グループ	課長補佐(兼務) 主任文化財専門員 文化財専門員	片桐 孝浩 信里 芳紀 真鍋 貴匡	高橋 篤行 丸尾林知子 木村 義信 横井 隆史
			調査課 課長 文化財専門員 技師 技師
			吉野 徳久 森下 友子 竹内 裕貴 益崎 卓己

令和元年度整理作業体制

香川県教育委員会事務局生涯学習・文化財課			香川県埋蔵文化財センター		
秘括	課長	原田 智	秘括	所長	西岡 達哉
	副課長	片桐 孝浩		次長	石野 高雄
秘務	生涯学習推進グループ		秘務課	課長(兼務)	石野 高雄
	課長補佐	中川 聰朗		副主幹	立藤 政好
	副主幹	長谷川江里		主任	高橋 篤行
文化財グループ	主事	辻 おしえ		主任	丸尾麻知子
	課長補佐(兼務)	片桐 孝浩		主任	横井 隆史
	主任文化財専門員	松本 和彦		主任	寺尾 一夫
	文化財専門員	眞鍋 貴匡	資料普及課	課長	古野 徳久
				文化財専門員	森下 友子

令和2年度整理作業体制

香川県教育委員会事務局生涯学習・文化財課		香川県埋蔵文化財センター			
秘括	課長 渡邊 智子 副課長 愛染 伊知朗	秘括	所長 次長 課長(兼務)	西岡 達哉 鶴口 隆幸	
能務、生涯学習推進グループ	課長補佐(兼務) 愛染 伊知朗 副主幹 長谷川 江里 主事 尾平 俊	秘括課	副主幹 主任	鶴口 隆幸 吉藤 政好 高橋 篤行 主任	吉藤 政好 高橋 篤行 主任
文化財グループ	課長補佐 古野 慶久 主任文化財専門員 松本 和彦 技師 益崎 卓巳	資料普及課	主任 主任 課長	石田 こずえ 寺尾 一夫 遠山 豊 佐藤 達馬 山元 素子	寺尾 一夫 遠山 豊 佐藤 達馬 山元 素子

第2章 立地と環境

第1節 地理的環境

名遺跡は香川県丸亀市飯山町下法軍寺に所在し、丸亀平野東部に位置する。遺跡付近の現地表の標高は22～23mで、周辺には碁盤目のような方形区画の条里地割が広がっている。

名遺跡の300m南には土器川の扇状地が段丘になった岡田台地の北端の崖（岡田断層）がある。1km東には綾歌竜王山から西にのびた低丘陵が迫り、1km西には讃岐山脈の竜王山（香川県仲多度郡まんのう町）に源を発する一級河川の土器川が南から北に向かって流れる。

第4図は丸亀平野南部の地形図に5m間隔の等高線を示しているが、遺跡の西側及び北側は等高線が扇状に広がり、この付近は土器川の旧河道または土器川が形成した扇状地が広がっていることがわかる。第5図は名遺跡周辺の地図に20cm間隔の等高線を示したものであるが、この図を見ると、遺跡の南部から大東川付近にかけては凹地で、扇状地と凹地の間に挟まれたところに名遺跡は位置していることがうかがわれる。

名遺跡のすぐ南には二級河川の大東川が西から東に向かって流れる。この大東川は仲多度郡まんのう町・丸亀市綾歌町付近のため池の水を集めて南から北に流れ、名遺跡の南を北東に流れるが、名遺跡の西方400mにある古代寺院法勧寺跡では流れが不自然である。大東川は地形の傾斜に逆らって法勧寺跡を迂回するようにコの字状に流れしており、この辺りは人工的に付け替えられた可能性が高い⁽¹⁾。

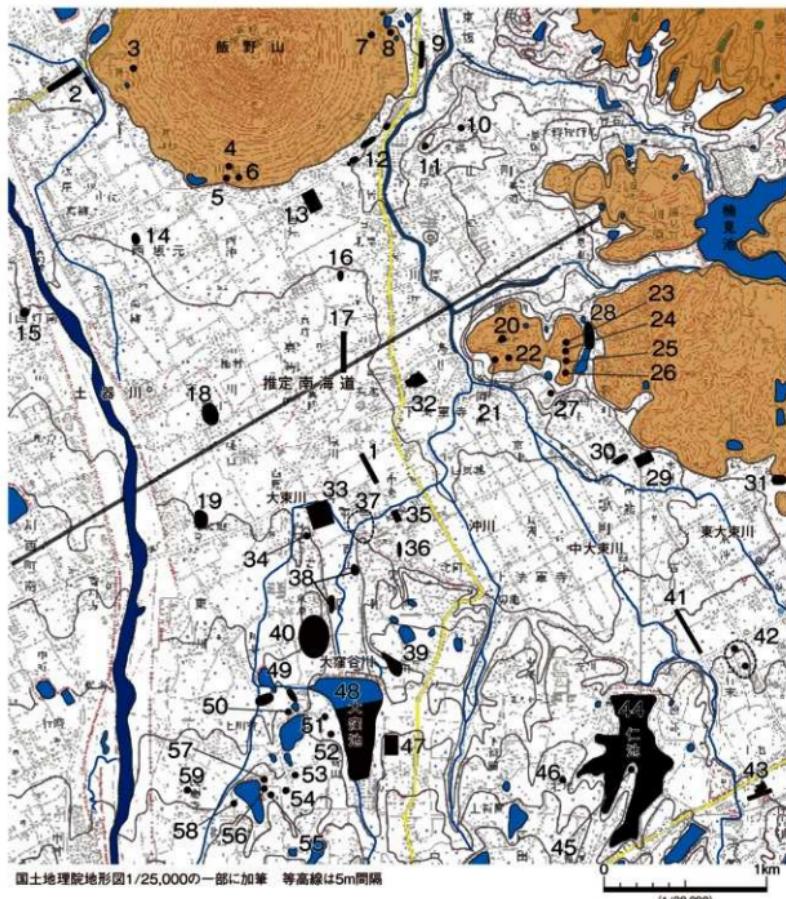
第2節 歴史的環境

名遺跡の周辺には旧石器から近世まで各時代の遺跡が分布している。名遺跡の1.5～2.0km南、低丘陵の谷部に位置する大窪池遺跡や仁池遺跡では旧石器が採集されている。また、1.5m北の北岸南遺跡で縄文時代の石器が出土した⁽²⁾。

弥生時代以降は遺跡数が増える。弥生時代前期の遺跡は名遺跡の東2kmの低丘陵に次見遺跡、南東2.0～2.5kmの平野部には行末西遺跡や行末遺跡がある。

古墳時代の遺跡や古墳が多い。名遺跡と同様国道438号道路改築事業に伴って平成26年から31年に発掘調査が行われた岸の上遺跡は名遺跡の700m北にある遺跡であるが、この遺跡では古墳時代後期の掘立柱建物跡が検出された⁽³⁾。名遺跡の100m南にある沖遺跡も同じ事業に伴って発掘された遺跡であるが、古墳時代中期から後期の溝状遺構が検出された⁽⁴⁾。また、周辺の丘陵には数基の古墳がみついている。遺跡の北東1.5kmの丘陵には次郎山1～2号墳、富熊4～5号墳、富熊神社古墳、富熊神社神事場古墳等があるが、いずれも詳細な調査はされておらず、時期は不明である。名遺跡の1.5km南の岡田台地上にある前谷古墳や上川井遺跡では古墳の周溝が発掘調査によって検出された。古墳時代中期から後期の小規模な古墳の周溝の可能性が高い⁽⁵⁾。

古代の遺跡では名遺跡の1.1km南の岡田台地上にある遠田遺跡からは飛鳥時代から奈良時代の掘立柱建物跡が検出された。この建物跡は3×7間以上と大規模で、正方位を向く。また、遠田遺跡の500m西には東原遺跡がある。東原遺跡では飛鳥時代から奈良時代の掘立柱建物が数棟検出されている。これらの中には1間以上×5間以上の規模なものもある⁽⁶⁾。



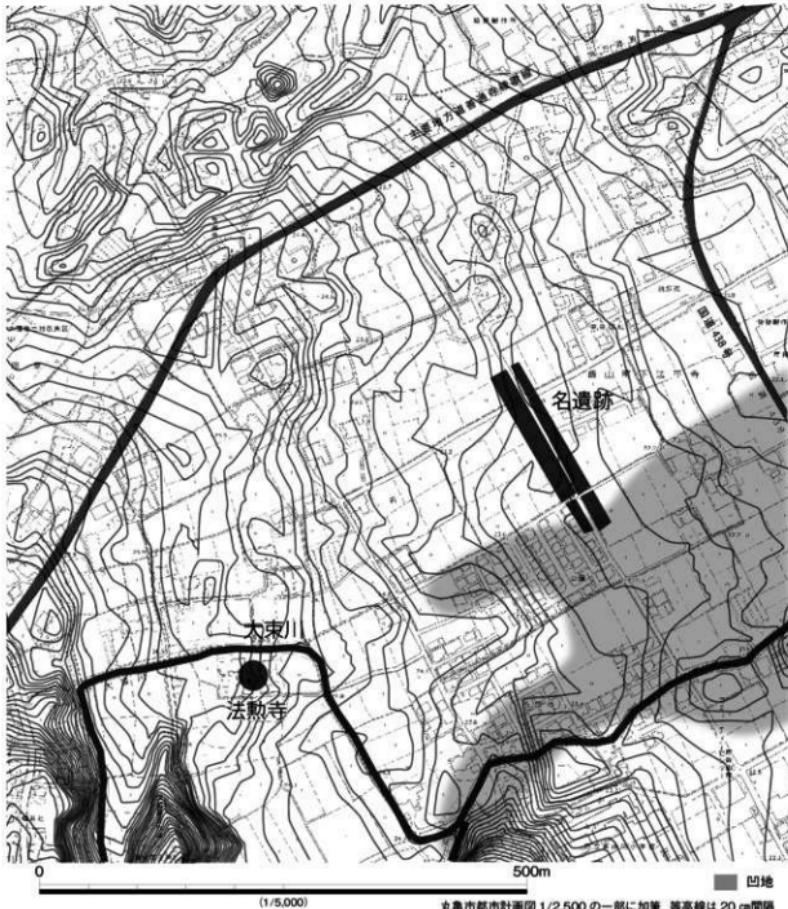
1 名遺跡	13 鮎山北土居遺跡	25 富熊6号墳	37 西の山遺跡	49 上川井遺跡
2 飯野東二瓦礫遺跡	14 西坂元内板遺跡	26 富熊神社古墳	38 大庵谷遺跡	50 前谷古墳
3 真時古墳	15 原龜王山2号墳	27 富熊神社神事場古墳	39 逸田遺跡	51 內光寺荒神塚
4 坂元神社西古墳群2号墳	16 北岸南遺跡	28 十三塚古墳	40 東原遺跡	52 內光寺桜塚
5 坂元神社西古墳群1号墳	17 岸の上遺跡	29 新土井遺跡	41 行末西遺跡	53 富野氏車古墳
6 坂元神社西古墳群3号墳	18 若宮遺跡	30 堂ノ元遺跡	42 行末遺跡	54 渋谷氏古墳
7 大谷古墳	19 西内遺跡	31 次見遺跡	43 佐古川・窪田遺跡	55 大道墓地古墳
8 西の宮古墳	20 法勧寺城跡	32 下法華寺跡跡	44 仁池遺跡	56 大林氏2号墳
9 東坂元北岡遺跡	21 次郎山1号墳	33 法勧寺跡	45 椎尾東遺跡	57 大林氏1号墳
10 極楽寺古墳	22 次郎山2号墳	34 謹留靈王古墳	46 北原古墳	58 車塚
11 久保大塚	23 富龜4号墳	35 沖遺跡	47 大坪屋敷跡	59 成願寺跡
12 東坂元秋常遺跡	24 富熊5号墳	36 沖南遺跡	48 大庵池遺跡	

第4図 周辺遺跡分布図

また、岸の上遺跡では古代の南海道の側溝と考えられる遺構や、飛鳥時代から奈良時代の掘立柱建物群も検出された。

法勅寺跡は名遺跡の400m西にある古代寺院である。塔心礎が残存し、7世紀末の瓦が採集されている。「讃留靈王公胤記」によると天暦3年（949）法勅寺の住僧公蓮のとき京都仁和寺親王に帰属した。このとき近隣に500町余の法勅寺庄を開いたという。また、元応3年（1321）2月2日の仁和寺寛性法親王令旨書（大覺寺文書）には法勅寺庄が記され、仁和寺領となっていることがうかがわれる⁽⁷⁾。

中世の遺跡は本遺跡の南400mに位置する沖遺跡がある。この遺跡では条里地割に平行する溝と、多数の柱穴跡・掘立柱建物跡が検出された。



第5図 周辺の地形



「法勲寺地区の古地名図」『飯山町誌』飯山町 1988 の一部に加筆
第6図 周辺の古地名

このような地理的・歴史的環境を伝える資料の1つとして古地名がある。第6図は名遺跡付近の古地名を表した図である。名遺跡付近には「太郎丸」・「黒正」・「末広」・「真光寺」等が見られる。「太郎丸」・「黒正」・「末広」は人名と思われるが、田畠を開発または経営した名主の名前の可能性もあるう⁽⁸⁾。

注参考文献

- (1) 「团体営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」 2000 飯山町教育委員会
- (2) 「国道438号道路改良事業（飯山工区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第5冊 北岸南遺跡」 2017 香川県教育委員会ほか
- (3) 「国道438号道路改良事業（飯山工区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第6冊 岸の上遺跡I」 2019 香川県教育委員会ほか
- (4) 「香川県埋蔵文化財センター年報」平成25年度～平成28年度、平成30年度 2014・2016～2019 香川県埋蔵文化財センター
- (5) 「香川大学工学部安全システム建設工学科長谷川研究室 講義オサイト(21) 丸龜平野と飯山」
- (6) 団体営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 2000 飯山町教育委員会
- (7) 唐木裕志ほか「飯山町誌」飯山町 1988 唐木裕志「法勲寺跡」「香川県の地名」1989
- (8) 唐木裕志ほか「飯山町誌」飯山町 1988

第3章 調査の成果

第1節 層序

第7図は遺跡の外周である1～4・7・10・13区の西壁、5・6・8・9・11・12区の東壁、1区北壁、12区南壁のはか、遺跡を東西に横断する2区・5区の南壁、11-1区・10-2区の南壁土層断面図を縦1/40、横1/500に縮小した土層断面図である。西壁の断面図を見ると、現地表が最も高いのは1区と2区で22.8m前後である。道路工事に先立って、耕作土による仮畦畔等の造成が行われたため、現地表の標高はわかりづらいところもあるが、近年まで耕作されていた水田耕作土の下に形成された鉄酸化沈積層は南に向かって下がっていることからも本来の現地表は南が低いことがうかがわれる。東壁も同様で、本来の現地表が最も高いのは北部の5区・6区である。22.5m前後で、南に向かって下がる。また、2区と5区の南壁断面図で現地表の東西の高低差を見ると、西側の2区よりも東側の5区は0.3mほど低い。10-2区と11-1区の南壁も同様で、東側の11-1区が0.3mほど低い。第5図は遺跡周辺の等高線図であるが、この図をみても北西から南東に向かって低くなっていることがうかがわれる。

第8～15図は各調査区の土層断面図である。最も北西部に位置する1区では、現地表は22.8mで、耕作土、耕作に伴う鉄酸化沈積層の下には径0.03～0.15mほどの円碟を多量に含む灰黄褐色砂礫層が堆積しており、この層の上面で遺構を検出した。

1区の南に位置する2区では砂礫層は見られず、耕作土・鉄酸化沈積層の下にはにぶい褐色砂質シルト～灰褐色粘質シルトが堆積する。2区南部では灰褐色粘質シルトの下に黒褐色シルト（標高22.1～22.3m）が堆積する。これらの土層の下には遺物を含まない褐色粘質土・明黄褐色粘質シルトが堆積する。

2区では、下部に黒褐色シルトが堆積する南端付近ではにぶい褐色砂質シルト～灰褐色粘質シルトの上面で、それより北側では褐色粘質土・明黄褐色粘質シルトの上面で遺構を検出した。

東西方向の市道を挟んで2区の南に位置する3区では3-1区・3-2区の2小調査区に分けて調査を行った。3-1区では鉄酸化沈積層の下に黄灰色粘質土、その下に明褐色～灰オリーブ色粘質土・暗灰黄色砂混じり粘質土、3-2区では黄灰色粘質土が堆積し、これらの下には黒褐色粘質土が堆積する。黒褐色粘質土の下には3-1区の北部では黄褐色粘土、3-1区南部から3-2区北部では黄橙色礫混じり細砂、3-2区南部ではにぶい褐色粘質土混じり粗砂が堆積する。3区では黒褐色粘質土の上面（1面）と、黄褐色粘土・黄褐色礫混じり細砂・にぶい褐色粘質土混じり粗砂の上面（黒褐色粘質土の下面）（2面）で遺構を検出した。

3区の南の4区では鉄酸化沈積層の下には灰褐色粘質土が堆積し、その下に黒褐色粗砂混じり粘質土が堆積する。この下には遺物を含まない橙色粗砂混じり粘質土が見られる。4区では黒褐色粗砂混じり粘質土の上面（1面）と、橙色粗砂混じり粘質土の上面（黒褐色粗砂混じり粘質土の下面）（2面）で、遺構を検出した。

7区は南北方向の市道の西側で、4区の南に位置する。7-1区・7-2区の2つの小調査区に分けて調査を実施した。北側の7-1区では鉄酸化沈積層の下には黄灰粘土・灰色粘土・褐灰色粘土・黑褐色粘土が堆積し、その下に遺物を含まない黄色粘土が堆積する。南側の7-2区では鉄酸化沈積層の下には灰黄褐色粘質シルト・褐灰色粘土・黑褐色粘土、その下には遺物を含まない明黄褐色粘土が堆積する。7区では黒褐色粘土の上面（1面）と、黄色～明黄褐色粘土の上面（黒褐色粘土の下面）（2面）の2面で遺構を検出した。

10区は南北方向の市道の西の調査区である。7区の南に位置する。北部の10-3区では酸化沈積層の下には褐色シルトが堆積し、その下には細砂をブロック状に含む褐色シルトが堆積する。南部の10-2区では酸化沈積層の下にはシルトと細砂のラミナ堆積が厚さ0.4～0.5m見られる。その下には黒褐色粘質土、遺物を含まない褐色粘質土が堆積する。10-2区では、酸化沈積層の下面（2～4・7区の1面よりさらに上の遺構面）（1面）と、黒褐色粘質土上面（2面）の2面で遺構を検出した。また、10-3区では調査区北西部にトレーニングを設定し、部分的に3面の調査を実施し、黒褐色粘質土の下に堆積する褐色粘質土・浅黄橙色シルトの上面（3面）で遺構を検出した。

13区は東西方向の市道を挟んで10区の南に位置する。名遺跡の中では最も南西に位置する。13区は宅地造成されているが、造成前の標高は22.2mで、150m北の1・2区と比べると0.6m低い。13区では酸化沈積層の下にシルト・細砂・粗砂のラミナ堆積が厚さ0.4～0.5m見られ、その下には黒色粘土が堆積する。13区では黒色粘土上面の1面で、遺構を検出した。

5区は南北方向の市道の東側、2区の東側に位置する。鉄酸化沈積層の下は北部では遺物を含まない橙色粘質土、中央部から南部にかけて、黒褐色粘質シルトが堆積する。黒褐色粘質シルトの下には北部と同様、遺物を含まない橙色粘質土が堆積する。5区では黒褐色粘質シルトの上面で遺構を検出した。

6区も南北方向の市道の東側で、東西の市道を挟んで5区の南に位置する。鉄酸化沈積層の下には褐色粘質土・灰黄褐色細砂混じり粘質土、その下に黒褐色粘質土が堆積し、さらにその下には遺物を含まない黄灰色粘土～橙色細砂混じり粘質土が堆積する。6区では鉄酸化沈殿層の下部、黒褐色粘質土上面（1面）で遺構を検出した。

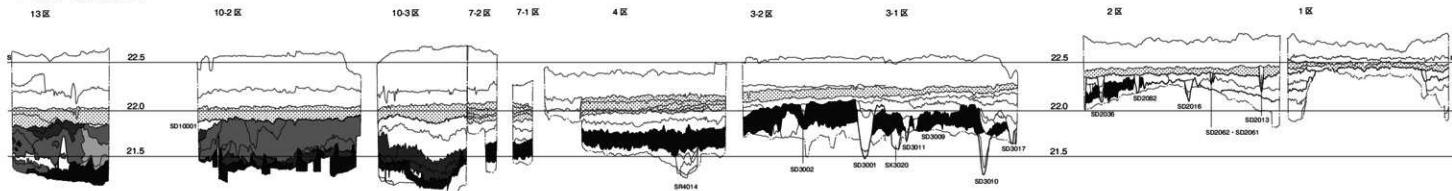
8区は南北の市道の東側で、6区の南に位置する。酸化沈積層の下には灰色シルトが堆積し、その下には黒褐色シルト混じり細砂～粗砂、遺物を含まないにぶい黄橙色シルト～灰黄褐色細砂混じり粗砂～中粒砂が堆積する。8区では灰色シルト上面で遺構を検出した。

9区は東西方向の公用道路を挟んで8区の南に位置する。酸化沈積層の下には褐色粘質シルトが堆積し、その下には黒褐色粘土、さらにその下には遺物を含まない明黄褐色粘質シルトが堆積する。9区では酸化沈積層の下の褐色粘質シルト上面（1面）、黒褐色粘土上面（2面）、明黄褐色粘質シルト上面（黒褐色粘土の下面）（3面）の3面で遺構を検出した。

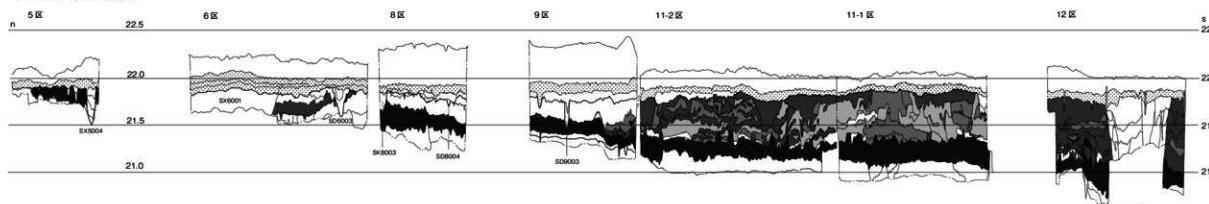
11区は南北の市道の東側の調査区で、9区の南に位置する。11-1区・11-2区の2つの小調査区に分けて調査を行った。南部の11-1区では酸化沈積層の下には厚さ0.4～0.5m程度のシルト・細砂・粗砂のラミナ堆積が見られる。その下には暗灰色粘質シルト、遺物を含まない灰色砂質シルトや灰色細砂混じり粘質シルトが堆積する。北部の11-2区は酸化沈積層の下にシルト・細砂・粗砂が0.5～0.6mの厚さでラミナ堆積が見られ、その下には暗灰色粘質シルト、遺物を含まない黄橙色粘土が堆積する。11区では酸化沈積層の下のシルト・細砂・粗砂のラミナ堆積層の上面（1面）、暗灰色粘質シルトの上面、（2面）黄橙色粘土の上面（3面）の3面で遺構を検出した。

12区は東西方向の公用道路を挟んで11区の南に位置する。12区では酸化沈積層の下に厚さ0.6～0.8mのシルト・細砂のラミナ堆積が見られ、その下には黒褐色粘土、さらに、その下には遺物を含まない褐色粘質シルト～黄灰色粗砂が堆積する。12区では黒褐色粘土上面（1面）と、褐色粘質シルト～黄灰色粗砂上面（黒褐色粘土下面）（2面）の2面で遺構を検出した。

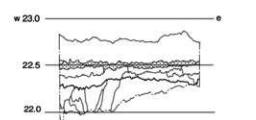
1~13区 西壁土層断面図



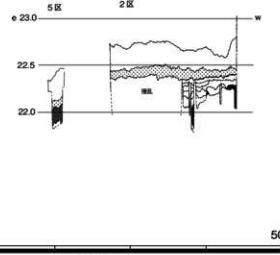
5~12区 東壁土層断面図



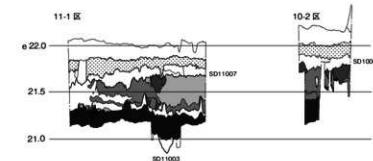
1区北壁土層断面



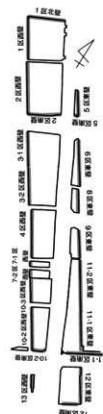
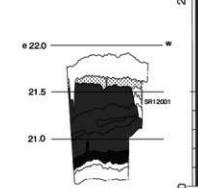
2区・5区南壁土層断面



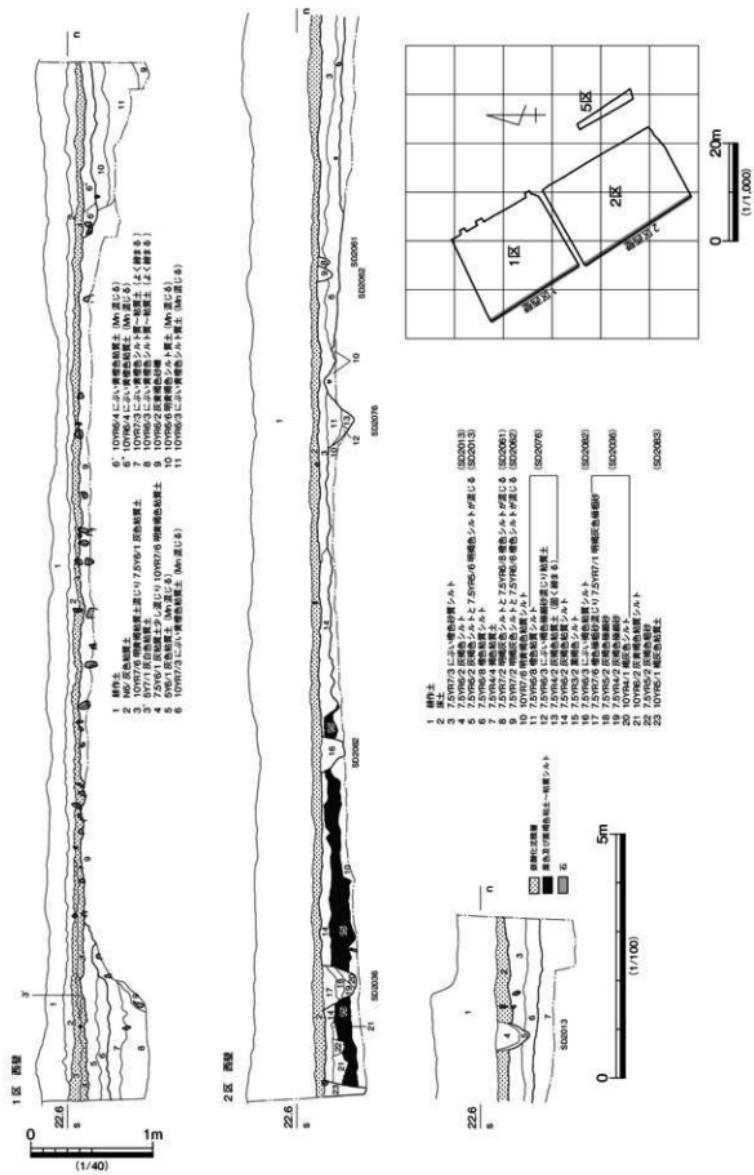
10-2区・11区南壁土層断面



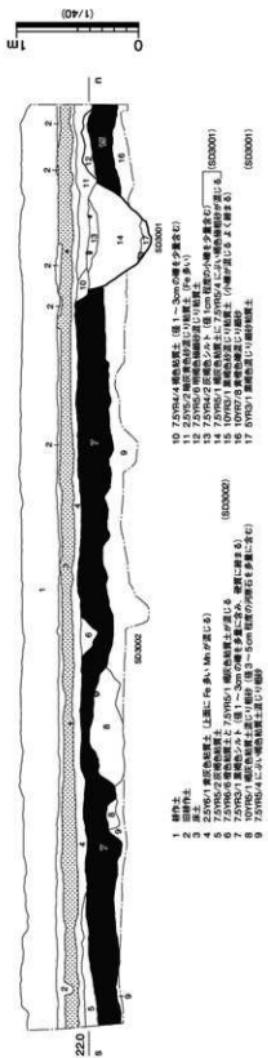
12区南壁土層断面



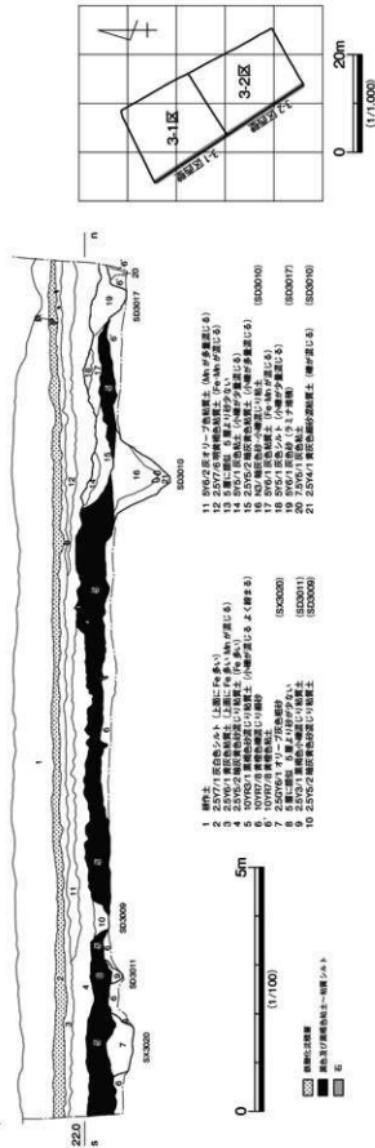
第7図 1~13区壁断面図



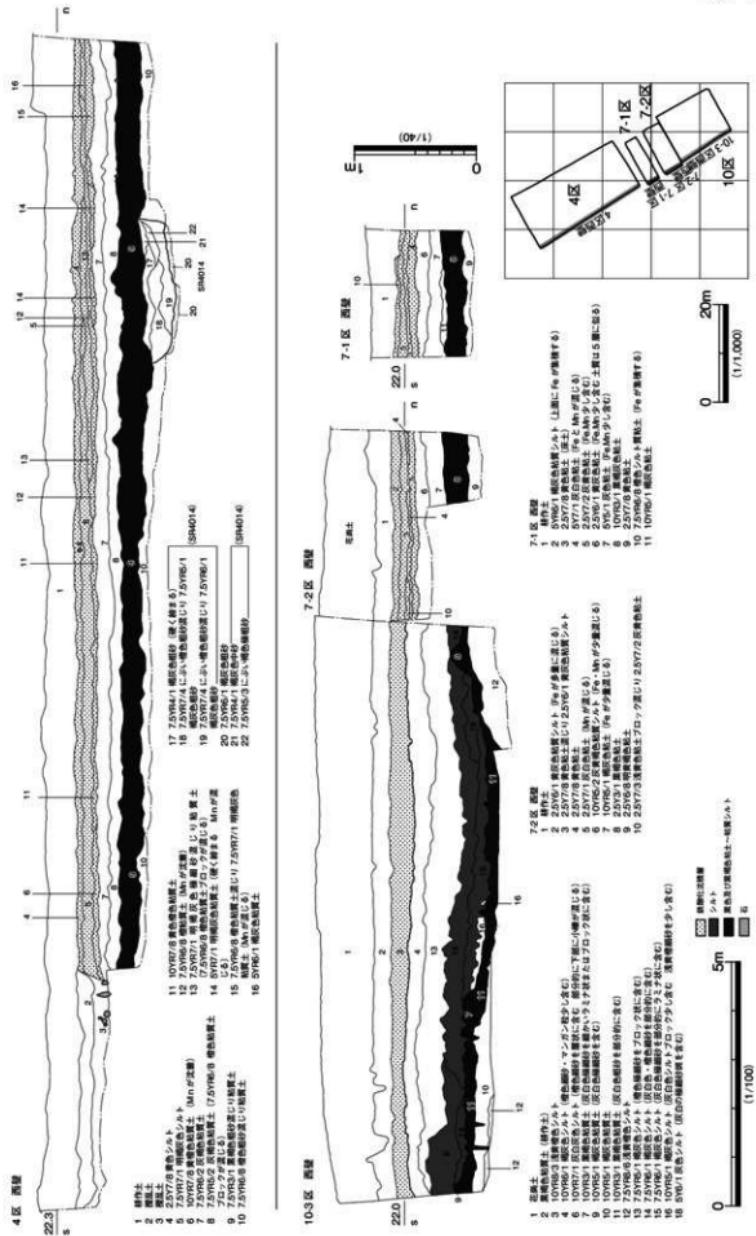
第8図 1区・2区西壁断面図



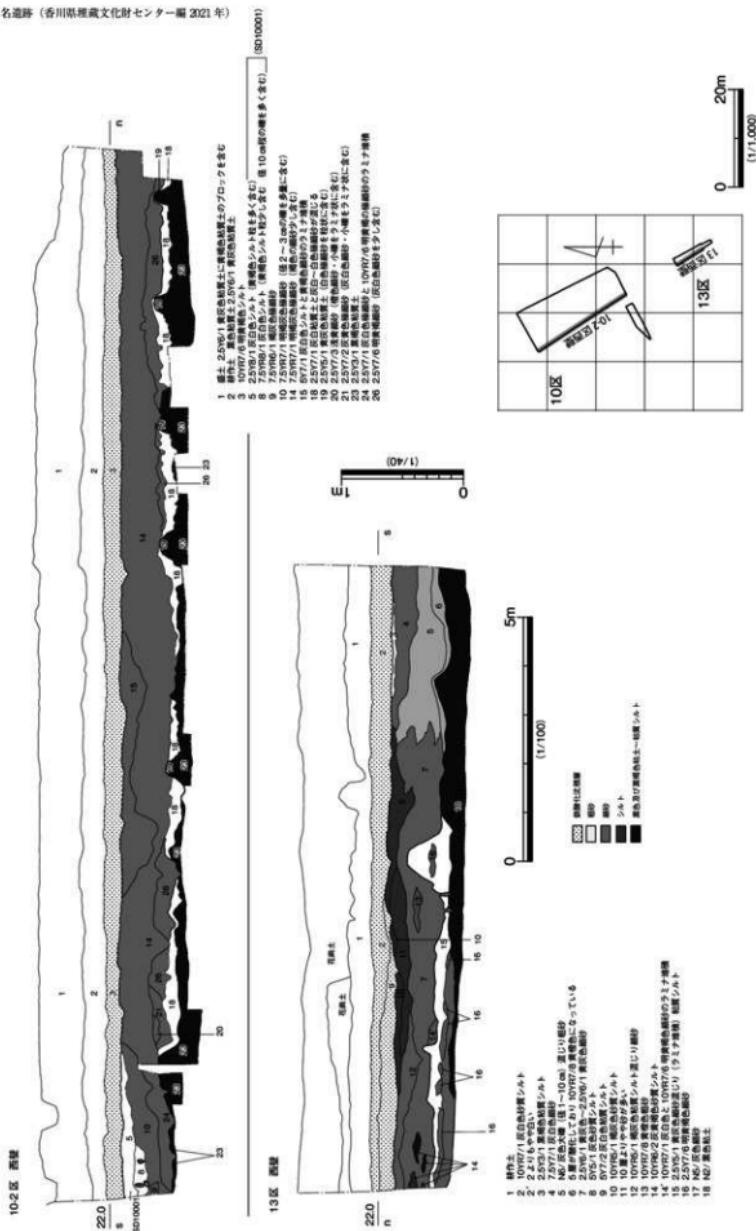
3-1区 四季区西里士里河



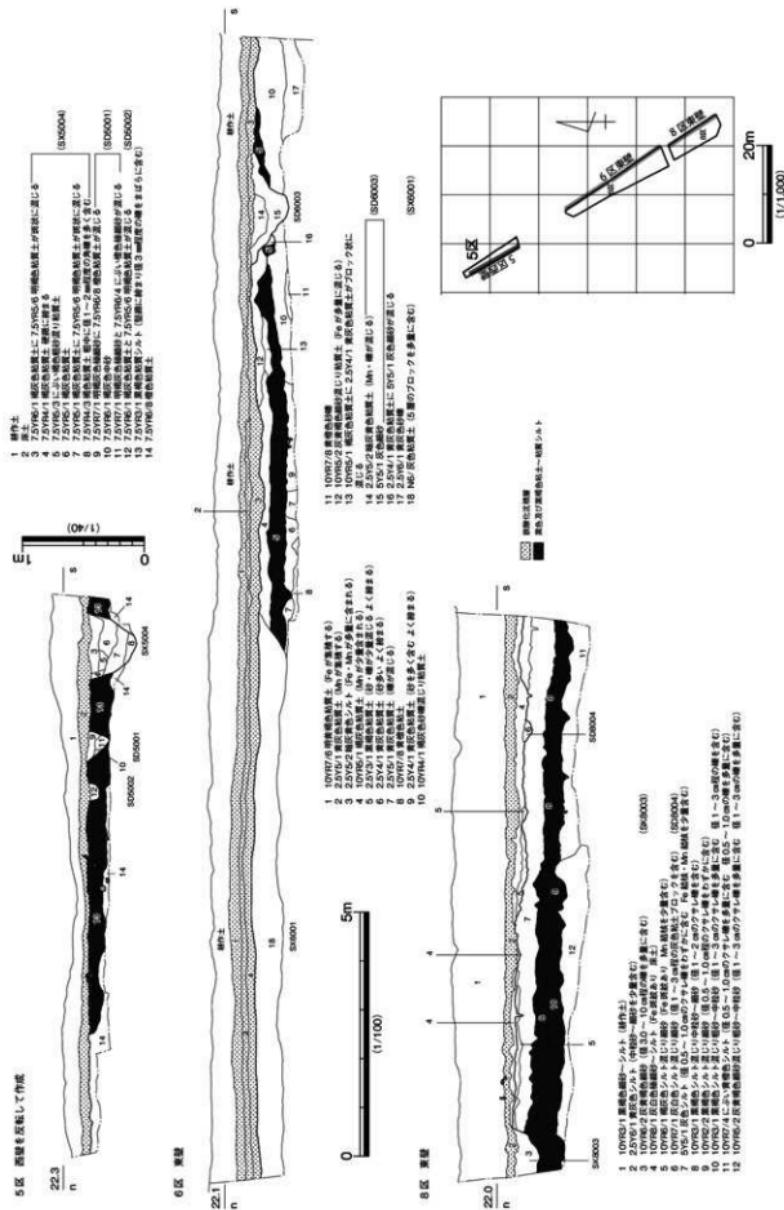
第9図 3-1・3-2区西壁断面図



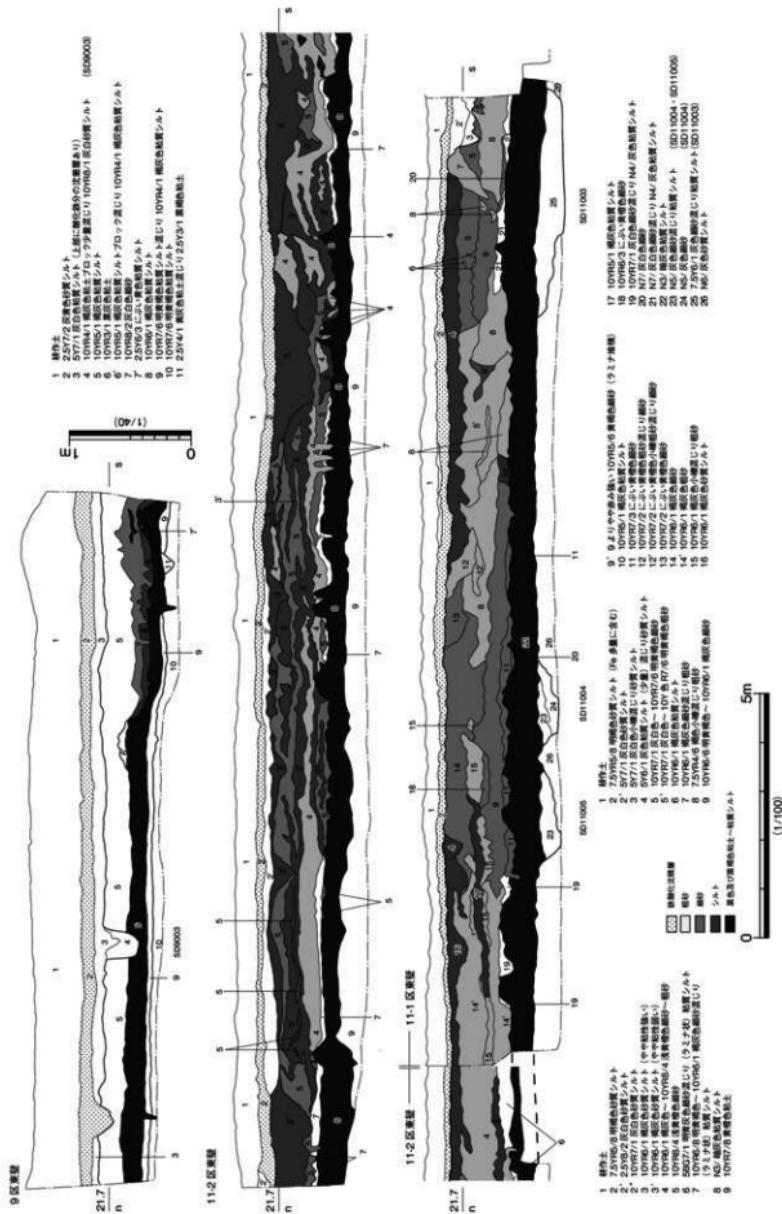
第10圖 4区・7・1・2区・10・3区西壁断面図

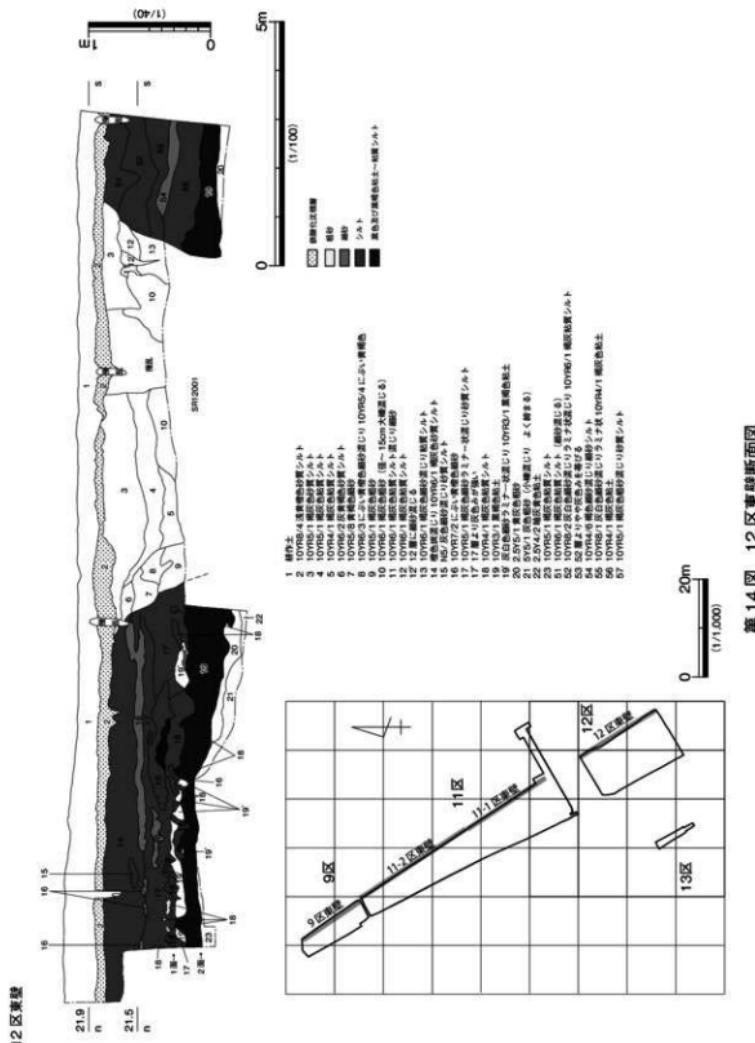


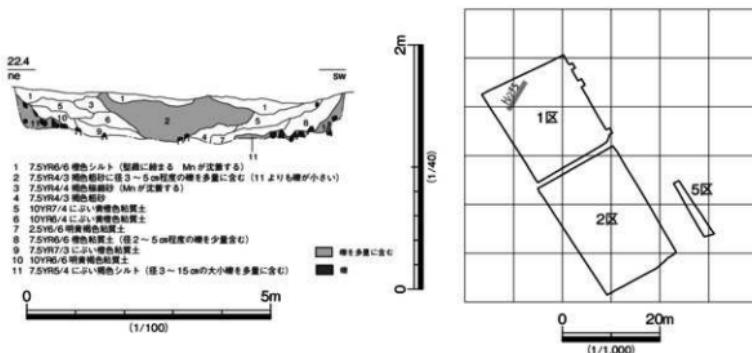
第11図 10-2区・13区西壁断面図



第12図 5区・6区・8区東壁断面図







第15図 1区トレーニング断面図

第2節 遺構・遺物

1 弥生時代から古墳時代前期

①柱穴跡・小穴跡

SP4003 (第16図)

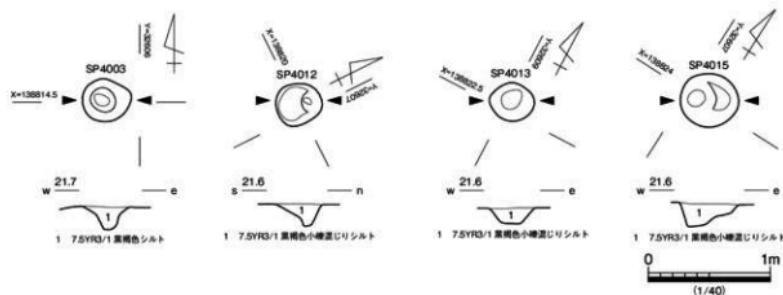
4区西部、2面で検出された柱穴跡である。平面形は円形で、径0.3m、深さ0.2mである。遺物は出土しなかった。2面で検出されたことからSP4003は古墳時代前期以前のものと考えられる。

SP4012 (第16図)

4区西部、2面で検出された柱穴跡である。平面形は円形で、径0.4m、深さ0.2mである。遺物は出土しなかった。2面で検出されたことからSP4012は古墳時代前期以前のものと考えられる。

SP4013 (第16図)

4区東部、2面で検出された柱穴跡である。平面形は円形で、径0.35m、深さ0.15mである。遺物は出土しなかった。2面で検出されたことから、SP4013は古墳時代前期以前のものと考えられる。



第16図 SP4003・4012・4013・4015

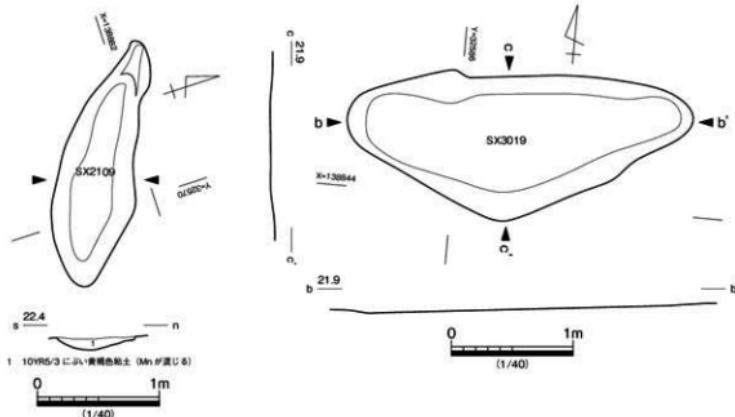
SP4015 (第16図)

4区北東部、2面で検出された柱穴跡である。平面形は円形で、径0.5m、最深部の深さは0.2mである。遺物は出土しなかった。2面で検出されたことから、SP4015は古墳時代前期以前のものと考えられる。

②土坑・落ち込み

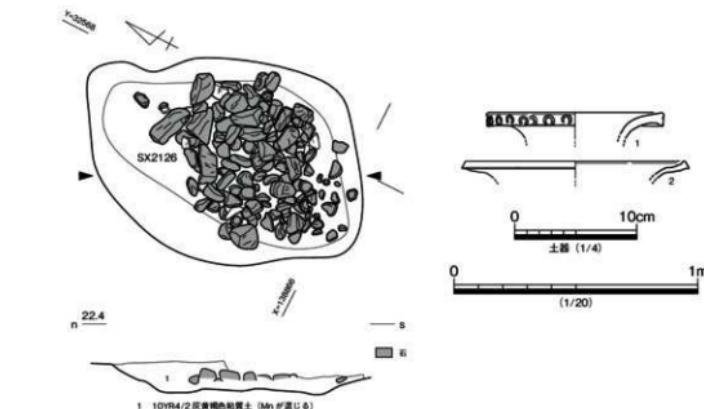
SX2109 (第17図)

2区ほぼ中央北寄りで検出された土坑である。平面形は長梢円形で、長軸2.1m、短軸0.6m、深さ0.2

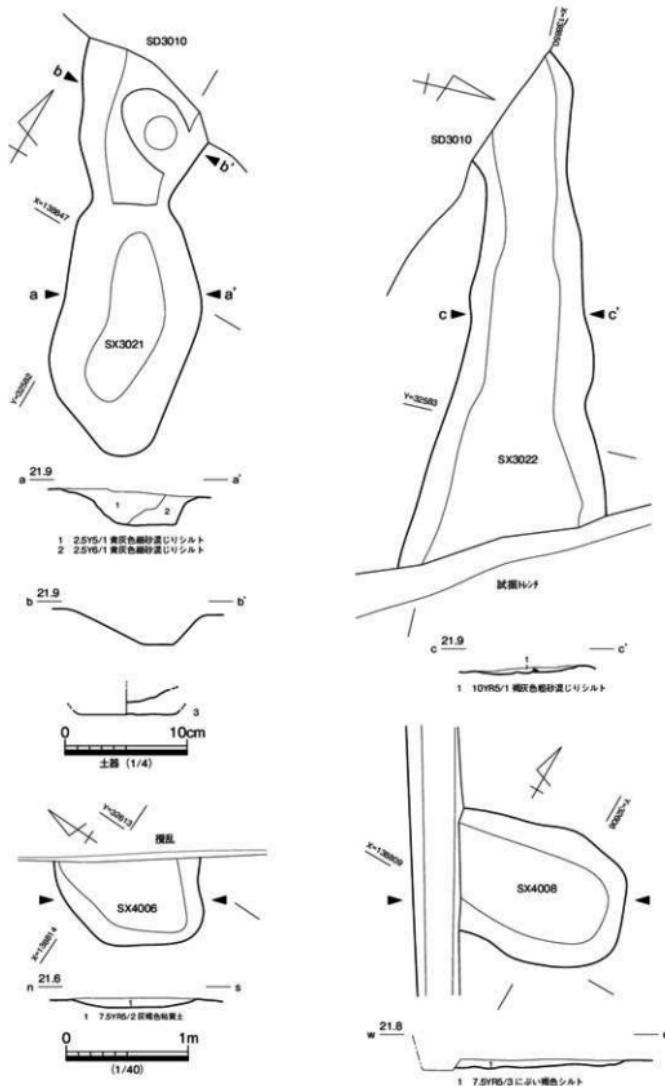


第17図 SX2109

第19図 SX3019



第18図 SX2126



第20図 SX3021・3022・4006・4008

mである。遺物は出土しなかったが、埋土の色調から、SX2109は弥生時代以前の可能性が高い。

SX2126（第18図）

2区南西部で検出された土坑である。平面形はいびつな楕円形で、長軸1.3m、短軸0.9m、深さ0.2mで、1辺0.1～0.2mほどの礫が堆積していた。弥生土器壺（1・2）のほか土器片が少量出土した。1・2は弥生時代後期後半に属することから、SX2126は同時期のものと考えられる。

SX3019（第19図）

3-1区南部、2面で検出された浅い落ち込みである。西部はSX3020と重複して、削平される。平面形はややいびつな楕円形で、長軸2.8m、短軸1.3m、深さ0.03m程度である。埋土からは土器小片が1点出土しただけである。詳細な時期は不明であるが、2面で検出されたことから古墳時代前期以前の遺構と考えられる。

SX3021（第20図）

3-1区西部、2面で検出された。北部はSD3010と重複し、削平される。平面形は団子状であることから、本来は2つの土坑が重複していた可能性がある。長軸3.3m、短軸0.6～1.1m、最深部で深さ0.3mである。埋土からは弥生土器底部（3）が出土した。3は平底で分厚く、弥生時代前期～中期に属する可能性が高い。詳細な時期は不明であるが、SD3010よりも古いことから、SX3021は弥生時代後期以前のものと考えられる。

SX3022（第20図）

3-1区のほぼ中央部、2面で検出された浅い落ち込みである。東部は試掘トレンチ、南西部はSD3010と重複し、削平される。本来は東西方向の溝状遺構の可能性が高い。検出長4.0m、幅0.6～1.5m、深さ0.05mである。遺物はサヌカイト小剥片が出土しただけである。SD3010よりも古いことから、SX3022は弥生時代後期以前のものと考えられる。

SX4006（第20図）

4区南部、2面で検出された土坑である。東部は攪乱によって削平されるため、不明である。平面形はややいびつな半円形で、長軸1.2m以上、深さ0.1mの浅い土坑である。遺物は出土しなかったが、橙色粗砂混じり粘質土の上面（黒褐色粗砂混じり粘質土の下面）の2面で検出されたことから、古墳時代前期以前のものと考えられる。

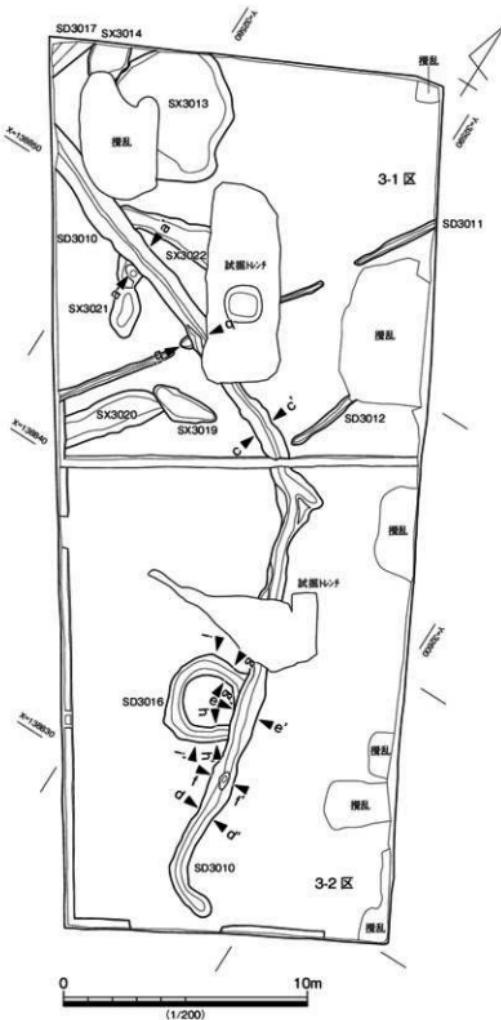
SX4008（第20図）

4区中央やや南、2面で検出された土坑である。西部は側溝によって削平されるため不明である。平面形はややいびつな隅丸長方形で、長軸1.51m以上、短軸1.1m、深さ0.1mである。埋土からはサヌカイト剥片が1点出土しただけである。橙色粗砂混じり粘質土の上面（黒褐色粗砂混じり粘質土の下面）の2面で検出されたことから、古墳時代前期以前のものと考えられる。

③溝状遺構

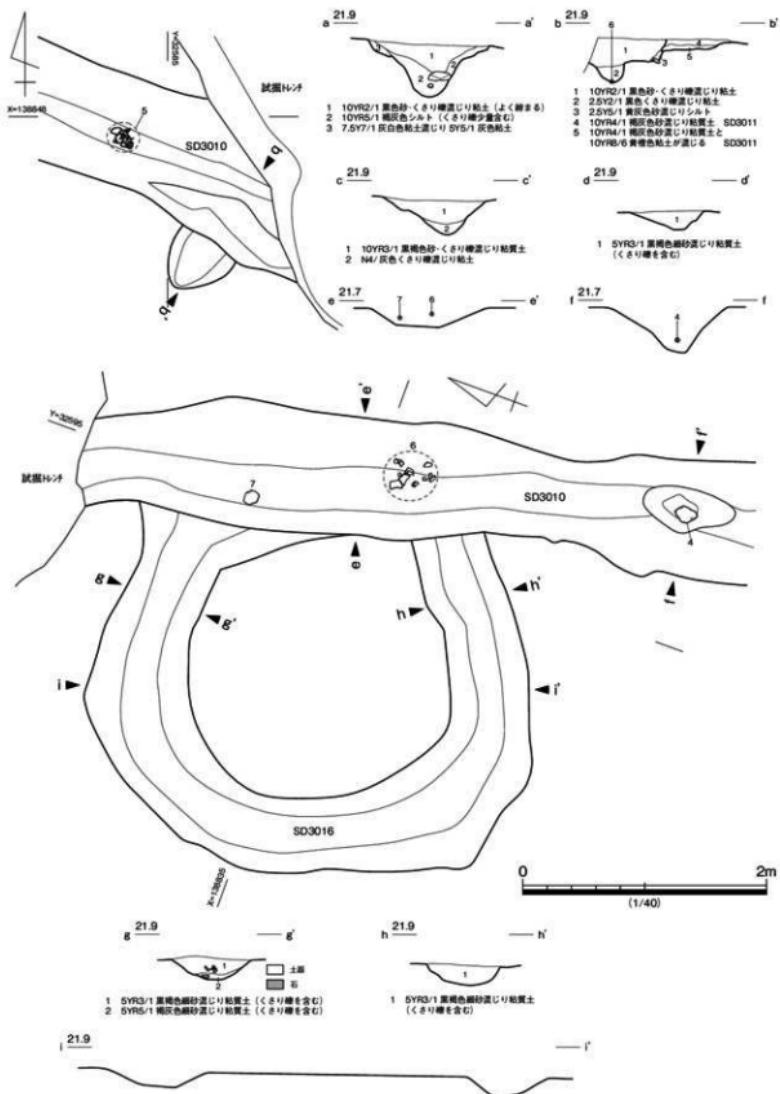
SD3010（第21～23図）

3-1区から3-2区にかけて2面で検出された溝状遺構である。北西から湾曲しながら南に向かう。3-1区でSD3011と重複する。また、3-2区で円形に巡る溝状遺構SD3016と重複する。いずれもSD3010のほうが新しい。SD3010の検出長は30m、幅0.7～1.4m、深さ0.2～0.5mである。溝の南部、SD3016の東側付近の埋土中位から下位では弥生土器壺（4）・甕（5・6）が出土した。そのほかに、甕底部（7・

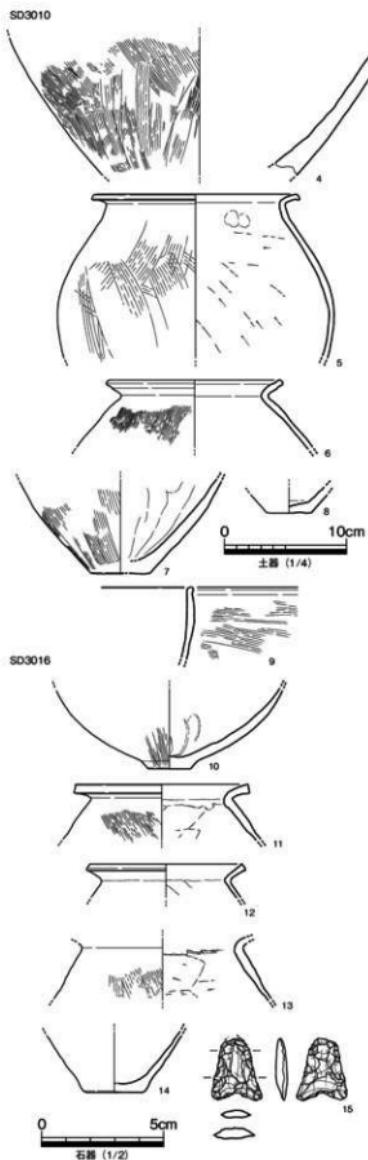


第 21 図 SD3010・3016 1

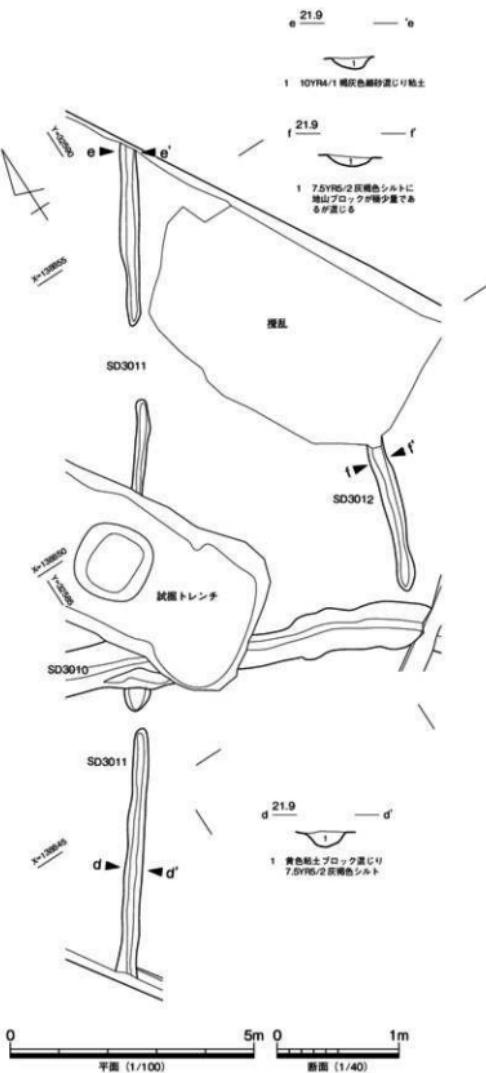
8)・鉢 (9) のほか弥生土器片が少量出土した。これらの遺物から SD3010 は弥生時代後半のものと考えられる。



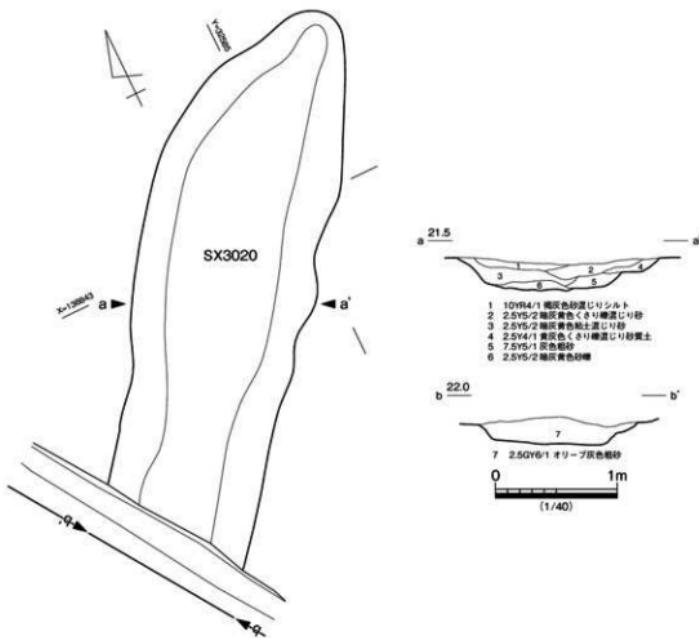
第22図 SD3010・3016 2



第23図 SD3010・3016 出土遺物



第24図 SD3011・3012



第25図 SX3020

SD3016（第21～23図）

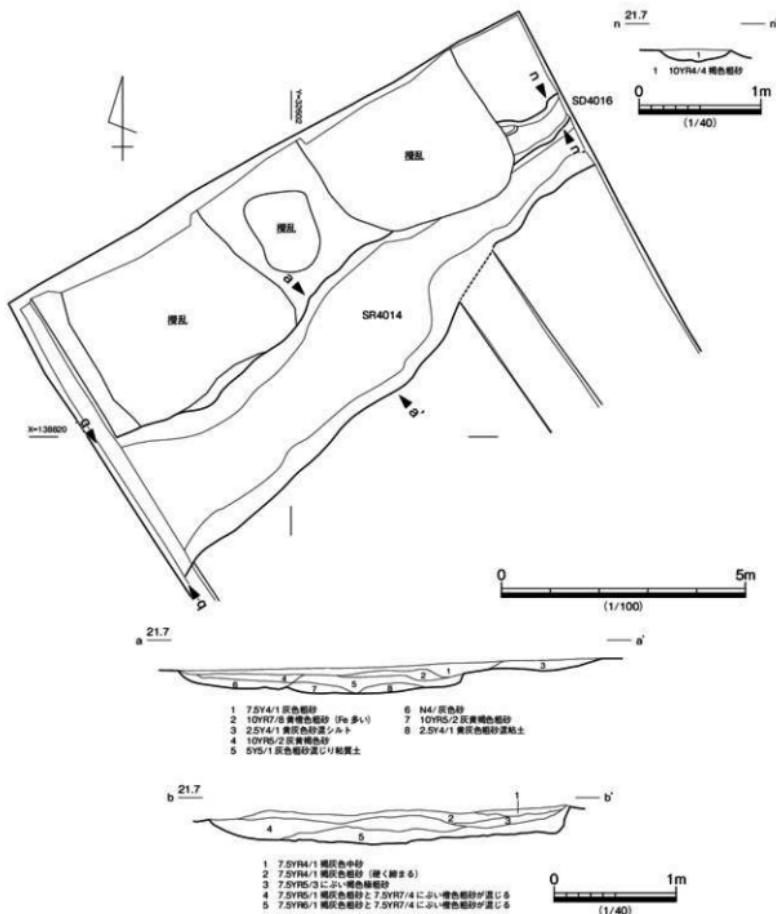
3-2区南部、2面で検出された溝状遺構である。円形に巡る。東部はSD3010と重複し、削平される。溝幅0.6～0.8m、深さ0.15～0.2mである。円形に巡ることから円形周溝墓の可能性もあるが、溝の内側からは土坑等は検出されなかった。弥生土器壺体部から底部（10）・甕（11～14）、サヌカイト製の石鎚（15）のほか弥生土器片が少量出土した。これらの遺物からSD3016は弥生時代後期後半のものと考えられる。

SD3011（第24図）

3-1区中央部、2面で検出された溝状遺構である。途中途切れているが、南西から北東方向にまっすぐに延びる。両端は調査区外に連続するため、不明である。中央部は試掘トレンチによって削平される。また、北から延びる弥生時代後期の溝状遺構SD3010によって削平される。SD3011は幅0.3m、深さ0.1～0.15mである。遺物はサヌカイト片・土器片が数点出土した。SD3010よりも古いことからSD3011は弥生時代後期以前のものと考えられるが、出土遺物から時期にそれほど隔たりはないと考えられる。

SD3012（第24図）

3-1区南部、2面で検出された溝状遺構である。南から北に向かう。北端は攢乱によって削平され、不明である。幅0.4m、深さ0.1mである。遺物は出土しなかった。2面で検出されたことから、



第 26 図 SD4016・SR4014

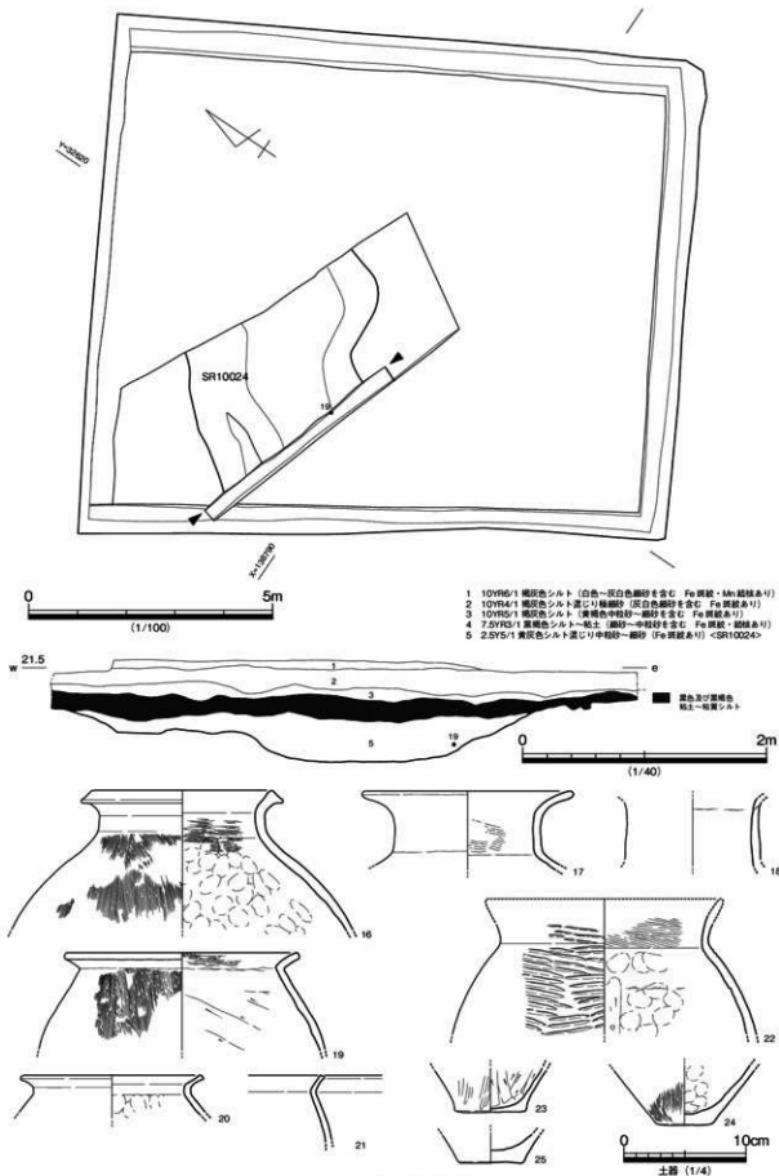
SD3012 も古墳時代前期以前のものと考えられる。

SX3020 (第 25 図)

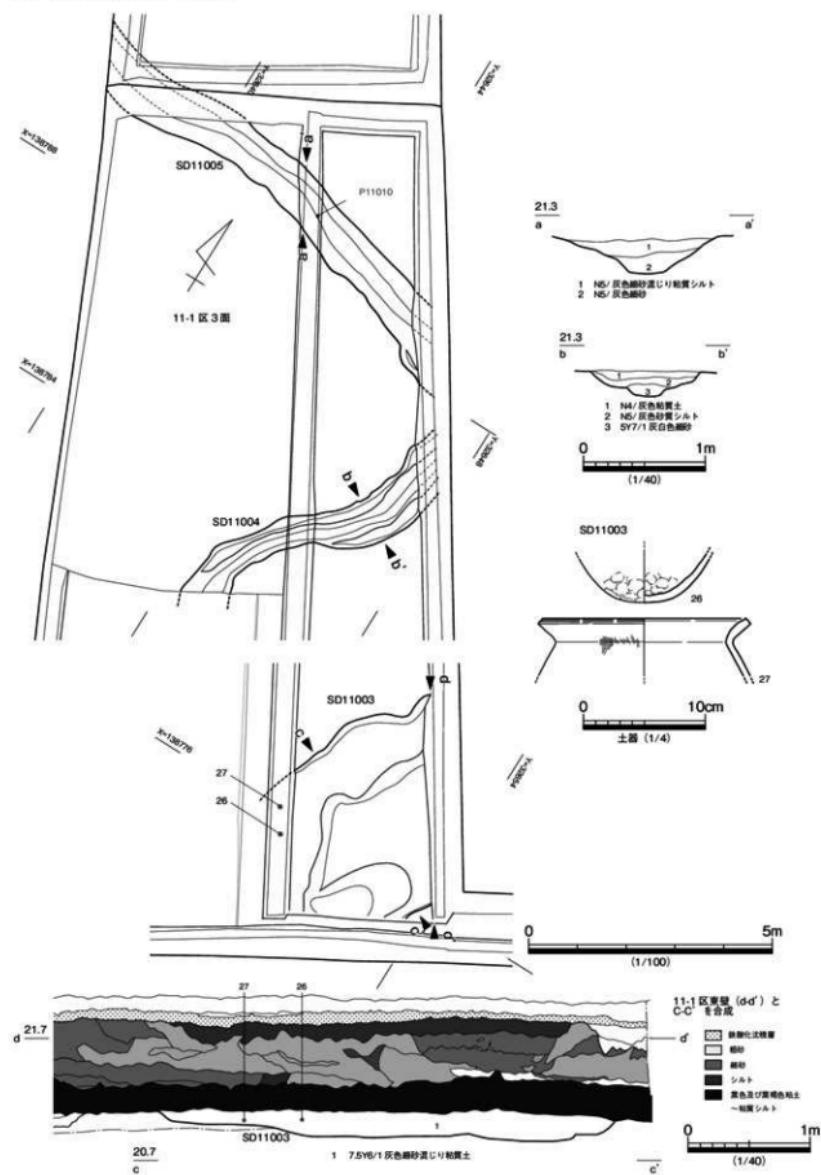
3-1 区南西部、2面で検出された溝状遺構である。南西から北東に向かう。西部は調査区外に連続するため不明である。検出長 4.4 m、最大幅 1.5 m、深さ 0.2 m である。遺物は出土しなかったが、2面で検出されたことから、古墳時代前期以前のものと考えられる。

SD4016 (第 26 図)

4 区北東部、2面で検出された溝状遺構である。南西から北東に向かう。南西端は搅乱によって削平



第27図 SR10024

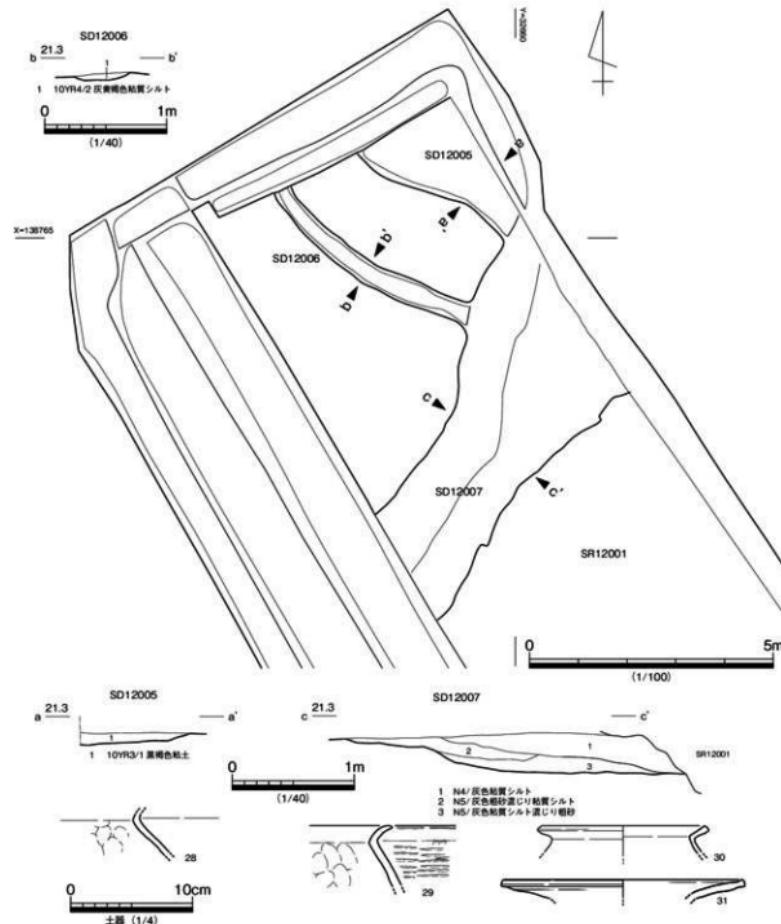


第28図 SD11003～11005

され、北東端は調査区外に連続する。溝状遺構 SR4014 と重複する。SD4016 のほうが新しい。埋土からは遺物は出土しなかったが、2面で検出されたことから、SD4016 は古墳時代前期以前のものと考えられる。

SR4014（第26図）

4区北部、2面で検出された溝状遺構である。南西から北東に向かう。両端は調査区外に連続するため、不明である。北東部で SD4016 と重複し、削平される。幅2.0～28m、深さ0.2～0.3mである。埋土



第29図 SD12005～12007

から遺物は出土しなかったが、黒色粘質土層の下面の2面で検出されたことから、古墳時代前期以前のものである可能性が高い。

SR10024（第27図）

10-3区、黒褐色粘質土の下面である3面(3・4・7・12区の2面に相当)で検出された溝状遺構である。南西から北東に向かう。幅3.5～4.0m、深さ0.35mである。トレント調査にとどまったが、埋土からまとまった土器が出土した。弥生土器壺(16～18)・甕(19～22)・甕底部片(23・24)・甕と考えられる底部片(25)のほか土器片が少量出土した。これらの土器の大半は弥生時代後期後半に属するが、かなり時期幅があり、23は弥生時代後期前半、19・22は弥生時代終末～古墳時代前期前半に属する。これらの遺物からSR10024は弥生時代終末～古墳時代前期前半頃に埋没したと考えられる。

SD11003（第28図）

11-1区南部、水田を構成する暗灰色粘質シルト層の下面、3面(3・4・7・12区の2面に相当)で検出された溝状遺構である。南西から北東に向かう。溝の両端ともに調査区外に連続する。溝幅は3.8m、深さ0.4m、検出長は3.5mである。埋土からは古墳時代前期前半の壺底部(26)・弥生時代後期後半の甕口縁部(27)のほか少量の土器片が出土した。これらの遺物からSD11003は古墳時代前期前半のものと考えられる。

SD11004（第28図）

11区ほぼ中央部、3面(3・4・7・12区の2面に相当)で検出された溝状遺構である。南西から北東に向かい、溝の両端は調査区外に連続する。溝幅は0.6～1.0m、深さ0.2m、検出長は6.0mである。北側にはほぼ東西方向に向かう溝状遺構SD11005がある。溝幅・深さや埋土が類似することから、連続する可能性が高い。埋土からは土器片が3点出土した。SD11003と同様水田跡を構成する暗灰色粘質シルト層下面の3面で検出されたことから、古墳時代前期前半のものと考えられる。

SD11005（第28図）

11-1区北部から11-2区南西隅、3面(3・4・7・12区の2面に相当)で検出された溝状遺構である。ほぼ東西方向に向かい、溝の両端は調査区外に連続する。溝幅は0.8～1.0m、深さ0.25m、検出長は8.0mである。南側には南西から北東に向かう溝状遺構SD11004がある。溝幅・深さの寸法や埋土が類似することから、連続する可能性が高い。埋土からは土器片が2点出土しただけである。水田跡を構成する暗灰色粘質シルト層下面の3面で検出されたことから、SD11003と同様古墳時代前期前半のものと考えられる。

SD12005（第29図）

12区北東隅、黒褐色粘土層の下面である2面で検出された溝状遺構である。南方を南西から北東に向かう溝状遺構SD12007から分岐し、南東から北西に向かう。東部、北部は調査区外に連続するため不明である。現存する溝幅は最大で2.1m、深さ0.1mである。埋土からは弥生時代後期後半の甕頭部片(28)のほか土器片が少量出土したことから、SD12005は弥生時代後期後半のものと考えられる。

SD12006（第29図）

12区の北部、黒褐色粘土層の下面である2面で検出された溝状遺構である。南方を南西から北東に向かう溝状遺構SD12007から分岐し、南東から北西に向かう。北部は調査区外に連続するため不明である。溝幅は0.4～0.5m、深さ0.05mである。埋土からは遺物は出土しなかったが、SD12005と平行し、埋土が類似することから、SD12006も弥生時代後期後半のものと考えられる。

SD12007 (第29図)

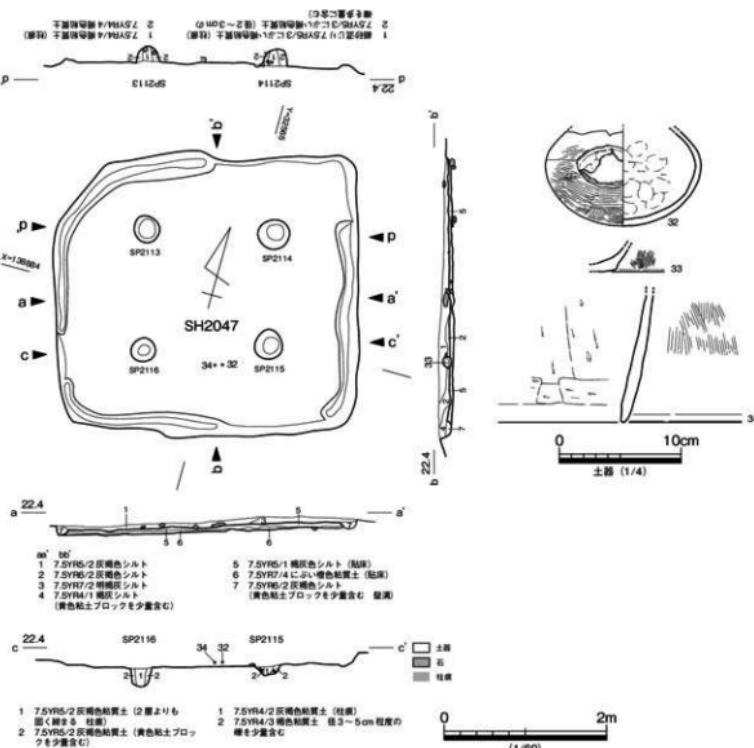
12区、黒褐色粘土層の下面である2面で検出された溝状遺構である。南西から北東に向かう。両端は調査区外に連続し、南東部は中世の自然河川SR12001と重複し、削平される。残存する溝幅は2.8m、深さ0.3mである。遺物は甕(29・30)・壺(31)のほか土器片が少量出土した。これらはいずれも口縁部片であるが、弥生時代後期後半～古墳時代前期前半に属することから、SD12007は同時期のものと考えられる。

2 古墳時代中期から飛鳥時代

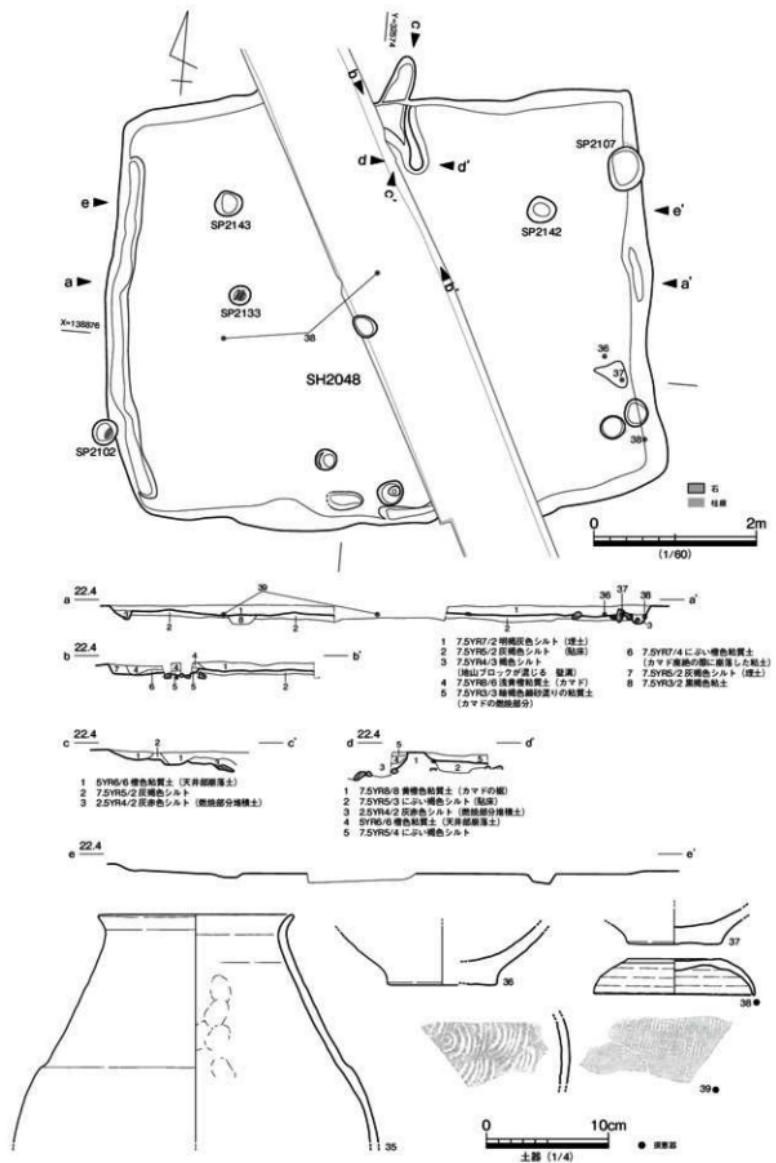
①堅穴建物跡

SH2047 (第30図)

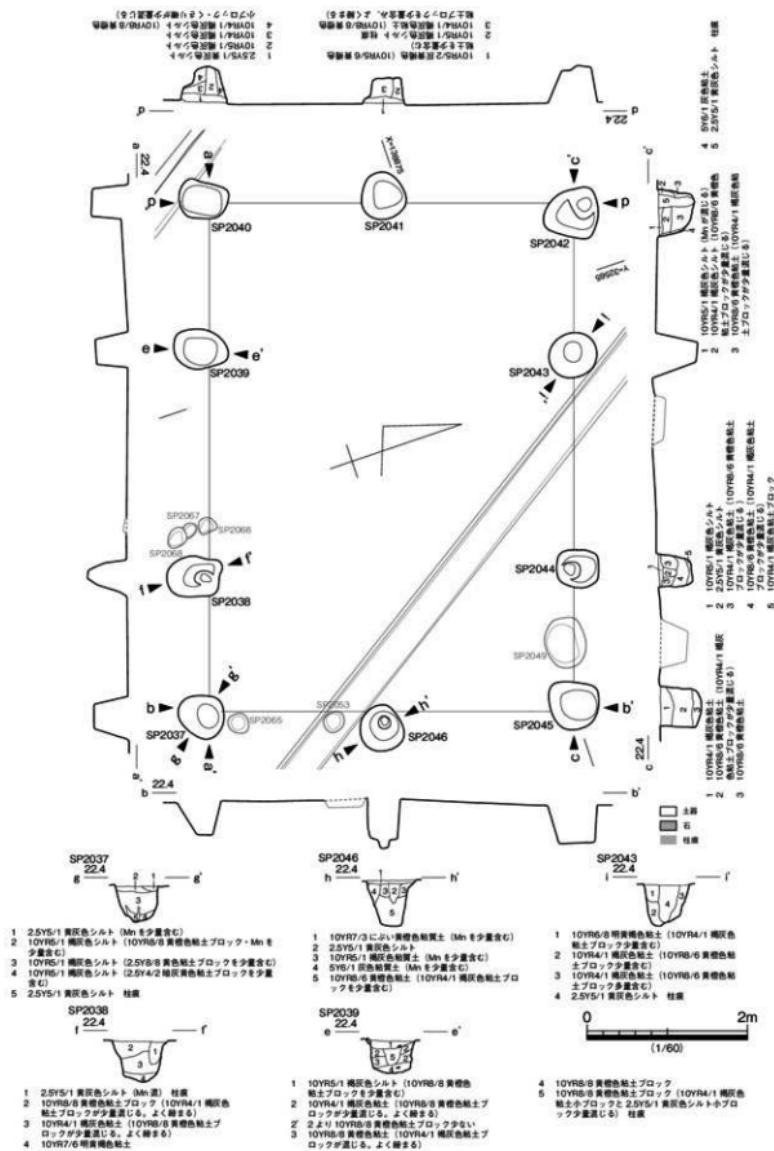
2区北部で検出された堅穴建物跡である。平面形はややいびつな隅丸方形で、主軸はやや北西方向(N165°W)を向く。東西長は3.7m、南北長は3.5m、床面までの深さは0.2mである。北東部を除く



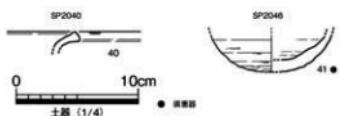
第30図 SH2047



第 31 図 SH2048



第32回 SB2002



第33図 SB2002出土遺物



第34図 SX2051

壁沿いには幅0.1～0.3m、深さ0.1mの壁溝が巡る。底面には褐色及び灰褐色シルト～粘質土を貼つて床面を形成している。柱穴は4個である。平面形はいずれも円形で、径0.3m、深さ0.2m程度である。土師器壺(32)、弥生土器底部(33)、土師器甌(34)のはか土器片・須恵器片・サヌカイト片が少量出土した。弥生時代後期土器や古墳時代前期前半の土器も含まれるが、須恵器や土師器甌が出土している。周辺の遺構の時期と考え併せ、SH2047は古墳時代中後期頃としたい。

SH2048（第31図）

2区東部で検出された竪穴建物跡である。中央部は試掘調査によって削平される。平面形はややいびつな方形で、主軸はほぼ南北方向(N5°W)を向く。東西長は6.5m、南北長は5.5mで、床面までの深さは0.2mである。北壁沿いには竈がある。袖部は黄褐色粘質土を盛って築かれる。柱穴は北壁沿いに2穴検出されたが、南壁沿いには検出されなかった。北壁沿いに検出された柱穴SP2143・SP2142はいずれも平面形円形で、径0.2m、深さ0.1mである。弥生土器壺(35～37)、須恵器杯蓋(38)、須恵器甌(39)のはか土師器片・須恵器片等が少量出土した。35は弥生時代前期前半の壺の口頭部片である。口頭部に段や沈線等は施されていない。38は頂部に回転ヘラ削りが施されており、歪みがある。6世紀後半の須恵器杯蓋である。出土遺物からSH2048は6世紀後半のものと考えられる。

②掘立柱建物跡

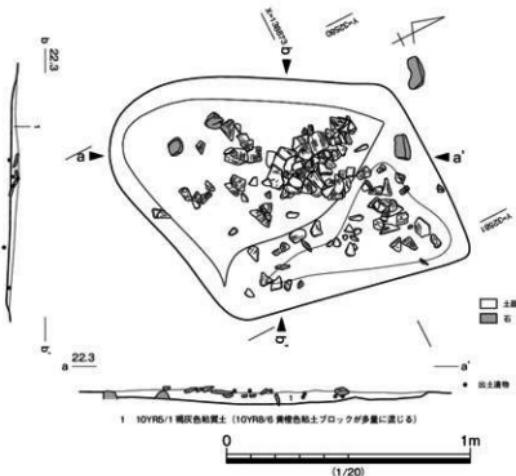
SB2002（第32・33図）

2区西部で検出された掘立柱建物跡である。建物の規模は3間(6.4m)、2間(4.8m)で、桁行は北西から南東方向(N71°W)を向く。柱穴の平面形はいずれも円形で、径0.5m、深さ0.3～0.5mである。SP2040からは弥生時代終末から古墳時代前期の壺口縁部(40)、SP2046の抜き取り痕からは6世紀後半と考えられる須恵器壺又はハソウ底部(41)、その他の柱穴からは土器小片が数点出土した。出土遺物から、SB2002は6世紀後半のものと考えられる。

③土坑・落ち込み

SX2051（第34図）

2区ほぼ中央部で検出された土坑である。平面形は長楕円形で、長軸1.2m、短軸0.4m、深さ0.1mである。遺物は出土しなかった。周辺の遺構の時期からSX2051は古墳時代中期から後期の可能性が高



第35図 SX2119

い。

SX2119（第35・36図）

2区南東部で検出された落ち込みである。平面形はいびつなひし形で、長軸1.6m、短軸1.4m、深さ0.05mである。須恵器壺がつぶれた状態で出土した。須恵器杯蓋（42）・壺（43）が出土した。43は陶邑須恵器編年TK43～217型式に属する。これらの遺物からSX2119は6世紀後半～7世紀中葉のものと考えられる。

SK3008（第37図）

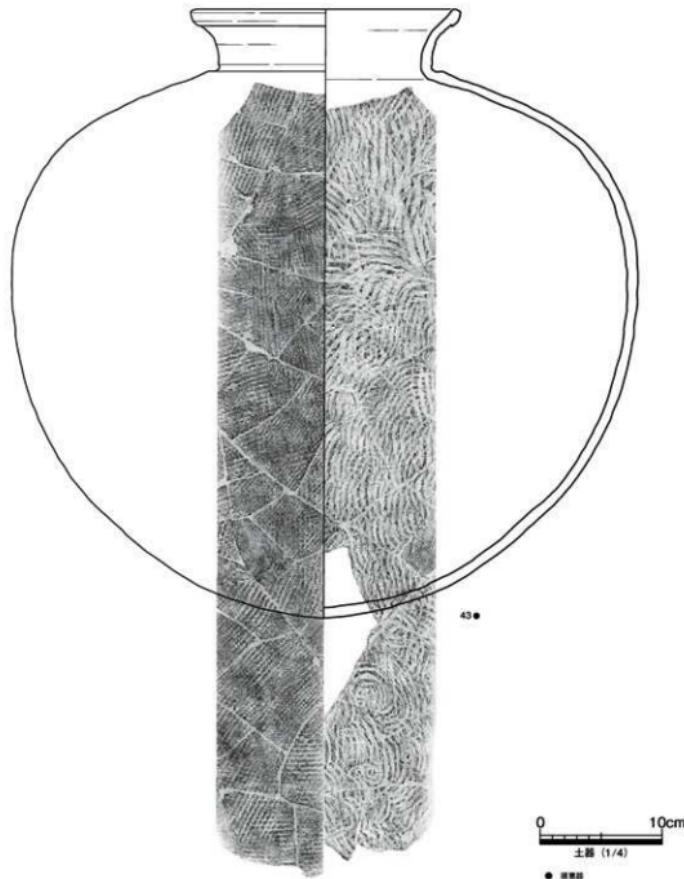
3-2区ほぼ中央、1面で検出された土坑である。東部は試掘トレンチによって削平される。西部は幅0.3m、深さ0.1mの溝状遺構SD3018に連続する。平面形はいびつなひし形で、長軸7.4m、短軸3.2m、深さ0.4mである。埋土からは弥生土器壺口縁部（44）のほか土器片約50点出土した。44は弥生時代後期終末から古墳時代初頭に属するが、掘り込み面が1面であることを考えれば、44は混入の可能性が高い。遺構の時期は古墳時代中期以降と考えられる。

SX3013（第38図）

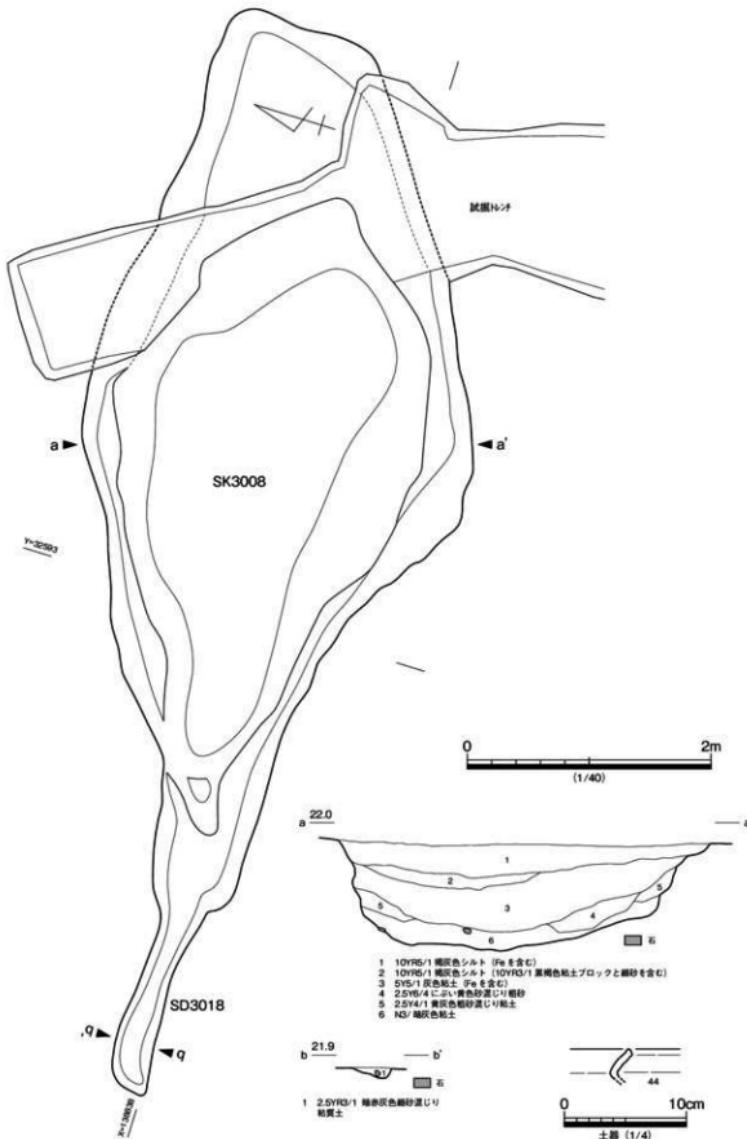
3-1区北西部、2面で検出された落ち込みである。西部はSX3014と重複し、削平される。北部は調査区外に連続し、南西部は攪乱によって削平される。平面形はややいびつな円形で、径3.2～3.7m、深さ0.05～0.15mである。土師器壺（45・46）、弥生土器壺（47）のほか、須恵器片・土器片・サヌカイト片が少量出土した。これらの遺物からSX3013は古墳時代後期以降のものと考えられる。遺構の時期から、本来は1面から掘り込まれた可能性が高い。

SX3014（第39図）

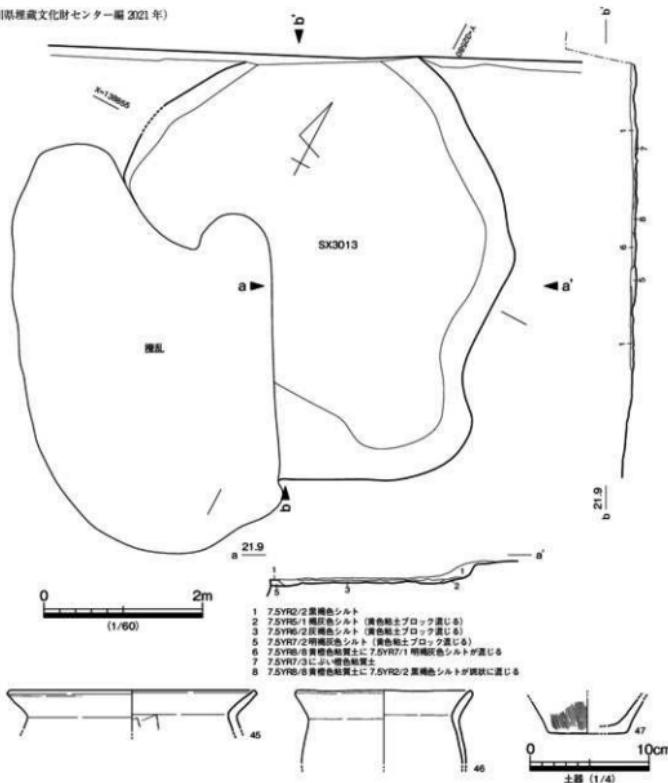
3区北西部、2面で検出された土坑である。南部は攪乱によって削平される。SX3013と重複し、こ



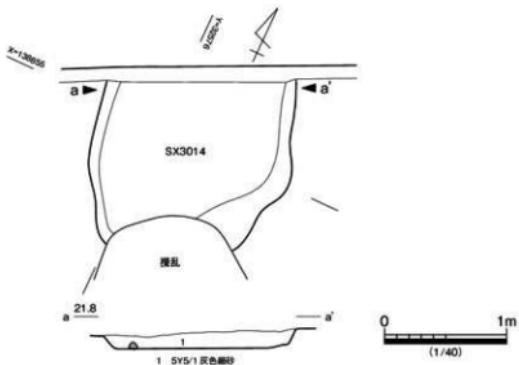
第36図 SX2119出土遺物



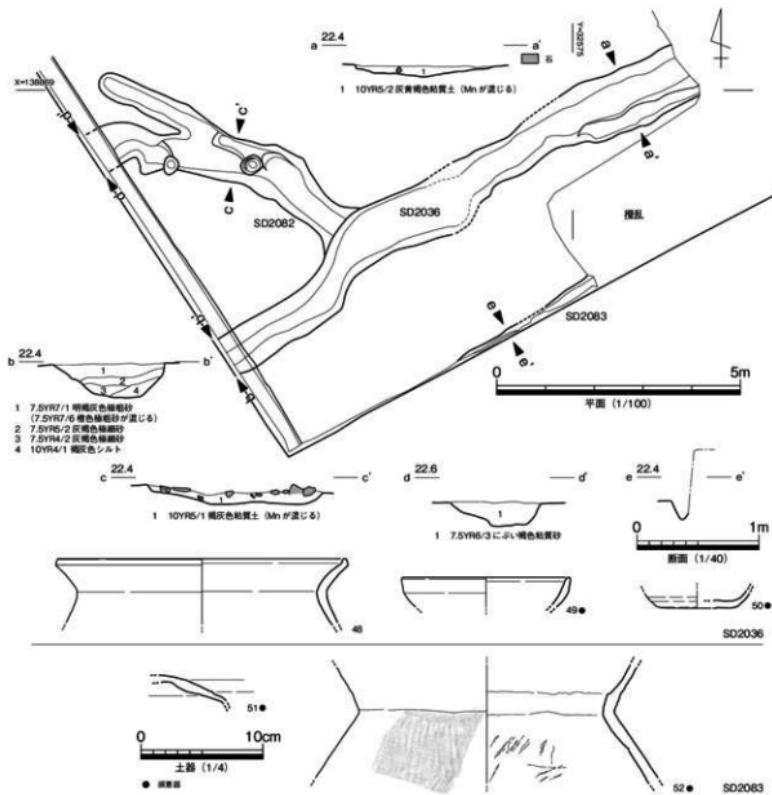
第37図 SK3008



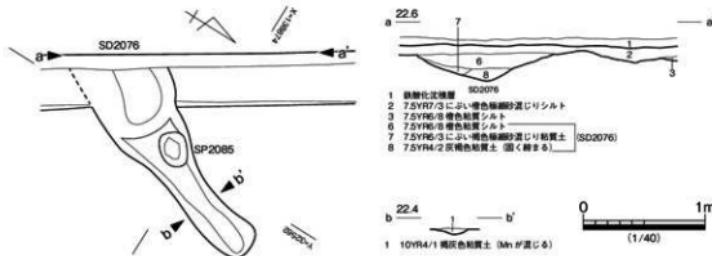
第38図 SX3013



第39図 SX3014



第40図 SD2036・2082・2083



第41図 SD2076

れを削平する。平面形はややいびつな円形と推定される。径 1.1 m、深さ 0.15 m である。埋土からは土器・須恵器片が少量出土した。時期は須恵器片が含まれていることや隣接する SX3013 を削平することから、SX3014 は SX3013 よりも新しく、古墳時代後期以降と考えられる。遺構の時期から、本来は 1 面から掘り込まれた可能性が高い。

④溝状遺構

SD2036（第 40 図）

2 区南部で検出された溝状遺構である。南西・北東方向に向かう。北東部は攪乱に削平され、不明である。西部は調査区外に連続する。幅 0.3 ~ 0.5 m、深さ 0.1 ~ 0.3 m である。土師器壺(48)・須恵器杯(49・50) のほか須恵器片・土師器片が少量出土した。これらの遺物から SD2036 は 7 世紀中頃のものと考えられる。

SD2082（第 40 図）

2 区南西部で検出された溝状遺構である。北西端は調査区外に連続し、南西部は溝状遺構 SD2036 と重複し、削平される。北西端では 2 条に分岐する。溝幅 0.7 ~ 1.4 m、深さ 0.15 m である。須恵器片・土師器片が少量出土した。これらの遺物や周辺の遺構の時期から SD2082 も 7 世紀中頃までのものと考えられ、SD2036 とはそれほど時期差はないと考えられる。

SD2083（第 40 図）

2 区南端で検出された溝状遺構である。溝の一部が検出されただけで、大部分は調査区外に連続する。溝の幅は 0.3 m 以上、深さ 0.2 m である。埋土からは須恵器杯蓋(51)・壺(52) のほか須恵器片・土器片が出土した。これらの遺物から SD2083 は古墳時代後期のものと考えられる。

SD2076（第 41 図）

2 区南西部で検出された溝状遺構である。南から北に向かい、南部は調査区外に連続する。SP2085 と重複し、削平される。SP2085 のほうが新しい。幅 0.2 ~ 0.8 m、深さ 0.05 ~ 0.5 m である。埋土から土器小片が 2 点出土した。胎土から弥生時代から古墳時代のものと考えられることや、隣接する掘立柱建物跡 SB2002 に平行することから、SD2076 は 6 世紀後半のものと考えられる。

SD3001（第 42 図）

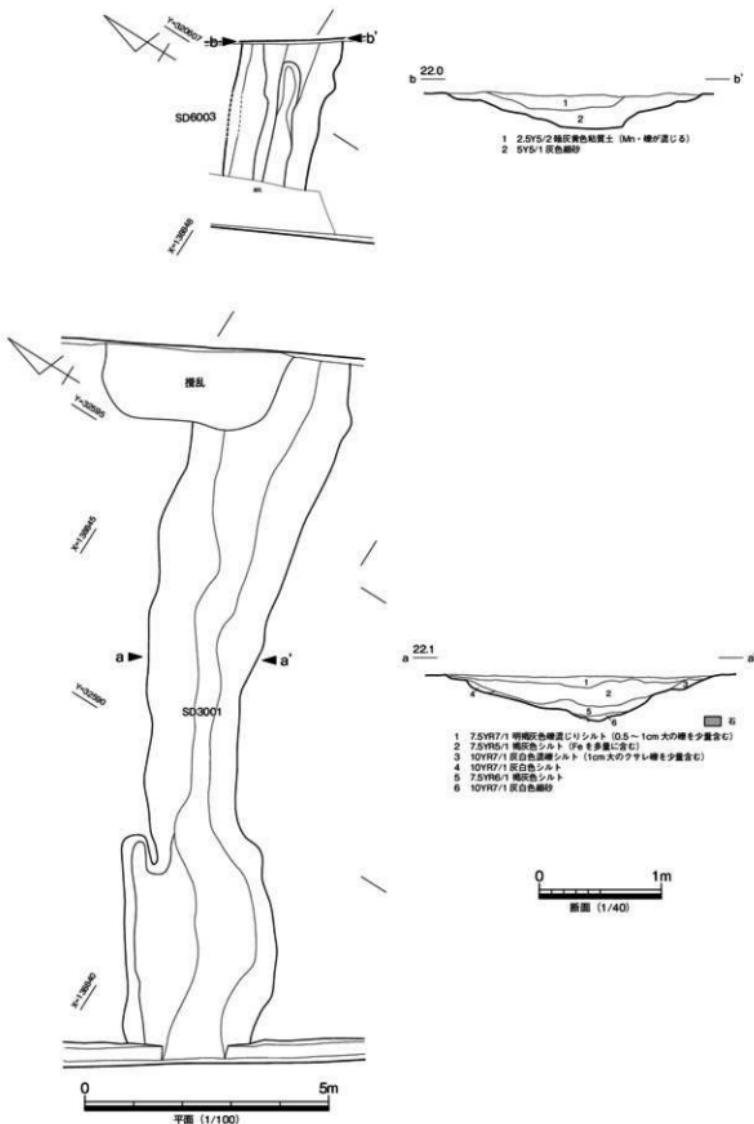
3-2 区北部、1 面で検出された溝状遺構である。東西方向を向く。東部は攪乱によって削平され、両端とも調査区外に連続する。東部の延長線上には 6 区の SD6003 がある。おそらく同一溝であろう。幅 1.8 ~ 3.1 m、深さ 0.9 m である。SD3001 からは須恵器壺体部片・土器片が出土した。詳細な時期は不明であるが、これらの遺物から SD3001 は古墳時代中期～後期のものと考えられる。

SD6003（第 42 図）

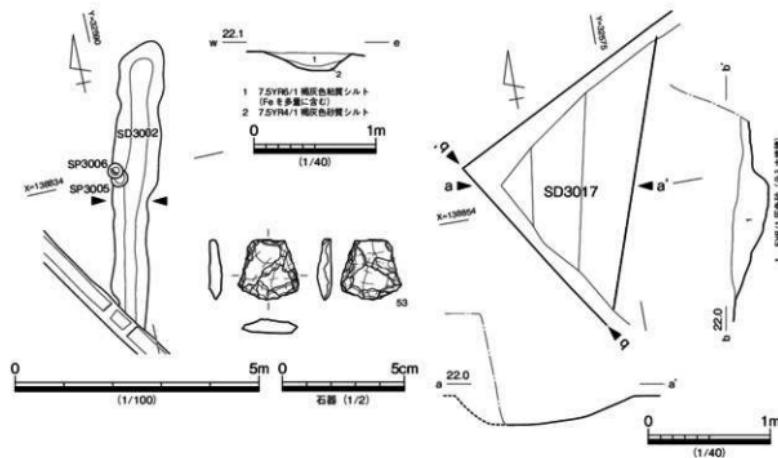
6 区南部で検出された溝状遺構である。西から東に向かう。中央部は古代の溝状遺構 SX6001 に削平される。両端は調査区外に連続するため不明であるが、西延長線には 3 区の SD3001 がある。SD6003 は幅 1.8 m、深さ 0.3 m で、埋土からは土器片が 2 点出土した。12 ~ 13 世紀の溝状遺構 SX6001 よりも古いことや SD3001 から須恵器壺体部片が出土していることから、SD6003 も古墳時代中期～後期のものと考えられる。

SD3002（第 43 図）

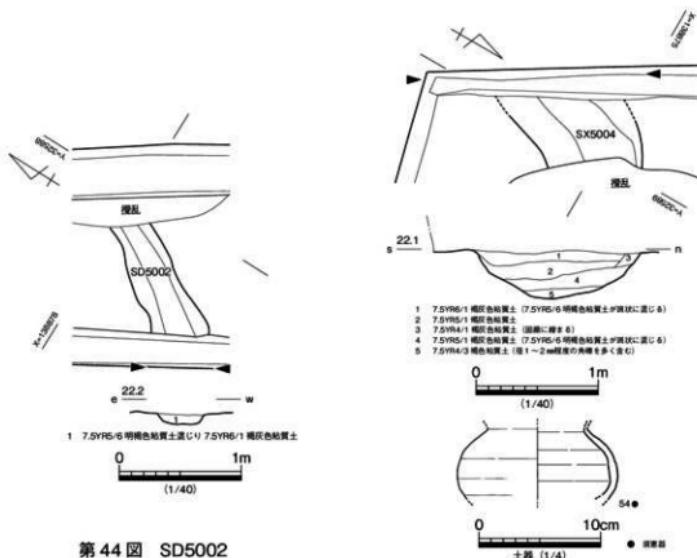
3-2 区西部、1 面で検出された溝状遺構である。ほぼ南北を向く。南端は調査区外に連続するため不



第42図 SD3001・6003



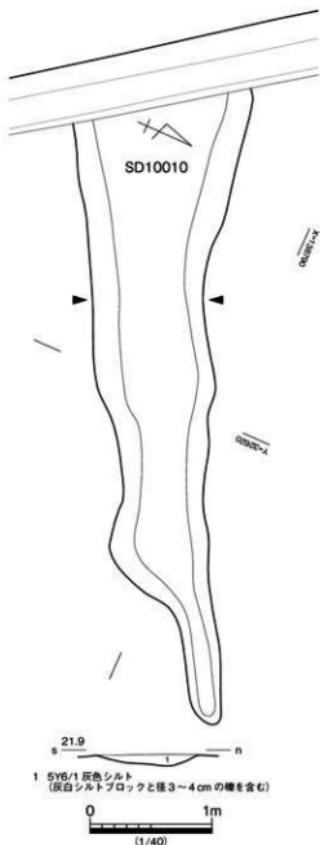
第43図 SD3002・3017



第44図 SD5002

第45図 SX5004

跡



第46図 SD10010

明である。13世紀前半の掘立柱建物跡SB3001を構成する柱穴跡SP3005・SP3006と重複し、削平される。溝の幅は0.5～0.9m、深さ0.15mである。埋土からはサスカイト製石錫(53)・須恵器片・土器片が少量出土した。詳細な時期は不明であるが、掘立柱建物跡SB3001よりも古いことから、13世紀前半以前であることは間違いない。古代から中世の土師質土器片も見られないことから、SD3002は古墳時代中期～後期の可能性が高いと考えられる。

SD3017 (第43図)

3-1区北西隅、1面で検出された溝状遺構である。ほぼ南北を向く。東端だけ検出されているが、それ以外は調査区外に連続し、不明である。溝の幅は1.0m以上で、深さ0.25m以上である。遺物は出土しなかった。周辺の地割に平行しないことや、古墳時代前期以降に堆積したと考えられる黒褐色粘質土の上から検出されたことから、古墳時代中期～後期のものと考えられる。

SD5002 (第44図)

5区中央やや南寄りで検出された溝状遺構である。南西から北東に向かう。両端は調査区外に向かうため不明である。溝幅0.4m、深さ0.1mである。埋土からは土師器壺体部片や須恵器片等が数点出土した。土師器壺体部片は古墳時代後期～飛鳥時代のものと考えられることから、SD5002は同時期のものと考えられる。

SX5004 (第45図)

5区南部で検出された溝状遺構である。南西から北東に向かう。南西部は調査区外に連続し、北東部は擾乱によって削平される。検出長は0.7m、溝幅0.8m、深さ0.4mである。埋土からは6世紀前半～中頃の須恵器壺又はハソウと考えられる体部片(54)のほか須恵器片と土器片が少量出土した。

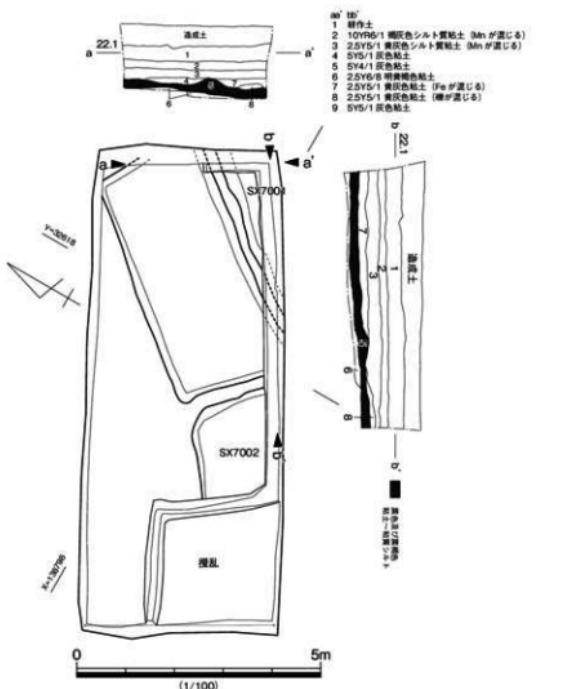
これらの遺物からSX5004は古墳時代中期～後期のものと考えられる。

SD10010 (第46図)

10-3区西部、1面で検出された溝状遺構である。南西から北東に向かい、消滅する。溝幅は0.3～1.4m、深さ0.1mである。人為的に掘削されたものではなく、洪水等の自然堆積によるもの可能性が高い。埋土からは遺物は出土しなかった。水田跡の上層に堆積することから7世紀以降10世紀以前のものと考えられる。

⑤水田跡 (第47～58図)

調査区中央を南北に走る市道の西側では7-2区から13区、市道の東側では9区から12区にかけて水田



第47図 7区水田跡

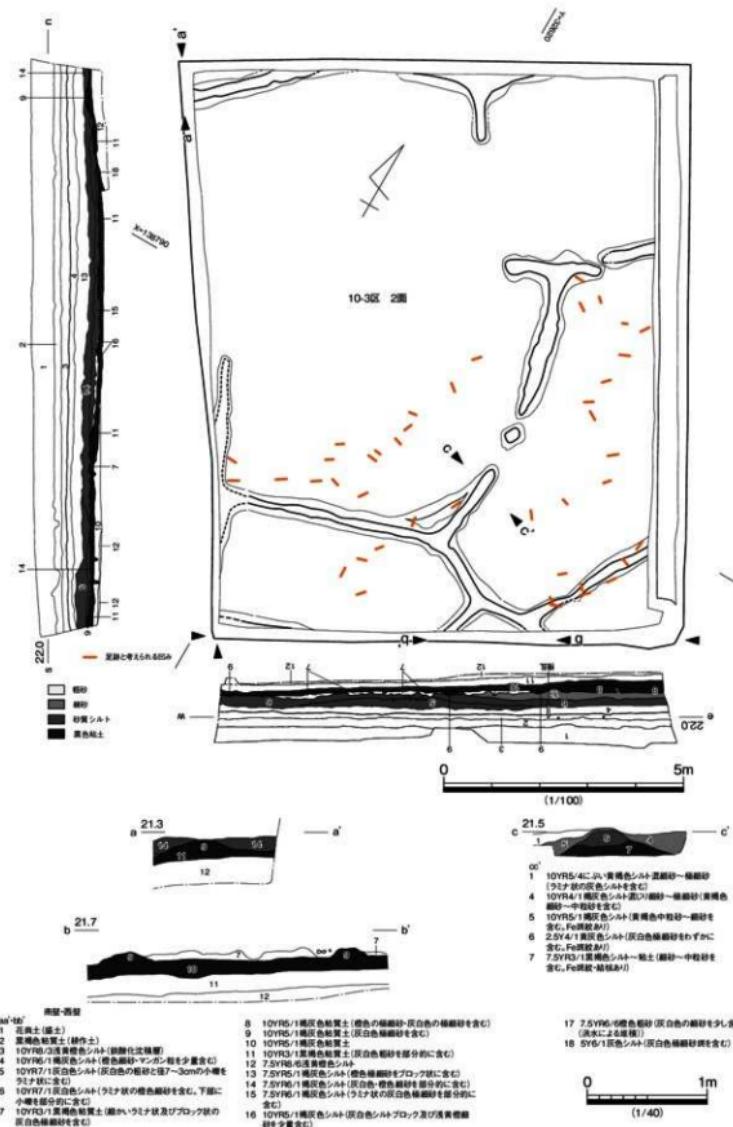
が検出された。これらの水田跡は粗砂・細砂・シルト等で構成される洪水堆積物に覆われていた。これらの堆積物は南西から北東に向かって堆積する。水田跡は洪水によって耕作土や畦畔の上部は削られないと考えられるが、洪水堆積物によって厚く覆われたため、畦畔の高まりが残存し、水田跡を検出することができた。

7-2区では南東部で水田跡が検出された。検出面（畦畔部分を除く）の標高は21.8～21.9mである。畦畔の方向は南西から北東方向、南東から北西方向で、畦畔の下部の幅は0.5～0.7mである。畦畔で囲まれた1筆の水田面積はわかるもので約10m²である。

7-2区の南に位置する10-3区では全面で水田跡が検出された。検出面の標高は21.0～21.5mである。畦畔の方向は南西から北東方向、南東から北西方向で、畦畔の下部の幅は0.3～0.6mである。

10-3区の南の10-2区でも全面に水田跡が検出された。検出面の標高は21.4～21.6mである。畦畔の方向は南西から北東方向、南東から北西方向で、畦畔で囲まれた1筆の水田面積は7～21m²である。

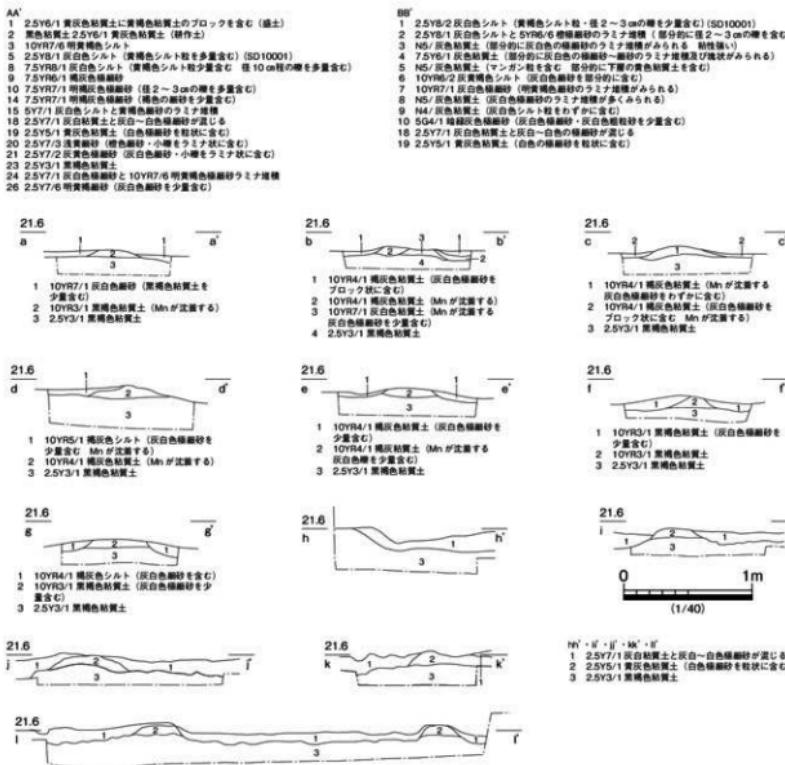
市道を挟んで10-2区の南に位置する13区でも全面で水田跡が検出された。検出面の標高は21.5mである。畦畔の方向は南西から北東方向である。北側の畦畔の幅は下部で0.5～0.7mであるが、南側の畦畔は1.3mと太く、現存する畦畔の高さは0.3mもあり、大形である。



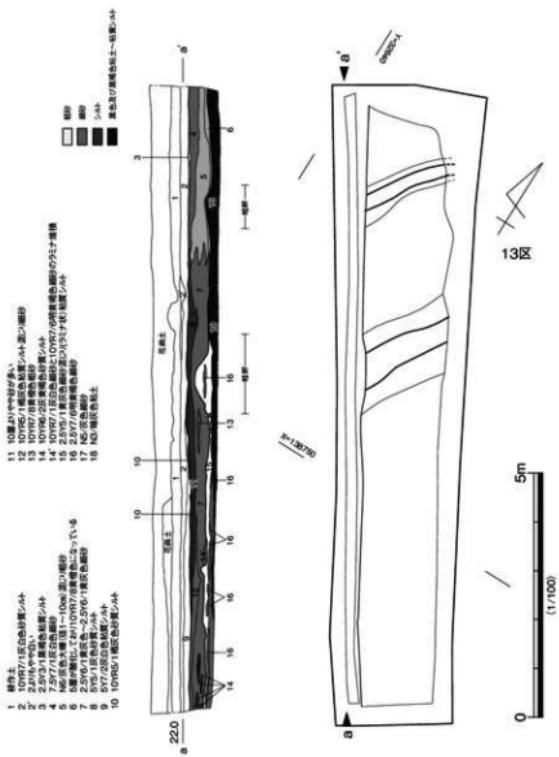
第48図 10-3区水田跡



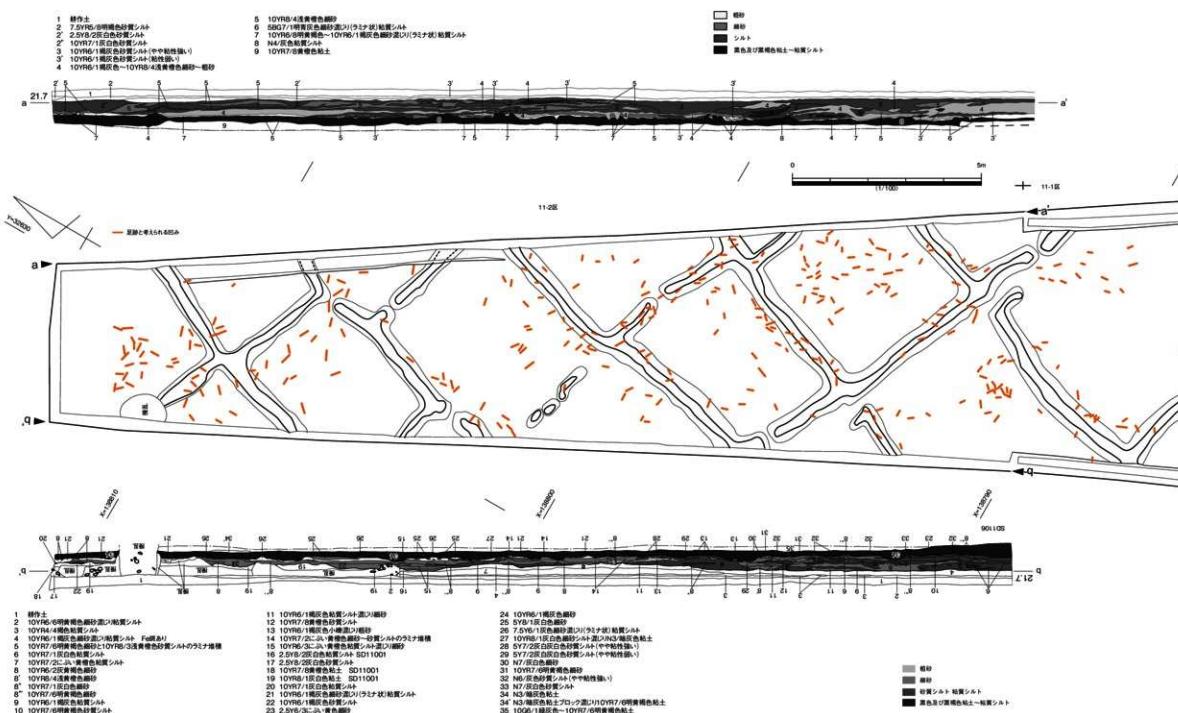
第 49 図 10-2 区水田跡



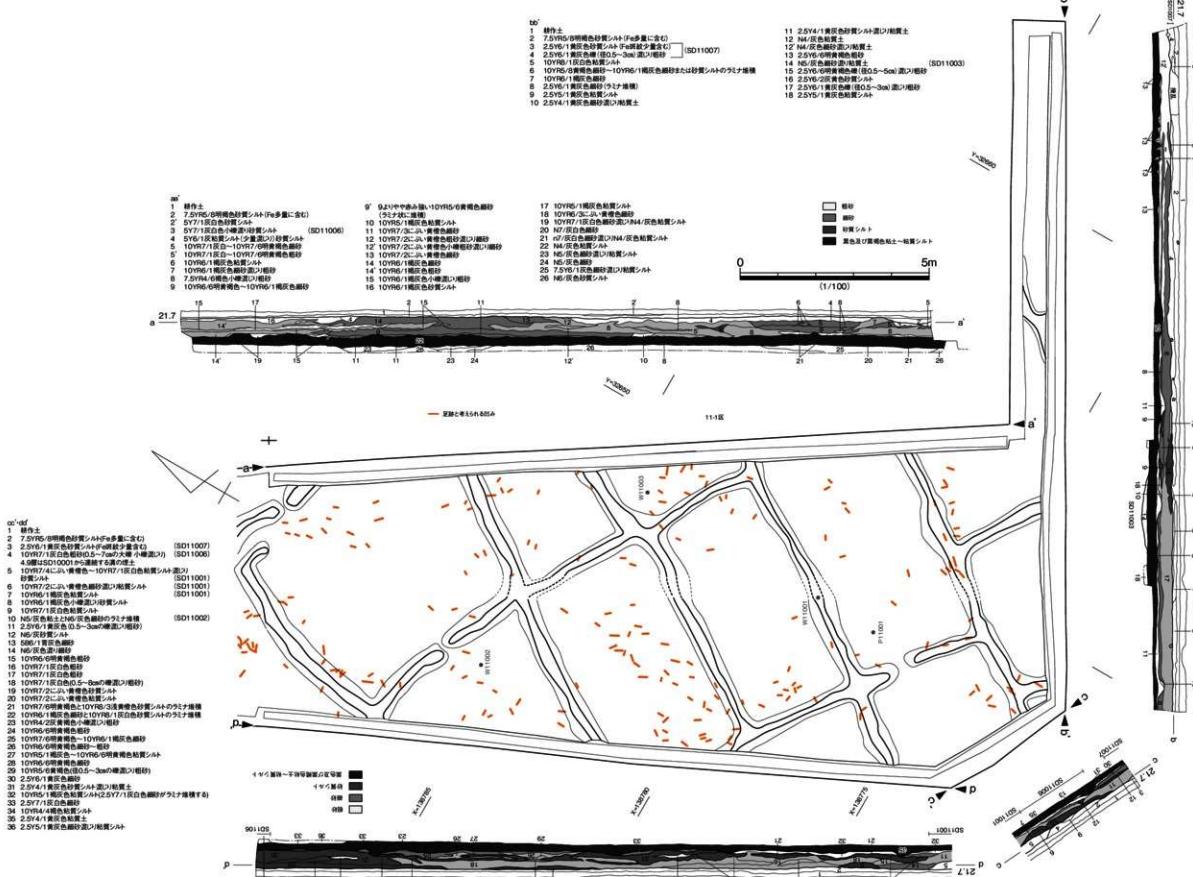
第50図 10-2区水田跡断面



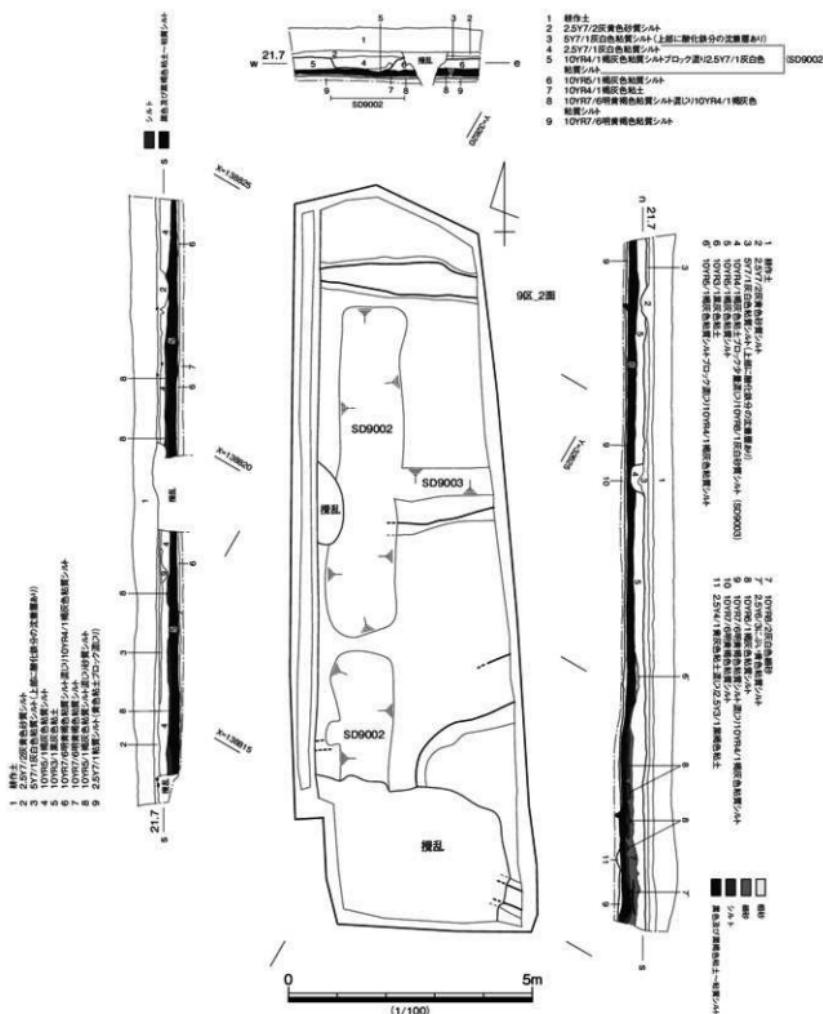
第51図 13区水田跡



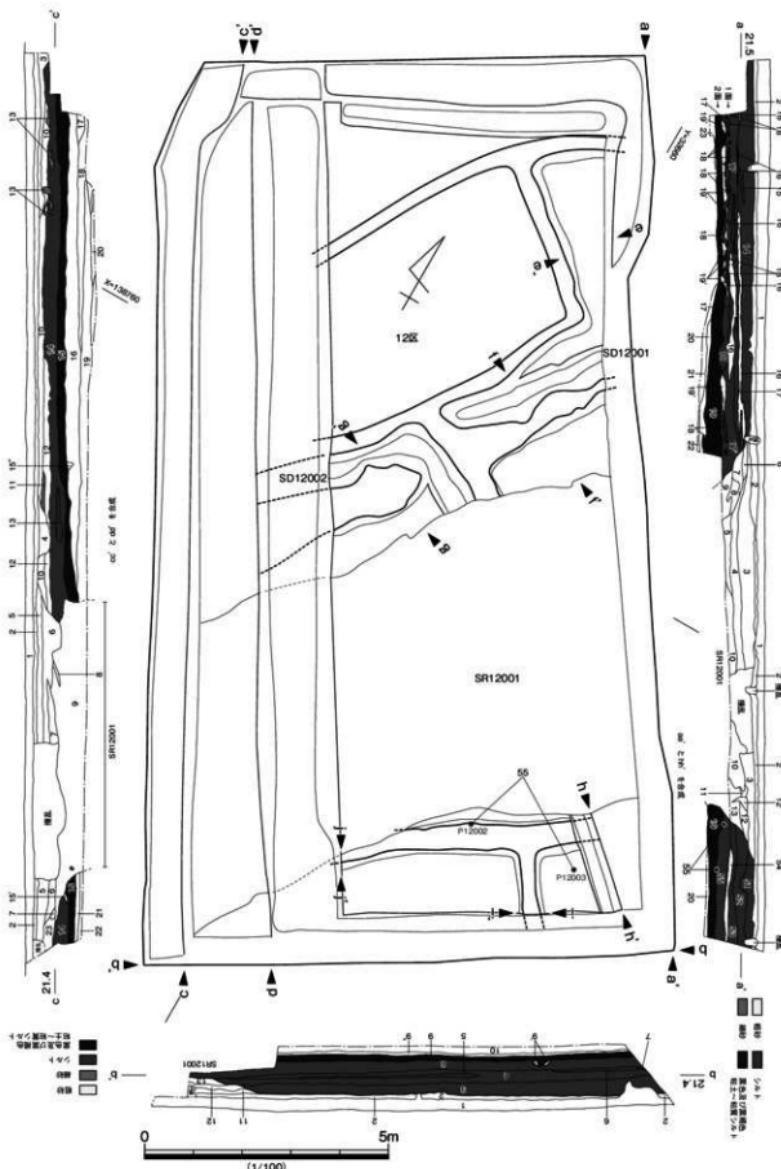
第52図 11-2区水田跡



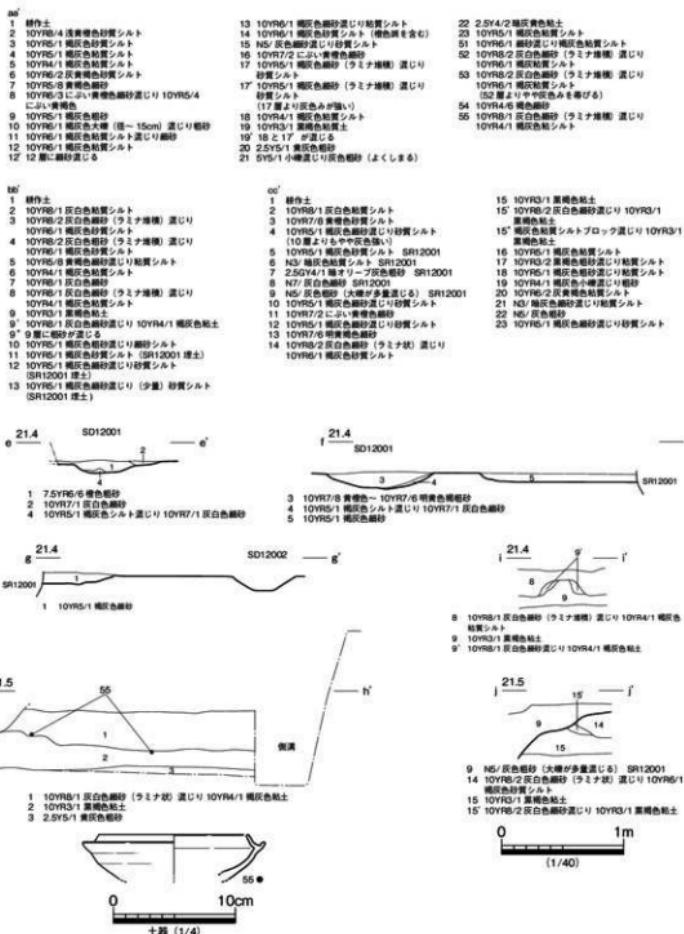
第53図 11-1区 水田跡



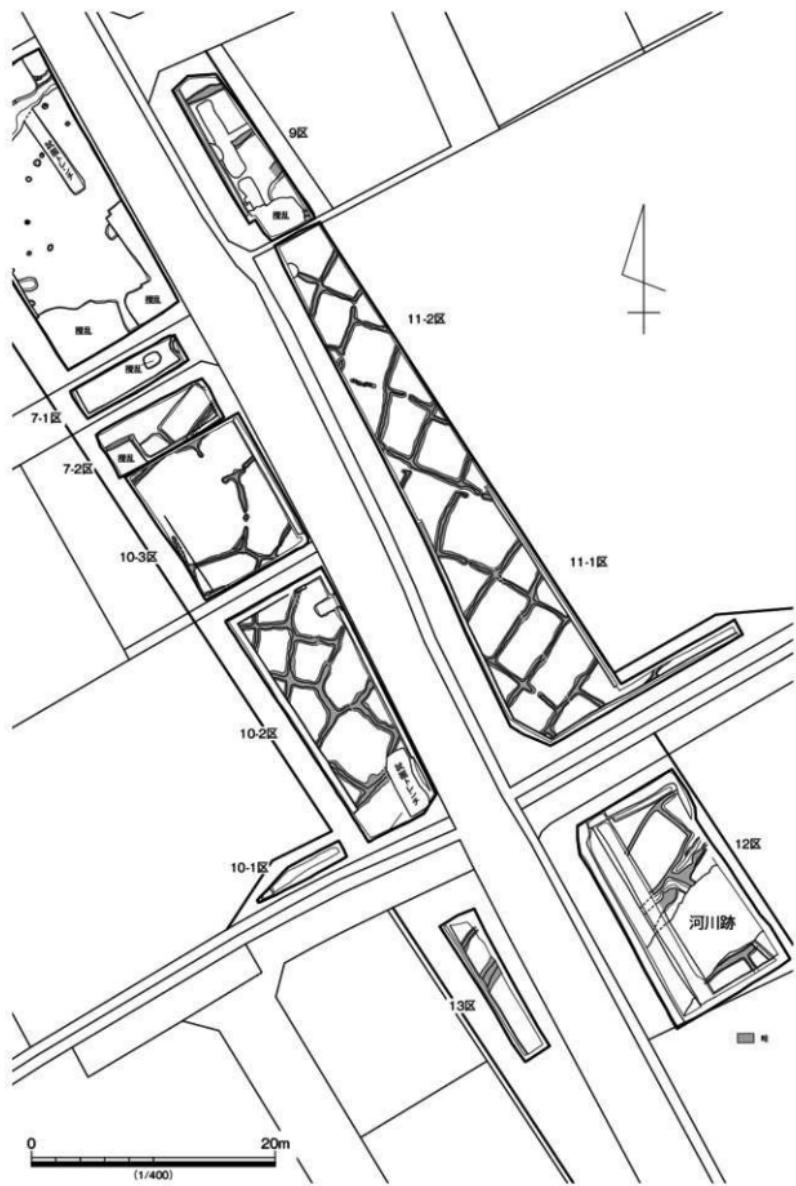
第54図 9区水田跡



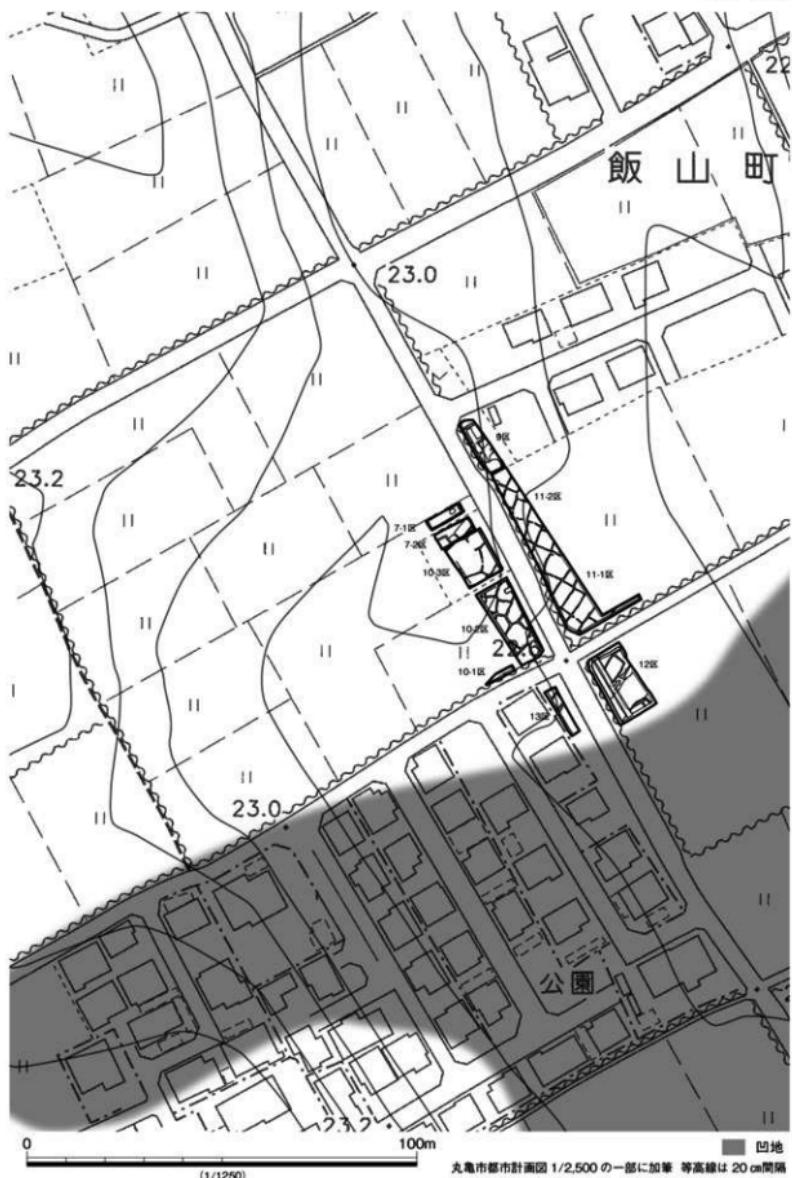
第55図 12区水田跡



第56図 12区水田跡断面図・出土遺物



第57図 水田跡



第58図 地形と水田跡

市道の東側の9区北部でも全面で水田跡が検出された。南西から北東方向に2本の畦畔が検出された。畦畔の高さは0.05mである。水田跡の検出面の標高は21.6mである。南東部で検出された水田は一段低く、21.4mである。

9区の南に位置する11-2区・11-1区でも全面で水田跡が検出された。検出面の標高は21.3～21.4mである。畦畔の方向は南西から北東、南東から北西である。水田面積はわかるもので12～27m²である。

公用道路を隔てて11-1区の南に位置する12区では調査区中央部から南部には、中近世の幅6～7mの河川跡SR12001があるため、水田跡は未検出であるが、SR12001の北側は一部の畦畔を検出した。

また、SR12001の北側には南東から北西、南西から北東に延びる溝状の落ち込みSD12001・SD12002がある。これらは幅0.3～0.7m、深さ0.1mで、SD12002はSD12001付近で直角に南東に曲がる。これらの遺構の南側は一段下がる。これらの溝に囲まれた部分は一段高くなっている、畦畔の可能性が高い。SR12001の南側では南東から北西、南西から北東にT字に延びる畦畔を検出した。南部の水田畦畔付近、黒褐色粘土層直上からは須恵器杯(55)が出土した。55はTK209型式で、は7世紀初頭に属する。水田跡を覆う洪水堆積層からの出土遺物は極めて少ないが、55の時期からこれらの水田跡は7世紀初頭に廃絶したものと考えられる。

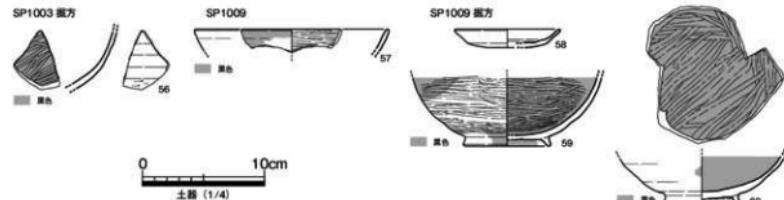
水田の形状は11-12区で整然とした長方形である一方、10区では不整形の形状が目立つ。第58図では、10区付近で等高線に乱れがあり、水田の形状の乱れと関連する可能性があろう。

3. 平安時代～中世

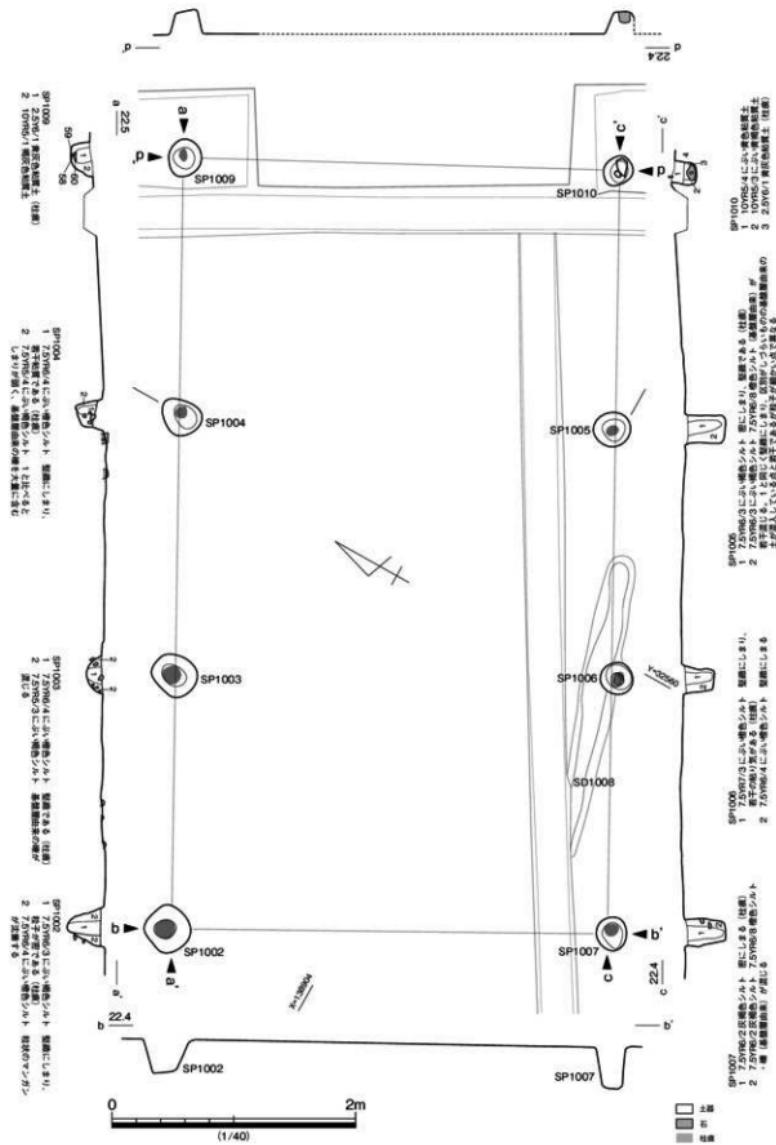
①掘立柱建物跡

SB1001（第59・60図）

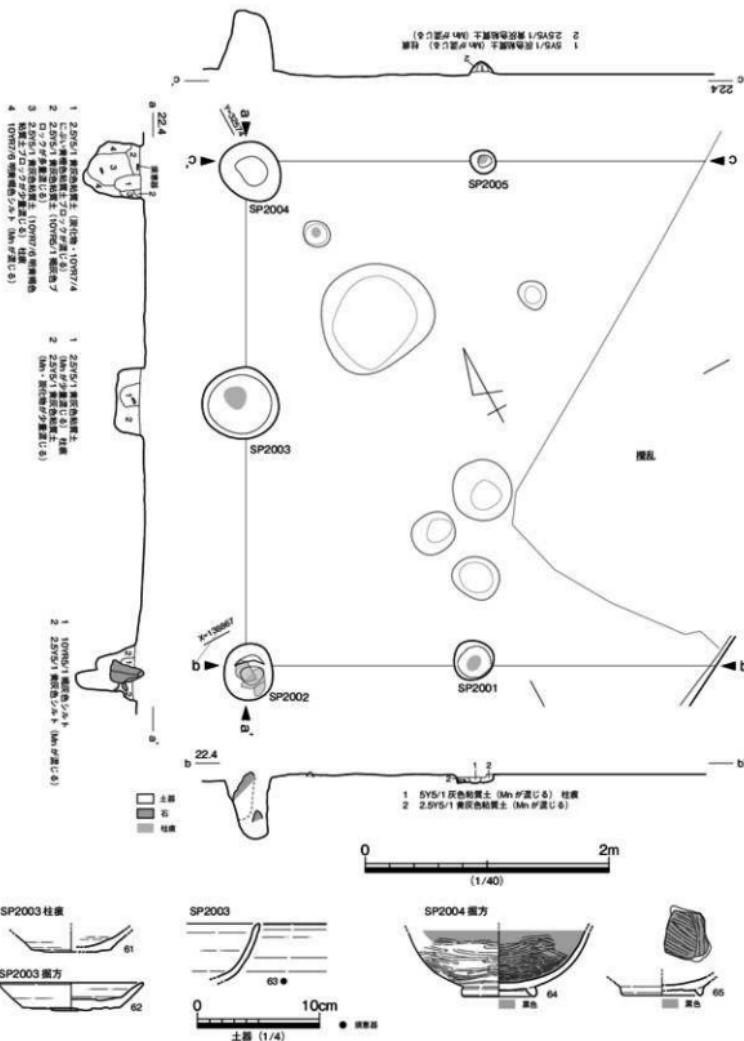
1区北東部で検出された掘立柱建物跡である。桁行3間（6.2m）、梁間1間（3.6m）で、主軸は南西から北東方向（N60.8°E）である。柱穴跡の平面形はいずれも円形で、径0.3～0.4m、深さ0.2～0.3mである。南東端の柱穴跡SP1010の底面には1辺0.1～0.2m程度の砂岩が置かれていた。SP1003の掘方からは黒色土器碗(56)、SP1009の掘方からは黒色土器碗(59・60)・土師質土器小皿(58)、そのほか黒色土器碗口縁部(57)が出土した。各柱穴跡からは少量の黒色土器・土師質土器・須恵器片が出土した。これらの遺物は11世紀後半～12世紀初頭に属することから、SB1001はこの時期ものと考えられる。



第59図 SB1001 出土遺物



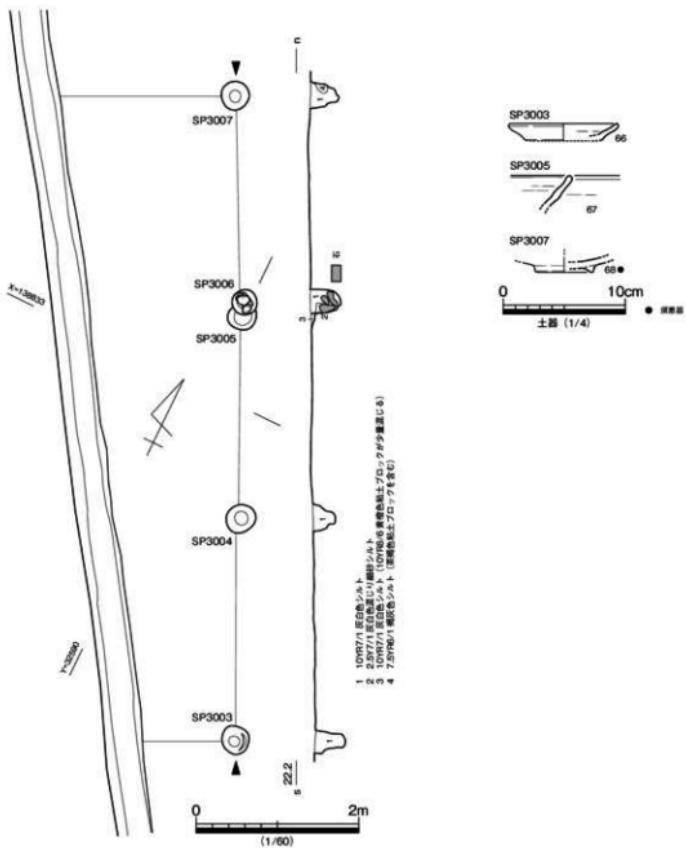
第60図 SB1001



第 61 図 SB2001

SB2001 (第 61 図)

2 区南部で検出された掘立柱建物跡である。建物の東南部は擾乱によって削平されており、規模は不明である。建物の規模は 2 間 (4.0 m)、1 間以上 (3.7 m 以上) で、北西側の柱列は北東から南西方向 (N28

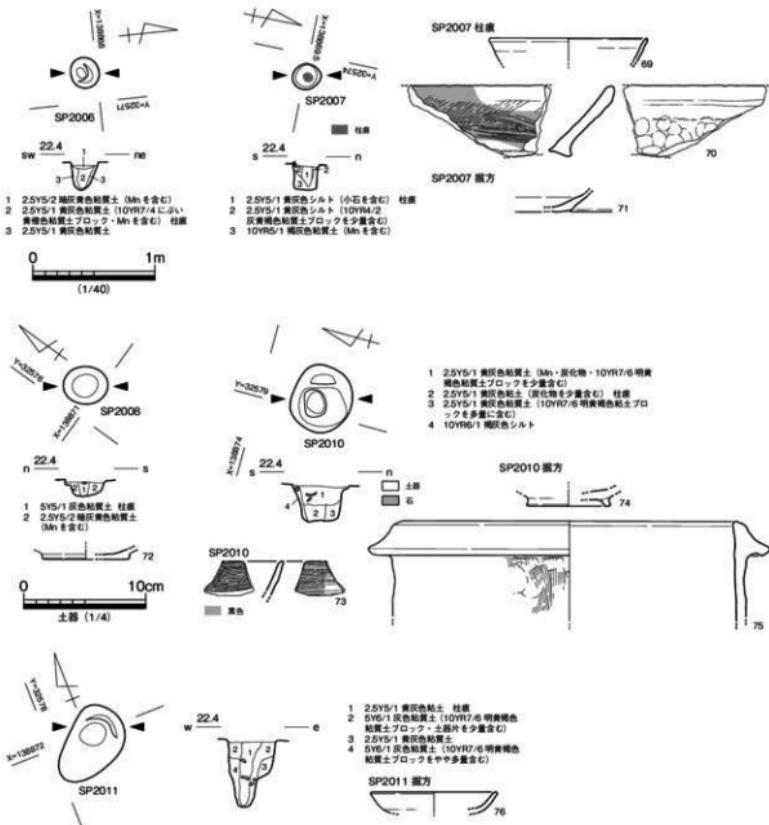


第62図 SB3001

°E) を向く。柱穴の平面形はいずれも円形である。北西側の柱列は径 0.4 ~ 0.6 m、深さ 0.25 ~ 0.5 m である。その南側の柱穴跡 SP2005・SP2001 は径 0.2 ~ 0.3 m、深さ 0.1 m である。SP2003 からは須恵器碗 (63)、SP2003 柱痕からは土師質土器小皿 (61)、堀方からは土師質土器小皿 (62)、SP2004 堀方からは黒色土器碗 (64・65) が出土した。そのほか、各柱穴跡から土師質土器片・須恵器片・黒色土器片が少量出土した。これらの遺物は 12 世紀前半に属することから、SB2001 は同時期のものと考えられる。

SB3001 (第62図)

3-2 区西部、1面で検出された掘立柱建物跡である。西部は調査区外に連続するため、西側の桁行と梁間は不明である。東側の桁行は 3 間で、7.9 m である。桁行の方向は N30°W で、周辺の地割と一致



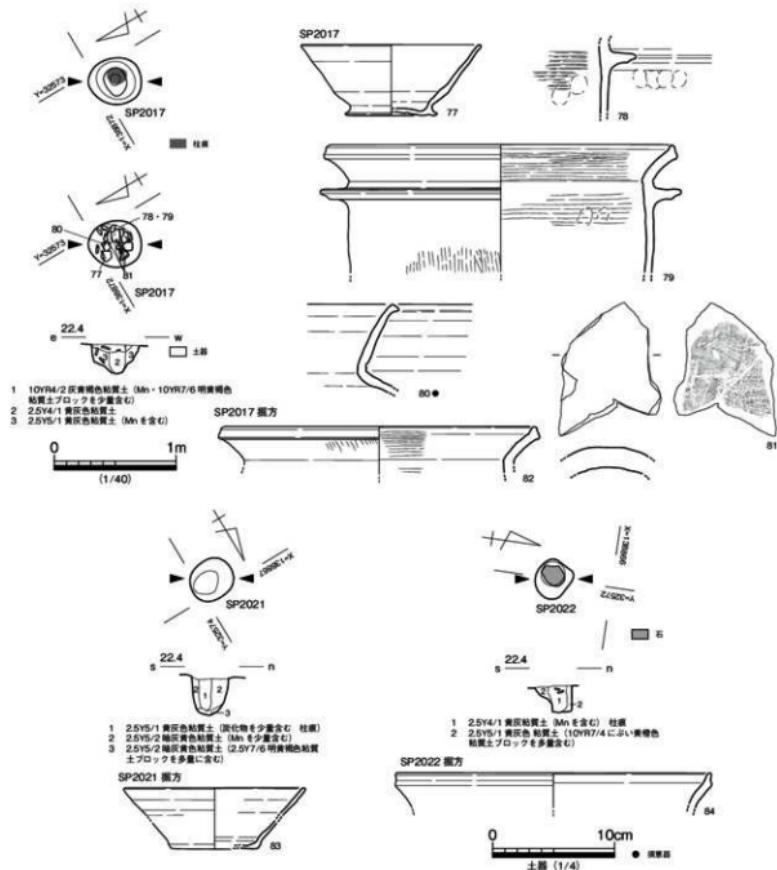
第63図 SP2006～2008・2010・2011

する。建物跡を構成する各柱穴跡の平面形はいずれも円形で、径 0.35 ~ 0.4 m、深さ 0.3 ~ 0.4 m である。柱穴跡 SP3003 からは土師質土器小皿 (66)、SP3005 からは土師器甕口縁部 (67)、SP3007 からは須恵器の底部片 (68) が出土した。67 は古墳時代後期頃のものであるが、66・68 は 13 世紀前半に属することから、SB3001 は同時期のものと考えられる。

②柱穴跡・小穴跡

SP2006 (第63図)

2 区南西部で検出された柱穴跡である。平面形は円形で、径 0.25 m、深さ 0.25 m である。土師質土器小片・須恵器片が数点出土したことから、SP2006 は古代後半～中世のものと考えられる。



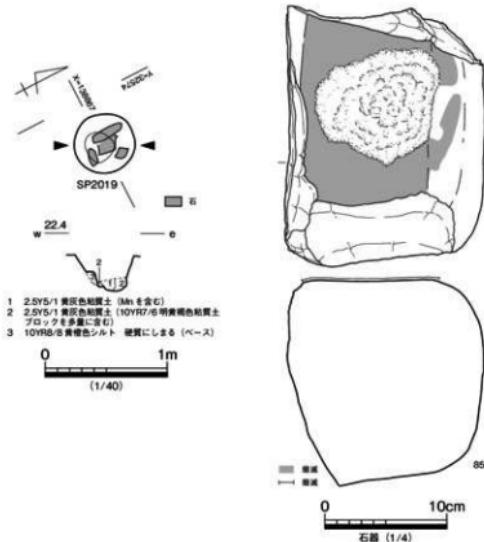
第64図 SP2017・2021・2022

SP2007 (第63図)

2区南部で検出された柱穴跡である。平面形は円形で、径0.25m、深さ0.25mである。柱痕からは土師質土器杯(69)・甕(70)、掘方からは土師質土器杯底部(71)が出土した。そのほか、土師質土器片が数点出土した。これらの遺物からSP2007は12世紀後半頃と考えられる。

SP2008 (第63図)

2区南東部で検出された柱穴跡である。平面形は円形で、径0.25m、深さ0.2mである。土師質土器杯(72)のはか土器小片が数点出土した。72は10～11世紀に属することから、SP2008は同時期のものと考えられる。



第 65 図 SP2019

SP2010（第 63 図）

2 区南東部で検出された柱穴跡である。平面形は円形で、径 0.3 m、深さ 0.3 m である。埋土に炭化物と明黄褐色粘土質のブロックが混じる。黒色土器楕 (73)、掘方からは土師質土器楕 (74)、土師質土器羽釜 (75) が出土し、そのほか土器片数点が出土した。これらの遺物は 12 世紀頃に属することから、SP2010 は同時期のものと考えられる。

SP2011（第 63 図）

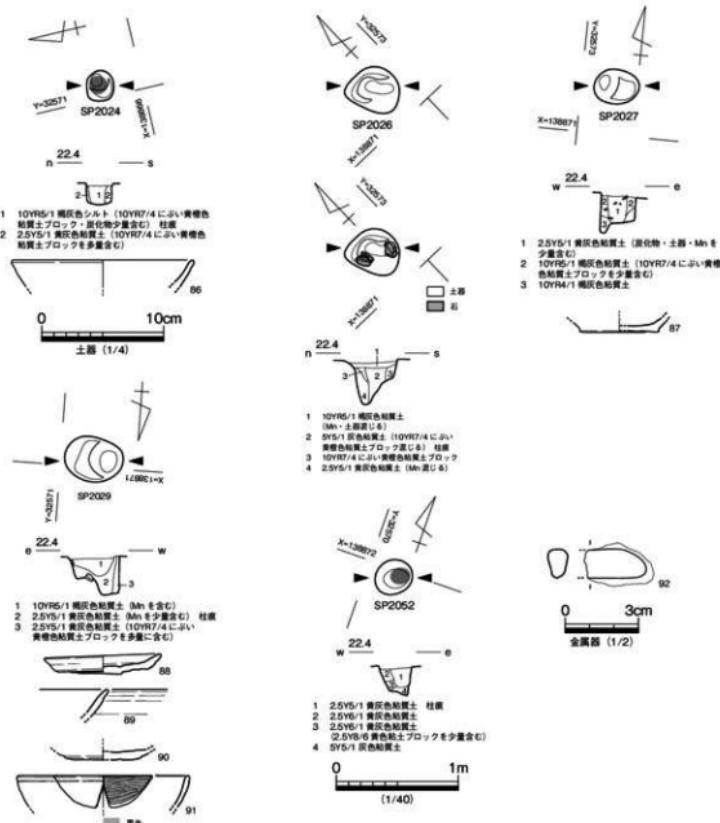
2 区南東部で検出された柱穴跡である。平面形は卵形で、長軸 0.7 m、短軸 0.5 m、深さ 0.5 m である。掘方からは土師質土器小皿 (76) が出土した。そのほか、埋土からは土器片が少量出土した。土師質土器小皿の時期から、SP2011 は 11 世紀前半～中頃のものと考えられる。

SP2017（第 64 図）

2 区南部で検出された柱穴跡である。平面形は円形で、径 0.4 m、深さ 0.25 m である。掘方からは土師質土器羽釜 (82) が出土した。そのほか、土師質土器杯 (77)・羽釜 (78・79)・須恵器甕 (80)・丸瓦 (81)、土器片・須恵器片が少量出土した。土師質土器杯・羽釜の特徴から、SP2017 は 10 世紀前半～中頃のものと考えられる。

SP2021（第 64 図）

2 区南部で検出された柱穴跡である。平面形は円形で、径 0.5 m、深さ 0.5 m である。掘方からは土師質土器杯 (83) が出土した。そのほか須恵器片・土器片が少量出土した。83 は 10 世紀中頃に属することから、SP2021 は同時期のものと考えられる。



第66図 SP2024・2026・2027・2029・2052

SP2022 (第64図)

2区南部で検出された柱穴跡である。平面形はいびつな円形で、径 0.3 m、深さ 0.3 m である。掘方からは土師質土器羽釜 (84) が出土した。そのほか土器片・須恵器片が数点出土した。84 は 10 ~ 11 世紀に属することから、SP2022 は同時期のものと考えられる。

SP2019 (第65図)

2区南部で検出された柱穴跡である。平面形は円形で、径 0.4 m、深さ 0.25 m である。埋土からは砥石 (85) のほか土器片・須恵器片が数点出土した。土器片はいずれも小片であるが、古代後半~中世に属すると考えられることから、SP2019 は同時期のものと考えられる。

SP2024 (第66図)

2区南西部で検出された柱穴跡である。平面形はややいびつな円形で、径 0.25 m、深さ 0.25 m である。

埋土からは土師質土器片（86）のほか土器片・須恵器片が数点出土した。これらの遺物からSP2024は中世前半のものと考えられる。

SP2026（第66図）

2区中央やや南寄りで検出された柱穴跡である。平面形はいびつな円形で、径0.4m、深さ0.35mである。土師質土器小皿片・羽釜片のほか土器片・須恵器片が少量出土した。これらの遺物からSP2026は古代後半～中世のものと考えられる。

SP2027（第66図）

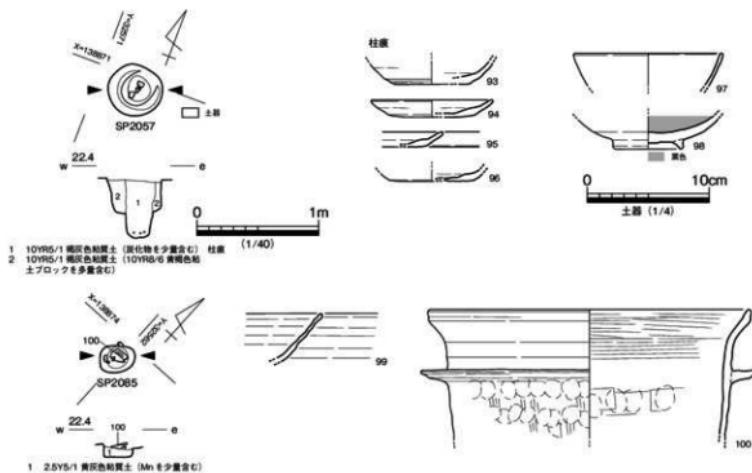
2区南部で検出された柱穴跡である。平面形は楕円形で、長軸0.4m、短軸0.3m、深さ0.3mである。埋土からは土師質土器片（87）のほか土器片が少量出土した。87は底部片であるが、10世紀頃に属することから、SP2027は同時期のものと考えられる。

SP2029（第66図）

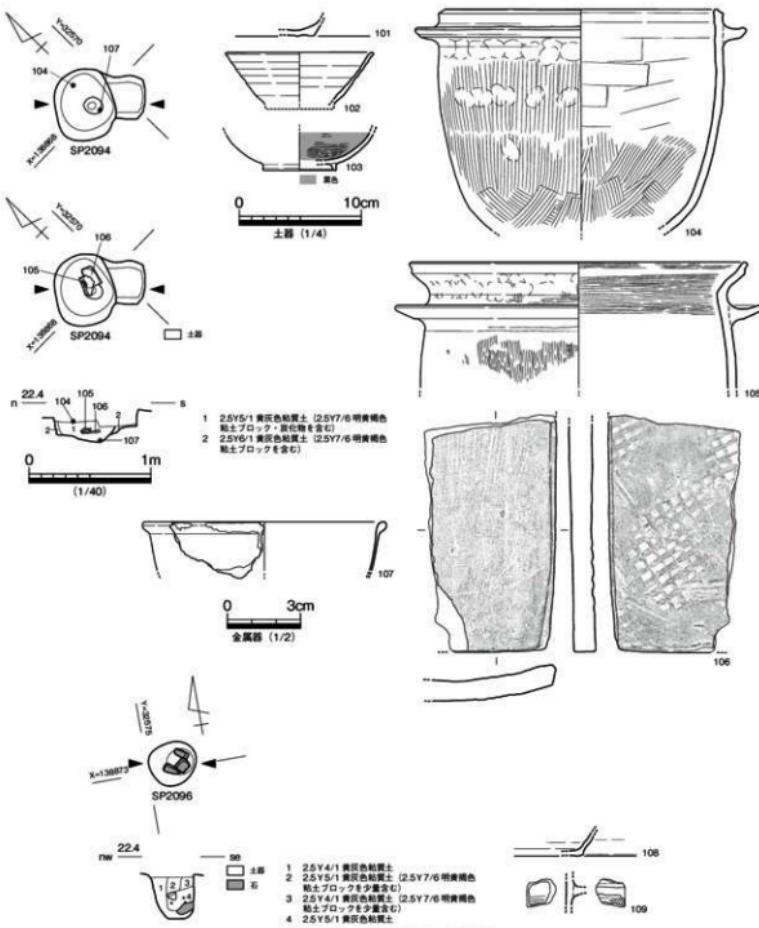
2区南部で検出された柱穴跡である。平面形は楕円形で、長軸0.5m、短軸0.4m、深さ0.4mである。埋土からは土師質土器小皿（88）・小皿または杯（89・90）黒色土器椀（91）のほか土器片・須恵器片が少量出土した。これらの遺物は12世紀前半～中頃に属することから、SP2029は同時期のものと考えられる。

SP2052（第66図）

2区南部で検出された柱穴跡である。平面形は円形で、径0.3m、深さ0.25mである。埋土からは鉄製品（92）のほか黒色土器小片・土器小片が数点出土した。92は断面形が三角形で、背部がゆるくカーブすることから、刀子の柄の部分であろう。黒色土器が含まれることから、SP2052は10世紀～12世紀前半のものと考えられる。



第67図 SP2057・2085



第68図 SP2094・2096

SP2057 (第67図)

2区南部で検出された柱穴跡である。平面形は円形で、径0.4m、深さ0.5mである。柱痕からは土師質土器杯(93)・小皿(94~96)・椀(97)、黒色土器椀(98)のほか須恵器壺体部片・土器片が数点出土した。古墳時代の須恵器壺も含まれるが、大半は11世紀後半~12世紀前半に属することから、SP2057は同時期のものと考えられる。

SP2085 (第67図)

2区西部で検出された柱穴跡である。SD2076と重複するが、SP2085のほうが新しい。平面形は梢円

形で長軸 0.3 m、短軸 0.2 m、深さ 0.1m である。土師質土器杯（99）・羽釜（100）のほか須恵器片・土器片が数点出土した。これらの遺物から、SP2085 は 10世紀のものと考えられる。

SP2094（第 68 図）

2 区南西部で検出された柱穴跡である。平面形は不整である。長軸 0.7 m、短軸 0.6 m、深さ 0.2m である。埋土からは土師質土器杯または小皿（101）・杯（102）・黒色土器椀（103）・羽釜（104・105）、平瓦（106）、銅椀（107）のほか土器片・須恵器片が出土した。これらの遺物から、SP2094 は 9世紀後半～10世紀前半頃のものと考えられる。

SP2096（第 68 図）

2 区南部で検出された柱穴跡である。平面形は円形である。径 0.4 m、深さ 0.34 m である。埋土からは土師質土器杯（108）・羽釜（109）のほか土器片が数点出土した。これらの遺物から SP2096 は 10世紀のものと考えられる。

SP2098（第 69 図）

2 区南部で検出された柱穴跡である。平面形はややいびつな円形で、径 0.5 m、深さ 0.45m である。掘方からは土師質土器杯（114）・椀（115）が出土した。そのほか土師質土器杯（110・111）、黒色土器椀（113）、土師質土器底部片（112）のほか土器片が数点出土した。111・112 は赤色顔料が塗布される。112 は底部外面に赤色顔料の塗布がなく、剥がれたような痕跡があるので、脚が付いていた可能性が高い。これらの遺物は 10世紀後半～11世紀前半に属することから、SP2098 も同時期のものと考えられる。

SP2101（第 69 図）

2 区南部で検出された柱穴跡である。平面形はややいびつな円形で、径 0.3 m、深さ 0.3m である。弥生土器甕（116）のほか土器片数点が出土した。弥生土器が出土しているが、埋土の色調や土質から SP2101 は古代後半～中世のものと考えられる。

SP2102（第 69 図）

2 区中央やや南寄りで検出された柱穴跡である。平面形は円形で、径 0.32 m、深さ 0.18 m である。土師質土器杯（117）のほか須恵器片・土器片が数点出土した。117 は 10世紀中頃～11世紀初頭に属することから、SP2102 は同時期のものと考えられる。

SP2106（第 69 図）

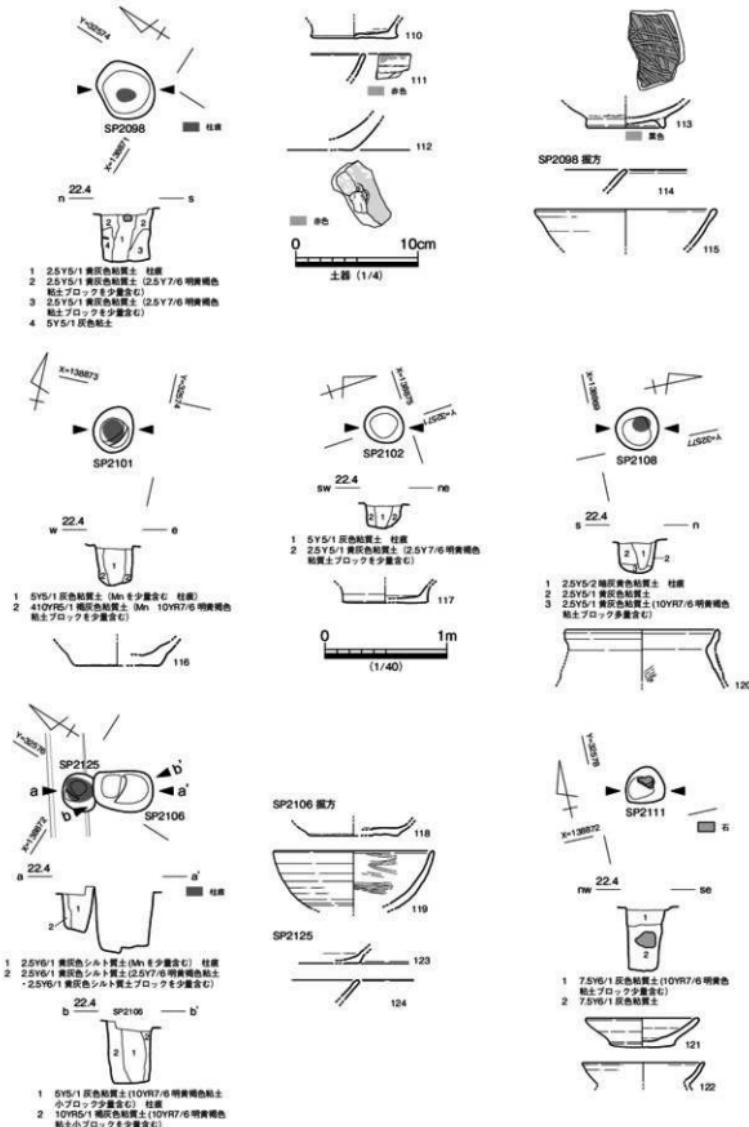
2 区南部で検出された柱穴跡である。SP2125 と重複する。SP2106 のほうが新しい。平面形は楕円形で、長軸 0.5 m、短軸 0.3 m、深さ 0.5 m である。掘方からは土師質土器杯（118）・椀（119）が出土した。そのほか須恵器片・土器片が数点出土した。これらの遺物から SP2106 は 11世紀頃のものと考えられる。

SP2108（第 69 図）

2 区南部で検出された柱穴跡である。7世紀の溝状造構 SD2036 と重複する。SP2108 が新しい。SP2108 の平面形は円形で、径 0.35 m、深さ 0.25 m である。土師器甕（120）のほか土器片・須恵器片が数点出土した。120 は古墳時代後期のものである。本来は重複する溝状造構 SD2036 に伴うものと思われる。遺物からは詳細な時期は不明であるが、埋土の色調や土質から SP2108 は古代後半～中世のものと考えられる。

SP2111（第 69 図）

2 区南東部で検出した柱穴跡である。平面形はややいびつな円形で、径 0.3 m、深さ 0.55 m である。埋土からは土師質土器小皿（121）、土師器甕（122）のほか黒色土器片・土器片が数点出土した。122



第69図 SP2098・2101・2102・2106・2108・2111・2125

は古墳時代後期のものである。その他の遺物は11世紀に属することから、SP2111は同時期のものと考えられる。

SP2125（第69図）

2区南部で検出された柱穴跡である。SP2106と重複する。SP2106のほうが新しい。平面形は円形で、径0.3m、深さ0.4mである。埋土からは土師質土器杯（123・124）のほか須恵器片・土器片が数点出土した。これらの遺物からSP2125は10世紀頃のものと考えられる。

SP2110（第70図）

2区南部で検出された柱穴跡である。平面形はややいびつな円形で、径0.5m、深さ0.45mである。底面には2個の凹みがあることから、2個の柱穴跡が重複した可能性が高い。掘方からは土師質土器杯（129）が出土した。そのほか土師質土器杯（125・126）、黒色土器輪（127）、石鏡（128）、少量の土器片が出土した。これらの遺物からSP2110は10世紀頃のものと考えられる。

SP2117（第70図）

2区南部で検出した柱穴跡である。土層観察用のトレンチに一部削平されているため、全体は不明であるが、平面形は円形、径0.2～0.3m、深さ0.25mと推定される。土師質土器羽釜（130）・平瓦（131）が出土した。130は10世紀に属することから、SP2117は同時期のものと考えられる。

SP2120（第70図）

2区南部で検出した柱穴跡である。平面形はややいびつな楕円形で、長軸0.5m、短軸0.35m、深さ0.4mである。埋土からは土師質土器杯底部（132）のほか土器片・須恵器片が数点出土した。132は10世紀に属することから、SP2120は同時期のものと考えられる。

SP2121（第71図）

2区南部で検出した柱穴跡である。SP2122と重複する。SP2121のほうが新しい。平面形はややいびつな円形で、径0.6m、深さ0.3mと推定される。埋土からは土師器甕（133・134）、土師質土器杯（135）・甕（136）・羽釜（137）のほか土器片が少量出土した。133・134は古墳時代後期のものであるが、137は10世紀に属することから、SP2121は10世紀のものと考えられる。

SP2122（第71図）

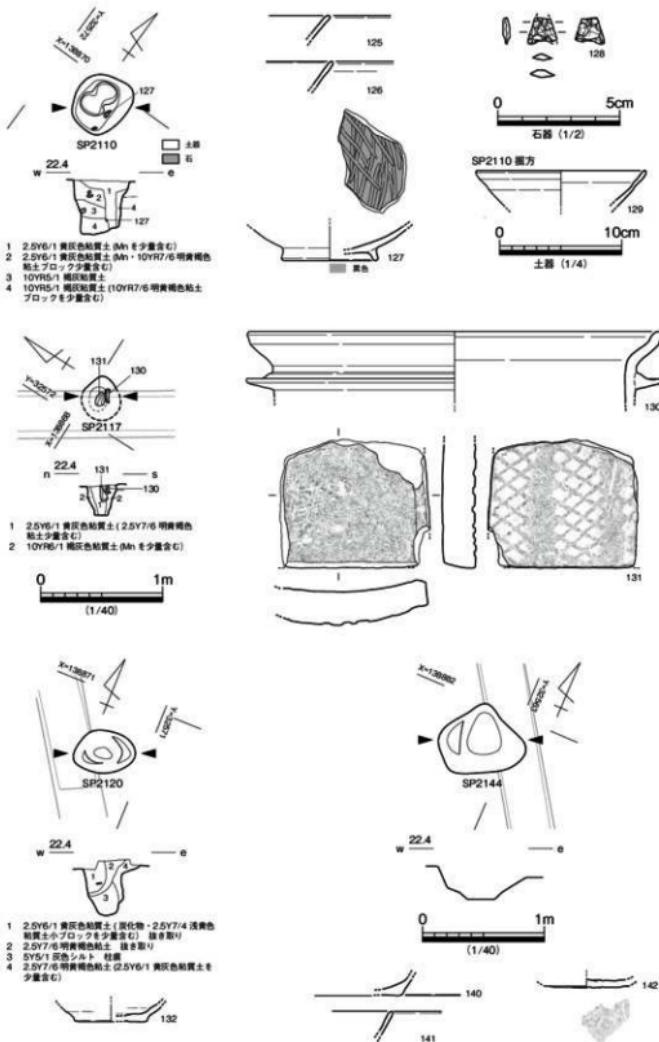
2区南部で検出した柱穴跡である。SP2121と重複し、一部が削平される。平面形は楕円形で、長軸0.5m程度、短軸0.2m、深さ0.5mである。埋土からは土師器甕（138）、土師質土器杯（139）のほか土器片・須恵器片が数点出土した。138は古墳時代後期のものであるが、139は10世紀頃に属することから、SP2122は同時期のものと考えられる。

SP2144（第70図）

2区北部で検出した柱穴跡である。一部を土層観察用のトレンチに一部削平される。平面形はいびつな円形で、長軸0.72m、短軸0.55m、深さ0.3mである。埋土から弥生土器甕底部（140）、土師質土器杯（141・142）のほか、土器片・須恵器片が出土した。これらの遺物から、SP2144は10～12世紀のものと考えられる。

SK2055（第71図）

2区南部で検出された柱穴跡である。平面形は楕円形で、長軸0.8m、短軸0.5mである。断面形は二段になっており、中央部が最も深い。最も深いところで深さ0.2mである。断面形から柱穴跡と考えられる。土師質土器羽釜（143）、須恵器・土師質土器片が少量出土した。143は口縁部で、口縁端部

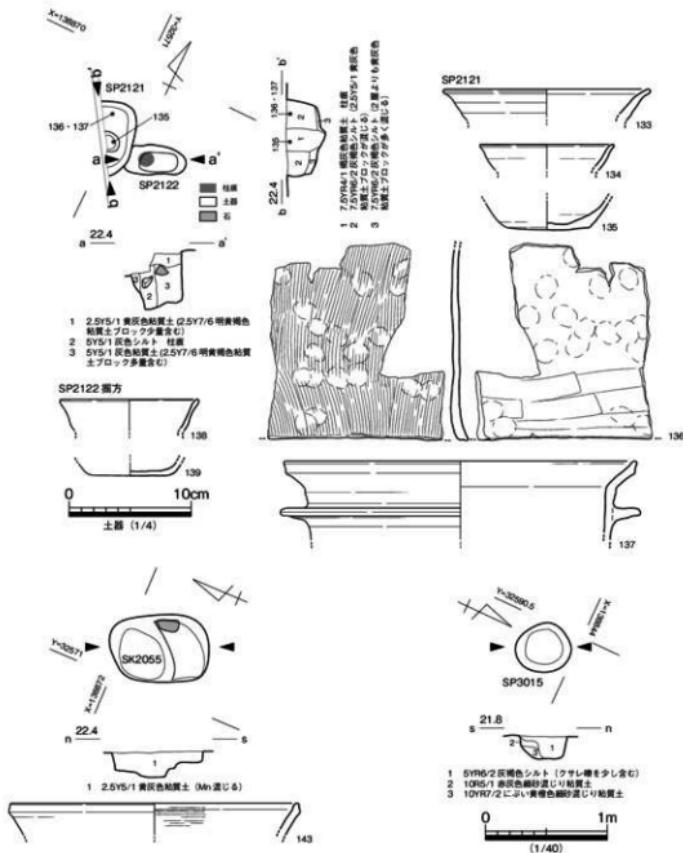


第70図 SP2110・2117・2120・2144

がつまみ上げられる。これらの遺物からSK2055は10世紀頃のものと考えられる。

SP3015（第71図）

3-2区北部、1面で検出された柱穴跡である。平面形は円形で、径0.4m、深さ0.2mである。遺物は



第 71 図 SP2121・2122・SK2055・SP3015

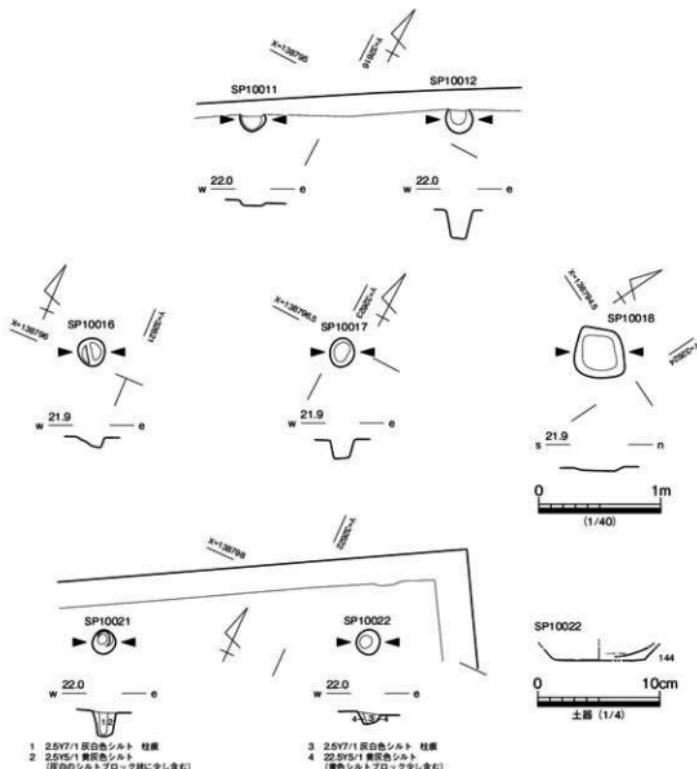
出土しなかった。埋土の土質から SP3015 は古代後半～中世のものと考えられる。

SP10011 (第 72 図)

10-3 区北西部、1面で検出された柱穴跡である。北部は調査区外に連続するため全体は不明である。平面形は円形で、径 0.2 m、深さ 0.05 m である。遺物は出土しなかったが、周辺の柱穴跡の時期から古代後半～中世のものと考えられる。

SP10012 (第 72 図)

10-3 区北西部、1面で検出された柱穴跡である。北部は調査区外に連続するため全体は不明である。平面形は円形で、径 0.2m、深さ 0.2m である。遺物は出土しなかったが、周辺の柱穴跡の時期から古代後半～中世のものと考えられる。



第72図 SP10011・10012・10016～10018・10021・10022

SP10016（第72図）

10-3区北東部、1面で検出された柱穴跡である。平面形は円形で、径0.2m、深さ0.1mである。遺物は出土しなかったが、周辺の柱穴跡は古代後半～中世に属することから、同時期のものと考えられる。

SP10017（第72図）

10-3区北東部、1面で検出された柱穴跡である。平面形は円形で、径0.2m、深さ0.15mである。遺物は出土しなかったが、周辺の柱穴跡は古代後半～中世に属することから、同時期のものと考えられる。

SP10018（第72図）

10-3区北東部、1面で検出された柱穴跡である。平面形はややいびつな隅方形で、1辺0.4m、深さ0.05mである。遺物は出土しなかったが、周辺の柱穴跡は古代後半～中世に属することから、同時期のものと考えられる。

SP10021（第72図）

10-3区北東部、1面で検出された柱穴跡である。平面形は円形で、径0.2m、深さ0.2mである。埋土から土器片が2点出土した。詳細な時期は不明であるが、周辺の柱穴跡は古代後半～中世に属することから、同時期のものと考えられる。

SP10022（第72図）

10-3区北東部、1面で検出された柱穴跡である。平面形は円形で、径0.2m、深さ0.1mである。柱穴掘方から土師質土器小皿（144）が出土した。144の底部外面は回転ヘラ切りが施される。11世紀後半～12世紀に属することから、SP10022は同時期のものと考えられる。

③土坑・落ち込み

SX2009（第73図）

2区南東部で検出された浅い落ち込みである。平面形はいびつな長楕円形で、長軸2.2m、短軸1.5m、深さ0.1mである。出土遺物は土師質土器杯（145・146）、黒色土器椀（147）、土師質土器壺片（148）のほか少量の黒色土器片・土器片・須恵器片が少量出土した。これらの遺物からSX2009は11～12世紀のものと考えられる。

SX2012（第73・74図）

2区南東部で検出された浅い落ち込みである。南部は攪乱によって削平されるため、不明である。平面形はいびつで、南北長20m以上、東西長20m以上、深さ0.1mである。底面からは土器片がやや多量出土した。須恵器杯（149）、土師質土器小皿（150～158）・杯（159）、黒色土器椀（160～165）、土師質土器椀（166）、羽釜（167・168）、鍋（169）、土師器甕（170）等が出土した。これらの中には7世紀の遺物も含むが、11～12世紀の土師質土器小皿や黒色土器椀のほか14世紀の土師質土器足釜が見られる。これらの遺物はいずれも破片で、散らばった状態で出土していることから廃棄されたものと考えられる。最も新しい遺物が14世紀であることから、造構の時期もこの頃と考えられる。

SK2014（第75図）

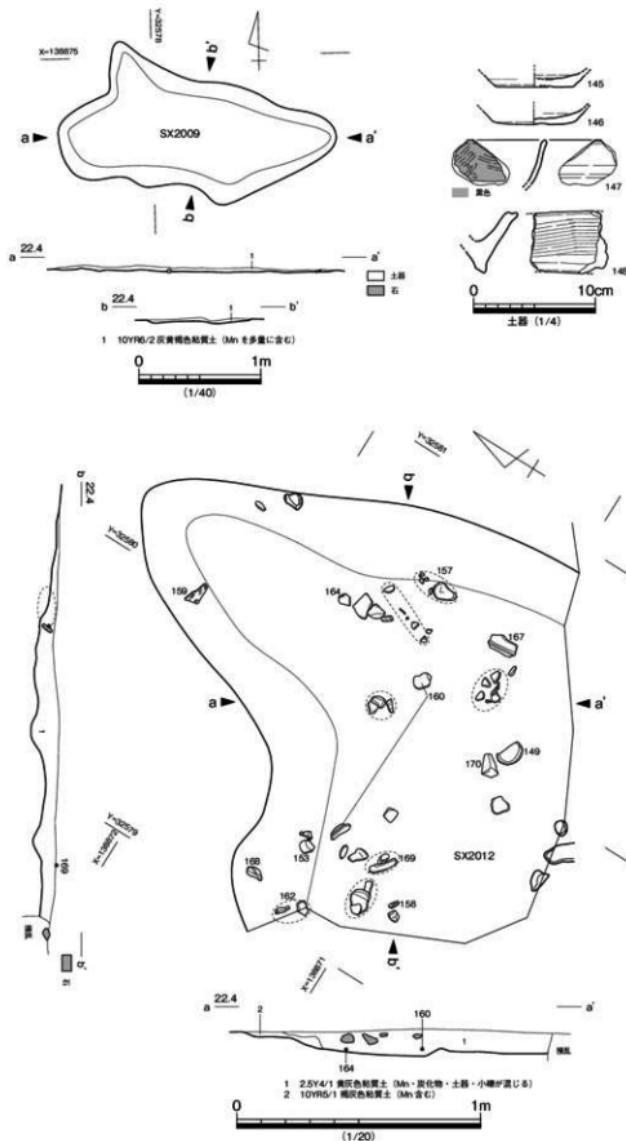
2区南部で検出された土坑である。平面形はややいびつな円形で、長軸1.0m、短軸0.9m、深さ0.1mである。遺物は土師質土器小皿（171・172）・杯（173）、土師質土器・須恵器の小片が少量出土した。171・172は土師質土器小皿で11世紀、173は底部に段をもつ土師質土器杯で10世紀に属する。これらの遺物からSK2014は11世紀のものと考えられる。

SK2092（第75図）

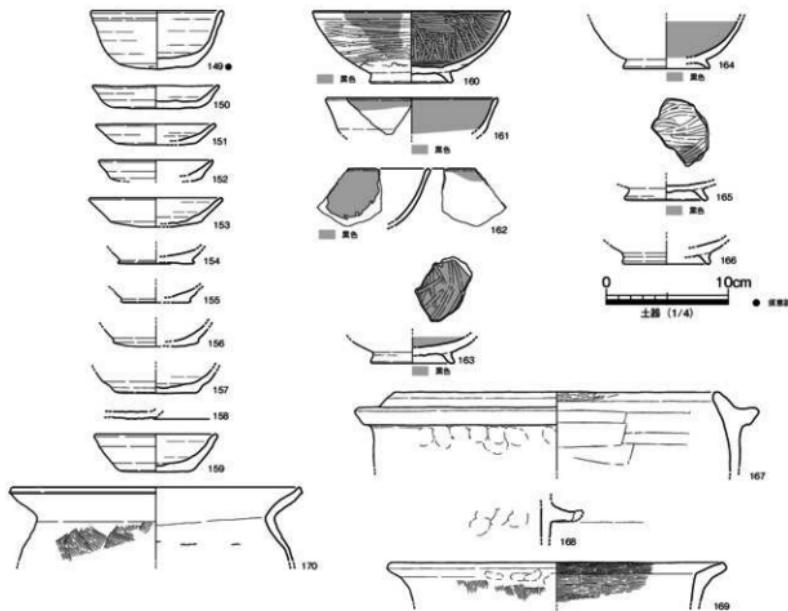
2区西部で検出された土坑である。平面形はややいびつな楕円形で、長軸0.8m、短軸0.3m、深さ0.1mである。土器小片が出土しただけである。詳細な時期は不明であるが、周辺の土坑の時期と同じ古代後半～中世のものと考えられる。

SK2095（第76図）

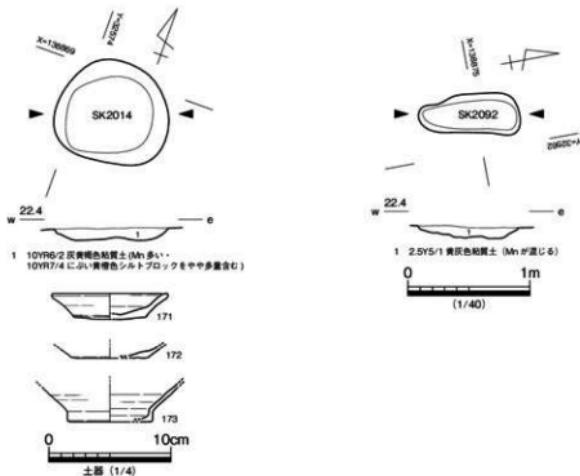
2区ほぼ中央部で検出された土坑である。平面形はややいびつな隅丸長方形で、長軸1.8m、短軸1.0mである。底面西部には円形の落ち込みがある。造構面から落ち込み底面までの深さは0.25mである。遺物は土師質土器杯（174）・羽釜（175）・土錐（176）のほか土器片が少量出土した。176は棒状土錐である。174・175は10世紀に属することから、SK2095は10世紀のものと考えられる。



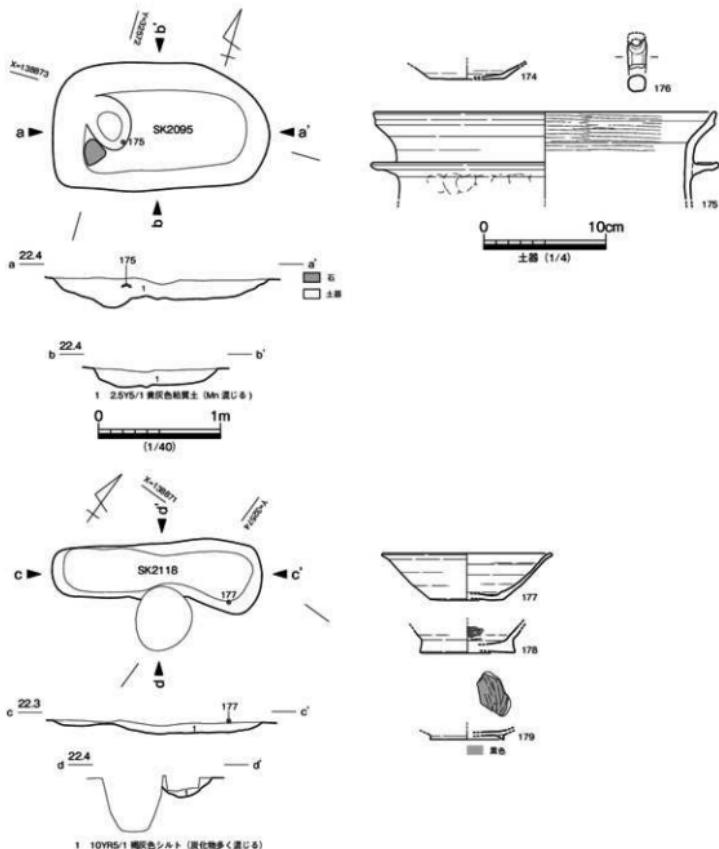
第73図 SX2009・2012



第 74 図 SX2012 出土遺物



第 75 図 SK2014・2092



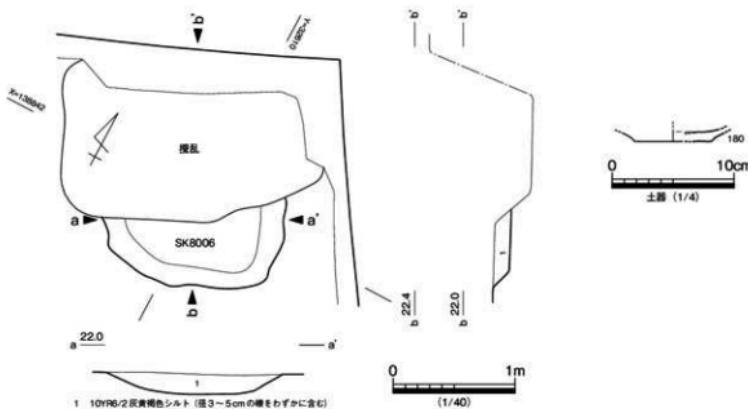
第76図 SK2095・2118

SK2118 (第76図)

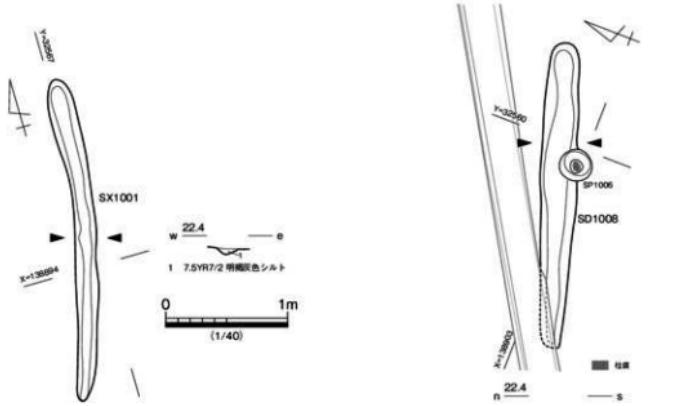
2区南部で検出された土坑である。平面形はややいびつな隔丸長方形で、長軸1.7m、短軸0.6mである。断面形はU字形で、深さ0.1mである。埋土には炭化物が多く混じる。埋土からは土師質土器杯(177・178)、黒色土器椀(179)のほか土器片・須恵器片・黒色土器片が少量出土した。177は平底の杯で、10世紀代に属する。178は底部が厚く、突出しており、10世紀代に属する。これらの遺物から、SK2118は10世紀代のものと考えられる。

SK8006 (第77図)

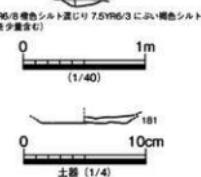
8区北部で検出された土坑である。北部は擾乱によって削平される。溝状遺構SD8005と重複する。SK8006のほうが新しい。SK8006の平面形はややいびつな方形または円形で、現存では長軸1.5m、短



第 77 図 SK8006



第 78 図 SX1001



第 79 図 SD1008

軸 0.5 m 以上、深さ 0.15 ~ 0.2 m である。埋土からは土師質土器小皿 (180) のほか土器小片が 1 片出土しただけである。180 は 11 世紀後半から 12 世紀に属するが、SK8006 は南北に向かう溝状遺構 SD8005 と重複することから、SD8005 の遺物が混入した可能性もある。SK8006 は 11 世紀後半 ~ 12 世紀以降のものと考えられる。

④溝状遺構

SX1001 (第 78 図)

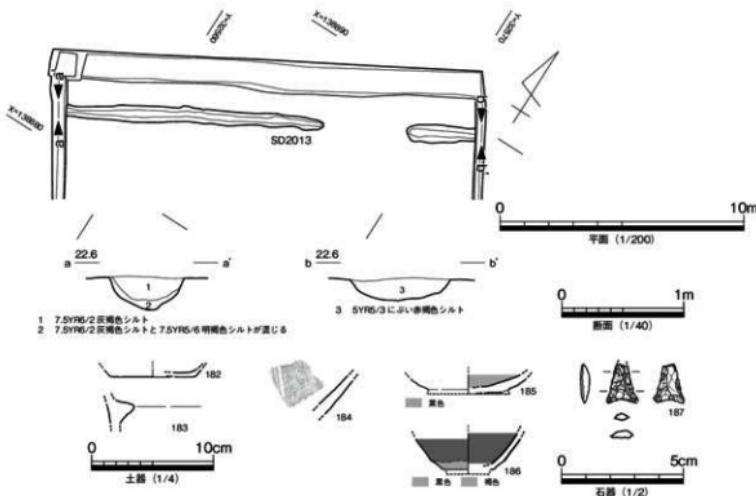
1 区南東部で検出された溝状遺構である。幅 0.2 m、深さ 0.1 m、検出長 2.7 m で、ほぼ南北に走る。南の延長線上には 2 区 SD2062 があることから、同一溝の可能性もある。埋土からは土器小片が 2 点出土した。詳細な時期は不明であるが、SD2062 は古代後半～中世前半であることから、SX1001 も同時期のものと考えられる。

SD1008 (第 79 図)

1 区北東部で検出された溝状遺構である。SB1001 を構成する柱穴跡 SP1006 と重複し、削平される。SP1006 のほうが新しい。SD1008 は南西から北東方向 (N69° E) に向かって走るが、南西端はトレンドによって削平される。幅 0.3 m、深さ 0.1 m、検出長 2.5 m で、埋土からは土師質土器杯 (181)、土器片・須恵器片・桃の種が少量出土した。181 は 10 世紀～11 世紀に属する。SB1001 よりも古いことや 181 の時期から SD1008 は 10 ~ 11 世紀のものと考えられる。

SD2013 (第 80 図)

2 区北部で検出された溝状遺構で、両端は調査区外に連続する。途中で途切れるが、本来は連続する溝と考えられる。幅 0.6 ~ 0.8 m、深さ 0.2 ~ 0.3 m である。南西から北東方向 (W60° S) に向かい、現



第 80 図 SD2013

在の周辺地割に平行する。土師質土器小皿（182）・羽釜（183）・擂鉢（184）、黒色土器椀（185）、陶器椀（186）のほか土師質土器片や須恵器片が出土した。186は瀬戸美濃産の天目茶碗で、黒釉がかかる。土師質土器擂鉢や瀬戸美濃産の天目茶碗の時期から、SD2013は14世紀のものと考えられる。

SD2061（第81図）

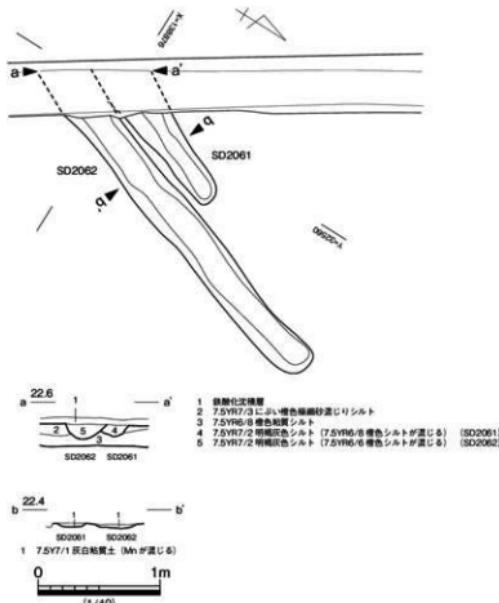
2区南西部で検出された溝状遺構である。SD2062と重複し、削平される。北東から南西に向かい、南西部は調査区外に連続する。幅0.15m、深さ0.1mである。埋土からは黑色土器小片1点、土器片数点が出土したことから、SD2061は古代後半～中世前半のものと考えられる。

SD2062（第81図）

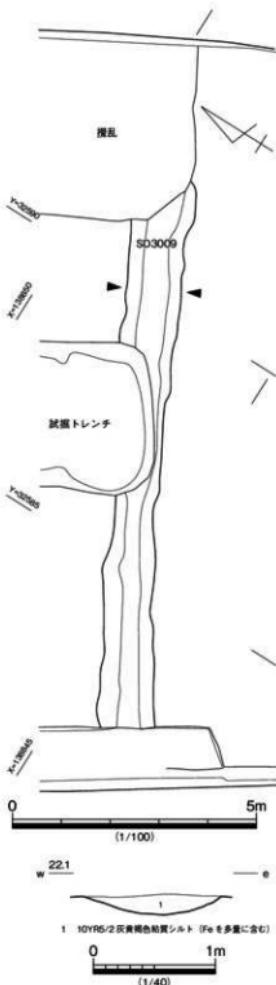
2区南西部で検出された溝状遺構である。SD2061と重複する。SD2062のほうが新しい。北東から南西に向かい、南西部は調査区外に連続する。幅0.15m、深さ0.2mである。埋土からは須恵器片1点と土器片が出土した。SD2062からの出土遺物は少ないが、平行するSD2061が古代後半～中世前半のものと考えられることから、SD2062も同時期のものと考えられる。

SD3009（第82図）

3-1区南部、1面で検出された溝状遺構である。南西から北東に向かう。西端は調査区外に連続し、東端は攪乱によって削平されるため、不明である。また、中央付近には試掘トレンチがあり、削平を受ける。溝の幅は0.8～1.1m、深さ0.15mである。埋土からは土器片が少量出土した。周辺の地割に平行することや、1面で検出されたことから、SD3009は古代後半～中世の可能性が高い。



第81図 SD2061・2062



第82図 SD3009



第83図 SD5001

SD5001（第83図）

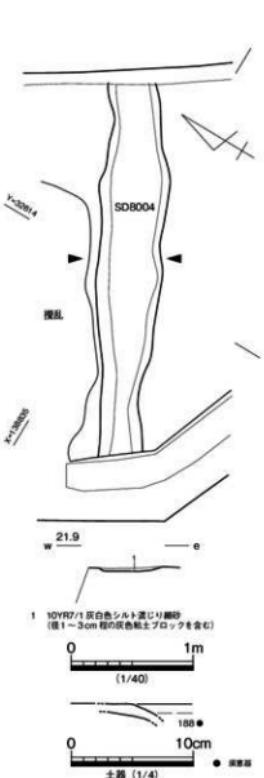
5区南部で検出された溝状遺構である。南西から北東に向かう。両端は調査区外に向かうため不明である。溝の幅は0.6m、深さ0.1mである。埋土からは土器小片が1点出土した。周辺の遺構検出状況から、SD5001は古代後半～中世のものと考えられる。

SD8004（第84図）

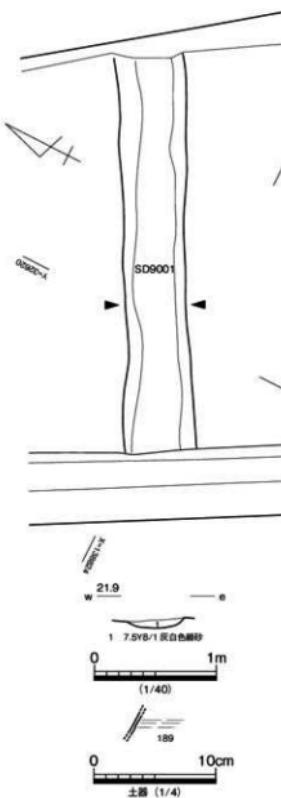
8区南部で検出された溝状遺構である。周辺の地割に平行し、南西から北東に向かう。両端は調査区外に延びるため不明である。周辺の地割に平行し、南から連続する溝状遺構SD8005と重複する。SD8004のほうが新しい。SD8004の幅は0.4～0.5m、深さ0.05mである。埋土からは須恵器蓋の破片(188)のはか土器小片が数点出土した。古墳時代後期の須恵器が出土しているが、埋土の色調やSD8005よりも新しいことから、SD8004は中世のものと考えられる。

SD9001（第85図）

9区北部、1面で検出された溝状遺構である。溝状遺構SD9002と重複する。SD9001のほうが新しい。



第84図 SD8004



第85図 SD9001

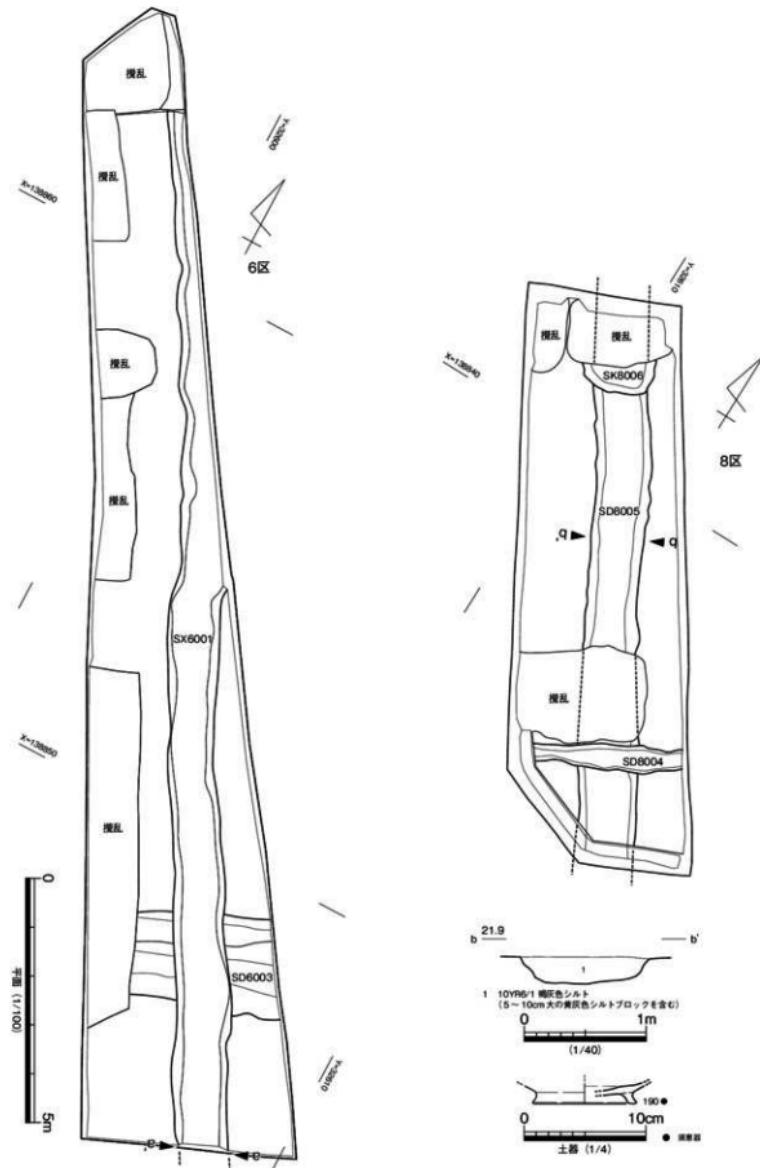
付近の地割に平行し、東西に向かうが、両端は調査区外に連続するため不明である。幅 0.45 m、深さ 0.1 m である。埋土からは土師質土器杯 (189) のほか土器片が数点出土した。189 は 10 世紀ごろに属するが、本来は重複する SD9002 に伴う遺物の可能性がある。だが、近世陶磁器等を含まないことから、SD9001 は 10 世紀以降、中世ごろまで機能していたものと考えられる。

SX6001 (第86・87図)

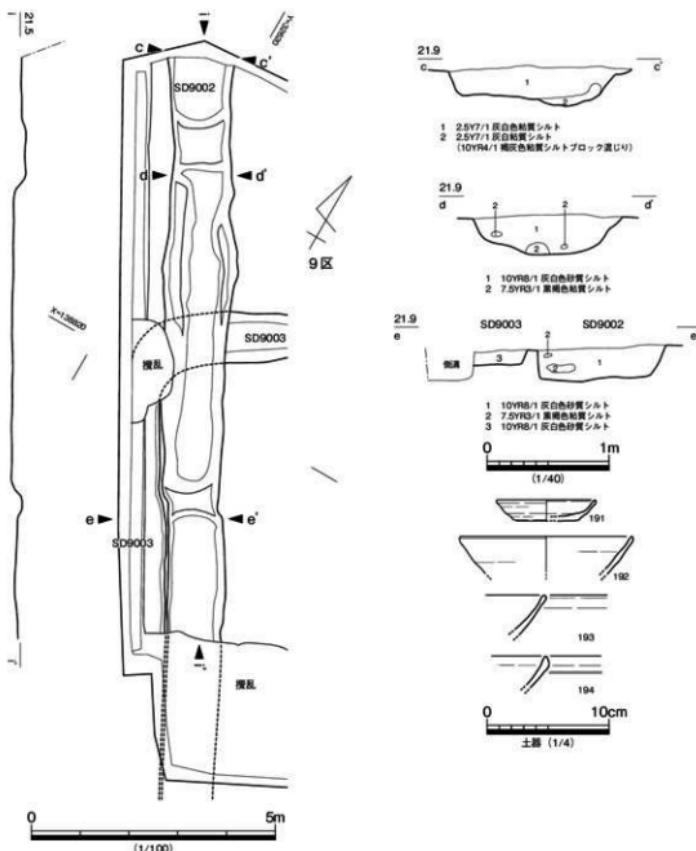
6 区 1 面で検出された溝状遺構である。南から北に向かう。両端はいずれも調査区外に向かうため不明であるが、南の延長線上にある 8 区の溝状遺構 SD8005 と連続すると考えられる。SX6001 は溝幅 0.9 ~ 1.1 m、深さ 0.3 m である。埋土からは弥生土器甕部片、平瓦片、サヌカイト剥片、土器片数点が出土した。連続する溝状遺構 SD8005・SD9002 は 12 ~ 13 世紀と考えられることから、SX6001 も同時期のものと考えられる。



第86図 SX6001・SD8005・9002・9003・11001



第87図 SX6001・SD8005



第88図 SD9002

SD8005（第86・87図）

8区で検出された溝状遺構である。調査区のはば中央を南から北に向かう。両端部とも調査区外に連続し、北端は土坑SK8006と、南部は溝状遺構SD8004と重複し、削平される。北の延長線上にある6区の溝状遺構SX6001、南の延長線上にある9区の溝状遺構SD9002と連続すると考えられる。SD8005は溝幅1.0m、深さ0.2mである。埋土からは須恵器杯(190)のほか須恵器片・土器片が少量出土した。190は土師質であるが、須恵器底部片で、8世紀に属する。遺物からはSD8005は8世紀以降に開削されたことがうかがわれるが、南に連続するSD9002からは12～13世紀の遺物が出土していることから、SD8005は同時期のものと考えられる。

SD9002（第 86・88 図）

9 区 1 面の西部で検出された溝状遺構である。北の延長線上にある 8 区の溝状遺構 SD8005 と南の延長線上にある 11-2 区の溝状遺構 SD11001 に連続する。底面は平坦ではなく、土手状の高まりが 2 箇所ある。溝幅は 1.0 ~ 1.1m、深さは浅いところで、0.2 m、深いところで 0.3 m である。埋土からは土師質土器小皿（191）・杯（192・193）、白磁碗（194）のほか須恵器片・土器片・サヌカイト片が数点出土した。194 は中国産白磁碗で、口縁部は玉縁である。11 世紀後半～12 世紀前半に属する。191 は 13 世紀前半、192・193 は 12 世紀である。これらの遺物から SD9002 は 12 ~ 13 世紀には機能していたと考えられる。

SD9003（第 86 図）

9 区ほぼ中央部、1 面で検出された溝状遺構である。南から北に向かい途中で、東に直角に曲がる。両端は調査区外に連続する。また、直角に曲がる部分には攪乱があり、削平される。また、溝状遺構 SD9002 と重複し、削平される。南から北に向かう部分では溝状遺構 SD9002 と平行する。溝幅は 0.7 ~ 1.0 m、深さ 0.25 m である。遺物は出土しなかったが、SD9002 よりも古いことから、古代～中世前半のものと考えられる。

SD11001（第 86・89 図）

11-1 区・11-2 区西部、1 面で検出された溝状遺構である。南から北に向かう。北の延長線上にある 9 区の溝状遺構 SD9002 に連続する。南部は平面では未検出の部分もあるが、11-1 区南壁に溝の断面が未検出であることから、西壁で検出された溝の断面に連続すると考えられる。また、西壁の観察から西から東に向かう溝状遺構 SD11006 と重複し、SD11001 が先に埋没したことがうかがわれる。埋土からは土師質土器小皿（195 ~ 197）・杯（198・199）、碗（200・201）のほか須恵器片・土器片が少量出土した。これらの遺物から SD11001 は 12 ~ 13 世紀に機能していたと考えられる。

SD11006（第 90・91 図）

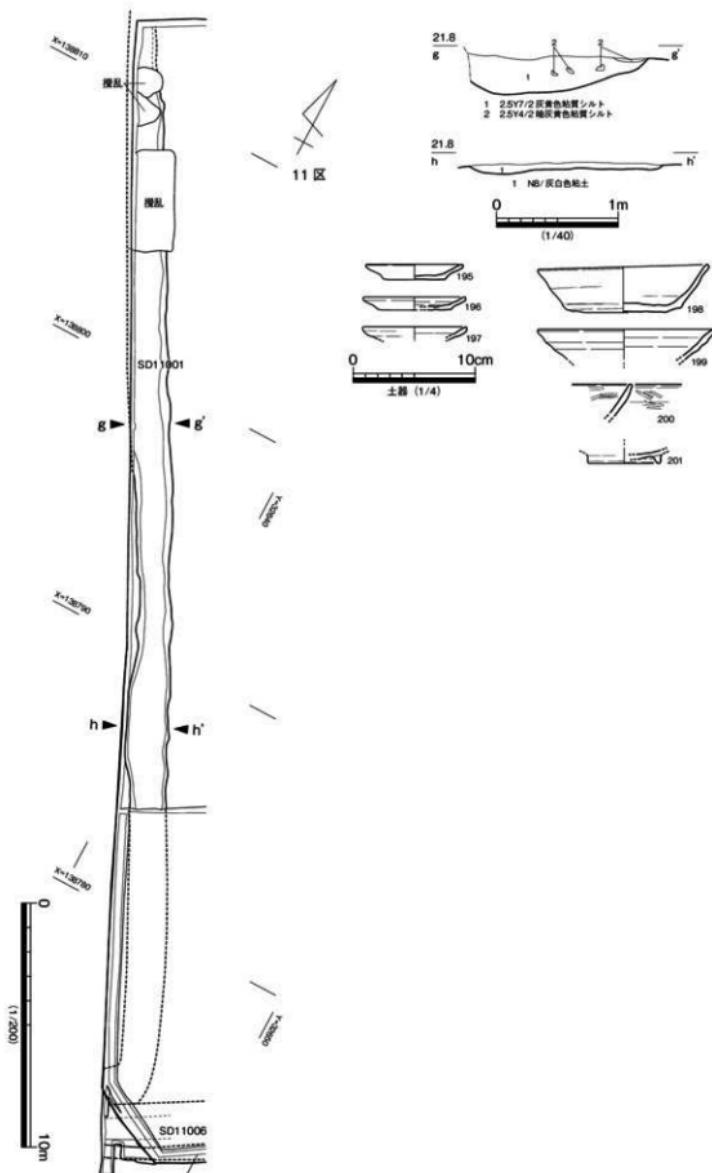
11-1 区南部、1 面で検出された溝状遺構である。西から東に向かう。溝の両端は調査区外に連続する。大部分は平面では未検出であるが、11-1 区西拡張区と東拡張区 1・東拡張区 2 で検出された。SD11001 と調査区西壁付近で、重複する。SD11006 のほうが新しい。西部では幅 1.7 m、深さ 0.2 m、東部では幅 0.8 m、深さ 0.1 m である。埋土からは土師質土器杯（202 ~ 205）・碗（206）、黒色土器碗（207）、土師質土器足釜脚部（208）、不明土製品（209）、丸瓦（210）、平瓦（211）のほか土器片・須恵器片等が出土した。209 は盤または鉢の脚部の可能性が高い。211 は繩目タタキが施される。また、北壁からは平瓦（212・213）が出土したが、これらは SD11006 に伴う可能性が高い。いずれも凸面に格子目タタキが施される。これらの遺物の中には 13 世紀のものを含むことから、SD11006 は同時期に機能していたと考えられる。

SD11007（第 90 図）

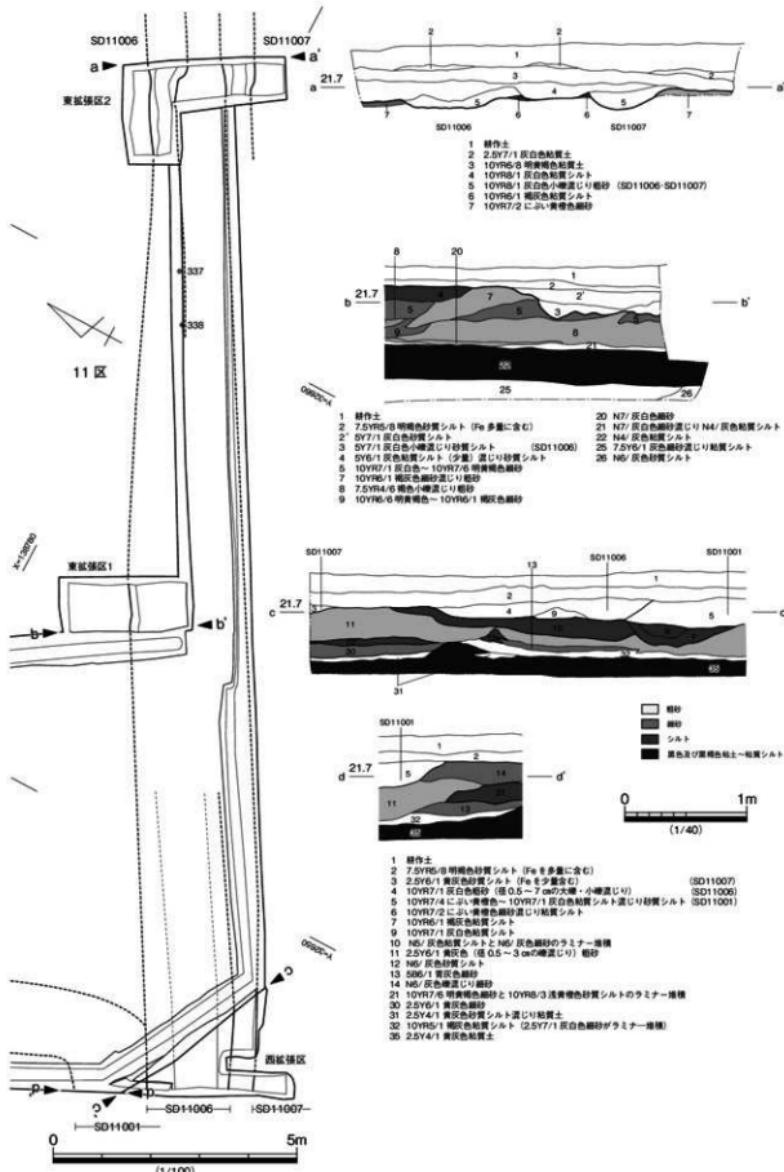
11-1 区南部、1 面で検出された溝状遺構である。西から東に向かう。溝の西・東・南端は調査区外に連続する。大部分は平面では未検出であるが、11-1 区西拡張区と東拡張区 2 で検出された。東拡張区 2 では南端も検出した。この部分では溝幅 0.6 m、深さ 0.15 m である。遺物は出土しなかった。SD11006 と並行した溝であり、規模や埋土が類似することから SD11006 と同時期と考えられる。

SD10001（第 92 図）

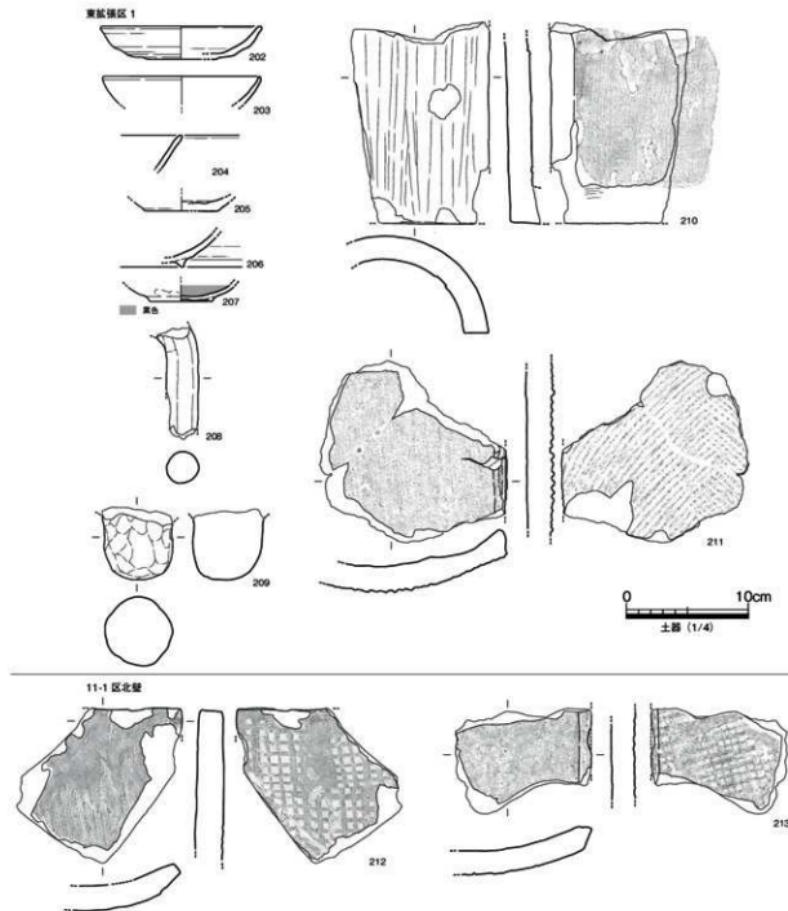
10-1 区から 10-2 区南部の 1 面で検出された溝状遺構である。南西から北東（W30° S）に向かい、周辺の地割に平行する。南部・西部・東部は調査区外に連続する。溝幅は不明であるが、1.8 m 以上で、



第89図 SD11001



第90図 SD11006・11007



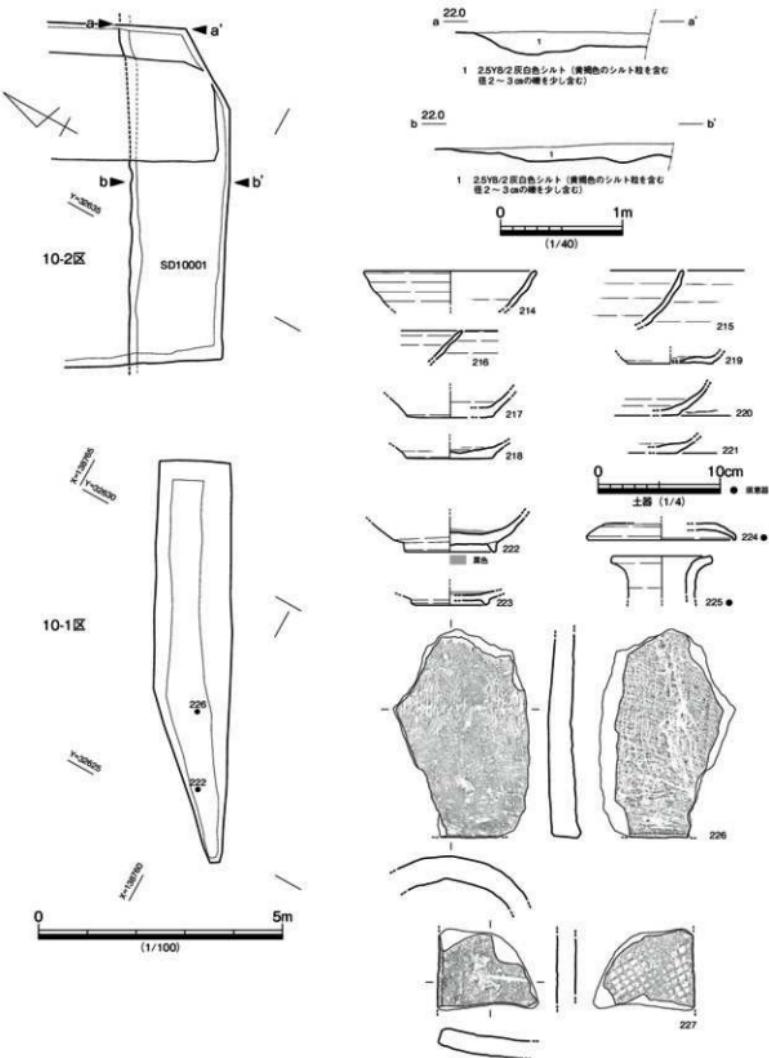
第91図 SD11006 出土遺物

深さ0.1～0.2mである。土師質土器杯（214～221）、黒色土器碗（222・223）、須恵器蓋（224）、須恵器壺口縁部（225）、丸瓦（226）、平瓦（227）のほか土師質土器片・須恵器片が少量出土した。これらの遺物からSD10001は12世紀後半～13世紀前半には機能していたと考えられる。

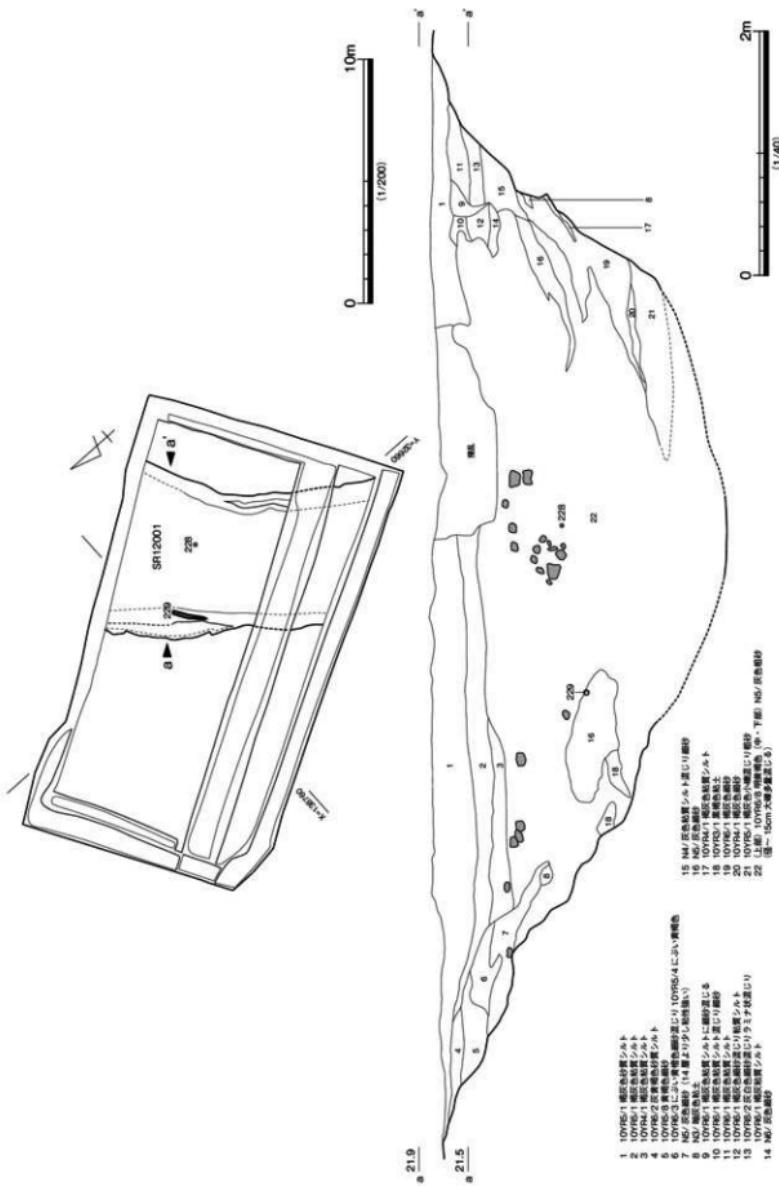
⑤河川跡

SR12001（第93・94図）

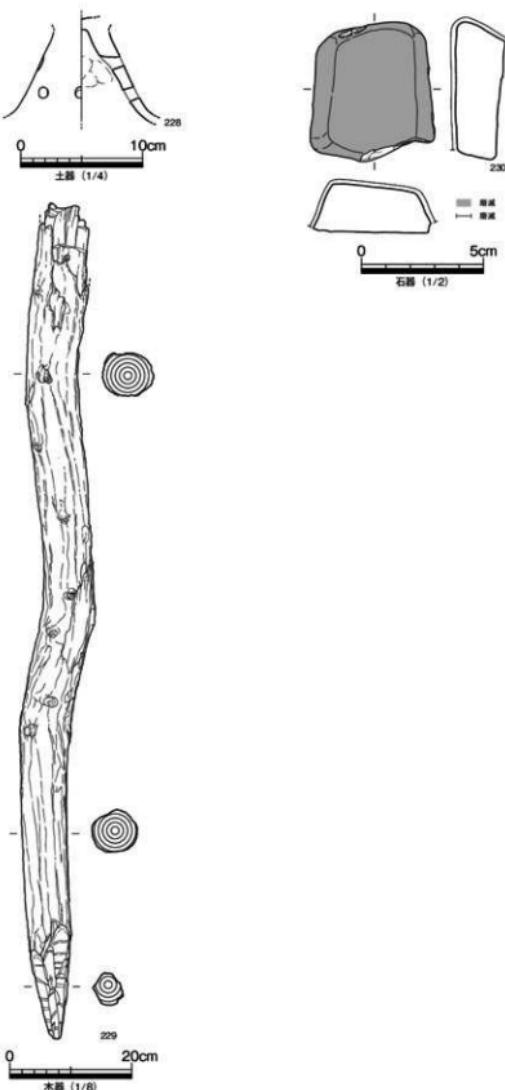
12区南部、1面で検出された河川跡である。南西から北東に向かう。両端は調査区外に連続する。幅



第92図 SD10001



第93図 SR12001



第94図 SR12001 出土遺物

は5.5～7.0m、深さ2.4mである。埋土の大半は礫を含む粗砂である。埋土から弥生土器高杯脚部(228)・木杭(229)、砥石(230)のほか弥生土器が数点出土した。230は安山岩製である。228は弥生時代後期前半に属するが、SR12001は耕作土直下で検出されたこと等から、中近世に機能したと考えられる。

4. 遺構に伴わない遺物（第95～99図）

231～247は1区から出土した。いずれもにぶい黄褐色粘質シルト層（西壁6層）から出土したものである。231は土師質土器小皿で、底部外面に回転ヘラ切りが施される。11～12世紀に属する。232～234は土師質土器杯である。10世紀中頃～11世紀初頭に属する。235は黒色土器椀である。12世紀前半に属する。236～239は須恵器高台付杯、240は須恵器杯である。236～238は8世紀中頃～後半、239は9世紀中頃、240は10世紀前半に属する。241・242は須恵器壺で、8～9世紀に属する。243は土師質土器足釜である。14～15世紀のものであろう。244はイイダコ壺、245は丸瓦、246・247は平瓦である。凸面には246は縄目タタキ痕、247には格子タタキ痕が残る。

1区では11世紀後半～12世紀初頭のSB1001を検出したが、包含層からは、おもに、9世紀中頃～12世紀前半の遺物が出土した。2区で当該期の掘立柱建物や柱穴群を検出しており、1区周辺でも当該期の遺構が存在した可能性があろう。また、包含層からは8世紀中頃～後半の須恵器が出土したが、名跡では当該期の遺構は検出しなかった。北側からの流入の可能性が考えられる。瓦は2区柱穴等からも出土しており、北側に所在する法勅寺との関連が注目される。

248～298は2区から出土した。248～254・290は2区南部、鉄酸化沈積層の0.1～0.2m下に堆積する黒褐色シルト層から出土したものである。2区南部でやや集中して出土した（第5章第110図参照）。248は器種不明。白色砂粒を多く含む、250～254と類似する胎土である。外面が摩滅するため調整は不明瞭であるが、刷毛目状の調整が見られる。250～254と胎土が類似することから、弥生土器の可能性が考えられる。249～254は弥生時代前期の土器である。249は弥生時代前期前半の壺の頭部から体部である。頭部と体部の境には段が見られる。250～254は底部である。いずれも白色砂粒を多量に含む。290はサヌカイト製の石匙である。

255～276、278～289、291～295は2区で、南部では灰褐色粘質シルト層（黒褐色シルト層の上に堆積する土層）、北部では灰褐色シルト・橙色シルト層（鉄沈下堆積層の下、明黄褐色粘質の上に堆積する土層）から出土したものである。古墳時代中期～飛鳥時代の遺構の上面に堆積し、平安時代以降の遺構に切り込まれる土層である。255は土師器高杯。5世紀後半。256・257は須恵器杯蓋。258～261は須恵器杯身。262・263は須恵器高杯脚部。258が6世紀初頭と考えられ、やや古い様相を示すものの、概ね6世紀後半～7世紀前半と考えられ、2区堅穴建物や掘立柱建物に近い時期のものと考えられる。264は土師質土器小皿、265・266・268は土師質土器杯、268は台付杯である。267・269～271は土師質土器椀。267は円盤状高台を持つものである。272～274は須恵器杯。273・274は高台付杯である。275は黒色土器椀。276は緑釉陶器椀。貼り付け輪高台で濃い緑色の釉を掛ける。近江産。264～274は概ね10世紀前半～11世紀中葉頃の遺物で、2区の柱穴群の時期に近い時期である。278は土師質土器足釜口縁部。15世紀中葉～16世紀前半。279は土師質土器足釜の脚部。280～284は棒状土錐。285は平瓦。凸面に格子叩き痕を残す。286は鉄釘。287・288はサヌカイト製石鎚、289はサヌカイト製打製石剣。291・292はサヌカイト製スクレーパー、293～295はサヌカイト剥片である。

277・296～298は2区攪乱土から出土した。277は土師質土器鍋で13～14世紀に属する。296は土

師質土器椀、297は土師質土器足釜で、14世紀頃と考えられる。

299～322は3区から出土した。299～301・304・307～311は3-1区の酸化沈積層の下から第1遺構面である黒褐色粘質土上面までの間に堆積する土層（西壁3・4・11・12層）、302・303・316・318は3-2区の酸化沈積層の下から第1遺構面である黒褐色粘質土上面までの間に堆積する土層（西壁4・10・11・12層）から出土したものである。299・300は弥生土器壺、301～304は弥生土器甕、307は弥生土器底部である。299～304は弥生時代後期末～古墳時代初頭と考えられる。308～310は須恵器杯、311は須恵器の壺頭部片である。308～310は7世紀代に属する。316はサヌカイト製石鏡、318はサヌカイト製石庖丁で半分欠損する。

305・317は3-1区黒褐色粘質土（第2遺構面の上に堆積する土層）、306は3-2区黒褐色粘質土から出土したものである。305・306は弥生土器甕で、弥生時代後期末から古墳時代前期に属する。317はサヌカイト製石鏡である。黒褐色粘質土層からの出土遺物は少なかったが、概ねこの時期の堆積物と考えられ、黒褐色粘質土層の下面で検出する遺構の上限を示すと考えられる。

312・314・315は3-1区の機械掘削中に、313は3-2区南壁から、319・321・322は3-2区の攪乱から、320は3-1区の攪乱から出土した。312は土師質土器擂鉢で、17世紀初頭のものである。313は肥前系磁器皿である。蛇の目四型高台で18世紀末～19世紀前半に属する。314は肥前産陶胎染付椀で18世紀前半、315は備前焼擂鉢で、18世紀後半に属する。319は巴文軒丸瓦瓦当。320は道具瓦の一種か。凹面には細かい布目痕跡が残り、凸面は繩目タタキ痕をナデ消す。平瓦に近い形状だが、下端部は玉縁状に段をつくる。321は平瓦。凸面には繩目タタキ痕を残す。322は瀬戸美濃産陶器水甕である。18世紀後半から19世紀代に属する。

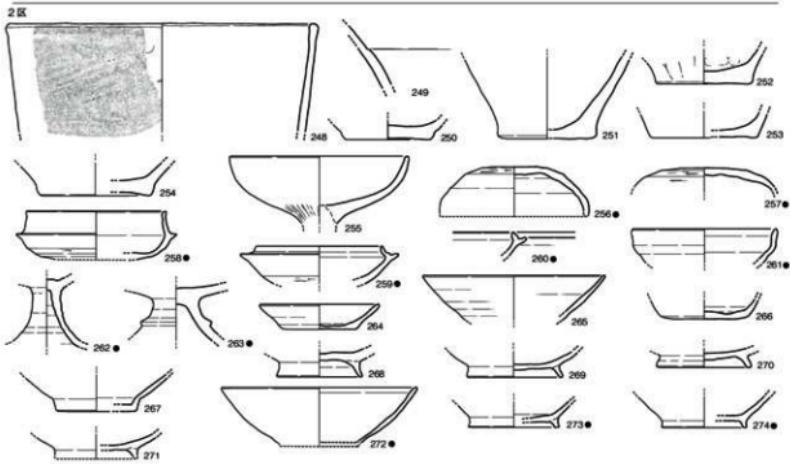
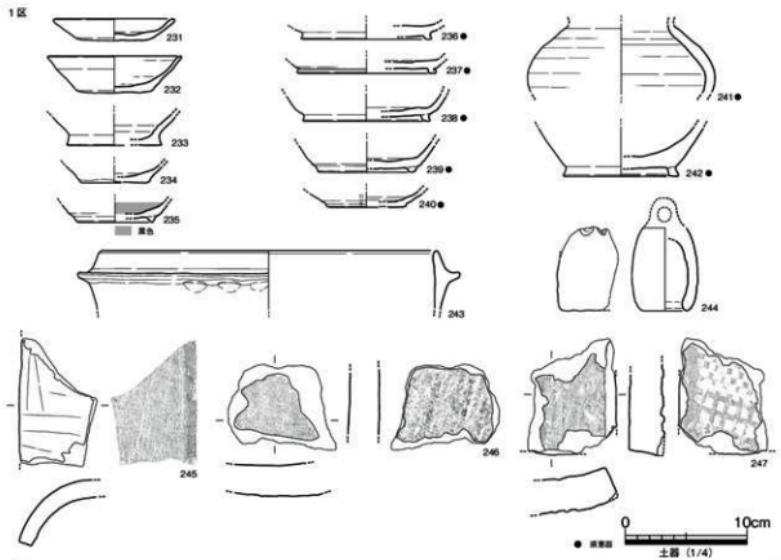
323～328は4区から出土した遺構に伴わない遺物である。323～327は第1遺構面の下に堆積する黒褐色粗砂混じり粘質土から出土した。323は弥生土器壺口頭部、324・325は弥生土器甕口縁部である。323は弥生時代後期、324・325は弥生時代後期後半に属する。326・327はサヌカイト製石鏡である。328は攪乱から出土した。陶器碗である。肥前産陶胎染付椀で、18世紀前半に属する。

329は5区の攪乱から出土した。サヌカイト製石鏡である。

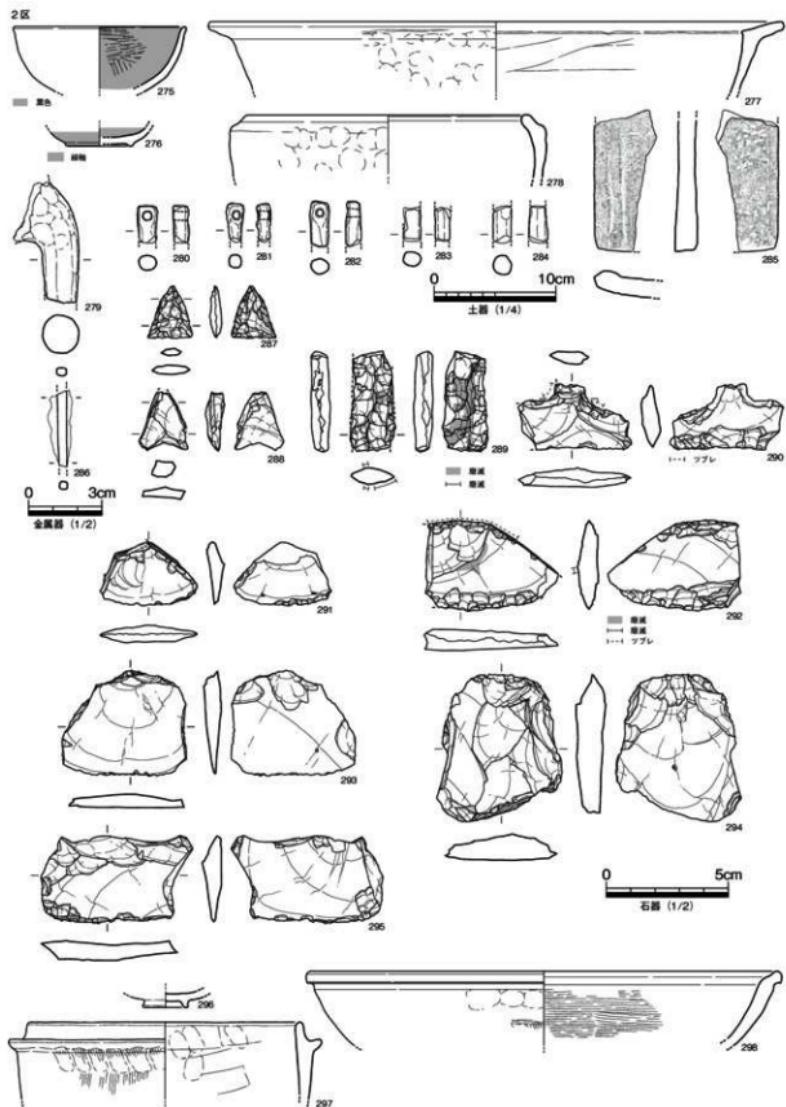
330は6区の南壁、331・332は6区の攪乱から出土した。330・332は陶器擂鉢である。330は備前焼、332は堺産の可能性が高い。18世紀後半に属する。331は平瓦である。凹面には布目痕、凸面には繩目タタキ痕を残す。

333～345は8区の攪乱から出土した。333は土師質土器皿。底部外面に回転ヘラ切り痕が残る。古代後半から中世に属する。334～337は土師質土器足釜の脚部。13～16世紀に属する。338は磁器碗。型紙摺りで、明治時代に属する。339は肥前系磁器椀で、見込みに蛇の目釉剥ぎが施される。19世紀に属する。340・341は肥前系陶器皿。340は内外面に灰釉が施される。見込みには蛇の目釉剥ぎ、体部には刷毛目が見られる。341は内外面に刷毛目が施される。ともに17世紀後半から18世紀前半に属する。342は陶器壺の体部片。内外面とも赤茶色の釉を施す。343は土師質土器甕の口縁部片。344は土師質土器七厘のサナ。円形の孔が3個所に残る。345は丸瓦である。内面に棒状の叩き痕を残す、近世以降の瓦である。

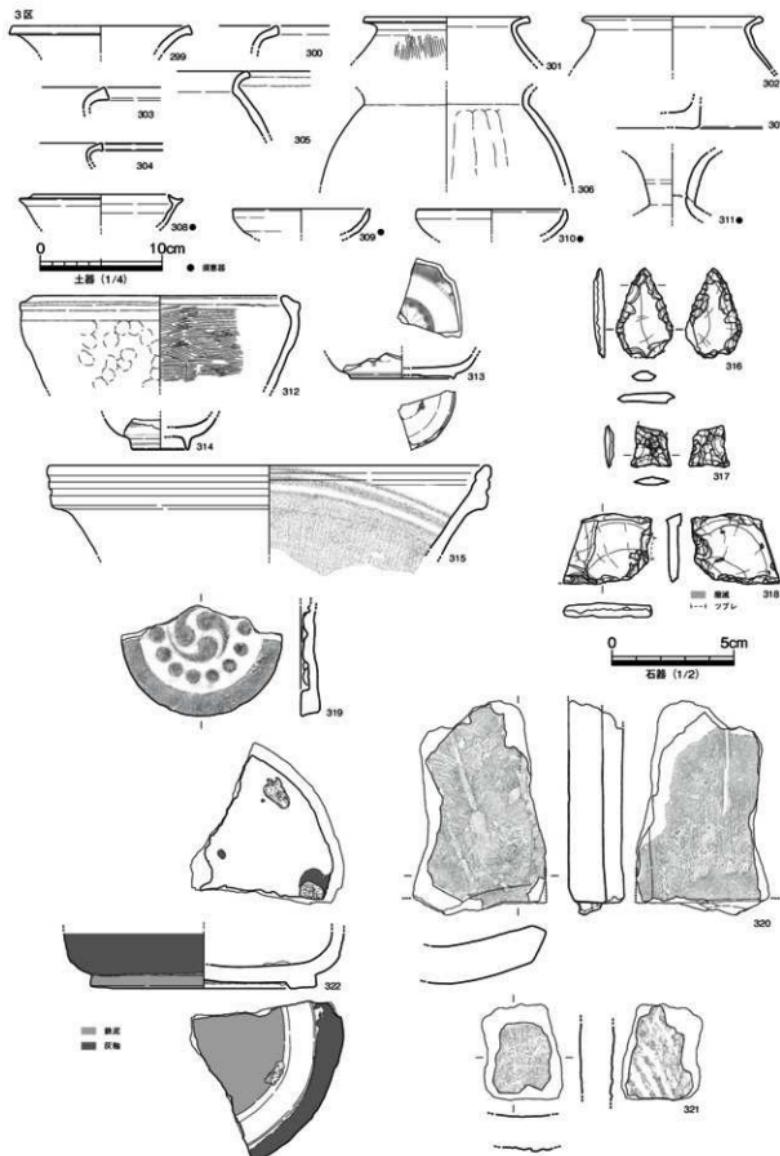
346～350は9区から出土した。346は第2遺構面の黒褐色粘土層上面で出土した。サヌカイト製石鏡である。347～350は攪乱から出土した。347は土師質土器焰烙の口縁部、348は土師質土器底部片、349は肥前系磁器椀、350は土師質土器甕小片である。いずれも江戸時代後半に属する。



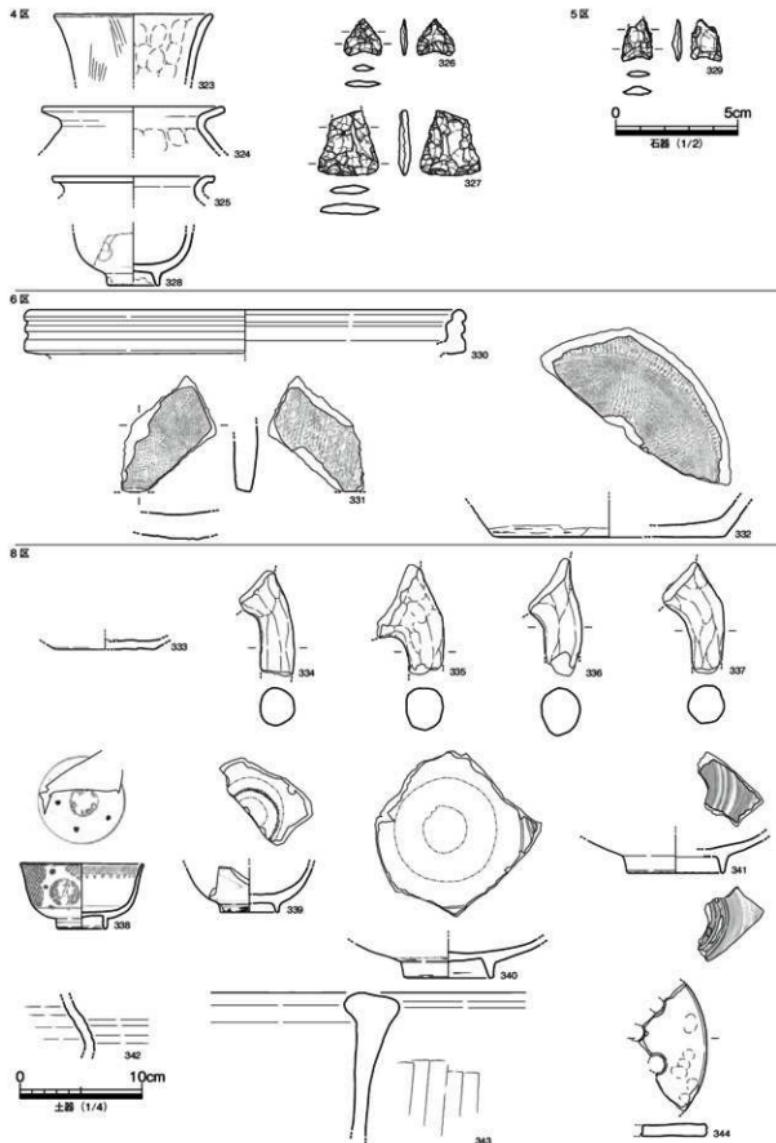
第95図 遺構に伴わない遺物 1



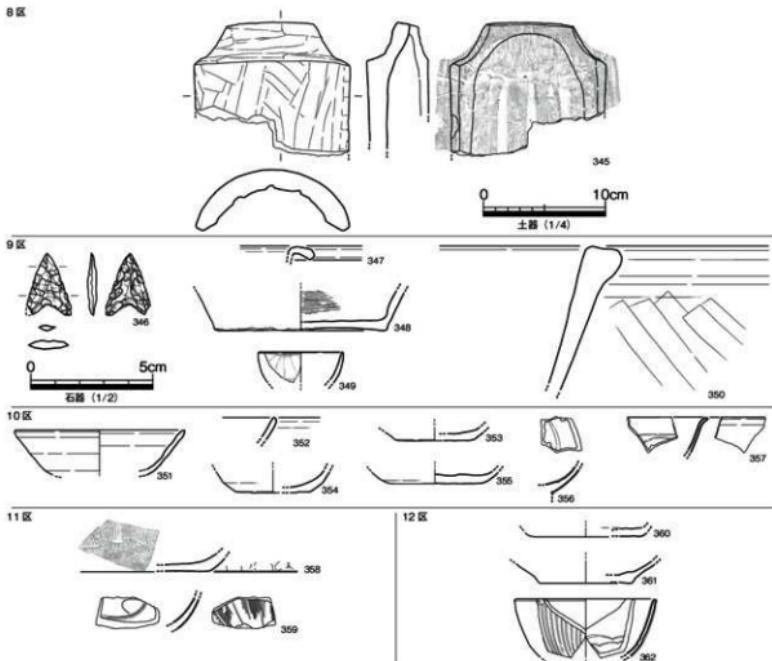
第96図 遺構に伴わない遺物2



第97図 遺構に伴わない遺物3



第98図 遺構に伴わない遺物 4



第99図 遺構に伴わない遺物 5

351～357は10-2区から出土した。いずれも調査区壁切等で出土した。SD10001に関わる遺物が含まれる可能性が高い。351は土師質土器杯で、12世紀後半から13世紀後半、352～355は土師質土器杯で中世に属する。356・357は中国産青磁碗である。356は底部片で、分厚い。357は口縁部片で、端反りである。いずれも龍泉窯系。出土遺物は概ね12世紀後半～13世紀代のもので、SD10001の時期に近い。

358・359は11区から出土した。いずれも表土から出土した。358は土師質土器擂鉢の底部片で、14～16世紀に属する。359は中国産青磁碗で、外面には櫛目文、内面には沈線による文様が施される。同安窯系で、12世紀に属する。

360～362は12区から出土した。いずれも調査区の壁等で出土した。360・361は土師質土器杯で、中世のものである。362は中国産青磁碗で、線描き蓮弁文が施される。15世紀ごろのものである。

第4章 自然科学的分析の成果

第1節 はじめに

名遺跡では耕作土・酸化沈積層の下に細砂・粗砂などの堆積がみられた。これらの下層から粘質土で構成された細長い高まりが数条検出された。細長い高まりは方形に巡ることから、水田畦畔跡と考えたが、その検証を行うため土壤を採取し、株式会社イビソクにプラントオパール分析を委託した。その結果、水田跡が検出された地点の土層から多量のプラントオパールが検出され、自然科学的分析からも水田跡を裏付けることができた。以下の本文は株式会社イビソク（技術協力・執筆（株）パレオ・ラボ 森 将志）が作成したものであるが、採取地点土層名など一部を改めて、掲載した。

第2節 プラントオパール分析

1. はじめに

名遺跡において、古環境に関する手掛かりを得るために、プラント・オパール用の試料が採取された。以下では、試料について行ったプラント・オパール分析の結果を示し、遺跡周辺のイネ科植物相について検討した。

2. 試料と方法

分析試料は、12区の4試料（試料No.1～4）、3-1区の4試料（試料No.5～8）、7-2区の3試料（試料No.9～11）、10-2区の12試料（試料No.12～23）、10-3区の8試料（試料No.24～31）の合計31試料（第100～103回）である。これらの試料について、以下の手順で分析を行った。

秤量した試料を乾燥後、再び秤量する（絶対乾燥重量測定）。別に試料約1g（秤量）をトルビーカーにとり、約0.02gのガラスピーブ（直径約0.04mm）を加える。これに30%の過酸化水素水を約20～30cc加え、脱水機物処理を行う。処理後、水を加え、超音波洗浄器による試料の分散後、沈降法により0.01mm以下の粒子を除去する。この残渣よりグリセリンを用いて適宜プレパラートを作製し、検鏡した。同定および計数は、機動細胞珪酸体由来するプラント・オパールについて、ガラスピーブが400個に達するまで行った。

また、同定・計数された各植物のプラント・オパール個数とガラスピーブ個数の比率から試料1g当りの各プラント・オパール個数を求め（表2）、分布図に示した（表3）。このうち、いくつかの分類群については杉山（2000）の換算係数（機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重）を用いて植物体生産量を算出した（表2）。植物体生産量とは、一定面積で層厚1cmの堆積期間にそこで生産された植物の乾燥重量（kg/m²·cm）であり、試料1g中の植物珪酸体個数に試料の仮比重（g/

表1 分析試料一覧

試料No.	調査区	地点
1	12区	東壁
2		
3		
4		
5	3-1区	南壁
6		
7		
8		
9	7-2区	東壁
10		
11		
12		
13	10-2区	西壁
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23	10-3区	東壁
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
31		

cm³：ここでは 1.0 と仮定）と換算係数を乗じて求める（杉山、2000）。さらに、保存状態の良好な植物珪酸体を選んで写真を撮り、第 104 図に載せた。

3. 結果

31 試料を検査した結果、イネとネザサ節型、ササ属型、他のタケ亜科、ヨシ属、キビ族、ウシクサ族の 7 種類の機動細胞珪酸体が確認できた。全体的に産出が目立つのが、ネザサ節型機動細胞珪酸体であり、19,100 ~ 817,900 個/g の産出量を示す。その他では、イネ機動細胞珪酸体とキビ族機動細胞珪酸体、ウシクサ族機動細胞珪酸体の産出が目立ち、イネ機動細胞珪酸体は 0 ~ 59,200 個/g、キビ族機動細胞珪酸体は 10,900 ~ 190,900 個/g、ウシクサ族機動細胞珪酸体は 13,600 ~ 269,300 個/g の産出量を示す。また、イネの植物体生産量は 0 ~ 17,4048 kg/m²·cm、ネザサ節型の植物体生産量は 0.9168 ~ 39,2592 kg/m²·cm、ヨシ属の植物体生産量は 0 ~ 12,6831 kg/m²·cm、ウシクサ族の植物体生産量は 1,6864 ~ 33,3932 kg/m²·cm を示した。

表 2 試料 1g 当りのプラント・オバール個数および植物体生産量

	イネ	ネザサ節型	ササ属型	他のタケ亜科	ヨシ属	キビ族	ウシクサ族	ホイント 型珪酸体	不明
	(個/g)	(kg/m ² ·cm)	(個/g)	(kg/m ² ·cm)	(個/g)	(個/g)	(kg/m ² ·cm)	(個/g)	(kg/m ² ·cm)
No.1	4,300	12642	173,100	8,3088	8,700	2,600	5,200	32812	39,100
No.2	26,200	7,7028	234,900	112,752	4,400	3,500	3,500	2,2065	61,100
No.3	35,200	10,3488	399,800	19,1904	37,000	21,300	13,000	8,2030	89,800
No.4	30,700	9,0258	220,400	10,5792	4,800	6,700	1,900	1,1899	53,700
No.5	1,800	0,5292	73,600	35,328	9,600	4,400	9,600	6,0576	41,200
No.6	5,200	15,288	64,900	31,152	5,200	2,600	1,700	1,0727	32,000
No.7	4,300	12642	135,400	6,4992	17,400	6,900	10,400	6,5624	26,000
No.8	800	0,2322	261,300	125,424	10,300	15,800	4,000	2,2340	43,500
No.9	2,800	0,8222	102,000	4,8960	9,400	6,600	10,300	6,4993	48,700
No.10	9,000	26,460	312,800	150,144	25,200	6,300	16,200	10,2222	82,900
No.11	20,000	58,800	453,000	217,440	59,100	31,600	7,500	4,7325	82,400
No.12	3,600	10,658	64,300	3,0864	2,700	1,800	1,800	1,1358	24,500
No.13	1,800	0,5292	19,100	0,9168	0	1,800	0	0,0000	10,900
No.14	6,700	19,968	169,000	81,120	7,600	5,700	20,100	12,6831	36,300
No.15	56,600	166,400	528,600	25,3728	56,600	22,000	15,700	9,9007	19,000
No.16	3,600	10,658	141,000	6,7680	12,700	3,600	9,900	6,2469	38,900
No.17	8,300	24,402	143,600	6,8928	0	4,600	7,800	4,6994	24,900
No.18	59,200	17,4048	385,800	185,184	52,100	16,800	10,900	6,6986	96,200
No.19	34,000	9,9660	527,600	25,3248	16,500	12,900	3,700	2,3347	75,600
No.20	7,900	23,228	185,900	89,232	15,900	11,500	18,500	11,6735	37,000
No.21	9,200	27,048	249,200	119,616	11,000	22,100	15,600	9,8436	67,100
No.22	23,100	6,7914	448,200	21,5136	59,000	8,300	8,300	5,2373	117,000
No.23	45,200	13,2888	817,900	39,2592	65,300	34,800	7,800	4,9218	131,400
No.24	1,800	0,5292	72,800	3,6944	5,300	900	5,300	3,3443	20,200
No.25	900	0,2646	58,200	2,7398	9,000	1,800	15,200	9,5912	26,900
No.26	6,300	18,822	124,700	5,9856	12,600	9,000	8,100	5,1111	24,200
No.27	2,700	0,7938	133,500	6,6080	8,100	10,700	9,00	0,5679	32,200
No.28	11,900	3,6966	369,500	17,7360	14,600	13,700	13,700	8,6647	62,200
No.29	4,600	1,3234	137,900	66,192	15,600	19,300	11,000	6,9410	26,700
No.30	800	0,2322	63,100	3,0288	10,800	6,900	3,900	2,4609	16,900
No.31	0	0,0000	69,700	3,3436	15,600	1,800	11,000	6,9410	31,200
									21,100
									26,164
									900
									900

4. 考察

まず、10-2 区の西壁について見ると、水田基盤を構成する黒褐色粘土層（No.15、19、22、23）でイネ機動細胞珪酸体の産出が確認された。イネ機動細胞珪酸体の産出量については、試料 1g 当り 5,000 個以上が検出された地点の分布範囲と、実際の発掘調査で検出された水田址の分布がよく対応する結果が得られており（藤原、1984）、試料 1g 当り 5,000 個が水田土壤か否かを判断する目安とされている。この目安に照らし合わせると、黒褐色粘土層（No.15、19、22、23）から産出するイネ機動細胞珪酸体の産出量は、いずれの試料も水田土壤の目安を大幅に上回るため、プラント・オパール分析の結果からは、この土層は水田土壤であると指摘できる。これらの試料（No.15、19、22、23）では、他の分類群の機動細胞珪酸体も多く産出しており、ネザサ節型機動細胞珪酸体やキビ族機動細胞珪酸体、ウシクサ族機動細胞珪酸体の産出が目立つ。以上の産出状況から、10-2 区西壁周辺の開けた場所にネザサ節のササ類、キビ族、ウシクサ族などが分布を広げていたと思われる。キビ族に関しては、タイヌビエなど水田に関わりのある種も含まれている可能性がある。また、抽水植物のヨシ属の産出も見られ、水田周辺や低地などの湿地の環境には抽水植物のヨシ属が生育していたと考えられる。

一方、10-3 区東壁の黒褐色粘土層に相当する 9 層から採取した No.31 では、10-2 区西壁に比べて、各分類群の植物珪酸体の産出量が少ない。こうした相違は、場所によるイネ科植物の分布の違いを反映している可能性や、植物珪酸体の堆積過程の違いを反映している可能性などが考えられる。

10-2 区西壁の黒褐色粘土層のすぐ上位に堆積する灰白色粘質土と灰白～白色極細砂が混じる土層から採取した試料 No.14、17、18、21 は黒褐色粘土層で産出した各分類群の産出量は黒褐色粘土層よりも少ない。

また、これらの試料におけるイネ機動細胞珪酸体は黒褐色粘土層よりも産出量は減少するものの、いずれも水田土壤の目安を越えており、プラント・オパール分析の結果も水田の存在を裏づける。これらの上位から採取された No.12、13、16、20 のイネ機動細胞珪酸体は、No.20 以外は産出量が水田土壤の目安に届いていない。10-3 区東壁の No.24、25、26 では、No.26 において水田土壤の目安を上回るもの、No.24 と No.25 ではイネ機動細胞珪酸体の産出量が少ない。

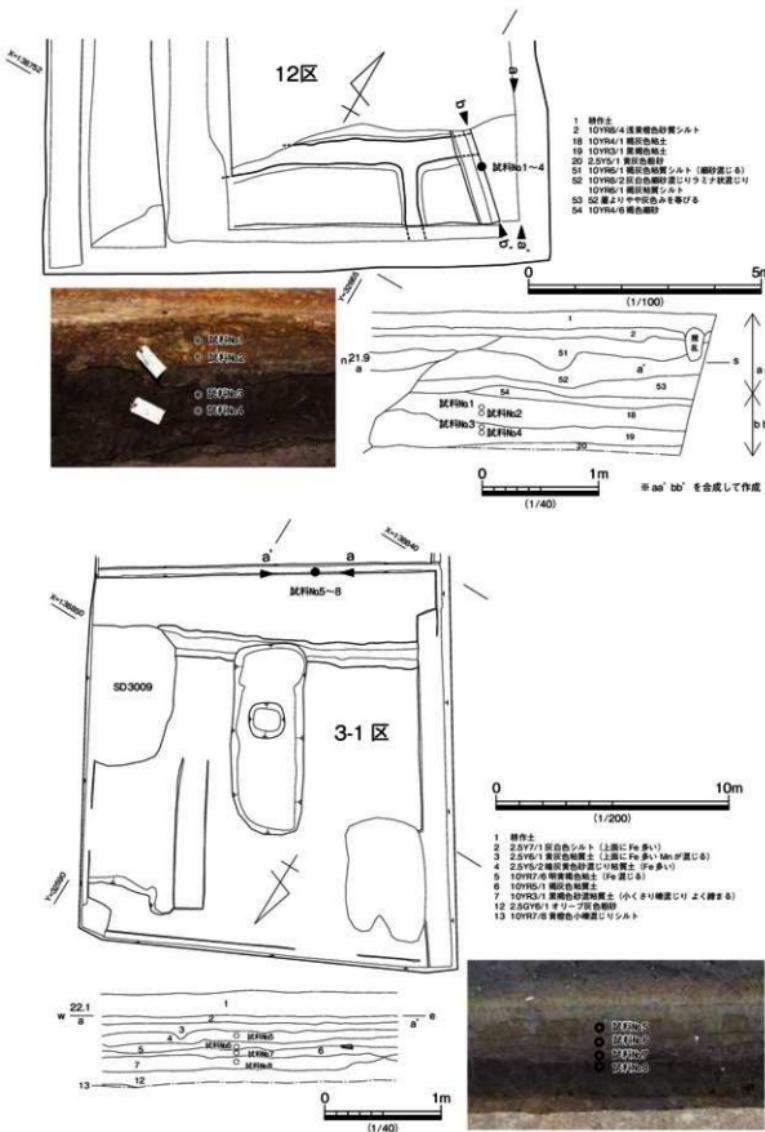
以上、10-2 区・10-3 区の層準について見てきたが、それ以外の調査区で、特徴的な産出傾向を示すのが 12 区である。12 区では、黒褐色粘土層（No.3、4）でイネ機動細胞珪酸体が、35,200 個/g と 30,700 個/g の産出量を示している。

10-3 区東壁の No.28、29、30 や、3-1 区 No.5～8 では、イネ機動細胞珪酸体をはじめ、ネザサ節型やキビ族、ウシクサ族の機動細胞珪酸体が上位層に向かって増加傾向を示しており、時期を経るにしたがって、これらのイネ科植物が分布を広げていた可能性がある。3-1 区の No.7、8 と No.5、6 では、ネザサ節型機動細胞珪酸体以外の分類群の産出状況に大きな違いはみられないが、ネザサ節型機動細胞珪酸体については、上層にかけて減少しており、ネザサ節のササ類は分布を縮小していた可能性がある。

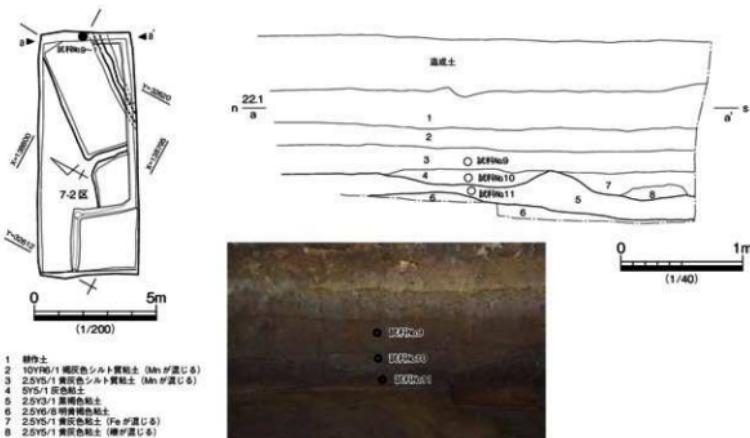
なお、7-2 区東壁の 3 試料（No.9～11）はイネやネザサ節型、ササ属型、キビ族、ウシクサ族などの機動細胞珪酸体が上位層に向かって減少傾向にあり、植物珪酸体の堆積過程か、イネ科植物の分布に変化があった可能性が考えられる。（技術協力・執筆（株）パレオ・ラボ 森 将志）

引用文献

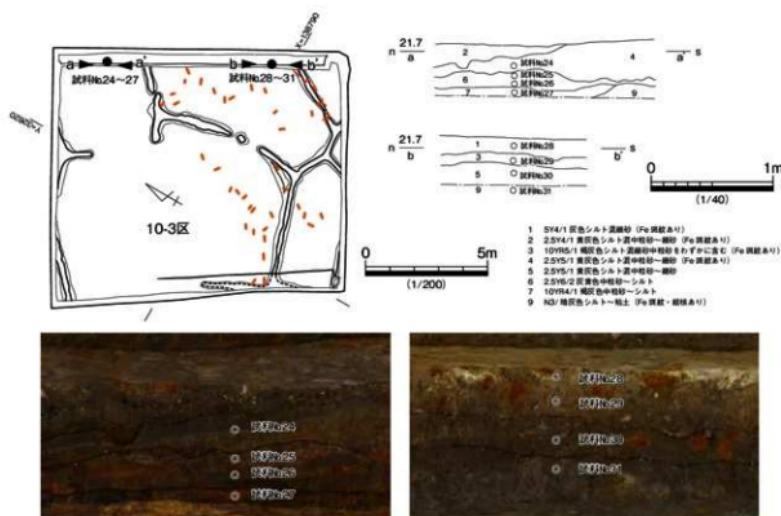
- 藤原宏志（1984）プラント・オパール分析法とその応用－先史時代の水田址探査－、考古学ジャーナル、227、27。
杉山真二（2000）植物珪酸体（プラント・オパール）、辻誠一郎編「考古学と植物学」：189-213、同成社。



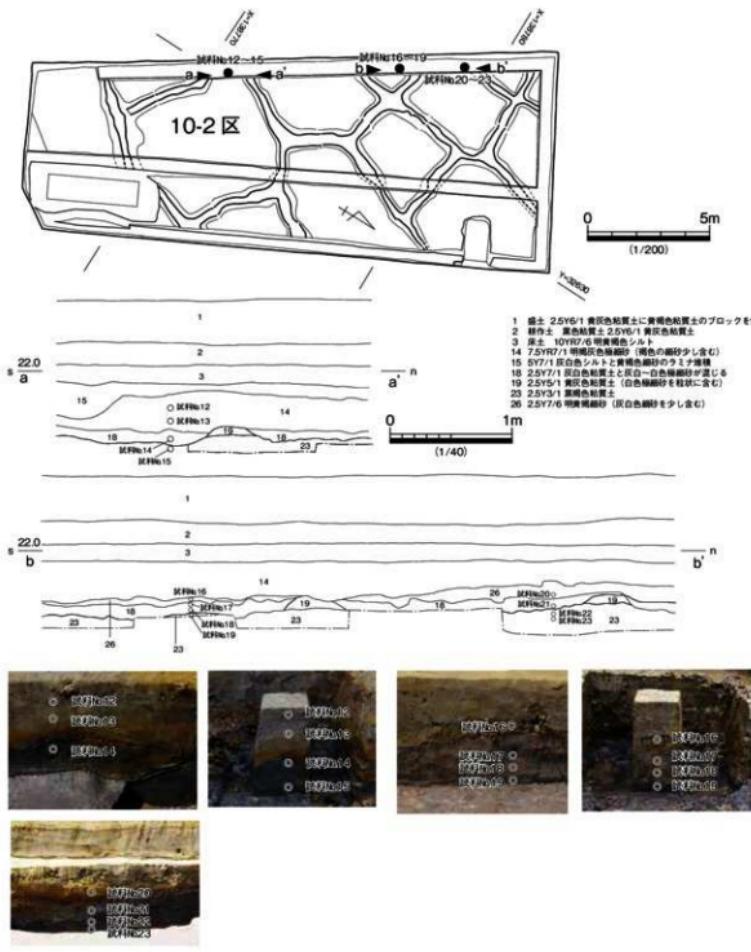
第100図 試料No. 1~8 12区東壁 3-1区南壁



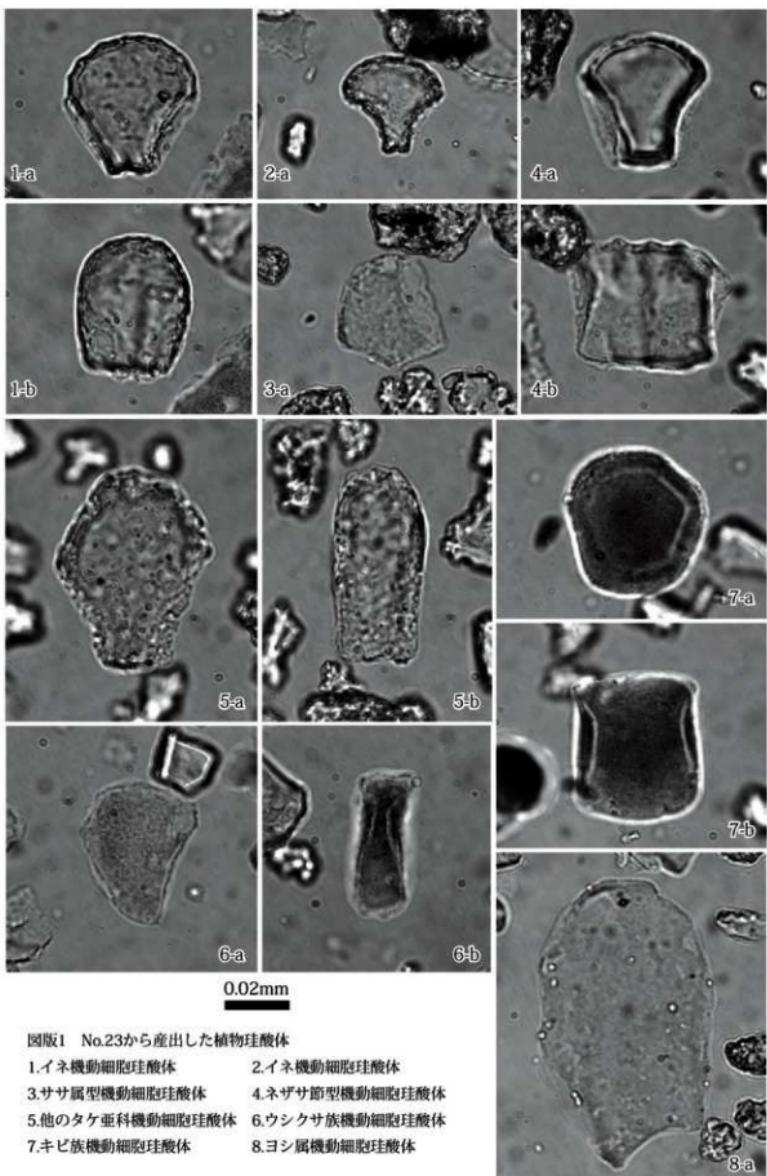
第101図 試料No. 9～11 7-2区東壁



第102図 試料No.24～31 10-3区東壁



第103図 試料No.12～23 10-2区西壁



図版1 No.23から産出した植物珪酸体

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1.イネ機動細胞珪酸体 | 2.イネ機動細胞珪酸体 |
| 3.ササ属型機動細胞珪酸体 | 4.ネザサ節型機動細胞珪酸体 |
| 5.他のタケ亜科機動細胞珪酸体 | 6.ウシクサ族機動細胞珪酸体 |
| 7.キビ族機動細胞珪酸体 | 8.ヨシ属機動細胞珪酸体 |

第 104 図 No.23 から算出した植物珪酸体

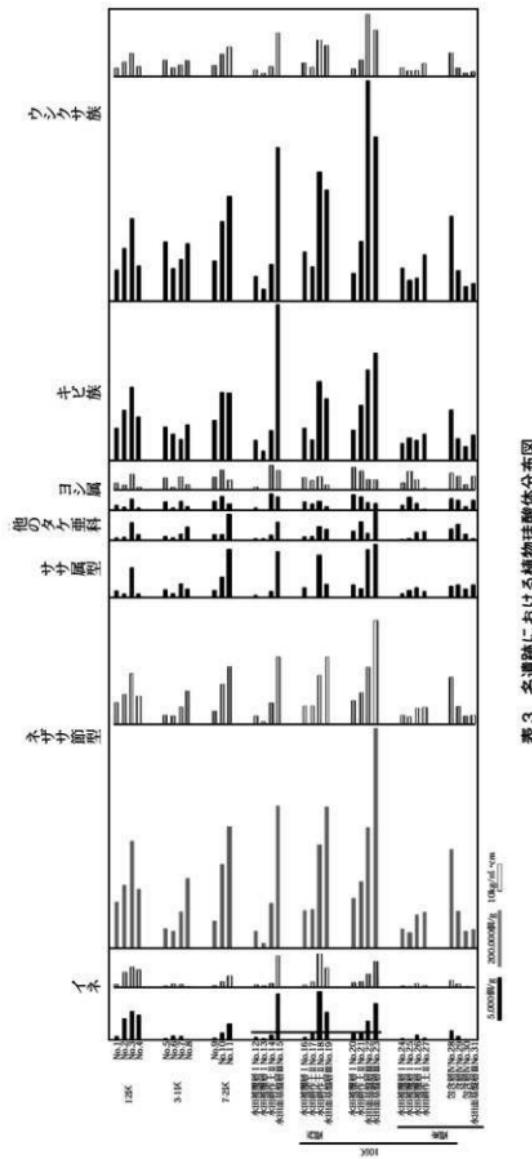


表3 名遺跡における植物珪酸体分布図

第3節 銅鏡の材質分析

名遺跡から出土した銅鏡（107）の保存処理を行う前に鉛同位体比分析用の試料採取のため、本体・破片の4か所について蛍光X線定性分析による材質分析を行った。

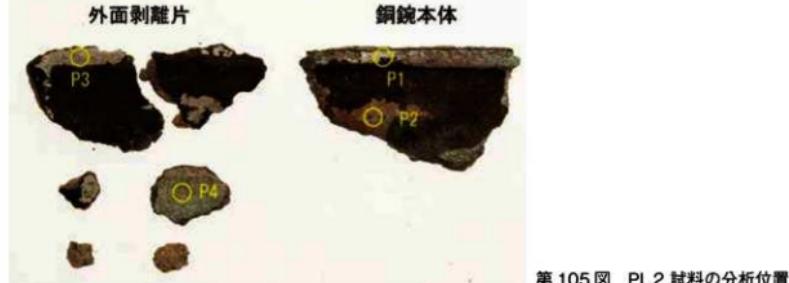
分析装置には、オリンパス株式会社製のハンドヘルド蛍光X線分析計 VANTA M series を使用した。装置の仕様は、X線管が最大 50kV、800 μA のロジウム (Rh) ターゲット、X線照射径が 8mm または 4mm、X線検出器は SDD 検出器である。また、8ポジションの自動選択フィルタが内蔵されており、S/N 比の改善が図れる。検出可能元素はマグネシウム (Mg) ~ウラン (U) である。

測定条件は、Alloy Plus Extra メソッド、管電圧 50kV、測定時間 (s) がビーム 1 12s・ビーム 2 14s、管電流自動設定、照射径は 4mm である。試料室内雰囲気は大気に設定した。FP 法による半定量分析を装置内蔵ソフトで行った。

分析の結果、遺物の組成は銅 Cu、鉛 Pb、ヒ素 As、ビスマス Bi を含み、十分な量の鉛 Pb が検出できた。本体で銅 9%~61%、鉛 22%~68%、剥離片で銅 38%~14%、鉛 37%~48% の範囲で検出した。剥離片 2 片の灰白色の部分（第 105 図 P3,P4）からサンプルを採取し、本体は傷つけずに保存処理を実施した。

表 4 銅製品の半定量分析結果 (mass%)

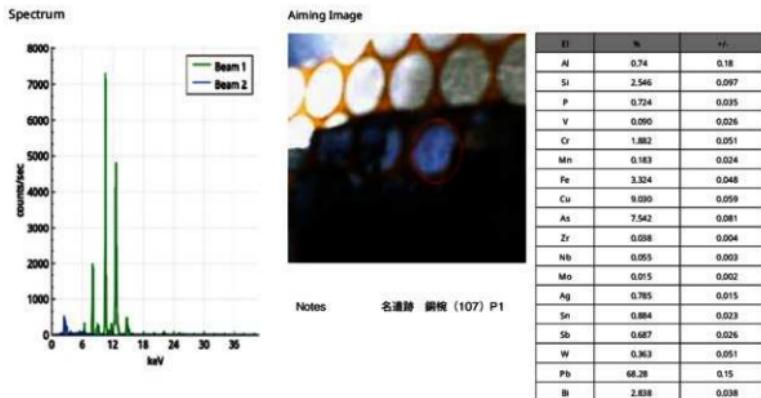
No.	ポイント	Ni ニッケル	Cu 銅	Zn 亜鉛	As ヒ素	Ag 銀	Sn スズ	Sb アンチモン	Au 金	Hg 水銀	Pb 鉛	Bi ビスマス	備考
107	P1	n.a.	9.030	n.a.	7.542	0.785	0.884	0.687	n.a.	n.a.	68.280	2.838	本体
	P2	n.a.	61.290	0.117	8.282	0.736	0.557	0.585	n.a.	n.a.	22.500	3.084	本体
	P3	0.015	14.100	n.a.	10.981	0.732	0.886	0.625	n.a.	n.a.	48.766	3.705	剥離片
	P4	n.a.	38.420	0.074	6.023	1.178	1.114	0.807	n.a.	n.a.	37.934	4.180	剥離片



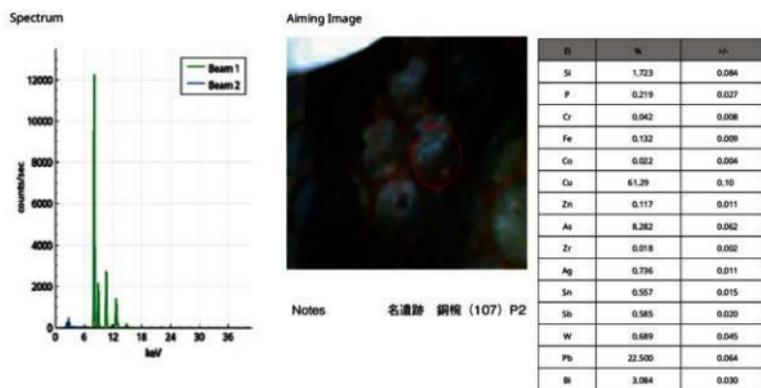
第 105 図 PL.2 試料の分析位置

VANTA M series	
管球	最大電圧 50kV
	最大電流 800 μA
	ターゲット Rh
照射径	8mm または 4mm
集光素子	コリメーター (可変)
フィルター	8ポジションの自動選択フィルター内蔵
検出機器	エネルギー 分散型
検出器	SDD
気圧補正	大気雰囲気下での測定。 標高や空気密度を自動補正する ための気圧センサー内蔵。

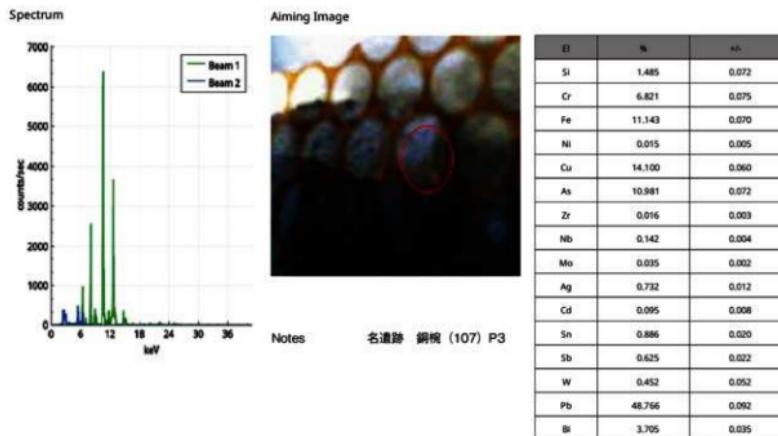
表 5 ハンドヘルド蛍光 X 線分析装置仕様



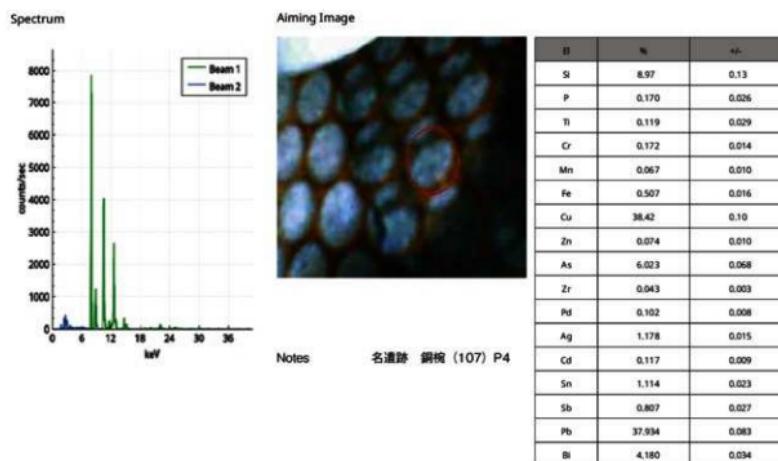
第106図 蛍光X線分析結果 銅椀 (107) P1



第107図 蛍光X線分析結果 銅椀 (107) P2



第 108 図 蛍光 X 線分析結果 銅椀 (107) P3



第 109 図 蛍光 X 線分析結果 銅椀 (107) P4

第5章 まとめ

名遺跡では弥生時代～江戸時代までの遺構・遺物を検出した。本章では、弥生時代～古墳時代前期、古墳時代中期～飛鳥時代、平安時代～中世の3時期に分けて変遷をみていく。

1 弥生時代から古墳時代前期

弥生時代前期と弥生時代後期～古墳時代前期の遺構・遺物が検出された。弥生時代前期の遺構は確認できなかったが、2区南半付近で弥生時代前期前半の土器が数点出土した。名遺跡の中で最も現地表が高いのは1・2区で、2区南部より南には耕作に伴う酸化沈積層の0.1～0.5m下に黒色及び黒褐色粘土～シルト層が堆積する。これらの土器は2区南部の黒褐色シルト層から出土した。遺構に伴うものではないが、この時期の集落などが近在する可能性がある。

弥生時代後期の遺構は、2区で土坑SX2126、3-1区・3-2区では溝状遺構SD3010・SD3016が検出された。SD3010は総延長35mほどで、底面の標高から、北西から南に流れていたと考えられる。SD3016は、SD3001に一部を削平されるものの、円形に巡る溝と考えられる。遺構の前後関係や出土遺物からSD3016が古い。周溝墓の可能性も考え、溝に囲まれた部分を精査したが、土坑等は検出できなかった。

3-2区の35m南の10-3区では南西から北東に向かう溝状遺構SR10024を検出し、弥生時代後期前半から古墳時代前期初頭の土器を含むことから、同時期の集落が付近に存在することがうかがわれる。

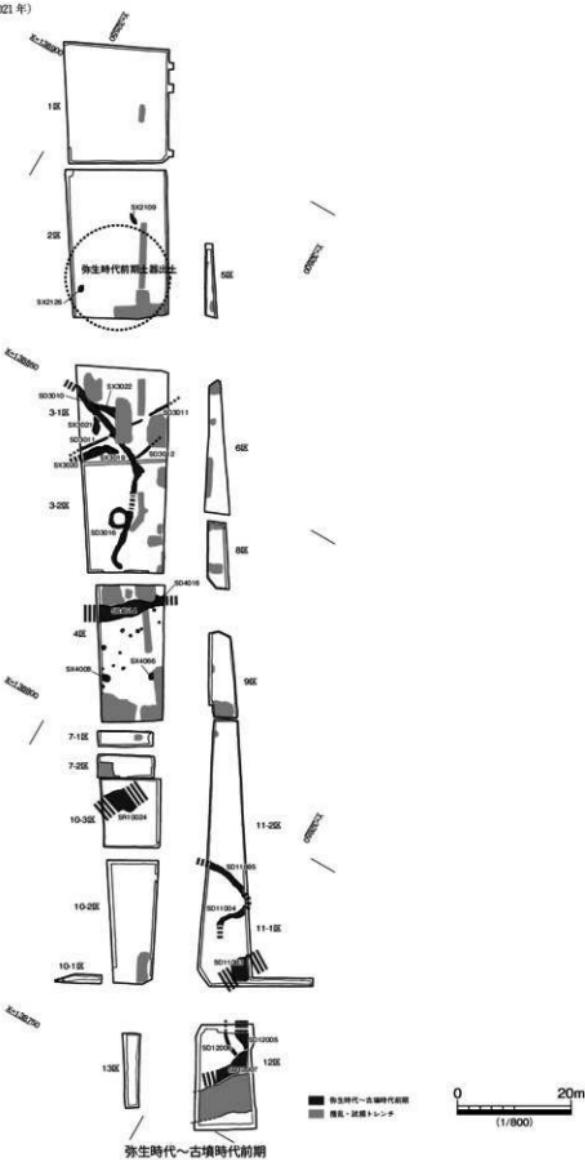
11-1区では溝状遺構SD11004・SD11005がある。いずれも調査区外に延びるため、全体は不明であるが、両溝は連続し、蛇行しながら北西から南に向かうと考えられる。SD11004・SD11005からは少量の遺物が出土している。これらの中東には古墳時代前期前半の溝状遺構SD11003、12区では溝状遺構SD12007・SD12006・SD12005があり、少量の遺物が出土している。同時期の集落は調査区内では検出できず、付近には同時期の集落が存在していた可能性があるが、遺物量は少なく小規模なものであったであろう。

2 古墳時代中期から飛鳥時代

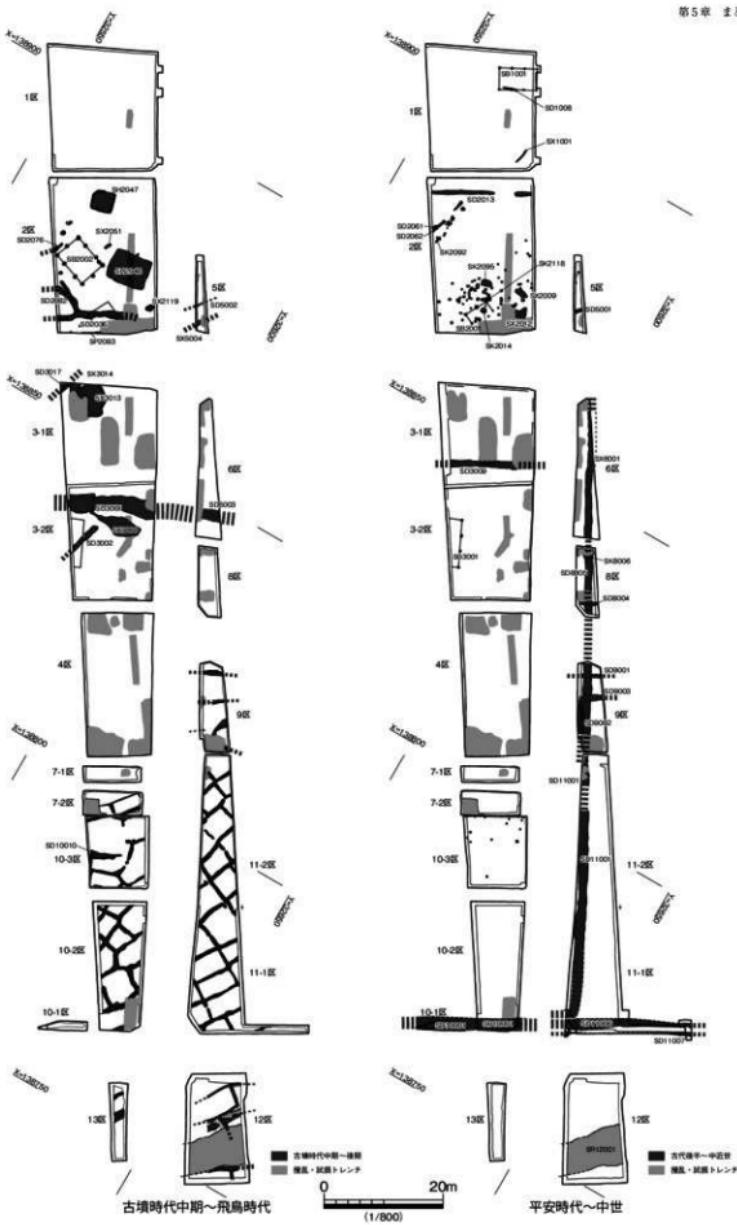
遺跡北部の2区では2棟の竪穴建物跡、1棟の掘立柱建物跡があり、居住域であったことがわかる。竪穴建物跡はSH2047・SH2048がある。SH2048は北壁に作り付けの窓を備える6世紀後半の竪穴建物跡、SB2002は6世紀後半と考えられ、周辺にこの時期の集落があったと考えられる。

2区南部・3-1区・3-2区・5区・6区では溝状遺構SD2082・SD2036・SD2083・SD5002・SX5004・SD3017・SD3001・SD6003・SD3002がある。これらの溝状遺構は、溝底の標高から南南西から東北東及び南西から北東に向かうことがわかる。

南部の7-2区・10-2区・10-3区・11-1区・11-2区・12区・13区では洪水堆積物で覆われた水田跡が検出された。水田跡は洪水堆積物によって埋没していた。洪水の流れは南西から北東方向で、13区北部では径3～5cmの摩滅した円碟を多量に含む砂礫層が堆積することから、この付近が流れの中心である可能性が高い。この洪水の時期（水田の廃絶時期）は洪水堆積物の中からは摩滅した弥生土器と思われる土器が数点出土しているが、詳細な時期を示す遺物は見当たらない。なお、12区では水田畦畔を



第110図 遺構変遷図1



第111図 遺構変遷図2

構成する黒色粘土層とその上に堆積するにぶい黄褐色細砂の境界付近から須恵器杯身片（55）が出土した。この須恵器は陶邑須恵器編年TK209型式に属することから、7世紀初頭のものである。また、黒色粘土層の下面から10-3区・12区では古墳時代初頭の溝が検出されている。このことから、水田の時期は古墳時代前期から7世紀初頭のものと考えられる。したがって、水田の廃絶時期は7世紀初頭のものと考えられる。

水田の1区画の面積は7～27m²と小さく、筆の面積を小さくすることによって、水を溜めやすいように工夫されている。この付近の自然地形は第58図に示したように、北西から南東に向かって下がっている。畦畔はこの傾斜に合わせた方向で、南西から北東、南東から北西に設置されている。水口が認められる区画もあるが、水口がない区画のほうが多く、各水田への導水はおおむね畦越しであったと考えられる。11区の水田の形状は長方形で畦畔の接合部分は、南東端部が「T」形であるのを除いて、「十」形を呈する。一方、10-2・3区では「Y」形や「十」形を呈するなど様々である。第58図の等高線をみれば、11区の等高線が南西・北東方向へ直線的に走るのに対し、10-2・3区では等高線が北西・南東方向へ緩く屈曲している。このことが水田の形状に影響しているの可能性も考えられよう。

古環境の復元のために、水田層を中心にプラントオパール分析を実施した（第4章第2節参照）。分析の結果、黒色粘土層から大量のイネのプラントオパールが検出された。そのほかネザサ節型・ササ属型が多く、ヨシ属が少ないと確認された。このことは黒色粘土層を耕作土として水田を形成しており、乾いた環境であったことを示している。

3 平安時代から中世

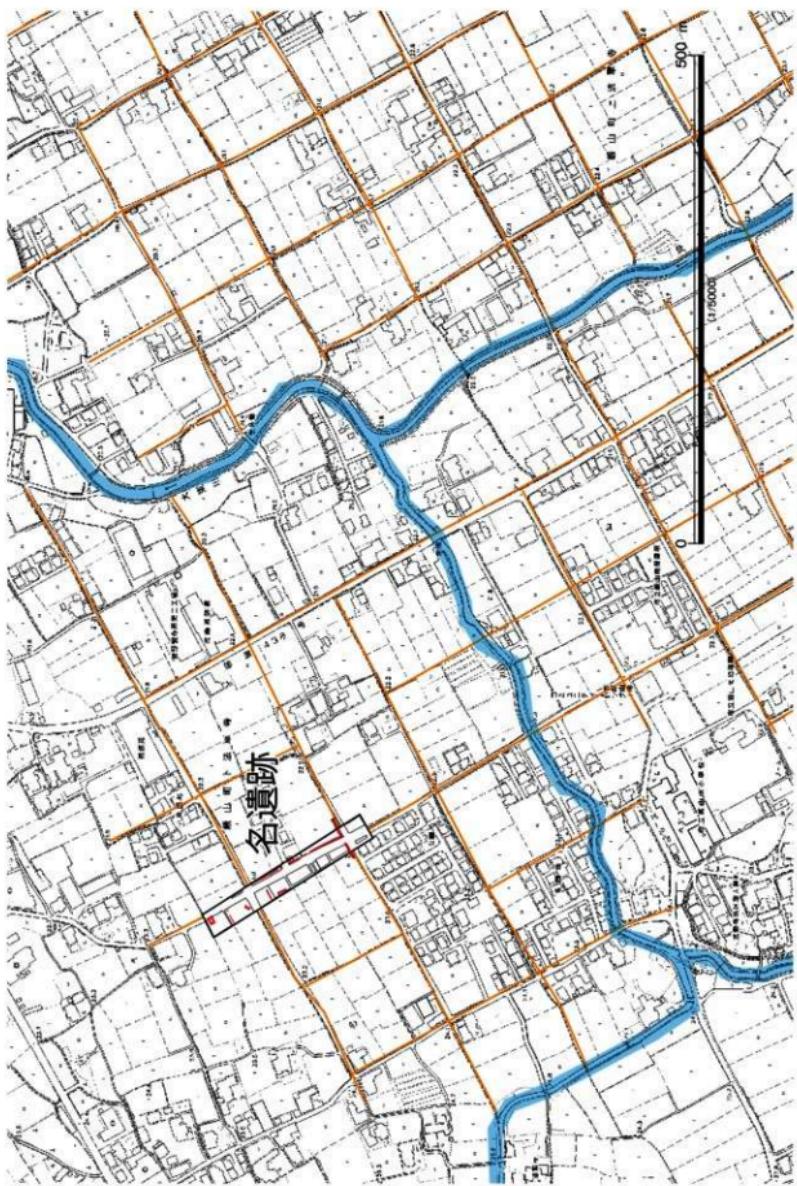
2区を除いて遺構数は激減する。

1～3区でそれぞれ掘立柱建物跡を1棟ずつ検出した。1区と3区で検出した掘立柱建物跡は、周辺に残る現在の条里地割と主軸方向が同じで、SB1001が11世紀後半～12世紀初頭、SB3001は13世紀前半である。2区南部ではSB2002がある。出土遺物から12世紀前半と考えられるが、建物の主軸方向は条里地割とは異なり古墳時代後期のSB2001に近い方角を示す。SB2001に近い方向の遺構は、他にSD2061・SD2062があり、この方向の地割もこの時期まで部分的に残ると考えられる。2区南部では、建物に復元できなかったが、9世紀後半～12世紀後半の柱穴を多数検出した。柱穴から、また、周辺の包含層から遺物も一定量出土したことから、この時期の居住地域であったと考えられる。居住地域は、2区から3区へ向けて標高が下がる境付近で営まれたと考えられる。

2区から11区にかけて、条里地割と同じ方向の溝が出現する。6区から11区にかけて検出した南北方向の溝SX6001～SD8005～SD9002～SD11001は延長96mに及ぶ。この溝は、現在の公衆用道路の東側にはほぼ平行し、11-1区の南端で西へ屈曲する。公衆用道路の下で南へ屈曲する、またはSD10001へ繋がる可能性があろう。出土遺物により、SD9002・SD11001が12～13世紀、SD10001は12世紀後半～13世紀前半と考えられる。

10-2区、11-1区の南端では東西方向の溝SD10001、SD11006、SD11007を検出した。この溝は現在の生活道路の北側に平行するものである。SD11006とSD11007は埋土が同じであり、同時併存の可能性があろう。SD11006はSD11001を掘り込んでおり、出土遺物から13世紀代と考えられる。SD10001がいずれの溝と連続するかは、明らかではない。

周辺の地割と同じ方向を示す溝は、そのほかにSD2013、SD3009がある。SD2013は出土遺物から14



第112図 名遺跡周辺の地図と検出した溝群

名遺跡（香川県埋蔵文化財センター編 2021 年）

世紀、SD3009 は時期が明らかになる遺物はなく、詳細な時期は明らかではない。

これらの遺構検出状況から、標高の比較的高い 2 区を中心に居住域が展開し、4 区から南は生産域であったと考えられる。SB1001 や現道に平行する溝群は 12 ~ 13 世紀頃に出現することから、現在の地割は 12 ~ 13 世紀頃に出現することが考えられよう。

第6表 名道跡出土土器觀察表

編號	出土位置	縷			繩			色調			黏土			法量(cm)	残存率	備考		
		縷明	縷極	縷	外縷	内縷	外部(輪)	内部(輪)	白底	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口徑	器高	底径	長さ	幅
1	2区 SX2.26	弥生土器	縷	竹管文・繩誠	ナデ	ナデ	7.5TR4/3輪	10YR3/1 長石 黒褐	中・多	中・並			(14.2)				1.8	米輪
2	2区 SX2.26	弥生土器	縷	縷	ナデ	ナデ	5YR5/6 明赤褐色	7.5YR8/3 長石 灰白	細・並				(17.8)				1.8	
3	3.1区 SX3.021	弥生土器	(底部)	繩誠	繩誠	繩誠	7.5YR8/3 長石 灰白	10YR8/2 明黄褐色	中・並				(6.1)				2.8	
4	3.1区 SX3.001	弥生土器	縷	ハケ日	繩誠	繩誠	10YR8/4 明黃褐色	10YR8/4 明黃褐色	中・並	中・並							2.8	
5	3.1区 SX3.001	弥生土器	縷	ヨコナデ・ナデ	指オサエ・ナデ	ナデ	7.5TR6.6 輪	7.5TR6.4 輪	中粗・ 粗・少	中粗・ 粗・少			(17.2)				2.8	
6	3.2区 SX3.001	弥生土器	縷	縷誠・ヨコナ ・ナデ	繩誠	ハケ日	7.5YR8/4 輪	10YR7/4 明黃褐色	中・並	中・並			(14.0)				2.8	
7	3.2区 SX3.001	弥生土器	縷	縷	ナデ	ナデ	10YR8/3 輪	7.5YR4/4 輪	中・並	中・並	細・少		(6.0)				4.8	
8	3.1区 SX3.001	弥生土器	縷	縷	ナデ	ナデ	10YR7/4 輪	10YR7/4 明黃褐色	粗・中 粗・少	粗・中 粗・少			(3.8)				4.8	
9	3.2区 SX3.010	弥生土器	縷	ナデ・ハケ日	ナデ	ナデ	5TR6.6 輪	5TR6.6 輪	中・並	中・並	中・少						1.8	
10	3.2区 SX3.016	弥生土器	縷	ナデ	ナデ	ナデ	10YR6/3 輪	10YR3/2 明黃褐色	粗・中 粗・少	粗・中 粗・少			(3.6)				2.8	
11	3.2区 SX3.016	弥生土器	縷	縷	ヨコナデ・ ナデ	ヨコナデ・ ナデ	7.5YR6/4 輪	7.5YR6/4 輪	中粗・ 少	中粗・ 少	細・少		(14.2)				1.8	
12	3.2区 SX3.016	弥生土器	縷	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	5YR5/6 明赤褐色	5YR6/6 輪	中粗・ 少	中粗・ 少			(12.7)				1.8	
13	3.2区 SX3.016	弥生土器	縷	ナデ・ハケ日	ナデ	ナデ	10YR7/4 輪	10YR7/4 輪	粗・中 粗・少	粗・中 粗・少							2.8	
14	3.2区 SX3.016	弥生土器	縷	縷	繩誠	繩誠	5TR6.6 輪	5TR6.6 輪	中・並	中・並			(4.5)				1.8	
15	3.2区 SX3.016	弥生土器	縷	ヨコナデ・ ナデ	ヨコナデ・ ナデ	ヨコナデ・ ナデ	10YR6/4 輪	10YR6/4 明黃褐色	中・多	中・並	細・少		(14.7)				3.8	
16	16.3区 SX10.024	弥生土器	縷	ハケ日	繩誠	繩誠	5YR6.8 輪	25Y4/4 輪	中・多	中・並							5.8	
17	16.3区 SX10.024	弥生土器	縷	縷	繩誠	繩誠	10YR6/4 輪	10YR7/4 明黃褐色	中・多	中・並	細・少						1.8	
18	16.3区 SX10.024	弥生土器	縷	縷	繩誠	繩誠	10YR6/4 輪	10YR7/4 明黃褐色	中・多	中・並	細・少						1.8	
19	16.3区 SX10.024	弥生土器	縷	ナ	ナデ	ナデ	10YR7/4 輪	10YR7/4 明黃褐色	中・並	中・並			(18.8)				1.8	
20	16.3区 SX10.024	弥生土器	縷	縷	繩誠	繩誠	5YR5/6 明赤褐色	5YR6/6 輪	中・並	中・少	細・少		(14.4)				1.8	下山山系土器
21	16.3区 SX10.024	弥生土器	縷	縷	繩誠	繩誠	7.5YR6.6 輪	7.5YR6.4 輪	中・並	中・並							1.8	
22	16.3区 SX10.024	弥生土器	縷	タタキ エクレル・ナデ	ハケ日	ナデ	25Y7/4 輪	25Y7/3 輪	中・並	中・少							1.8	外腹深有り
23	16.3区 SX10.024	弥生土器	縷	ナデ	ナデ	ナデ	10YR6/4 輪	10YR6/6 明黃褐色	中・並	中・少			(6.8)				4.8	
24	16.3区 SX10.024	弥生土器	縷	縷	繩誠	繩誠	10YR7/4 輪	25Y7/3 輪	中・並	中・並			(17.0)				2.8	
25	16.3区 SX10.024	弥生土器	縷	縷	繩誠	繩誠	25Y7/4 輪	25Y7/3 輪	中・並	中・並	細・少		5.0				5.8	

編号 番号	出土位置	種類	断面	裏面	外面	内面	外縁(輪)	内縁(輪)	施土		幅	厚	残存率	備考
									赤鉄粒	角内石				
26 SD1003	11.1区 土器	盃	指ササエ・ナデ	指ササエ・ナデ	25.8/2 灰白	5Y 4/1 灰	中・少							1/8
27 SD1003	11.1区 土器	盃	凹輪 2ヶ所・口 コトコト・等減	等減・ハゲ 等減・ササエ	10YR 6/3 1.5cm 厚	10YR 6/3 1.5cm 厚	中・多	(16.7)						1/8
28 SD1005	12.6区 灰生土器 たは土器	盃	等減	等減	10YR 6/3 1.5cm 厚	10YR 6/3 1.5cm 厚	中・少							1/8
29 SD1007	12.6区 灰生土器 たは土器	盃	等減・ハ ケ後タタキ	等減・指ササエ・ナデ	25Y7/2 1.5cm 厚	25Y7/2 灰	中・少							1/8
30 SD1007	12.6区 灰生土器 たは土器	盃	等減	ヨコナデ・等減	25Y5/3 厚	25Y5/3 厚	中・少	細・多			(13.4)			3.8 下川津日輪土器
31 SD1007	12.6区 灰生土器 たは土器	盃	等減	等減	7.5YR 6/4 1.5cm 厚	5YR 6/4 1.5cm 厚	中・少	中・並						1/8
32 SD1007	2区 土器	盃	等 等減	等 等減	10YR 6/3 1.5cm 厚	10YR 6/3 1.5cm 厚	中・少	中・少						6/8 地成鐵製板有り
33 SD1047	2区 灰生土器 (底部)	盃	ヨコナデ ハケ目・ナデ	等減	5YR 5/6 明示無	10YR 5/6 明示無	中・少	中・少						1/8
34 SD1047	2区 土器	盃	ヨコナデ ハケ目	等減	25Y8/2 灰白	7.5YR 7/6 灰	中・多	中・並						1/8
35 SD1048	2区 灰生土器	盃	ヨコナデ 等減	等減	25Y8/6 明示無	5YR 5/6 明示無	中・多	中・少			(16.8)			1/8
36 SD1048	2区 灰生土器	盃	等 等減	等 等減	7.5YR 6/6 明示無	25Y8/3 灰	中・多							3/8
37 2区	3区 灰生土器	盃	等 等減	等 等減	7.5YR 6/6 明示無	7.5YR 6/6 明示無	中・多							8月8日
38 SD1048	2区 須恵器	杯盃	ヨコナデ ハケ目	等減	N5.灰	N6.灰	中・少	13.1	30	76				7.8
39 SD1048	2区 須恵器	盃	ヨコナデ 等減	等減	25Y8/1 灰白	25Y8/1 灰白	中・少	中・少						1/8
40 SD240	2区 灰生土器 たは土器	盃	等 等減	等 等減	5YR 4/6 灰	5YR 4/6 灰	中・少							1/8
41 SD246	2区 須恵器	盃	ヨコナデ ハコツ	等 等減	N4.灰白	N5.灰白	中・少							2.8
42 SD2119	2区 須恵器	盃	ヨコナデ	圓輪ナデ	N6.灰	N6.灰	中・少							1/8
43 SD2119	2区 須恵器	盃	ヨコナデ	圓輪ナデ・タ キ後カキ 目	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	細・少	(22.0)	499					5.8
44 SD2006	3.2区 灰生土器 たは土器	盃	等 等減	等 等減	7.5YR 7/4 1.5cm 厚	10YR 8/3 1.5cm 厚	中・少							1/8
45 SD3013	3.1区 土器	盃	等 等減	等 等減	10YR 8/2 1.5cm 厚	10YR 8/3 1.5cm 厚	中・少	(23.5)						1/8
46 SD3013	3.1区 土器	盃	等 等減	等 等減	10YR 6/3 1.5cm 厚	10YR 6/4 1.5cm 厚	中・多	(14.6)						2/8
47 SD3013	3.1区 灰生土器	盃	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR 7/2 1.5cm 厚	10YR 7/2 1.5cm 厚	中・少		(6.4)					1/8
48 SD3096	2区 土器	盃	ヨコナデ	ヨコナデ	N6.灰	N6.灰	中・少	(23.6)						2/8

編号 番号	出土位置	種類	器種	外面	内面	外底(輪)	内底(輪)	石英・ 長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径	器高	底径	長さ	幅	厚	法量(cm)	検査半 径	備考
49	2区 S20206	須恵器	杯	圓板ナデ	圓板ナデ	N7/灰白	N8/灰白	23Y7.4灰白					細・少	(13.6)						1/8	
50	2区 S20206	須恵器	杯	圓板ナデ	圓板ナデ	N6/灰	N8/灰白						中・少							3/8	
51	2区 S20206	須恵器	蓋	青海波文・輪 リ・圓板ナデ	圓板ナデ	N8/灰白	N8/灰白						中・少							1/8 東側	
52	2区 S20206	須恵器	蓋	青海波文・ナデ	圓板ナデ	N6/灰	N6/灰						中・少							1/8	
54	5区 S30004	須恵器	蓋又は ハコツ	圓板ナデ	圓板ナデ	N7/灰白	N7/灰白						中・少							1/8 東側	
55	12区 S10109	須恵器	杯	圓板ナデ	圓板ナデ	5Y6.1灰	10Y4.1灰						細・少	(12.2)						2/8	
56	1区 S10109	黑色土器	椀	輪・ナデ・固 輪・ナデ・輪	ヘラミガキ	10Y8.8.3 浅黄	N2/黑						細・少							1/8 東側	
57	1区 S10109	黑色土器	椀	圓板ナデ	ヘラミガキ	23Y8.3灰 黄・N2/黒	N2/黑						細・少	(15.8)						1/8 東側	
58	1区 S10109	土陶質土器	小皿	圓板・ヘチリ	圓板ナデ	25Y8.2灰白	N3/輪	M3/輪					細・少	(8.5)	1.5	(6.5)				1/8 東側	
59	1区 S10109	黑色土器	椀	輪・ナデ・輪 貼付筋・輪 ナ・ヘチリ	ヘラミガキ	10Y8.8.3 浅黄	N2/黑						細・少							SB1001	
60	1区 S10109	黑色土器	椀	圓板ナデ	ヘラミガキ	10Y8.8.3 浅黄	N3/輪	N3/輪					細・少							SB1001	
61	2区 S20203	土陶質土器	小皿	輪・ナデ・輪 貼付筋・輪 ナ・ヘチリ	圓板ナデ	25Y8.4灰白	N2/黑						細・多							SB1001	
62	2区 S20203	土陶質土器	小皿	圓板ナデ・輪 貼付筋・輪 ナ・ヘチリ	圓板ナデ	25Y8.2灰白	10Y8.7.2 輪	10Y8.7.2 輪					細・多	(1.7)	2.3	(8.0)			3/8		
63	2区 S20203	須恵器	椀	圓板ナデ	圓板ナデ	5Y7.1灰白	N2/灰白						細・多							1/8 東側	
64	2区 S20204	黑色土器	椀	輪・ナデ・輪 貼付筋・輪 ナ・ヘチリ	ヘラミガキ	25Y7.3 浅黄	N3/輪	N3/輪					細・少							SB2001	
65	2区 S20204	黑色土器	椀	圓板ナデ	ヘラミガキ	7.5Y8.7.4 浅黄	5Y4.1灰	5Y4.1灰					細・少							SB2001	
66	32区 S20303	土陶質土器	小皿	織城	織城	10Y8.8.3 浅黄	10Y8.8.4 浅黄					中・少	(8.8)	1.4	(6.4)				1/8		
67	32区 S20305	土陶器	甕	織城	織城	23Y8.2灰白	23Y8.2灰白					中・多							SB3001		
68	32区 S20307	須恵器	椀	圓板ナデ	ナデ	N7/灰白	N7/灰白					細・少							3/8		
69	2区 S20307	土陶質土器	杯	圓板ナデ	圓板ナデ	25Y8.2灰白	23Y8.2灰白					細・少							1/8 東側		
70	2区 S20307	土陶器	甕	ヨコナデ・ 横オナデ・工 物ナデ	織城	25Y7.3灰白 黄	10Y8.7.3 黄					中・多							1/8 東側		
71	2区 S20307	土陶質土器	杯	圓板・ナデ	織城	7.5Y8.7.6 灰	7.5Y8.7.6 灰					細・少							1/8 東側		
72	2区 S20308	土陶質土器	杯	輪・ナデ・輪 貼付筋・輪 ナ・ヘチリ	圓板ナデ	25Y8.7.6 灰	25Y8.7.6 灰					細・少							1/8		
73	2区 S20310	黑色土器	椀	ヘラミガキ	ヘラミガキ	25Y8.2灰 白	N3/輪	N3/輪					細・少							1/8 東側	

標名 番号	出土位置	種類	器種	外面	内面	外縁(輪)	内縁(輪)	石英・長石 赤色粒	角閃石 黒雲母	砂母	口径	器高	底径	長さ	幅	厚	法量(cm)		備考
																	上	下	
74	K区 SP2010	土陶質土器	碗	ナデ	ナデ	25YR7.6 級	75YR7.3 1.5-2.5mm 粒				細・少	(6.9)				2.8			
75	K区 SP2010	土陶質土器	羽釜	ヨコナデ 目・指サセサ工	ヨコナデ 目・指サセサ工	75YR4.2 底輪	10YR7.4 1.5-2.5mm 粒				細・多	(27.3)				1.8			
76	K区 SP2011	土陶質土器	小皿	回転ナデ・ナデ	回転ナデ・ナデ	10YR8.3 底輪	10YR8.3 底輪				細・少	(10.0)				1.8			
77	K区 SP2017	土陶質土器	杯	回転ナデ・ナデ	回転ナデ・ナデ	5YR4.8 底輪	10YR7.4 底輪				細・少	(14.6)				3.8			
78	K区 SP2017	土陶質土器	羽釜	ヨコナデ・ナデ	ハケ目後 指サセサ工	75YR5.4 1.5-2.5mm 粒	25YR6.2 底輪				中・多					1.8	未測		
79	K区 SP2017	土陶質土器	羽釜	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	75YR5.3 1.5-2.5mm 粒	5YR6.6 粒				中・多	(28.0)				1.8			
80	K区 SP2017	須惠器	甌	回転ナデ・ナデ	回転ナデ・ナデ	N3・窓	N4・窓				細・少					1.8	未測		
82	K区 SP2017	土陶質土器	羽釜	ヨコナデ・ ハセサ工	ヨコナデ・ ハセサ工	10YR7.3 1.5-2.5mm 粒	15YR7.4 1.5-2.5mm 粒				中・多	(25.5)				1.8	未測		
83	K区 SP2021	土陶質土器	杯	回転ナデ・掌城	回転ナデ・掌城	5YR6.3 1.5-2.5mm 粒	10YR6.3 1.5-2.5mm 粒				細・少	(16.0)				1.8	未測		
84	K区 SP2022	土陶質土器	羽釜	ヨコナデ	ヨコナデ	5YR6.4 1.5-2.5mm 粒	15YR6.4 1.5-2.5mm 粒				中・多	(25.7)				1.8	未測		
86	K区 SP2024	土陶質土器	杯	回転ナデ	掌城	7.5YR7.6 粒	10YR8.3 底輪				細・少	(14.8)				1.8	未測		
87	K区 SP2027	土陶質土器	杯	掌城	掌城	10YR8.2 底輪	25YR8.2 底白				細・少	(6.5)				2.8			
88	K区 SP2029	土陶質土器	小皿	回転ナデ 輪へ切り	回転ナデ 輪へ切り	10YR7.2 1.5-2.5mm 粒	25YR8.2 底白				細・多	9.4	17	7.4		4.8			
89	K区 SP2029	土陶質土器	小皿	回転ナデ 輪へ切り	回転ナデ 輪へ切り	10YR5.3 1.5-2.5mm 粒	25YR8.2 底輪				細・多					1.8	未測		
90	K区 SP2029	土陶質土器	小皿	回転ナデ 輪へ切り	回転ナデ 輪へ切り	25YR8.2 底白	25YR8.2 底白				中・多	(6.0)				2.8			
91	K区 SP2029	黒色土器	碗	掌城	ヘラミガナ	25YR8.2 底白	N2・無				細・少	(13.7)				1.8	未測		
93	K区 SP2057	土陶質土器	杯	掌城	掌城	25YR8.2 底白	25YR8.2 底白				中・多	(6.0)				2.8			
94	K区 SP2057	土陶質土器	小皿	掌城	掌城	25YR8.2 底白	25YR8.2 底白				中・多	(6.8)	14	(7.2)		1.8			
95	K区 SP2057	土陶質土器	小皿	掌城	掌城	75YR7.6 粒	75YR7.6 粒				中・少					1.8	未測		
96	K区 SP2057	土陶質土器	小皿	回転ナデ 輪へ切り	回転ナデ 輪へ切り	75YR7.6 粒	75YR7.6 粒				中・少	(7.0)				2.8			
97	K区 SP2057	土陶質土器	碗	回転ナデ	回転ナデ	5YR2.6 粒	25YR6.8 粒				細・少	(12.1)				1.8	未測		
98	K区 SP2057	黒色土器	碗	掌城	掌城	10YR5.2 底輪	3YR6.1 粒				中・少	(6.8)				5.8			
99	K区 SP2065	土陶質土器	杯	回転ナデ	回転ナデ	5YR6.8 粒	15YR7.4 1.5-2.5mm 粒				細・少					1.8	未測		

編号 番号	出土位置	種類	器種	裏面	外面	裏面	外縁(袖)	内部(施土)	石英・ 長石	赤色粒 灰質岩	角閃石 灰質岩	雲母 灰質岩	砂粒 灰質岩	口径 直徑	器高	底径	長さ	幅	厚	保存率	備考	法量(cm)	
100	2区 SP2985	土陶質土器	羽釜	目後指ナギサエ 手後指ナギサエ 軒丸	ハケ目・輪郭 手後指ナギサエ 軒丸	10YR4/2 10YR6/3 10YR6/3	75YR7.3 10YR8.2 10YR8.2	10YR4/2 10YR6/3 10YR6/3	(26.2)						1/8								
101	2区 SP2994	土陶質土器	羽釜	輪郭 軒丸 手後指ナギサエ 軒丸	ハケ目・輪郭 手後指ナギサエ 軒丸	10YR4/2 10YR6/3 10YR6/3	75YR7.3 10YR8.2 10YR8.2	10YR4/2 10YR6/3 10YR6/3	(26.2)						1/8								
102	2区 SP2994	土陶質土器	杯	圓板ナギサエ 軒丸	圓板ナギサエ 軒丸	10YR4/2 10YR6/3	75YR7.6 10YR8.4	10YR4/2 10YR6/3	(12.2)						1/8								
103	2区 SP2994	土陶質土器	碗	輪郭 軒丸	ハラミガサエ	10YR4/2 10YR6/3	75YR7.2 10YR8.2	10YR4/2 10YR6/3	(6.0)						1/8								
104	2区 SP2994	土陶質土器	羽釜	目コナギサエ 手後指ナギサエ 軒丸	ハラミガサエ 手後指ナギサエ 軒丸	10YR4/2 10YR6/3 10YR6/3	75YR7.1 10YR6.2 10YR6.2	10YR4/2 10YR6/3 10YR6/3	(22.2)						1/8								
105	2区 SP2994	土陶質土器	羽釜	目後指ナギサエ 手後指ナギサエ 軒丸	ハラミガサエ 手後指ナギサエ 軒丸	10YR4/2 10YR6/3 10YR6/3	75YR7.6 10YR8.6 10YR8.6	10YR4/2 10YR6/3 10YR6/3	(27.2)						2.8								
106	2区 SP2995	土陶質土器	杯	圓板ナギサエ 軒丸	圓板ナギサエ 軒丸	10YR4/2 10YR6/3	75YR7.8 10YR8.4	10YR4/2 10YR6/3	(6.0)						1/8								
107	2区 SP2995	土陶質土器	碗	輪郭 軒丸	輪郭 軒丸	10YR4/2 10YR6/3	75YR8.1 10YR8.4	10YR4/2 10YR6/3	(6.0)						1/8								
108	2区 SP2995	土陶質土器	杯	圓板ナギサエ 軒丸	圓板ナギサエ 軒丸	10YR4/2 10YR6/3	75YR8.1 10YR8.4	10YR4/2 10YR6/3	(6.0)						1/8								
109	2区 SP2995	土陶質土器	羽釜	輪郭 軒丸	輪郭 軒丸	10YR4/2 10YR6/3	75YR8.1 10YR8.4	10YR4/2 10YR6/3	(6.0)						1/8								
110	2区 SP2995	土陶質土器	杯	圓板ナギサエ 軒丸	圓板ナギサエ 軒丸	10YR4/2 10YR6/3	75YR7.6 10YR8.6	10YR4/2 10YR6/3	(7.2)						2.8								
111	2区 SP2995	土陶質土器	杯	圓板ナギサエ 軒丸	圓板ナギサエ 軒丸	10YR4/2 10YR6/3	75YR7.8 10YR8.2	10YR4/2 10YR6/3	(7.2)						1/8								
112	2区 SP2995	土陶質土器	碗	輪郭 軒丸	輪郭 軒丸	10YR4/2 10YR6/3	75YR7.8 10YR8.4	10YR4/2 10YR6/3	(7.2)						1/8								
113	2区 SP2995	土陶質土器	碗	輪郭 軒丸	輪郭 軒丸	10YR4/2 10YR6/3	75YR8.1 10YR8.4	10YR4/2 10YR6/3	(6.2)						3.8								
114	2区 SP2995	土陶質土器	杯	圓板ナギサエ 軒丸	圓板ナギサエ 軒丸	10YR4/2 10YR6/3	75YR7.6 10YR8.2	10YR4/2 10YR6/3	(7.2)						1/8								
115	2区 SP2995	土陶質土器	碗	輪郭 軒丸	輪郭 軒丸	10YR4/2 10YR6/3	75YR7.8 10YR8.4	10YR4/2 10YR6/3	(7.2)						1/8								
116	2区 SP2995	吳生土器	甕	圓板ナギサエ 軒丸	圓板ナギサエ 軒丸	10YR4/2 10YR6/3	75YR6.6 10YR6.3	10YR4/2 10YR6.3	(7.0)						2.8								
117	2区 SP2995	土陶質土器	杯	圓板ナギサエ 軒丸	圓板ナギサエ 軒丸	10YR4/2 10YR6/3	75YR7.6 10YR8.3	10YR4/2 10YR6.3	(6.8)						2.8								
118	2区 SP2995	土陶質土器	杯	圓板ナギサエ 軒丸	圓板ナギサエ 軒丸	10YR4/2 10YR6/3	75YR7.8 10YR8.4	10YR4/2 10YR6.3	(7.5)						2.8								
119	2区 SP2995	土陶質土器	碗	輪郭 軒丸	輪郭ナギサエ	10YR4/2 10YR6/3	75YR8.2 10YR8.4	10YR4/2 10YR6.3	(7.0)						1/8								
120	2区 SP2995	土陶質土器	甕	圓板ナギサエ 軒丸	圓板ナギサエ 軒丸	10YR4/2 10YR6/3	75YR8.2 10YR8.3	10YR4/2 10YR6.3	(12.4)						1/8								
121	2区 SP2911	土陶質土器	小甕	圓板ナギサエ 軒丸	圓板ナギサエ 軒丸	10YR4/2 10YR6/3	75YR8.2 10YR8.4	10YR4/2 10YR6.3	(9.0)						1/8								
122	2区 SP2911	土陶質土器	甕	圓板ナギサエ 軒丸	圓板ナギサエ 軒丸	10YR4/2 10YR6/3	75YR8.4 10YR8.4	10YR4/2 10YR6.3	(10.0)						1/8								
123	2区 SP2915	土陶質土器	杯	圓板ナギサエ 軒丸	圓板ナギサエ 軒丸	10YR4/2 10YR6/3	75YR8.4 10YR8.4	10YR4/2 10YR6.3	(10.0)						1/8								
124	2区 SP2915	土陶質土器	杯	圓板ナギサエ 軒丸	圓板ナギサエ 軒丸	10YR4/2 10YR6/3	75YR8.4 10YR8.4	10YR4/2 10YR6.3	(10.0)						1/8								

編号 番号	出土位置	種類	器種	外觀	内面	外觀(釉)	内面(釉)	色調		施土		幅	厚	焼存率	備考
								赤鉄粒	角閃石 長石	黒母	砂母	口径	底径		
125	KX SP2110	土陶質土器	杯	素燒	等減	5YR7/6 橋	5YR7/6 橡							1/8 烧成	
126	KX SP2110	土陶質土器	杯	圓板ナデ	圓板ナデ	10YR8/3 浅黄褐	10YR8/3 浅黄褐							1/8 烧成	
127	KX SP2110	黑色土器	碗	圓板ナデ 高台 ヘリコリ	ヘラミガナ 圓板ナデ 「等減」	10YR7/4 1.5-2.5cm 黄褐	10YR7/4 1.5-2.5cm 黄褐			中・多	(7.4)			2.8	
129	KX SP2110	土陶質土器	杯	圓板ナデ	圓板ナデ 「等減」	25Y7/2 白灰 7.5YR5/4 1.5-2.5cm 黄褐	25Y7/1 白 7.5YR5/4 1.5-2.5cm 黄褐			細・少	(13.9)			1/8 烧成	
130	KX SP2117	土陶質土器	羽釜	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR6/6 1.5-2.5cm 黄褐	7.5YR6/6 1.5-2.5cm 黄褐			粗・多	(33.6)			1/8	
132	KX SP2120	土陶質土器	杯	圓板ナデ 高台 ヘリコリ	圓板ナデ 「等減」	7.5YR6/6 橡 10YR7/2 1.5-2.5cm 黄褐	7.5YR6/6 橡 10YR7/2 1.5-2.5cm 黄褐			中・少	(6.0)			4.8	
133	KX SP2121	土陶器	甕	素燒	等減	2.5YR6/6 橙 10YR8/4 1.5-2.5cm 黄褐	2.5YR7/6 橙 10YR8/4 1.5-2.5cm 黄褐			細・多	(16.7)			1.8	
134	KX SP2121	土陶器	甕	素燒	等減	7.5YR7/6 橙 10YR8/4 1.5-2.5cm 黄褐	7.5YR8/3 2.5Y8/2 白 浅黄褐			細・多	(10.7)			1/8 烧成	
135	KX SP2121	土陶質土器	杯	等減 ヘラミガナ 圓板ナデ 「等減」	等減 ヘラミガナ 圓板ナデ 「等減」	10YR8/3 2.5Y8/2 白 浅黄褐	10YR8/3 2.5Y8/2 白 浅黄褐			中・多	6.7			6.8	
136	KX SP2121	土陶器	甕	サザ・ハサワ口 絞口 手作 指ササエ工	サザ・ハサワ口 絞口 手作 指ササエ工	7.5YR6/6 橙 10YR6/2 1.5-2.5cm 黄褐	7.5YR6/6 橙 10YR6/2 1.5-2.5cm 黄褐			中・多	(28.6)			1/8 烧成 内面堅付着	
137	KX SP2121	土陶質土器	羽釜	ヨコナデ	ヨコナデ	5YR5/4 1.5-2.5cm 黄褐	5YR5/4 1.5-2.5cm 黄褐			中・多	(11.2)			1.8	
138	KX SP2122	土陶器	甕	素燒	等減	5YR5/8 明ホネ 明ホネ	5YR5/8 明ホネ 明ホネ			中・多	(6.4)			1/8	
139	KX SP2122	土陶質土器	杯	素燒	等減	5YR7/6 橙 10YR8/3 1.5-2.5cm 黄褐	5YR7/6 橙 10YR8/3 1.5-2.5cm 黄褐			中・少	(6.4)			1/8	
140	KX SP2144	張生土器	甕	素燒	等減	25Y8/2 白 7.5YR8/4 1.5-2.5cm 黄褐	25Y8/2 白 7.5YR8/4 1.5-2.5cm 黄褐			細・少				1/8 烧成	
141	KX SP2144	土陶質土器	杯	素燒	等減	7.5YR8/6 1.5-2.5cm 黄褐	7.5YR8/6 1.5-2.5cm 黄褐			中・少				1/8 烧成	
142	KX SP2144	土陶質土器	杯	圓板ナデ 「等減」	圓板ナデ 「等減」	10YR8/3 10YR8/4 1.5-2.5cm 黄褐	10YR8/3 10YR8/4 1.5-2.5cm 黄褐			中・多				2.8	
143	KX SK2055	土陶質土器	羽釜	等減	等減 ハケ口	10YR8/4 10YR8/6 橙 浅黄褐	10YR8/4 10YR8/6 橙 浅黄褐			中・少	(23.5)			1/8 烧成	
144	KX SP1022	土陶質土器	小甕	圓板ナデ 「等減」	圓板ナデ 「等減」	N3 前灰 1.5-2.5cm 白	N3 前灰 1.5-2.5cm 白			中・少	(7.4)			1/8	
145	KX SK2009	土陶質土器	杯	圓板ナデ 「等減」	圓板ナデ 「等減」	25YR6/6 橙 1.5-2.5cm 黄褐	25YR6/6 橙 1.5-2.5cm 黄褐			中・多	(6.4)			1/8	
146	KX SK2009	土陶質土器	杯	等減	等減	10YR8/2 1.5-2.5cm 白	10YR8/2 1.5-2.5cm 白			中・少	(6.6)			2.8	
147	KX SK2009	黑色土器	碗	ハケ口 「等減」	ヘラミガナ 指ササエ ヨコナデ 「等減」	10YR8/2 1.5-2.5cm 白	10YR8/2 1.5-2.5cm 白			中・少				1/8	
148	KX SK2009	土陶質土器	甕	ハケ口 「等減」 「等減」 「等減」 「等減」	ハケ口 「等減」 「等減」 「等減」 「等減」	10YR6/3 1.5-2.5cm 黄褐 N7/灰白	10YR6/3 1.5-2.5cm 黄褐 N7/灰白			中・多				1/8 烧成	
149	KX SK2012	須惠器	杯	圓板ナデ 「等減」	圓板ナデ 「等減」	N7/灰白	N7/灰白			中・多	(10.7)	48	6.4	3.8	

編号 番号	出土位置	種類	器種	外觀	内面	外觀(釉)	内面(釉)	石英 長石	赤色粒 淡黃質	角閃石 淡黃質	雲母 淡黃質	砂粒 淡黃質	口徑 縫・少	底径 縫・少	長さ (7.0)	幅 (6.1)	厚 (6.1)	法量(cm)		検査半 備考	
																		直徑・ 幅×(切り)	高さ・ 幅×(切り)		
172 SK2014	土陶質土器	小皿	ナデ・ヘラ削り	ナデ	2.5YR8/4 淡黃質	2.5YR8/3 淡黃質	2.5YR7/3 淡黃質	5YR5/6 淡黃質	5YR5/6 淡黃質	5YR3/1 黑褐	2.5Y3/1 黑褐	2.5Y3/1 黑褐	縫・少	縫・少	6.1	6.1	6.1	1.8	1.8	1.8	
173 SK2014	土陶質土器	杯	回板ナデ・周 縫・(切り)	回板ナデ	2.5Y7/3 淡黃質	2.5Y7/3 淡黃質	2.5Y7/3 淡黃質	5YR5/6 淡黃質	5YR5/6 淡黃質	5YR2/1 黑褐	2.5Y3/1 黑褐	2.5Y3/1 黑褐	縫・少	縫・少	6.0	6.0	6.0	1.8	1.8	1.8	
174 SK2065	土陶質土器	杯	壓滅	壓滅	2.5Y3/1 黑褐	2.5Y3/1 黑褐	2.5Y3/1 黑褐	5YR5/6 淡黃質	5YR5/6 淡黃質	5YR2/1 黑褐	2.5Y3/1 黑褐	2.5Y3/1 黑褐	縫・少	縫・少	6.0	6.0	6.0	1.8	1.8	1.8	
175 SK2065	土陶質土器	羽釜	直口平底・ 周板ナサエ	羽釜	10YR7/4 灰白	10YR7/4 灰白	10YR7/4 灰白	5YR6/6 灰白	5YR6/6 灰白	5YR6/6 灰白	10YR7/4 灰白	10YR7/4 灰白	縫・少	縫・少	6.0	6.0	6.0	1.8	1.8	1.8	
176 SK2065	土陶質土器	土瓶	ナデ	回板ナデ・周 縫・(切り)	回板ナデ	10YR7/4 灰白	10YR7/4 灰白	10YR7/4 灰白	5YR6/6 灰白	5YR6/6 灰白	5YR6/6 灰白	10YR7/4 灰白	10YR7/4 灰白	縫・少	縫・少	6.0	6.0	6.0	1.8	1.8	1.8
177 SK2118	土陶質土器	杯	直口・ヘラ削り	直口・ヘラ削り	10YR8/4 淡黃質	10YR8/3 淡黃質	10YR8/3 淡黃質	5YR6/6 灰白	5YR6/6 灰白	5YR6/6 灰白	10YR8/4 淡黃質	10YR8/4 淡黃質	縫・少	縫・少	6.0	6.0	6.0	1.8	1.8	1.8	
178 SK2118	土陶質土器	杯	杯・ヘラ削り	杯・ヘラ削り	7.5YR8/3 淡黃質	7.5YR8/3 淡黃質	7.5YR8/3 淡黃質	5YR6/6 灰白	5YR6/6 灰白	5YR7/6 灰白	7.5YR7/6 灰白	7.5YR7/6 灰白	縫・少	縫・少	6.0	6.0	6.0	1.8	1.8	1.8	
179 SK2118	黑色土器	椀	壓滅	ヘラ削り	ヘラ削り	7.5YR8/3 淡黃質	7.5YR8/3 淡黃質	7.5YR8/3 淡黃質	5YR6/6 灰白	5YR6/6 灰白	5YR7/6 灰白	7.5YR7/6 灰白	7.5YR7/6 灰白	縫・少	縫・少	6.0	6.0	6.0	1.8	1.8	1.8
180 SK2066	土陶質土器	小皿	壓滅	ヘラ削り	ヘラ削り	7.5YR8/3 淡黃質	7.5YR8/3 淡黃質	7.5YR8/3 淡黃質	5YR6/6 灰白	5YR6/6 灰白	5YR7/6 灰白	7.5YR7/6 灰白	7.5YR7/6 灰白	縫・少	縫・少	6.0	6.0	6.0	1.8	1.8	1.8
181 SD10068	土陶質土器	杯	直口・ヘラ削り・周 縫・(切り)	直口・ヘラ削り・周 縫・(切り)	7.5YR7/6 灰白	7.5YR7/6 灰白	7.5YR7/6 灰白	5YR6/6 灰白	5YR6/6 灰白	5YR7/6 灰白	7.5YR7/6 灰白	7.5YR7/6 灰白	中縫・ 少	中縫・ 少	6.0	6.0	6.0	1.8	1.8	1.8	
182 SK2013	土陶質土器	小皿	回板ナデ	回板ナデ	7.5Y7/1 灰白	7.5Y7/1 灰白	7.5Y7/1 灰白	N6/灰	N6/灰	N6/灰	7.5Y7/1 灰白	7.5Y7/1 灰白	縫・少	縫・少	6.0	6.0	6.0	1.8	1.8	1.8	
183 SK2013	土陶質土器	羽釜	壓滅	壓滅	10YR7/4 灰白	10YR7/4 灰白	10YR7/4 灰白	5YR6/6 灰白	5YR6/6 灰白	5YR6/6 灰白	10YR7/4 灰白	10YR7/4 灰白	中縫・ 少	中縫・ 少	6.0	6.0	6.0	1.8	1.8	1.8	
184 SK2013	土陶質土器	擂鉢	ナデ	直口	10YR7/4 灰白	10YR7/4 灰白	10YR7/4 灰白	5YR6/6 灰白	5YR6/6 灰白	5YR6/6 灰白	10YR7/4 灰白	10YR7/4 灰白	中縫・ 少	中縫・ 少	6.0	6.0	6.0	1.8	1.8	1.8	
185 SK2013	黑色土器	椀	ヘラ削り	ヘラ削り	10YR8/3 淡黃質	10YR8/3 淡黃質	10YR8/3 淡黃質	N6/灰	N6/灰	N6/灰	10YR8/3 淡黃質	10YR8/3 淡黃質	縫・少	縫・少	6.0	6.0	6.0	1.8	1.8	1.8	
186 SK2013	陶器	椀	黒褐色色輪	黒褐色色輪	7.5Y2/2 +1 灰白	7.5Y2/2 +1 灰白	7.5Y2/2 +1 灰白	N6/灰	N6/灰	N6/灰	7.5Y2/2 +1 灰白	7.5Y2/2 +1 灰白	縫・少	縫・少	6.0	6.0	6.0	1.8	1.8	1.8	
188 SK20004	須恵器	蓋	回板ナデ	回板ナデ	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白	N6/灰	N6/灰	N6/灰	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白	縫・少	縫・少	6.0	6.0	6.0	1.8	1.8	1.8	
189 SK20001	土陶質土器	杯	回板ナデ・壓滅	回板ナデ・壓滅	2.5Y8/3 淡黃質	2.5Y8/3 淡黃質	2.5Y8/3 淡黃質	5YR7/6 淡黃質	5YR7/6 淡黃質	5YR7/6 淡黃質	2.5Y8/3 淡黃質	2.5Y8/3 淡黃質	縫・少	縫・少	6.0	6.0	6.0	1.8	1.8	1.8	
190 SK20065	須恵器	杯	壓滅	壓滅	10YR7/4 灰白	10YR7/4 灰白	10YR7/4 灰白	5YR8/4 淡黃質	5YR8/4 淡黃質	5YR8/4 淡黃質	10YR7/4 灰白	10YR7/4 灰白	縫・少	縫・少	6.0	6.0	6.0	1.8	1.8	1.8	
191 SK20002	土陶質土器	小皿	回板ナデ・周 縫・(切り)	回板ナデ	7.5YR8/4 淡黃質	7.5YR8/4 淡黃質	7.5YR8/4 淡黃質	5YR7/6 淡黃質	5YR7/6 淡黃質	5YR7/6 淡黃質	7.5YR8/4 淡黃質	7.5YR8/4 淡黃質	縫・少	縫・少	6.0	6.0	6.0	1.8	1.8	1.8	
192 SK20002	土陶質土器	杯	壓滅	壓滅	5YR7/6 淡黃質	5YR7/6 淡黃質	5YR7/6 淡黃質	5YR7/6 淡黃質	5YR7/6 淡黃質	5YR7/6 淡黃質	5YR7/6 淡黃質	5YR7/6 淡黃質	縫・少	縫・少	6.0	6.0	6.0	1.8	1.8	1.8	
193 SK20002	土陶質土器	杯	壓滅	壓滅	10YR8/3 淡黃質	10YR8/3 淡黃質	10YR8/3 淡黃質	5YR8/4 淡黃質	5YR8/4 淡黃質	5YR8/4 淡黃質	10YR8/3 淡黃質	10YR8/3 淡黃質	縫・少	縫・少	6.0	6.0	6.0	1.8	1.8	1.8	
194 SK20002	白磁	碗	施釉	施釉	10YR8/1 灰白	10YR8/1 灰白	10YR8/1 灰白	N6/灰	N6/灰	N6/灰	10YR8/1 灰白	10YR8/1 灰白	縫・少	縫・少	6.0	6.0	6.0	1.8	1.8	1.8	
195 SK201001	土陶質土器	小皿	壓滅	回板ナデ・壓 滅・(切り)	回板ナデ・壓 滅・(切り)	5YR7/6 淡黃質	5YR7/6 淡黃質	5YR7/6 淡黃質	5YR7/6 淡黃質	5YR7/6 淡黃質	5YR7/6 淡黃質	5YR7/6 淡黃質	5YR7/6 淡黃質	縫・少	縫・少	6.0	6.0	6.0	1.8	1.8	1.8
196 SK201001	土陶質土器	小皿	ナデ	回板ナデ・周 縫・(切り)	回板ナデ	7.5YR8/3 淡黃質	7.5YR8/3 淡黃質	7.5YR8/3 淡黃質	5YR6/6 淡黃質	5YR6/6 淡黃質	5YR6/6 淡黃質	7.5YR8/3 淡黃質	7.5YR8/3 淡黃質	縫・少	縫・少	6.0	6.0	6.0	1.8	1.8	1.8

器名 番号	出土位置	種類	器種	外側	内面	調整	色調		施土		幅	厚	残存率	備考
							表面	底	赤鉄粒	角閃石				
197	11.2〔区 SD1001〕	土陶質土器	小皿	素焼	素焼		10 YR 8.4 浅黄褐色	10 YR 8.4 浅黄褐色			中・少	(8.5)		1/8
198	11.2〔区 SD1001〕	土陶質土器	杯	素焼、圓輪 ^{輪^△} 切口輪 ^{輪^△} 、指ナデ	素焼		10YR8/3 浅黄褐色	10YR8/3 浅黄褐色			中・多	13.8	9.4	8月8日
199	11.2〔区 SD1001〕	土陶質土器	杯	圓輪 ^{輪^△} (素焼)	圓輪 ^{輪^△} (素焼)		7.5 YR 8.6 浅黄褐色	7.5 YR 8.6 浅黄褐色			細・少	(15.8)		1/8
200	11.2〔区 SD1001〕	土陶質土器	碗	素焼	素焼		25 Y 8/2 灰白	25 Y 8/2 灰白			細・少			1/8未満
201	11.2〔区 SD1001〕	土陶質土器	碗	素焼	素焼		10 YR 8.3 浅黄褐色	10 YR 8.3 浅黄褐色			細・多	(6.8)		1/8
202	11.1〔東 SD1006〕	土陶質土器	杯	圓板ナデ	圓板ナデ		7.5 YR 7/4 12.5-5、粗	7.5 YR 7/4 12.5-5、粗			中・少	(12.8)	27 (5.6)	1/8
203	11.1〔東 SD1006〕	土陶質土器	杯	素焼	素焼		10 YR 8.4 浅黄褐色	10 YR 8.4 浅黄褐色			細・少	(12.8)		1/8
204	11.1〔東 SD1006〕	土陶質土器	杯	素焼	素焼		10 YR 8/4 浅黄褐色	10 YR 8/4 浅黄褐色			中・多			1/8未満
205	11.1〔東 SD1006〕	土陶質土器	杯	素焼	素焼		25 Y 8/4 浅黄褐色	25 Y 8/4 浅黄褐色			中・多	(6.0)		1/8
206	11.1〔東 SD1006〕	土陶質土器	碗	素焼	素焼		10 YR 7.6 明黄褐色	10 YR 7.6 明黄褐色			中・少			1/8未満
207	11.1〔東 SD1006〕	黑色土器	碗	半工 ^手 ナデ	半工 ^手 ナデ		25 Y R 5/6 粗	25 Y R 5/6 粗			中・少	(6.0)		2/8
208	11.1〔東 SD1006〕	土陶質土器	足釜	ナデ	ナデ		7.5 Y 7/6 横	7.5 Y 7/6 横			中・少			1/8未満
209	11.1〔東 SD1006〕	土陶質土器	(脚部)	折 ^{サカナ} ナデ			5 Y 8/1 灰白				中・少			1/8未満
214	19.2〔区 SD1001〕	土陶質土器	杯	素焼	素焼		10YR8/4 浅黄褐色	10YR8/4 浅黄褐色			細・少	(13.8)		1/8
215	19.1〔区 SD1001〕	土陶質土器	杯	圓板ナデ	圓板ナデ		7.5YR8/4 浅黄褐色	7.5YR8/4 浅黄褐色			細・少			1/8未満
216	19.2〔区 SD1001〕	土陶質土器	杯	圓板ナデ	圓板ナデ		25YR 2灰白	25YR 2灰白			細・多			1/8未満
217	19.2〔区 SD1001〕	土陶質土器	杯	圓板ナデ・圓 輪 ^{輪^△} 切口 ^{切口}	圓板ナデ・圓 輪 ^{輪^△} 切口 ^{切口}		10YR7/2 12.5-5、粗	10YR7/2 12.5-5、粗			中・少	(7.2)		1/8
218	19.1〔区 SD1001〕	土陶質土器	杯	圓板ナデ・圓 輪 ^{輪^△} 切口 ^{切口}	圓板ナデ・圓 輪 ^{輪^△} 切口 ^{切口}		25YR 3 浅黄 褐色	25YR 3 浅黄 褐色			細・少	(7.0)		2/8
219	19.2〔区 SD1001〕	土陶質土器	杯	圓板ナデ・圓 輪 ^{輪^△} 切口 ^{切口}	圓板ナデ・圓 輪 ^{輪^△} 切口 ^{切口}		10YR8/3 浅黄褐色	10YR8/3 浅黄褐色			中・少	(7.0)		2/8
220	19.1〔区 SD1001〕	土陶質土器	杯	素焼	素焼		10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白			細・少			1/8未満
221	19.1〔区 SD1001〕	土陶質土器	杯	素焼	素焼		10YR7/2 ¹ 灰白	10YR7/2 ¹ 灰白			細・少			1/8未満

編文 出土位置 番号	出土位置 番号	種類	断面	断面 測定	外観		内面		内面(鉛土)		内面(鉛土)		施工	鉛石 形状	砂粒	口径	壁厚	奥行(cm)	残存率	備考
					等級	寸法	等級	寸法	等級	寸法	等級	寸法		形状	寸法	等級	寸法			
222	10-1区 SD10001	黑色土器	桶	等級 筒形・圓筒 輪・切り後 削・直角等 等級	等級	等級	5YR7-6 桶	10YR7-2 1-5.5cm にぶい黄鐵 鉄	等級	等級	等級	等級	細・少			(7.2)		4.8		
223	10-2区 SD10001	黑色土器	桶	等級	等級	等級	5YR7-4 1-5.5cm にぶい黄鐵 鉄	等級	等級	等級	等級	細・少				6.8	2.8			
224	10-2区 SD10001	須恵器	蓋	等級 筒形・子口 輪・火打・同 等級	同様ナガ	同様ナガ	N6.灰	邵M7-1 N6.灰	等級	等級	等級	等級	無			(12.0)		1.8		
225	10-1区 SD10001	須恵器	蓋	同様ナガ	同様ナガ	N7/灰白			等級	等級	等級	等級	中・少			(7.8)		1.8		
228	SR2001	外生土器	高杯	ナナ	等級ナガ 等級ナガ 等級ナガ	等級ナガ 等級ナガ 等級ナガ	10YR6-3 1-5.5cm 黒鉄	10YR6-3 1-5.5cm 黒鉄	等級	等級	等級	等級	中・並					4.8		
231	1区 土海賊土器	小皿	等級	等級ナガ	同様ナガ	同様ナガ	10YR6-3 浅黄鉄	10YR6-4 浅黄鉄	等級	等級	等級	等級	中・少			(6.4)		4.8		
232	1区 土海賊土器	杯	等級	等級	等級	等級	7.5YR7-6 桶	7.5YR7-6 桶	等級	等級	等級	等級	中・少			(10.8)		6.8		
233	1区 土海賊土器	杯	同様ナガ・等級	同様ナガ・等級	同様ナガ	同様ナガ	10YR6-4 浅黄鉄	10YR6-2 浅黄鉄	等級	等級	等級	等級	中・少			(7.8)		2.8		
234	1区 土海賊土器	高杯	等級	等級	等級	等級	7.5YR7-6 桶	10YR6-4 浅黄鉄	等級	等級	等級	等級	細・少			(6.4)		3.8		
235	1区 黑色土器	桶	等級	等級	等級	等級	23YR6-8 桶	10YR6-1 鉄	等級	等級	等級	等級	中・少			(6.0)		3.8		
236	1区 須恵器	高竹竹杆	同様ナガ	同様ナガ	同様ナガ	同様ナガ	N6.灰	N7.灰白	等級	等級	等級	等級	中・少			(10.6)		2.8		
237	1区 須恵器	高竹竹杆	同様ナガ	同様ナガ	同様ナガ	同様ナガ	10YR7-2 1-5.5cm 黄鉄	25YR8-3 浅黄 鉄	等級	等級	等級	等級	中・少			(11.4)		2.8		
238	1区 須恵器	高竹竹杆	同様ナガ	同様ナガ	同様ナガ	同様ナガ	23YR8-2 浅白	25YR8-2 浅白	等級	等級	等級	等級	中・少			(10.4)		1.8	土海賊	
239	1区 須恵器	高竹竹杆	同様ナガ	同様ナガ	同様ナガ	同様ナガ	N7/灰白	N7/灰白	等級	等級	等級	等級	中・少			(8.0)		3.8		
240	1区 須恵器	杯	同様ナガ	同様ナガ	同様ナガ	同様ナガ	N7/灰白	N7/灰白	等級	等級	等級	等級	細・少			(6.4)		2.8		
241	1区 須恵器	高竹竹杆	同様ナガ	同様ナガ	同様ナガ	同様ナガ	N7.灰白	N7.灰白	等級	等級	等級	等級	細・多			(9.4)		1.8	未調	
242	1区 須恵器	高竹竹杆	同様ナガ	同様ナガ	同様ナガ	同様ナガ	N7/灰白	N8.灰白	等級	等級	等級	等級	細・少					1.8		
243	1区 土海賊土器	足盤	等級	等級ナガ	等級ナガ	等級	7.5YR6-6 桶	7.5YR6-6 桶	等級	等級	等級	等級	中・多			(27.4)		1.8	未調	
244	1区 土海賊土器	足盤	イイダ	等級	等級	等級	7.5YR5-4 1-5.5cm 黒鉄	5YR5-8 1-5.5cm 黒鉄	等級	等級	等級	等級	中・多			(3.5)		2.8		
248	不明	鉢	等級	等級	等級	等級	2.5YR6-8 桶	2.5YR6-6 桶	等級	等級	等級	等級	中・多			(25.0)		1.8		
249	2区 外生土器	外生土器	等級	等級	等級	等級	10R6-6 桶	2.5YR6-6 桶	等級	等級	等級	等級	中・多			(7.0)		2.8		
250	2区 外生土器	外生土器	(底部)	等級	等級	等級	2.5YR6-6 桶	5YR6-6 桶	等級	等級	等級	等級	中・多			(6.0)		4.8		
251	2区 外生土器	外生土器	(底部)	等級	等級	等級	2.5YR6-6 桶	10YR7-2 1-5.5cm 黄鉄	等級	等級	等級	等級	中・多			(6.0)		4.8		
252	2区 外生土器	外生土器	(底部)	等級	等級	等級	5YR5-4 1-5.5cm 黒鉄	5YR6-4 1-5.5cm 黒鉄	等級	等級	等級	等級	中・多			(7.9)		1.8	8月8日	

編号 番号	出土位置 出土地点	種類 種類	器種 器種	外觀 外面	内面 内面	調整 内張(釉)	色調 内張(釉)		施土 内張(施土)		灰土 灰土	長さ 長さ	幅 幅	厚 厚	操作半 操作半	備考 備考
							赤色粒 赤色粒	角閃石 角閃石	雲母 雲母	砂粒 砂粒	口径 口径					
253 2区	弥生土器 弥生土器	(底部) (底部)	壓滅 壓滅	等減 等減	10YR6/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR7/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR6/6 明鏡 輪形	中・多 中・少 中・少	繩 繩	6.8 6.0				2.8		
254 2区	弥生土器 弥生土器	(底部) (底部)	壓滅 壓滅	ナデ ナデ	10YR7/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR7/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR4/1 明鏡 輪形	中・少 中・少 中・少	繩 繩	6.0 6.0				2.8		
255 2区	土陶器 土陶器	高杯 高杯	燒成 燒成	7.5YR6/4 浅黃色	10YR6/4 浅黃色						中・少 中・少	(1.4)		3.8		
256 2区	須恵器 須恵器	蓋 蓋	圓輪ナデ 圓輪ナデ	N6/灰 N6/灰	N6/灰 N6/灰	N6/灰 N6/灰	N6/灰 N6/灰	N6/灰 N6/灰	N6/灰 N6/灰	N6/灰 N6/灰	中・多 中・多	6.3		2.8		
257 2区	須恵器 須恵器	蓋 蓋	圓輪ナデ 圓輪ナデ	N7/灰 N7/灰	N7/灰 N7/灰	N7/灰 N7/灰	N7/灰 N7/灰	N7/灰 N7/灰	N7/灰 N7/灰	N7/灰 N7/灰	中・多 中・多	7.0		2.8		
258 2区	須恵器 須恵器	杯身 杯身	圓輪ナデ 圓輪ナデ	N6/灰 N6/灰	N6/灰 N6/灰	N6/灰 N6/灰	N6/灰 N6/灰	N6/灰 N6/灰	N6/灰 N6/灰	N6/灰 N6/灰	繩・少 繩・少	6.15 (4.0)		2.8		
259 2区	須恵器 須恵器	杯身 杯身	圓輪ナデ 圓輪ナデ	N6/灰 N6/灰	N6/灰 N6/灰	N6/灰 N6/灰	N6/灰 N6/灰	N6/灰 N6/灰	N6/灰 N6/灰	N6/灰 N6/灰	中・多 中・多	(1.0)		1.8		
260 2区	須恵器 須恵器	杯 杯	圓輪ナデ 圓輪ナデ	5P96/1青灰 5P96/2青灰	5P96/1青灰 5P96/2青灰	5P96/1青灰 5P96/2青灰	5P96/1青灰 5P96/2青灰	5P96/1青灰 5P96/2青灰	5P96/1青灰 5P96/2青灰	5P96/1青灰 5P96/2青灰	中・少 中・少	(1.3)		1.8		
261 2区	須恵器 須恵器	高杯 高杯	圓輪ナデ 圓輪ナデ	N5/灰 N5/灰	N5/灰 N5/灰	N5/灰 N5/灰	N5/灰 N5/灰	N5/灰 N5/灰	N5/灰 N5/灰	N5/灰 N5/灰	繩・少 繩・少			6.8		
262 2区	須恵器 須恵器	高杯 高杯	圓輪ナデ 圓輪ナデ	10YR7/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR7/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR7/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR7/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR7/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR7/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR7/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR7/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	繩・少 繩・少	6.0 (1.3)		5.8	
263 2区	土陶質土器 須恵器	小皿 杯	壓滅 圓輪ナデ	10YR7/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR7/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR7/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR7/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR7/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR7/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR7/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR7/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	中・多 中・少	9.6	21	6.0	5.8
264 2区	土陶質土器 土陶質土器	小皿 杯	壓滅 圓輪ナデ	10YR7/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR7/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR7/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR7/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR7/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR7/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR7/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR7/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	繩・少 繩・少	(1.3)		1.8	
265 2区	土陶質土器 土陶質土器	杯 杯	圓輪ナデ 圓輪ナデ	10YR6/6 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR6/6 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR6/6 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR6/6 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR6/6 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR6/6 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR6/6 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR6/6 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	繩・少 繩・少	(1.3)		6.8	
266 2区	土陶質土器 土陶質土器	杯 杯	圓輪ナデ 圓輪ナデ	10YR8/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR8/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR8/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR8/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR8/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR8/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR8/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR8/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	繩・少 繩・少	(1.3)		6.8	
267 2区	土陶質土器 土陶質土器	碗 碗	圓輪ナデ 圓輪ナデ	10YR7/4 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR7/4 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR7/4 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR7/4 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR7/4 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR7/4 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR7/4 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR7/4 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	繩・少 繩・少	(1.3)		2.8	
268 2区	土陶質土器 土陶質土器	台付杯 台付杯	壓滅 圓輪ナデ	10YR7/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR7/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR7/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR7/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR7/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR7/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR7/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR7/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	中・多 中・少	(1.3)		6.8	
269 2区	土陶質土器 土陶質土器	碗 碗	壓滅 圓輪ナデ	10YR8/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR8/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR8/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR8/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR8/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR8/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR8/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR8/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	繩・多 繩・多	7.6		7.8	
270 2区	土陶質土器 土陶質土器	碗 碗	壓滅 圓輪ナデ	5YR7/6 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	5YR7/6 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	5YR7/6 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	5YR7/6 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	5YR7/6 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	5YR7/6 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	5YR7/6 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	5YR7/6 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	繩・少 繩・少	(1.3)		3.8	
271 2区	土陶質土器 須恵器	碗 杯	壓滅 圓輪ナデ	5YR7/8 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	5YR7/8 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	5YR7/8 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	5YR7/8 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	5YR7/8 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	5YR7/8 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	5YR7/8 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	5YR7/8 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	中・少 中・少	(1.3)		2.8	
272 2区	須恵器 須恵器	高台付杯 高台付杯	壓滅 圓輪ナデ	5YR8/1灰白 25Y7/3灰白	5YR8/1灰白 5YR8/1灰白	5YR8/1灰白 25Y7/3灰白	5YR8/1灰白 5YR8/1灰白	5YR8/1灰白 5YR8/1灰白	5YR8/1灰白 5YR8/1灰白	5YR8/1灰白 5YR8/1灰白	5YR8/1灰白 5YR8/1灰白	中・少 中・少	(1.3)		3.8	
273 2区	須恵器 須恵器	高台付杯 高台付杯	壓滅 圓輪ナデ	5YR8/1灰白 25Y7/3灰白	5YR8/1灰白 25Y7/3灰白	5YR8/1灰白 25Y7/3灰白	5YR8/1灰白 25Y7/3灰白	5YR8/1灰白 25Y7/3灰白	5YR8/1灰白 25Y7/3灰白	5YR8/1灰白 25Y7/3灰白	5YR8/1灰白 25Y7/3灰白	中・少 中・少	(1.3)		2.8	
274 2区	須恵器 須恵器	高台付杯 高台付杯	壓滅 圓輪ナデ	5YR8/1灰白 25Y7/3灰白	5YR8/1灰白 25Y7/3灰白	5YR8/1灰白 25Y7/3灰白	5YR8/1灰白 25Y7/3灰白	5YR8/1灰白 25Y7/3灰白	5YR8/1灰白 25Y7/3灰白	5YR8/1灰白 25Y7/3灰白	5YR8/1灰白 25Y7/3灰白	中・少 中・少	(1.3)		2.8	
275 2区	黑色土器 黑色土器	碗 碗	圓輪ナデ 圓輪ナデ	ヘタミガナ ヘタミガナ	10YR8/4 浅黃色 輪形	10YR8/4 浅黃色 輪形	10YR8/4 浅黃色 輪形	10YR8/4 浅黃色 輪形	10YR8/4 浅黃色 輪形	10YR8/4 浅黃色 輪形	10YR8/4 浅黃色 輪形	繩・少 繩・少	(1.4)		1.8	
276 2区	綠釉陶器 綠釉陶器	碗 碗	壓滅 圓輪ナデ	10YR8/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR8/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR8/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR8/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR8/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR8/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR8/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	10YR8/3 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	無 無			2.8	
277 2区	土陶質土器 土陶質土器	足盤 足盤	ヨコナデ・ナデ ヨコナデ・ナデ	5YR8/6 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	5YR8/6 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	5YR8/6 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	5YR8/6 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	5YR8/6 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	5YR8/6 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	5YR8/6 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	5YR8/6 1.5-6.1cm 1.5-6.1cm	中・少 中・少	(1.6)		1.8	
278 2区	土陶質土器 土陶質土器	足盤 足盤	ヨコナデ・ナデ ヨコナデ・ナデ	10YR8/4 浅黃色 輪形	10YR8/4 浅黃色 輪形	10YR8/4 浅黃色 輪形	10YR8/4 浅黃色 輪形	10YR8/4 浅黃色 輪形	10YR8/4 浅黃色 輪形	10YR8/4 浅黃色 輪形	10YR8/4 浅黃色 輪形	中・多 中・多	(2.1)		1.8	
279 2区	土陶質土器 土陶質土器	足盤 足盤	ナデ・ナデ・ナデ ナデ・ナデ・ナデ	10YR8/3 浅黃色 輪形	10YR8/3 浅黃色 輪形	10YR8/3 浅黃色 輪形	10YR8/3 浅黃色 輪形	10YR8/3 浅黃色 輪形	10YR8/3 浅黃色 輪形	10YR8/3 浅黃色 輪形	10YR8/3 浅黃色 輪形	中・多 中・多			1.8	

編号	出土位置	種類	器種	外觀	内面	外觀(他)	内面(他)	石英・長石・角閃石	鉄色粒	雲母	砂粒	口徑	底径	器高	底径	長さ	幅	厚	法量(cm)	残存率	備考
280	2区	土瓶	指子ササナデ										中・多			(3.1)	1.6	1.3	4/8		
281	2区	土瓶	指子ササナデ										中・少			(3.2)	1.5	1.2	4/8		
282	2区	土瓶	指子ササナデ										中・少			(3.3)	1.6	1.3	4/8		
283	2区	土瓶	指子ササナデ										中・少			(2.8)	1.4	1.1	4/8		
284	2区	土瓶	指子ササナデ										中・多			(3.1)	1.5	1.6	4/8		
286	2区	土陶質土器	椀	掌城									細・少			3.8			7/8		
297	2区	土陶質土器	足塗	日コナナデ・ハサナデ 直後指子ササナデ									中・多			(2.0)			1/8		
288	2区	土陶質土器	椀	日コナナデ・指 子ササナデ									10YR4/2 1・5cm黄褐色			中・少			1/8		
299	3区	弦生土器	壺	掌城									75Y7/1灰白			中・多			1/8未満		
300	3区	弦生土器	壺	掌城									51YR5/6 明系茶			中・並			1/8未満		
301	3区	弦生土器	壺	日コナナデ・ ハサナデ									75YR5/4 1・5cm黄褐色			中・少			1/8		
302	32区	弦生土器	壺	掌城									10YR5/4 1・5cm黄褐色			中・並			2/8	下川津B類土器	
303	32区	弦生土器	壺	掌城									75YR4/2 1・5cm黄褐色			中・並			1/8未満		
304	31区	弦生土器	壺	掌城									51YR4/6灰白			中・並			1/8未満		
305	3区	弦生土器	壺	掌城									10YR4/8灰白			中・多			1/8未満		
306	32区	弦生土器	壺	掌城									10YR5/4 1・5cm黄褐色			中・並			1/8未満		
307	3区	弦生土器	(底部)	掌城									75YR6/4 1・5cm黄褐色			中・多			1/8未満		
308	3区	須恵器	杯	圓板ナナデ									N7/灰白			中・少	(11.1)		1/8		
309	3区	須恵器	杯	圓板ナナデ									N6/灰			N6/灰			1/8		
310	3区	須恵器	杯	圓板ナナデ									N5/灰			N7/灰白			1/8		
311	3区	須恵器	杯	圓板ナナデ									N5/灰			N7/灰白			1/8		
312	3区	土陶質土器	櫛林	日コナナデ・ 直後指子ササナデ									51YR6/6 1・5cm黄褐色			中・多			1/8		
313	3区	縦器	皿	骨付手盆の 骨付手盆									10YR7/1 明系灰			N8/灰白			2/8		
314	3区	陶器	椀	焼付・灰色釉									51YR4/1灰白			無			2/8		
315	31区	陶器	櫛林	圓板2条									25YR6/4 1・5cm黄褐色			中・少			2/8	偏前燒	
322	32区	陶器	水差	指子ササナデ									51YR6/2 1・5cm黃綠色釉			無			2/8		
323	4区	弦生土器	壺	日コナナデ・ 直後指子ササナデ									10YR6/3 1・5cm黃褐色			中・少			1/8		
324	4区	弦生土器	壺	掌城									75YR6/6灰白			中・少			1/8		

編号 番号	出土位置 出土地点	種類 器物	形態 形態	調査 調査		土器 土器	法量(cm) 法量(cm)	残存率 残存率	備考 備考
				外觀 外観	内面 内面				
325 4区	弥生土器	甕	素面	素面	内底(土上) 石英・長石 2.5Y7/3灰質	赤色粒 5Y4/1灰質	口径 (13.2)	1/8	
328 4区	陶器	碗	灰色輪・直 底	灰色輪・直 底	灰木口 - 7灰 5Y4/1灰 1.5灰・灰質	中・並 5Y4/1灰 10Y5/6灰	底径 (4.3)	6/8	
330 6区	陶器	罐	圓底	圓底	圓底ナデ 1.5灰・灰質	10Y5/6灰	中・少 (57.2)	1/8	
332 6区	陶器	罐	圓底 輪・切口	圓底ナデ 輪・切口	圓底ナデ 1.5灰・灰質	10Y4/6灰	中・多 (19.0)	3/8	
333 8区	土陶質土器	甕	直	直	浅黃質 10Y8/3 浅黃質	10Y8/3 浅黃質	中・多 (6.0)	1/8	
334 8区	土陶質土器	足釜	指ササエ・ナデ	指ササエ・ナデ	1.5灰・灰質 10Y8/4 浅黃質	10Y8/4 浅黃質	中・多 (4.8)	1/8 未測	
335 8区	土陶質土器	足釜	指ササエ・ナデ	指ササエ・ナデ	1.5灰・灰質 10Y8/3 浅黃質	10Y8/3 浅黃質	中・多 (4.8)	1/8 未測	
336 8区	土陶質土器	足釜	指ササエ・ナデ	指ササエ・ナデ	1.5灰・灰質 10Y8/3 浅黃質	10Y8/3 浅黃質	中・多 (4.8)	1/8 未測	
337 8区	土陶質土器	足釜	指ササエ・ナデ	指ササエ・ナデ	1.5灰・灰質 10Y8/4 浅黃質	10Y8/4 浅黃質	中・多 (4.0)	1/8 未測	
338 8区	罐	碗	施釉	施釉	NB/灰白	NB/灰白	無 (10.0)	6/8	
339 8区	罐	碗	施釉・直付 無輪・砂器質	施釉・直付 無輪・砂器質	明鐵灰 5Y6/2 1.5灰・砂器質	NB/灰白	無 (4.8)	4/8	
340 8区	陶器	甕	灰 灰輪の 底	灰 灰輪の 底	灰輪色・白 灰輪色による 白 灰輪色・灰 灰輪色・白 灰輪の 底	2.5Y6/3 灰白 にぶい骨 2.5Y8/1灰白	無 (7.3)	7/8	
341 9区	陶器	甕	施釉・直付 無輪・砂器質	施釉・直付 無輪・砂器質	灰オーブ 5Y6/2 1.5灰・砂器質	2.5Y7/2灰質 2.5Y7/1灰白	細・少 (7.7)	1/8	
342 9区	陶器	碗	茶色釉	茶色釉	5Y8/4 1.5灰・砂器質	2.5Y7/1灰白	粗・少 (5.8)	1/8 未測	
343 9区	土陶質土器	甕	七層の ケズリ	ヨコナダ・ナデ ヨコナダ	ヨコナダ・ナデ ヨコナダ・ナデ 1.5灰・砂器質	10Y8/4 灰質 10Y8/3 灰質 10Y8/3 灰質	中・多 (10.5)	1/8 未測	
344 9区	土陶質土器	甕	七層の ケズリ	ヨコナダ ヨコナダ	ヨコナダ ヨコナダ 1.5灰・砂器質	10Y8/3 灰質 10Y8/3 灰質 10Y8/3 灰質	中・少 (6.7)	1/8 未測	
347 9区	土陶質土器	呂答	ヨコナダ	ヨコナダ	N4灰	N4灰	中・少 (1.36)	1/8	
348 9区	土陶質土器	(底部) 碗	ハケ目・ナデ	ハケ目・ナデ	7.5YR6/6 瓶	1.5灰・灰質 10Y7/3	中・多 (6.8)	1/8	
349 9区	罐	碗	染付・透明釉	透明釉	BY8/1灰白	10Y8/4 1.5灰・砂器質	中・多 (14.0)	1/8 未測	
350 9区	土陶質土器	甕	ヨコナダ ヨコナダ	ヨコナダ ヨコナダ	10Y8/4 1.5灰・砂器質	10Y8/4 1.5灰・砂器質	中・少 (14.0)	1/8	
351 10.2区	土陶質土器	甕	素面	素面	10Y8/4 1.5灰・砂器質	10Y8/4 1.5灰・砂器質	中・少 (14.0)	1/8 未測	
352 10.2区	土陶質土器	甕	圓底ナデ 輪・切口	圓底ナデ 輪・切口	5Y8/8灰 5Y8/8灰	5Y8/8灰 5Y8/8灰	細・少 (6.4)	1/8	
353 10.2区	土陶質土器	甕	素面	素面	10Y8/2 灰白	10Y8/2 灰白	中・多 (6.0)	1/8	
354 10.2区	土陶質土器	甕	素面	素面	10Y8/2 灰白	10Y8/2 灰白	中・多 (6.0)	1/8	

第7表 名遺跡出土瓦観察表

番号	出土位置	種類	調査		色調	粘土	法面(cm)	残存率	備考
			外面	内面					
355	16.2区 土陶質土器	杯	回転ナフ・切口 底-2つ切口	内底(施土)	石英・ 長石	粘土粒 7.5YR7/6 灰	(7.5)		3/8
356	16.2区 中国秦青銅	椀	青銅輪 沈板文・青銅輪	内底ナフ 回転ナフ・切口	10Y5/2 ナフ-7灰	N8/ 灰白			1/8未満
357	16.2区 中国秦銀器	椀	灰色釉・質入 灰釉	灰釉・質入 寸引-7灰	5G7/1 10YR8/4	N8/ 灰白			1/8未満
358	11.区 土陶質土器	擂鉢	指ナフ-2・攀城 沈板文・青銅輪	攀城・ナフ 青銅輪	7.5YR7/6 灰				1/8未満
359	11.区 中国秦青銅	椀	沈板文・青銅輪 描文・青銅輪	青銅輪 ナフ-7灰	7.5Y7/1 10YR8/4	7.5Y7/1 灰白			1/8未満
360	12.区 土陶質土器	杯	回転ナフ・切口 回転ナフ・切口	内底ナフ 内底ナフ	10YR8/4 10YR8/4	10YR8/4 浅黄白	(6.7)		1/8
361	12.区 土陶質土器	杯	攀城 攀城	攀城 攀城	10YR8/3 10YR8/3	浅黄白 浅黄白	(7.7)		2/8
362	12.区 中国秦青銅	椀	施文文・青銅輪 沈板文・青銅輪	青銅輪 青銅輪	5G7/1 ナフ-7灰	N8/ 灰白	(11.2)		1/8

番号	出土位置	種類	調査		色調	粘土	法面(cm)	残存率	備考
			凸面	凹面					
81	2区 SP2017	丸瓦	凸面	凸面	7.5YR7/6 灰	7.5YR7/6 灰	(0.4)- (0.4)-	1/8	鐵片
96	2区 SP2094	平瓦	ナフ牛乳底ナフ・ナフ ナフ	布目正輪・攀城 布目正輪	10YR8/4 7.5YR7/6 灰	5YR7/6 灰 5YR7/6 灰	(0.9)-(0.9)	1/9	鐵片
131	2区 SP2117	平瓦	ナフ牛乳底ナフ・ナフ ナフ	攀城 ナフ	7.5YR7/6 灰	5YR7/6 灰	中・少 (0.6)-(0.6)	2/7	鐵片
210	[3] SD1006	丸瓦	板ナフ・ケヅイ	布目正輪	25Y8/2灰白	25Y8/2灰白	(1.5)-(1.3)	2/0	鐵片
211	[3] SD1006	平瓦	板ナフ・ケヅイ	布目正輪	N6/ 灰	N6/ 灰	(1.4)-(1.5)	2/2	鐵片
212	11.1区	平瓦	格子ナフタキ・ナフ ナフ	布目正輪(テテ) 布目正輪(テテ)	5Y8/1灰白	5Y8/1灰白	中・少 (0.6)-(1.1)	1/9	鐵片 SD1006合
213	11.1区	平瓦	格子ナフタキ・ナフ ナフ	布目正輪(テテ) 布目正輪(テテ)	25Y8/2灰白	25Y8/2灰白	(0.6)-(1.1)	1/9	鐵片 SD1006合

第8表 名遺跡出土石器観察表

		圓盤				凹面				色調				全長 (cm)				厚さ (cm)				備考	
編文 番号	出土位置	器種	平面	圓盤	凹面	圓盤	凹面	白色 砂粒	黑色 砂粒	白色 砂粒	黑色 砂粒	白色 砂粒	黑色 砂粒	白色 砂粒	黑色 砂粒	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	残存率	備考			
296	10区(SD10001) 丸瓦	圓目タスキ・ナード・ケズリ	有目庄瓶	25YR6.4±5V6.1級	25YR7.4±5V6.1級	25YR6.6 壁	25YR6.7 壁	中・多	中・少	中・少	中・少	中・少	中・少	中・少	中・少	(17.1)	(11.2)	(2.3)	破片				
227	10区(SD10001) 平瓦	格子目タスキ・ケズリ	有目庄瓶	25YR6.6 壁	25YR6.7 壁	25YR6.7 壁	25YR6.7 壁	中・多	中・少	中・少	中・少	中・少	中・少	中・少	中・少	(6.7)	(6.3)	(1.6)	破片				
245	1区 丸瓦	圓目タスキ・ナード・ケズリ	有目庄瓶・ナード	N6/灰	N6/灰	5Y5/1灰	25Y7.1灰白	粗	粗	粗	粗	粗	粗	粗	粗	(10.3)	(6.3)	(1.5)	破片				
246	1区 平瓦	圓目タスキ? (鑿城)	有目庄瓶	N6/灰	N6/灰	N7/灰白	N7/灰白	中・少	中・少	(7.0)	(6.9)	(2.6)	破片										
247	1区 平瓦	圓目タスキ・ケズリ	有目庄瓶	N6/灰	N6/灰	25YR6.6 壁	25YR6.6 壁	中・多	中・少	中・少	中・少	中・少	中・少	中・少	中・少	(9.5)	(7.2)	(2.5)	破片				
285	2区 平瓦	圓目タスキ・ケズリ	有目庄瓶	N6/灰	N6/灰	N7/灰	N7/灰	中・少	中・少	(11.6)	(5.1)	(1.8)	破片	土胎質									
319	32区 井瓦	圓目タスキ・ナード・ケズリ	有目庄瓶・ナード	N2/黑	N2/黑	N2/黑	N2/黑	中・少	中・少	(9.0)	(11.2)	(1.6)	破片										
320	31区 平瓦	圓目タスキ・ナード・ケズリ	有目庄瓶・ナード	N7/灰白	N7/灰白	25Y7.3灰白	25Y7.3灰白	中・少	中・少	(17.5)	(11.0)	(3.2)	破片										
321	32区 平瓦	圓目タスキ・ナード	有目庄瓶・瓶・ナード	N7/灰白	N7/灰白	25YR7.8 壁	25YR7.8 壁	粗	粗	粗	粗	粗	粗	粗	粗	(7.9)	(6.9)	(2.8)	破片				
331	6区 丸瓦	圓目タスキ・ケズリ	有目庄瓶・瓶・ナード	N4/灰	N4/灰	N5/灰	N5/灰	中・多	中・多	(9.5)	(7.4)	(2.1)	破片										
345	8区 丸瓦	圓目タスキ・ナード	瓶・ナード・ナード	N4/灰	N4/灰	N5/灰	N5/灰	無	無	無	無	無	無	無	無	(11.0)	(12.7)	(1.7)	破片				

第9表 名遺跡出土金属器観察表

編文 番号	出土位置	材質	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	備考	出土位置	材種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	備考	出土位置	材種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	備考
15	32区(SD3016)	サヌカイト	石劍	2.5	2.0	0.5	1.96		92	2区(SR262)	刀子	長	(2.5)	(1.2)	(0.8)							
53	32区(SD3002)	サヌカイト	石劍	2.5	2.5	0.6	3.52		107	2区(SR2994)	鋼輪	圓	(1.5)	(1.0)	(0.6)							
85	2区(SP2019)	鉛岩	石劍	21.3	16.3	1.76	9800		286	2区	釘	圓	(3.1)	(0.4)	(0.3)							
128	2区(SP2110)	サヌカイト	石劍	1.1	1.2	0.3	0.32															
187	2区(SP2013)	サヌカイト	石劍	1.6	1.3	0.3	0.48															
230	12区(SR2001)	安山岩	砥石	5.7	5.2	2.1	94.96															
267	2区	サヌカイト	石劍	2.1	1.8	0.5	1.27															
288	2区	サヌカイト	石劍製品	2.4	2.0	0.8	2.81															
289	2区	サヌカイト	石劍	4.1	1.9	0.8	6.94															
290	2区	サヌカイト	石劍	4.6	2.7	0.8	7.72															
291	2区	サヌカイト	スクリーパー	4.0	2.6	0.7	5.38															
292	2区	サヌカイト	スクリーパー	5.5	3.7	0.8	19.80															
293	2区	サヌカイト	網片	4.3	5.1	1.2	14.67															
294	2区	サヌカイト	網片	6.0	5.2	1.2	37.60															
295	2区	サヌカイト	網片	3.6	6.2	0.8	19.50															
316	32区	サヌカイト	石劍	3.7	2.3	0.4	3.46															
317	3区	サヌカイト	石劍	1.7	1.7	0.3	0.81															
318	32区	サヌカイト	打撲石瓶	4.0	2.9	0.6	6.97															
326	4区	サヌカイト	石劍	1.5	1.5	0.3	0.45															
327	4区	サヌカイト	石劍	2.7	2.4	0.5	2.71															
329	5区	サヌカイト	石劍	1.7	1.2	0.4	0.57															
346	9区	サヌカイト	石劍	2.5	1.8	0.4	1.11															
229	12区(SR12001)	杭		136.4	9.1	8.0	コナラ	芯持ち														

写真図版



飯野山から見た遺跡周辺

図版2 名遺跡



1区1面全景 北より



SB1001 南より



1区南部 西壁



2区1面全景 北より

図版3 名遺跡



2区2面全景 北より



SB2002 南東より



SH2047 南より



SH2048 東より



2区南部 西壁

図版4 名遺跡



3区1面全景 北より



SB3001 北より



SD3016・SD3010 西より



4区1面全景 南より



3区2面全景 南西より

図版5 名遺跡



4区2面全景 北より



6区北1面全景 南より



6区南1面全景 北より



5区1面全景 北より

図版6 名遺跡



7-1区1面全景 東より



7-2区1面全景 東より



8区1面全景 南より



7-2区東壁（蛙畔跡）



9区1面全景 南より



10-2区1面全景 北より

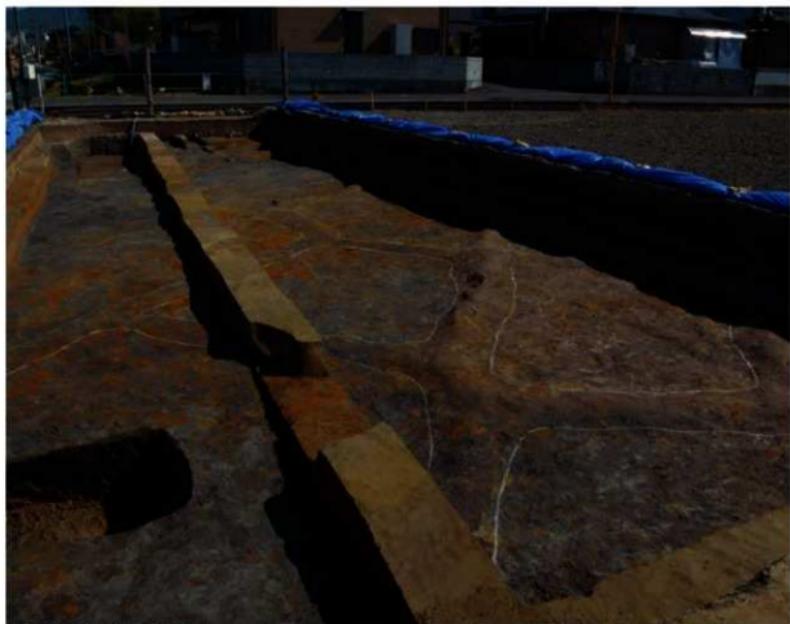
図版 7 名遺跡



10-2区水田跡 北より



10-2区水田跡断面



10-2区水田跡 北より

図版8 名遺跡



10-2区水田面



10-2区水田面 足跡か



10-3区1面全景 北西より



10-3区水田跡 南より

図版9 名遺跡



10-3区水田跡 南東より



SR10024 北東より



10-2区水田跡 南東より



11-2区水田跡 西より



11-1区水田跡 北より

図版 10 名遺跡



SD11005・SD11004 北より



11-2区 SD11001 北より



11-2区水田路 南より



11-2区水田跡 北西より



12区東壁南部(水田畦畔部分)



12区1面全景 南より



12区南部水田跡 西より

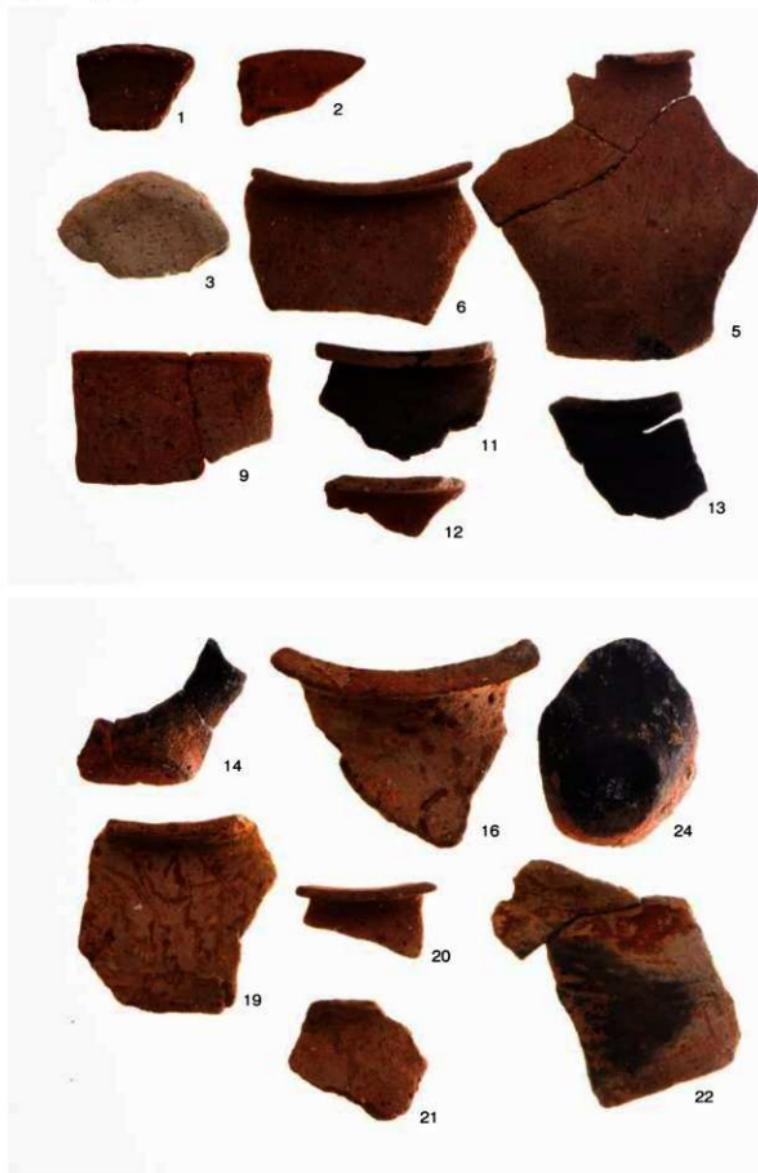


13区水田跡 南より



13区西壁水田跡部分

図版 12 名遺跡

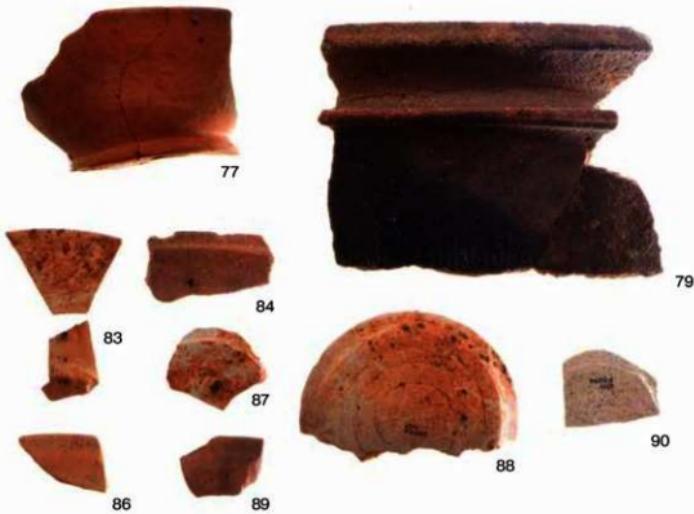


図版 13 名遺跡

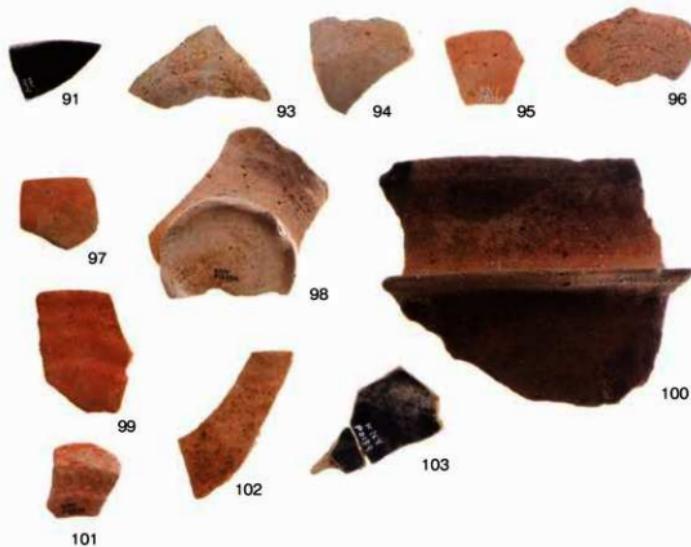


図版 14 名遺跡

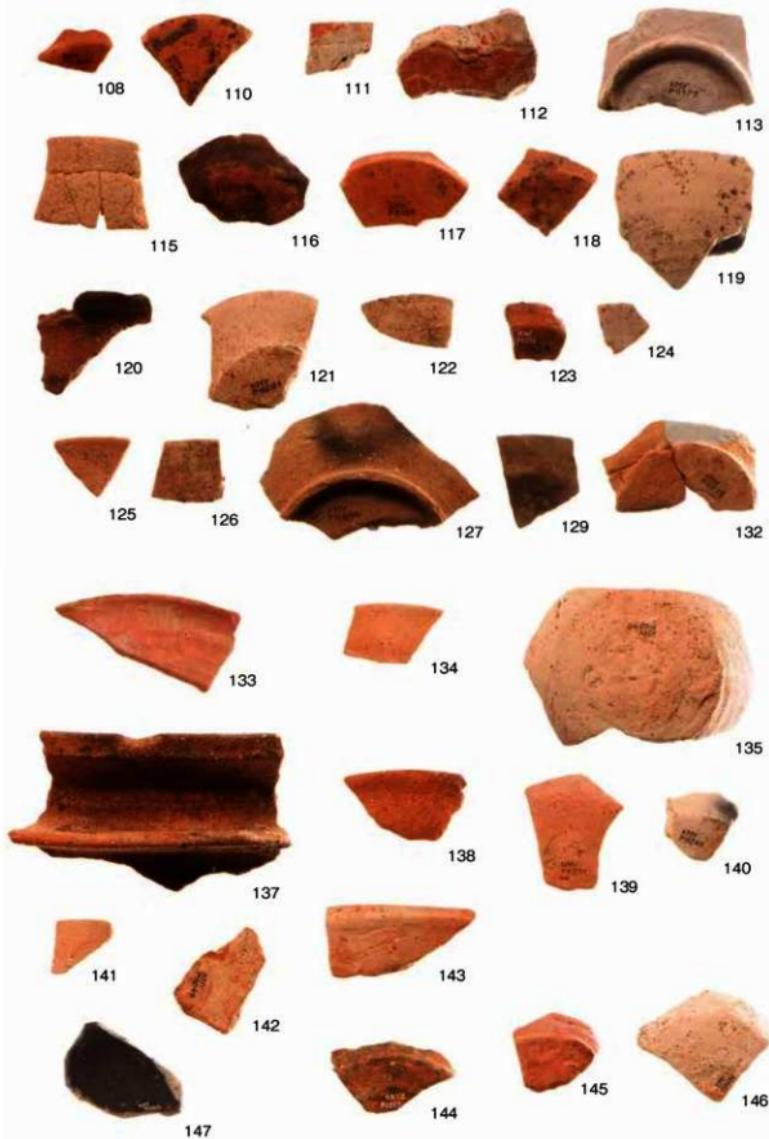




図版 16 名遺跡



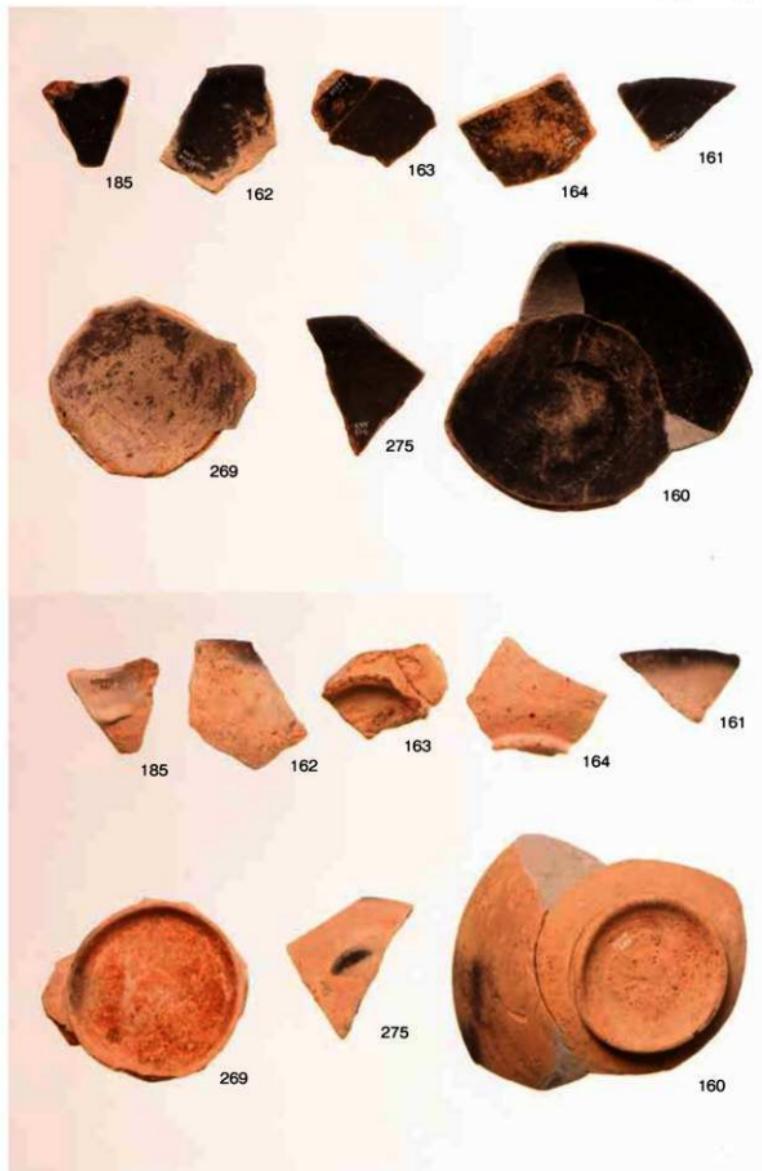
図版 17 名遺跡



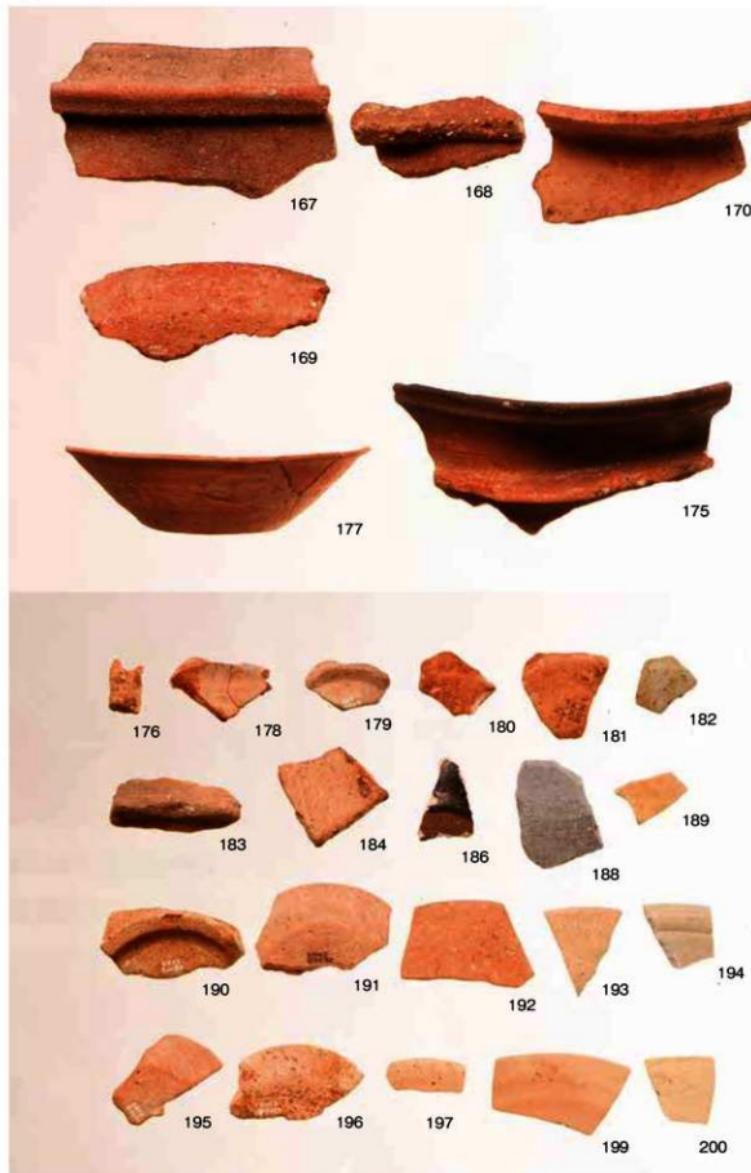
図版 18 名遺跡



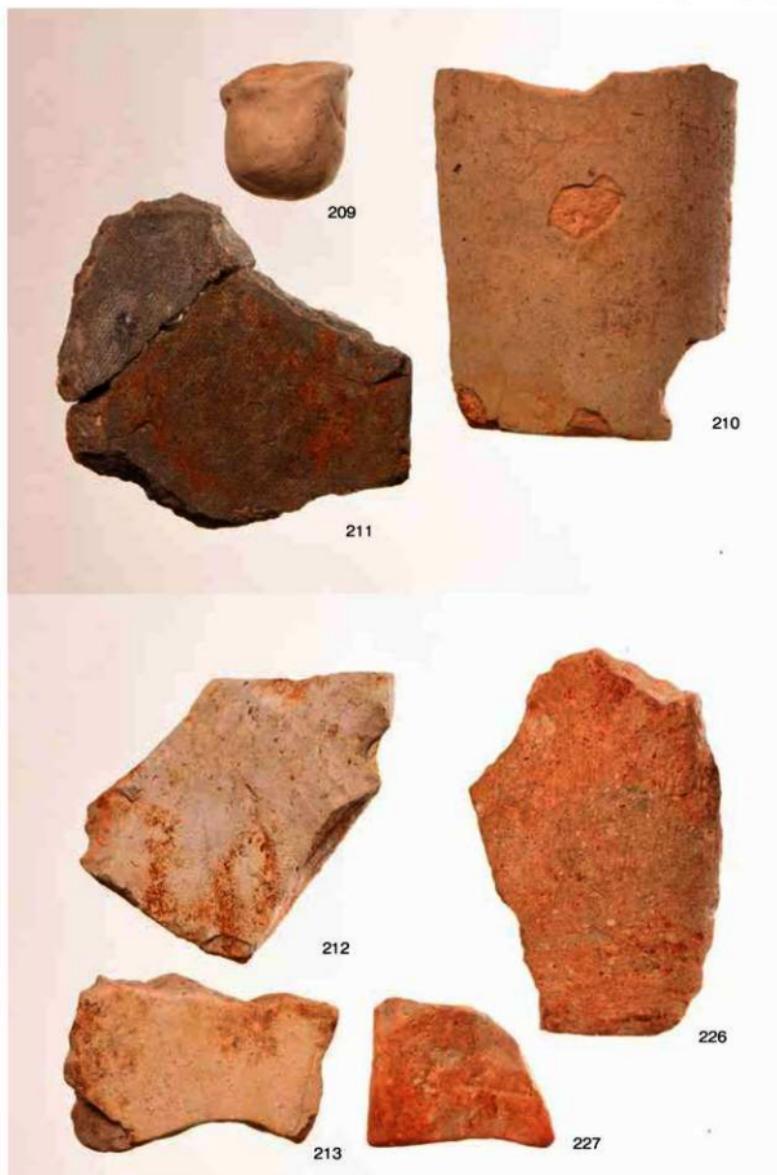
図版 19 名遺跡



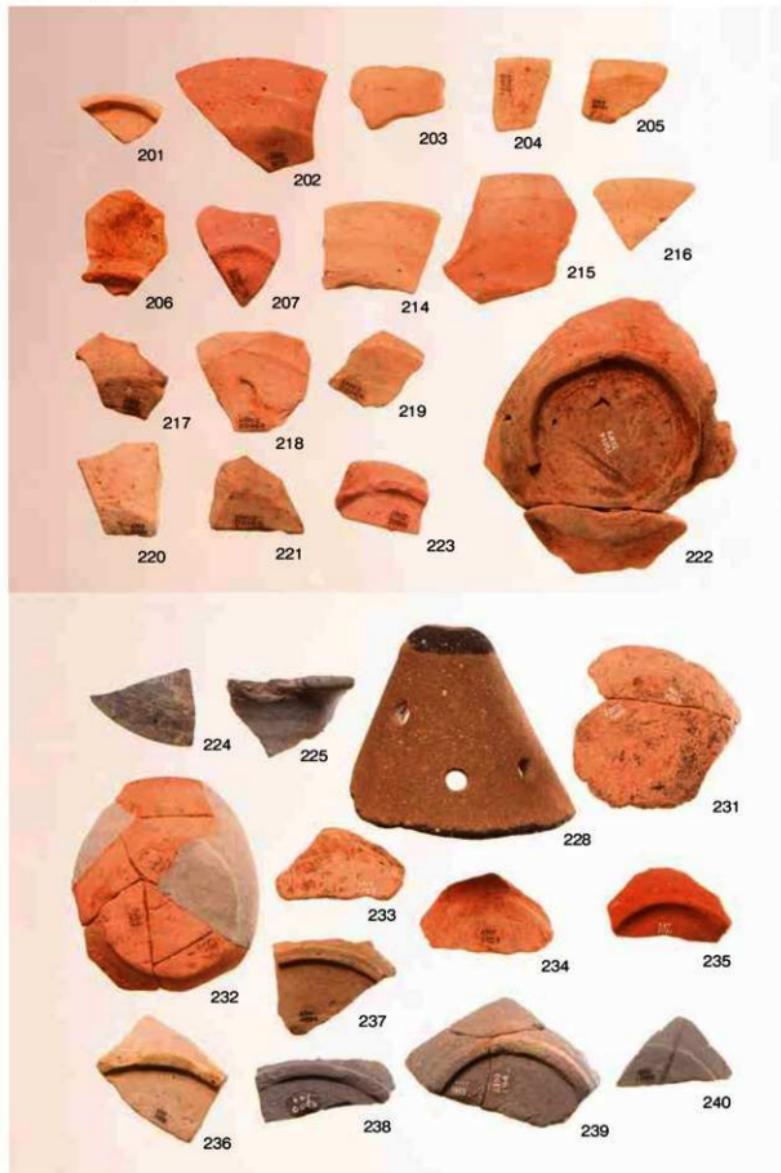
図版20 名遺跡



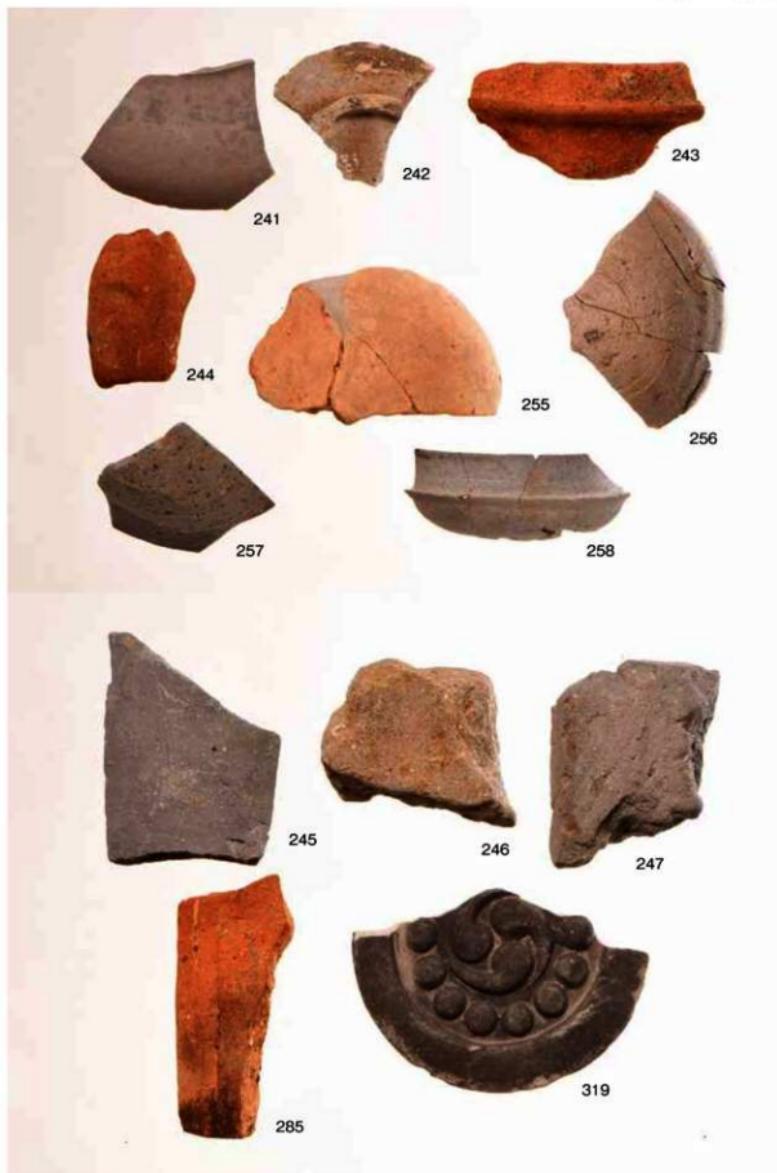
図版 21 名遺跡



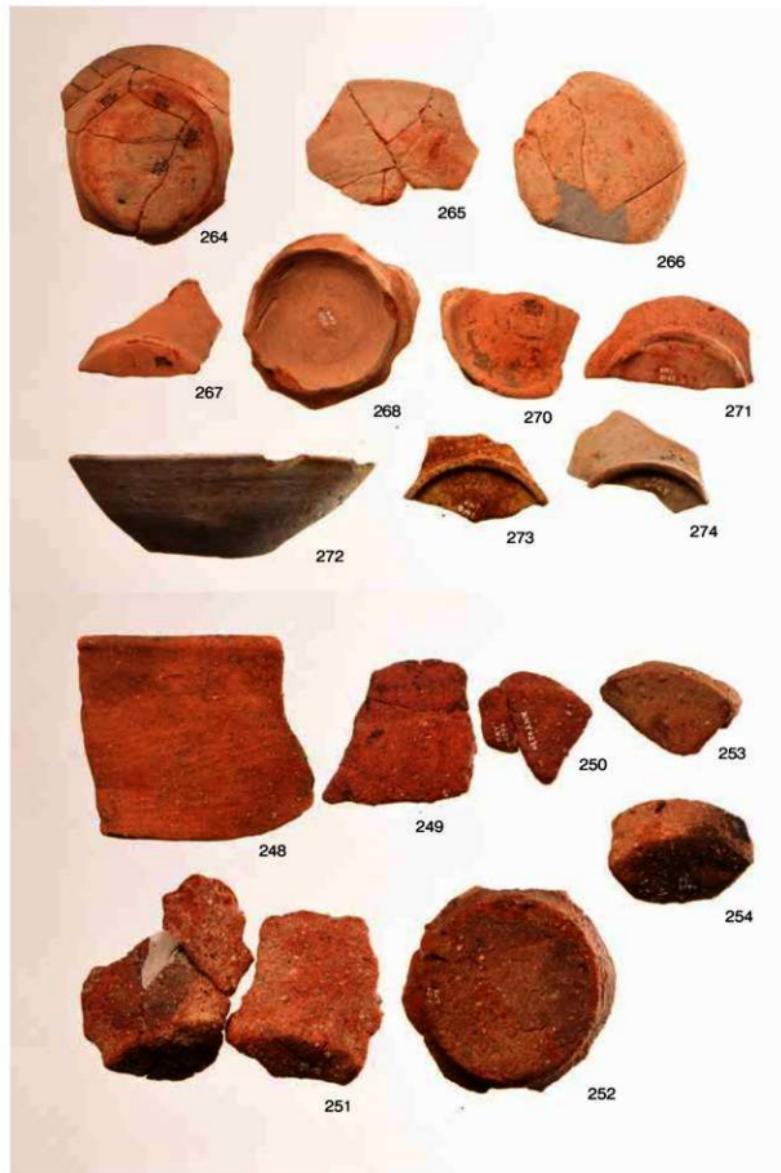
図版22 名遺跡



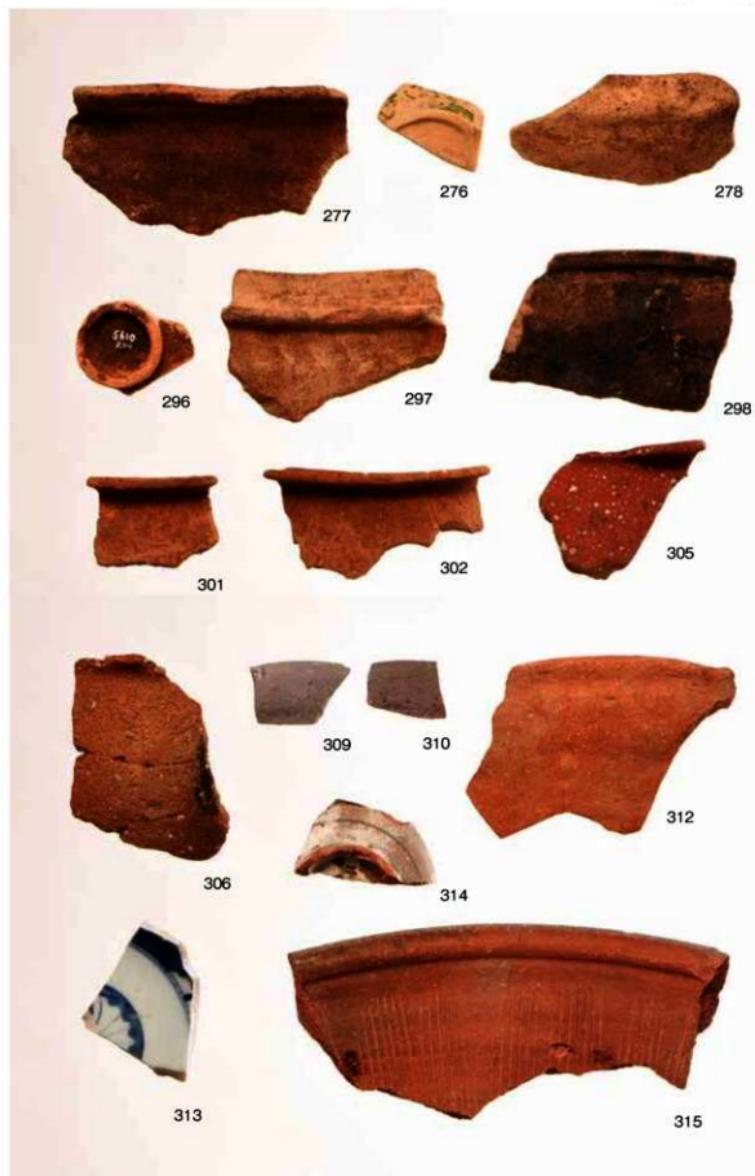
図版23 名遺跡



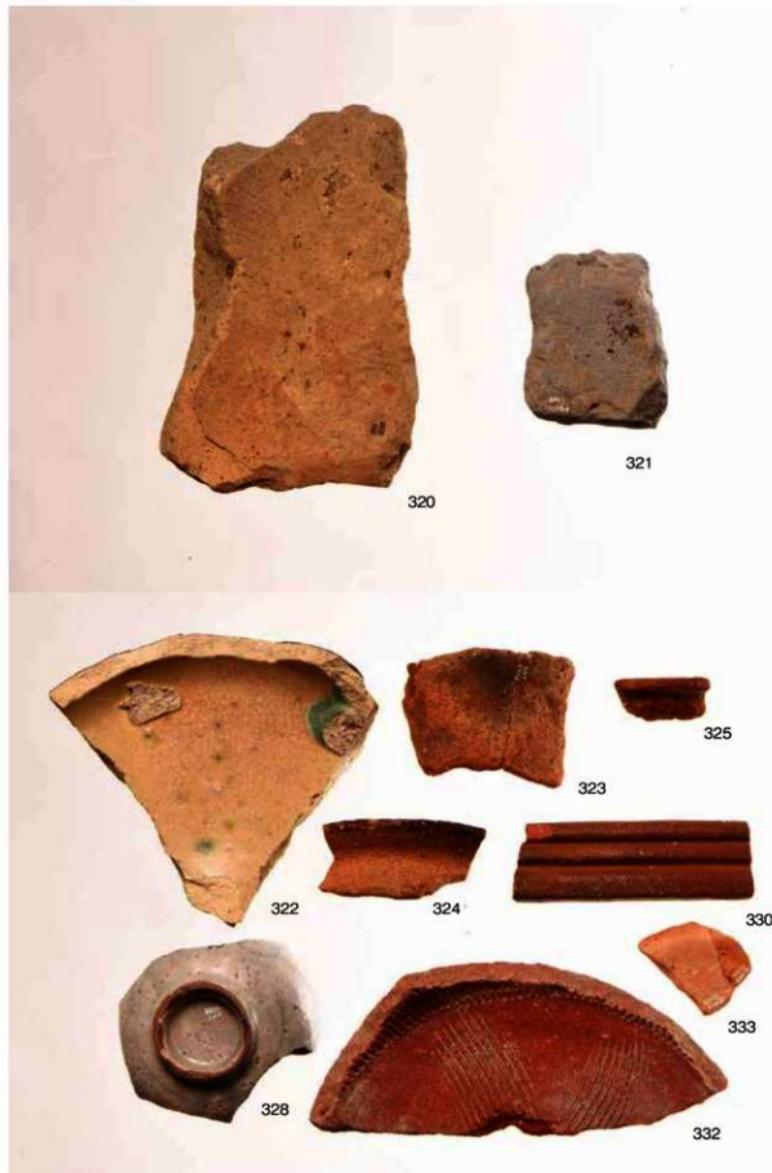
図版 24 名遺跡



圖版 25 名遺跡



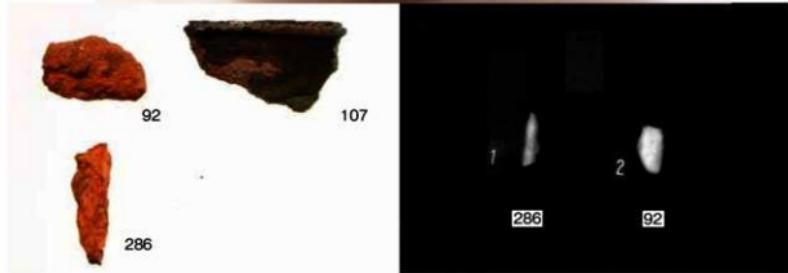
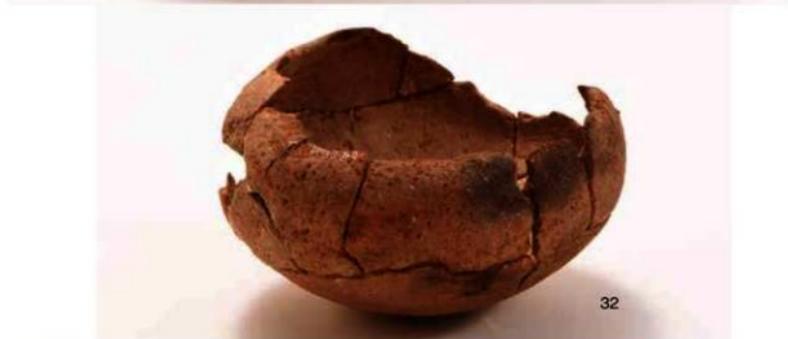
図版 26 名遺跡



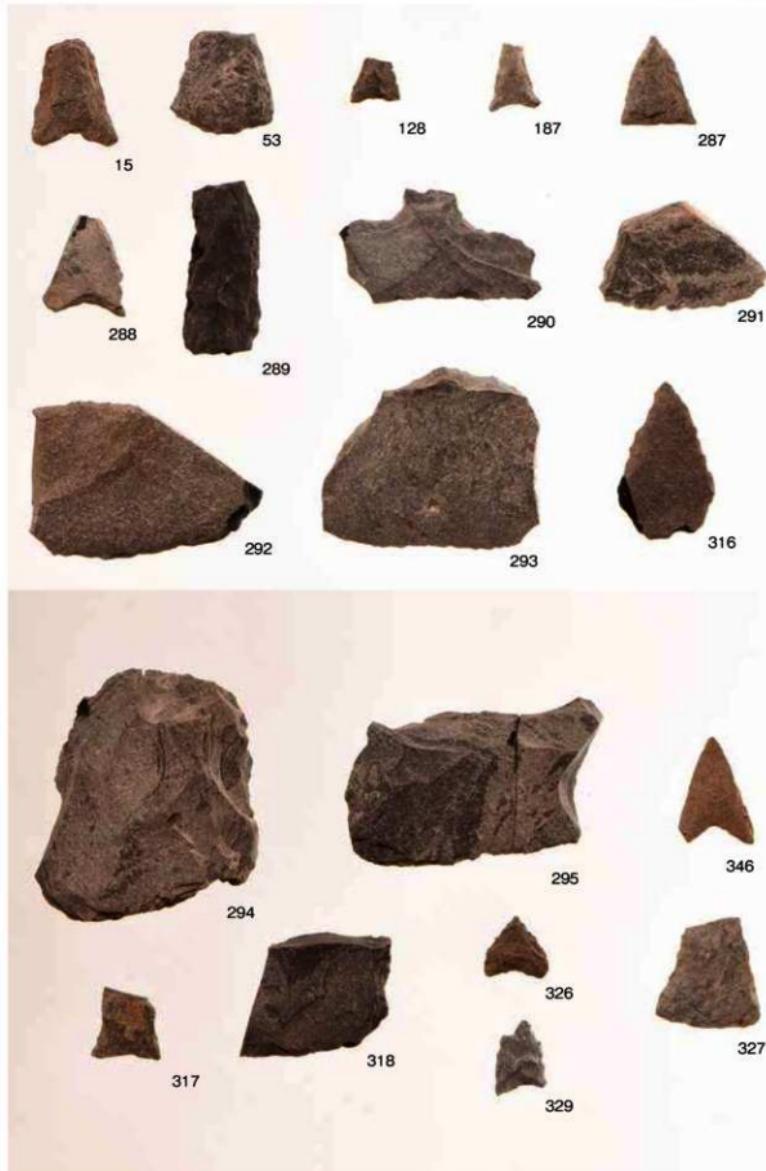
図版 27 名遺跡



図版 28 名遺跡



図版 29 名跡



報告書抄録

国道 438 号道路改築事業(飯山工区)に
伴う埋蔵文化財発掘調査報告

第 7 冊

名 遺跡

2021 年 3 月 18 日

編集 香川県埋蔵文化財センター

〒 762-0024 香川県板出市府中町字南谷 5001-4

Tel 0877-48-2191 Fax 0877-48-3249

発行 香川県教育委員会

印刷 ワールド印刷株式会社